

**2003年度**

# **経済学部シラバス**

**獨協大学**

## はじめに

### ーシラバスをどう読むかー

経済学部長 中 村 泰 将

#### 1. シラバスとその意義

この経済学部のシラバス (syllabus) は、経済学部の学生に対して 2003 年度に開講される講義科目について、その授業内容の具体的な授業計画を「講義概要」として公表するものである。公表される授業内容は、1 年間を半年ごとに「春学期」と「秋学期」に分けて、各授業時間毎に明示され、教員はその授業計画 (シラバス) にそって授業をすすめることになる。

各科目の授業計画をあらかじめ学生に知らせる意味は、諸君がどのような科目を履修するかの手助けになることは言うまでもないが、計画的な授業の準備を行うことによって学習の効果をあげることにもなる。

これらの授業科目の内容の妥当性、有効性は、全学的に実行されている学生による「授業評価」すなわち「授業改善のためのアンケート」により点検・評価される。これらの点検・評価にあたっては、授業科目に関する具体的内容ないしシラバスが重要な役割をもつので、諸君は常に、シラバスと授業内容について関心を持たなくてはならない。

#### 2. セメスター制と授業の受け方

経済学部では、2001 年度の入学生より、セメスター制を導入している。これまでは通年 1 年を通じて授業を受け単位を取得するのに対して、セメスター制は、1 年を「春学期」と「秋学期」とに分け、それぞれのセメスター (学期) ごとに単位を取得する方式である。

セメスター制は、半期ごとに成績評価がでるので 1 年をまたないで自分の学習計画を設定でき、またシラバスからもわかるように、「春学期」と「秋学期」の授業について、半年ごとに授業計画が示されるので、より明確なかたちで授業を受けることができる。

#### 3. コース制と授業科目の選択

経済学部には、コース制 (選択) を 2001 年度より導入している。コース制とは、1 年次から 4 年次にわたって体系的・系統的な科目履修ができるように、一定のコースを設けて、専門科目を系統的に学習できるようにすることである。

学生諸君は 1 年次、および 2 年次に設けられている科目群の中から、一体どのような科目を選択してよいか、また 1、2 年次で選択した科目が 3、4 年次の専門科目とどのように結びつくのかについて何らかの指針が必要なのではなかろうか。そのことによって、将来の自分の職業および進路などを考える場合に、どのようなコースが諸君にとって有益であるかを 1 年、2 年次のうちから意識することが必要であると考えている。したがって、各コースの選択やコースに設けられている科目群を参照して、ゼミの教員などに相談しながら選択してほしい。2001 年度より、1 年次に「基礎ゼミ」が新たに開設されたので、科目選択およびコースの選択などについて、ゼミ教員からアドバイスを受けることができる。

経済学部では、コース制を設けることによって、将来どのような進路に興味があり、どのような専門領域を学びたいのかをガイドラインのかたちで諸君に示すことにしたのである。シラバスをみて、どの科目がどのコースに配置されているかを見てみよう。

#### 4. 「授業評価」と「授業改善のためのアンケート」

獨協大学では、経済学部および他の学部でも教育・研究の自己点検の一環として、学生からの教員に対する「授業評価」が実施されている。これは「授業改善のためのアンケート」調査である。評価をする学生側と評価を受ける教員側の文書によるコミュニケーションが図られる一方法である。

アメリカでは、その制度は相当古くから行われていて、学生による授業評価が一番の教師は、Education Awards として大学新聞に公表される大学があるほどである。私がアメリカで見たいくつかの大学でのアンケート・データの回収率は 95%以上であった。

したがって、ここで、一番注意しなければならないことは、学生諸君がこのアンケートをどのように考えているかの意識の問題である。学生諸君は、自分が学んでいる大学あるいは学部・学科を本当に良くしたい、そのためには教員だけでなく、学生も一丸となって「授業の改善」をしていくという意識をお互いに共有しあっていかなければならない。受講者である学生はアンケートに対して積極的に、そして建設的な意見を出して欲しい。そしてせめて 70%以上の回答率になってはじめて授業改善のための双方向性が図られるのではないか。

#### 5. 授業方法の改善

授業の実施方法は、各授業科目の内容・性格と学生の理解能力の程度に応じた適切な方法が選択されなければならない。授業方法の適切性は、授業内容の改善と相まって、学生の学修を活性化するためにも必要である。授業を担当する教員は、大教室、中教室、小教室などの授業規模に適切に対応した授業方法や個別的指導をも含めた授業内容の充実化を図ることが重要であり、教員各自が自発的に教育方法の改善を図るための努力をすることも必要である。教員による教育方法の自己点検、向上のための努力を促進するため、教員の教育能力を啓発するファカルティ・ディベロップメント (Faculty Development) が嵩じられていかなければならない。

#### 6. 経済学部の「経済学会」の活動

経済学部では、経済学会（詳しくは、「獨協大学経済学会への入会案内」を参照のこと）が組織されており、その基金でもってこれまでゼミ論文の出版助成金、学生の合宿その他のゼミ活動に対する施設利用の助成金、また、語学 (TOEIC 講座) への資金援助等々と学生諸君の教育・研究活動に対して少なからず援助を続けてきた。またさらに今後その基金を学生諸君の教育・研究活動に対していろいろな方面に発展・活用させていきたいと考えている。したがって、学生諸君も、積極的に勉学に活用するよう期待している。

#### 7. 「卒業研究」について

2001 年度以降の入学者には、新カリキュラム改正が適用され、「卒業研究」(4 単位、選択科目)の科目を新設することになりました。この科目を設けた趣旨は、経済学部では現在各ゼミで「ゼミ論文」を発行するゼミが多く、経済学会もゼミ論文発行に対して補助金を援助し、また経済学部の年報では、各ゼミのゼミ論文のタイトルや各ゼミで優秀な論文を 2 編選んで年報に掲載することになっております。このような経済学部の活動をさらに充実させるためにもその成果に対して 4 単位を与え、積極的に卒業論文を執筆・提出することを奨励する意味から「卒業研究」を新設した訳です。

これまでは、3 年生に「ゼミ I」が設けられており、「ゼミ II」では就職活動を迫られる 4 年生において、十分に論文の指導を受けられないままに論文を書き上げるということであったように思われます。それを打開するためにも、新カリキュラムでは、「ゼミ I」が 2 年生に、また「ゼミ II」が 3 年生に設定されましたので、2 年間十分に専門科目をゼミで勉強でき、3 年間の集大成としてゼミのテーマを選んだり、文献を検索したり、論文の書き方を学んで 4 年生に十分時間をかけ

て論文執筆に取り組むことができるよう配慮しました。

現在新カリの適用者である3年生には、2003年度中に、「卒業研究」の提出手続きとマニュアルを作りたいと思っております。4年生でじっくりと就職活動に専念できるためにも3年末までには、卒業論文のテーマを決めて自分が3年間でどのような勉強をやってきたかを外部にその成果を主張できるように、ゼミの指導教員に相談しながら計画を立てて論文の準備をしていただきたいと思います。



## シラバスとは？

「シラバス」は、科目の担当教員が、学期ごとに授業計画、目的、講義内容および評価方法を学生に周知することにより、受講の指針および授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。  
 学生諸君は、シラバスを良く読み、計画的な履修登録をしてください。

シラバスの見方は次のとおりです 科目の授業内容は、目次で検索し確認してください

①98科目	② 科目名	③ 担当者
④01科目	⑤ 科目名	③ 担当者
⑥03科目	⑦ 科目名	③ 担当者
⑧ 講義目的および講義内容		⑨ 授業計画
		1 授業のポイント 以下同じ
		2
		3
		4
		5
		6
		7
		8
		9
		10
		11
12		
評価方法	⑩	
テキスト参考	⑪	

上段の欄は春学期の科目です

- ① 1998年度以前入学者の科目名です
- ② 1998年度以前入学者の科目名で原則として通年の授業です
- ③ 担当者氏名(複数教員で行う科目もあります)
- ④ 2001年度以前入学者の科目名です
- ⑤ 2001年度以前入学者の科目名で原則としてa. bの半期完結科目です
- ⑥ 2003年度入学者の科目名です。
- ⑦ 2003年度入学者の科目名で原則としてa. bの半期完結科目です
- ⑧ 授業の目的、ポイントなど教員からの要望を記載してあります
- ⑨ 春学期は原則として12回の授業があります。主なポイントを示し、効率良く授業が進むようになっています
- ⑩ 半期完結科目は、春学期終了時・秋学期終了時にそれぞれ評価されます  
 1998年度以前の入学者の科目・2001年度以前入学者の通年科目は、秋学期終了後、評価されます  
 また、各教員によって評価方法は様々です
- ⑪ 授業をより深く理解させるために、参考書、テキストなどを提示しています

④01科目	⑤ 科目名	③ 担当者
⑥03科目	⑦ 科目名	③ 担当者
⑧ 講義目的および講義内容	秋学期	⑨ 授業計画
		1
		2
		3
		4
		5
		6
		7
		8
		9
		10
		11
12		
評価方法	⑩	
テキスト参考文献	⑪	

下段は、秋学期で各項目は春学期と同じです

①②は省略

〔注意〕

1. 定員  
 全学共通授業科目との合併科目は、定員を設けています  
 抽選期日などを必ず確認して受講許可を受けてください
2. 集中講義  
 春学期授業のスポーツ・リクリエーションに伴う集中講義は下段に記載してあります

# 目次

(2003年度入学者用)

(経済学科/経営学科共通) 学科基礎科目

03科目名	担当者	ページ
インターナショナルコミュニケーションa・b	各担当教員	185
基礎演習	秋本弘章	186
基礎演習	阿部正浩	187
基礎演習	犬井正	188
基礎演習	大久保貞義	189
基礎演習	岡村国和	190
基礎演習	梶山皓	191
基礎演習	上坂卓朗	192
基礎演習	黒木亮	193
基礎演習	黒川文子	194
基礎演習	小林哲也	195
基礎演習	斉藤美彦	196
基礎演習	塩田尚樹	197
基礎演習	高松和幸	198
基礎演習	立田ルミ	199
基礎演習	全載旭	200
基礎演習	中野隆史	201
基礎演習	奈倉文二	202
基礎演習	中村泰將	203
基礎演習	波形昭一	204
基礎演習	浜本光紹	205
基礎演習	藤山英樹	206
基礎演習	本田浩邦	207
基礎演習	益山光央	208
基礎演習	松井敬	209
基礎演習	御園生眞	210
基礎演習	森 健	211
基礎演習	山越徳	212
基礎演習	山本美樹子	213
基礎演習	湯田雅夫	214
基礎演習	米山昌幸	215
経済学a・b(経済)	片岡晴雄	1
経済学b・a(経済)	小林進	2
経済学a・b(経済)	益山光央	3
経済学a・b(経営)	米山昌幸	7
統計学a・b	富田幸弘	8
統計学a・b	本田勝	9
統計学a・b	松井敬	10
コンピュータ入門a・b	各担当教員	11
コンピュータ入門a・b(アドバンス)	久東義典	12
プレゼンテーション技法(秋期完結)	富澤儀一	13

経営学a・b(経済)	清水絹江	14
経営学a・b(経営)	上坂卓郎	15
経営学a・b(経営)	小林哲也	16
経営学a・b(経営)	高松和幸	17
経営学a・b(経営)	富田忠義	18
経営学a・b(経営)	西川純子	19
経営学a・b(経営)	細田哲	20
簿記原理a・b	井出健二郎	21
簿記原理a・b	内倉滋	22
簿記原理a・b	香取徹	23
簿記原理a・b	金井繁雅	24
簿記原理a・b	千葉啓司	25
簿記原理a・b	中村泰將	26
簿記原理a・b	細田哲	27
簿記原理a・b	百瀬房徳	28
簿記原理a・b	湯田雅夫	29
数学a・b	遠藤信	79
高齢化社会論a・b	奥山正司	57
精神衛生論	中野隆史	82
医療・福祉概論a・b	藤井賢一郎	83
現代文化論a・b	柴崎信三	61

### (経済学科) 学科専門科目

03科目名	担当者	ページ
経済統計論a・b	松本正信	97
日本社会史a・b	新井孝重	103
日本経済論a・b	波形昭一	107
アメリカ経済論a・b	本田浩邦	108
ラテンアメリカ経済論a・b	松本栄次	109
西ヨーロッパ経済論a・b	大西健夫	110
東アジア・中国経済論a・b	全載旭	111
オセアニア経済論a・b	森 健	112
アフリカ経済論a・b	千代浦昌道	113

### (経済学科) 関連専門科目

03科目名	担当者	ページ
会計学a・b	内倉滋	128
法学	野村武司	59
特殊講義a(経済学入門)	経済学部	142
特殊講義b(経済学入門)	経済学部	142
特殊講義a(経営学科で何が学べるか)	経営学科	216
特殊講義b(レポートの書き方)	経営学科	216

### (経営学科) 学科専門科目

03科目名	担当者	ページ
経営管理論a・b	黒川文子	145

経営史a・b	柳 敦	150
日本経営史a, b	奈倉文二	151
上級簿記(工業)a・b	香取徹	169
上級簿記(商業)a・b	細田哲	170
経営数学a・b	本田勝	172
情報社会論a・b	柴崎信三	175
コンピュータネットワーク(春期完結)	富澤儀一	177
コンピュータアーキテクチャ(秋期完結)	今福啓	178
情報と職業a	富田幸弘	179
情報と職業b	小林哲也	179

## (経営学科) 関連専門科目

01科目名	担当者	ページ
日本経済論a・b	波形昭一	107
日本経済史a・b	奈倉文二	102
法学	野村武司	59
特殊講義a(経済学入門)	経済学部	142
特殊講義b(経済学入門)	経済学部	142
特殊講義a(経営学科で何が学べるか)	経営学科	216
特殊講義b(レポートの書き方)	経営学科	216

# 目次

(1998年度～2002年度入学者用)

(経済学科／経営学科共通) 学科基礎科目

全学共通  
授業科目  
の抽選あり

	01科目名	98科目名	担当者	ページ
	経済学a・b(経済)		片岡晴雄	1
	経済学b・a(経済)		小林進	2
	経済学a・b(経済)		益山光央	3
*	経済学a・b(再)	経済学(再)	阿部正浩	4
*	経済学a・b(再)	経済学(再)	片岡晴雄	5
*	経済学a・b(再)	経済学(再)	浜本光紹	6
	経済学a・b(経営)	経済学(経営)	米山昌幸	7
	統計学a・b	統計学	富田幸弘	8
	統計学a・b	統計学	本田勝	9
	統計学a・b	統計学	松井敬	10
	コンピュータ入門a・b	情報処理概論	各担当教員	11
	プレゼンテーション技法(秋期完結)		富澤儀一	13
	経営学a・b(経済)	経営学(経済)	清水絹江	14
	経営学a・b(経営)	経営学(経営)	上坂卓郎	15
	経営学a・b(経営)	経営学(経営)	小林哲也	16
	経営学a・b(経営)	経営学(経営)	高松和幸	17
	経営学a・b(経営)	経営学(経営)	富田忠義	18
	経営学a・b(経営)	経営学(経営)	西川純子	19
	経営学a・b(経営)	経営学(経営)	細田哲	20
	簿記原理a・b	簿記原理	井出健二郎	21
	簿記原理a・b	簿記原理	内倉滋	22
	簿記原理a・b	簿記原理	香取徹	23
	簿記原理a・b	簿記原理	金井繁雅	24
	簿記原理a・b	簿記原理	千葉啓司	25
	簿記原理a・b	簿記原理	中村泰将	26
	簿記原理a・b	簿記原理	細田哲	27
	簿記原理a・b	簿記原理	百瀬房徳	28
	簿記原理a・b	簿記原理	湯田雅夫	29
<b>第一外国語</b>				
*	ドイツ語 I	ドイツ語 I	各担当教員	最初の授業で説明
*	英語 I (会話)	英語 I (会話)	各担当教員	最初の授業で説明
*	英語 I (講読)	英語 I (講読)	各担当教員	最初の授業で説明
*	フランス語 I	フランス語 I	各担当教員	最初の授業で説明
*	ドイツ語 II (総合)	ドイツ語 II (総合)	各担当教員	最初の授業で説明
*	英語 II (講読)	英語 II (講読)	各担当教員	最初の授業で説明
*	英語 II (総合)	英語 II (総合)	各担当教員	最初の授業で説明
*	フランス語 II	フランス語 II	各担当教員	最初の授業で説明
<b>第二外国語</b>				
*	ドイツ語 I A	ドイツ語 I A	各担当教員	30
*	ドイツ語 I B	ドイツ語 I B	各担当教員	31
*	ドイツ語 I C	ドイツ語 I C	各担当教員	32

*	英語 I	英語 I	各担当教員	フランス語・ドイツ語の別冊を参照
*	フランス語 I A	フランス語 I A	各担当教員	33
*	フランス語 I B	フランス語 I B	各担当教員	34
*	フランス語 I C	フランス語 I C	各担当教員	35
*	スペイン語 I A(基礎)	スペイン語 I A(基礎)	各担当教員	36
*	スペイン語 I B(総合)	スペイン語 I B(総合)	各担当教員	37
*	スペイン語 I C(会話)	スペイン語 I C(会話)	各担当教員	38
*	ロシア語 I(会話)	ロシア語 I(会話)	佐藤千登勢	39
*	ロシア語 I(総合)	ロシア語 I(総合)	齊藤毅	40
*	中国語 I A	中国語 I A	各担当教員	41
*	中国語 I B	中国語 I B	各担当教員	42
*	中国語 I C	中国語 I C	各担当教員	43
*	韓国語 I(総合)	韓国語 I(総合)	朴勇俊	44
*	韓国語 I(会話)	韓国語 I(会話)	李貞美	45
*	ドイツ語 II A	ドイツ語 II A	各担当教員	46
*	ドイツ語 II B	ドイツ語 II B	各担当教員	47
*	ドイツ語 II C	ドイツ語 II C	各担当教員	48
*	英語 II	英語 II	各担当教員	フランス語・ドイツ語の別冊を参照
*	フランス語 II	フランス語 II	各担当教員	49
*	スペイン語 II(総合)	スペイン語 II(総合)	各担当教員	50
*	スペイン語 II(会話)	スペイン語 II(会話)	各担当教員	51
*	ロシア語 II(総合)	ロシア語 II(総合)	佐藤千登勢	52
*	ロシア語 II(会話)	ロシア語 II(会話)	齊藤毅	53
*	中国語 II(会話)	中国語 II(会話)	各担当教員	最初の授業で説明
*	中国語 II(講読)	中国語 II(講読)	大嶋広美	54
*	韓国語 II(総合)	韓国語 II(総合)	李貞美	55
*	韓国語 II(会話)	韓国語 II(会話)	朴勇俊	56
	高齢化社会論a・b	高齢化社会論	奥山正司	57
*	社会学	社会学	有吉広介	58
	法学	法学	野村武司	59
	日本国憲法		加藤一彦	60
*	現代文化論a・b	現代文化論	柴崎信三	61
*	文化人類学	文化人類学	井上兼行	62
*	心理学	心理学	増田直衛	63
*	歴史学(日本史)	歴史学(日本史)	櫻井彦	64
*	歴史学(日本史)	歴史学(日本史)	新宮讓治	65
*	歴史学(東洋史)	歴史学(東洋史)	熊谷哲也	66
*	哲学	哲学	谷口郁夫	67
*	哲学	哲学	松丸壽雄	68
*	文学(日本文学)	文学(日本文学)	肥田野昌之	69
*	文学(日本文学)	文学(日本文学)	福沢健	70
*	文学(世界文学)	文学(世界文学)	野々山ミチコ	71
*	文学(世界文学)	文学(世界文学)	宮谷尚実	72
*	国語	国語	飯島一彦	73
*	国語	国語	小島幸枝	74
*	国語	国語	千本健一郎	75
*	国語	国語	肥田野昌之	76
*	国語	国語	福沢健	77
*	地球環境論	地球環境論	鈴木滋	78
	数学a・b	数学	遠藤信	79

* 地理学	地理学	秋本弘章	80
* 地理学	地理学	犬井正	81
精神衛生論	精神衛生論	中野隆史	82
医療・福祉概論a・b	医療・福祉概論	藤井賢一郎	83
* スポーツ・健康論a・b	スポーツ・健康論	和田智	84

## (経済学科) 学科専門科目

01科目名	98科目名	担当者	ページ
経済・経営外国語Ⅱ a. b	外国書講読	黒木亮	85
経済・経営外国語Ⅱ a. b	外国書講読	波形昭一	86
経済・経営外国語Ⅱ a. b	外国書講読	益山光央	87
経済・経営外国語(ドイツ語)Ⅱ a. b	外国書講読(ドイツ語)	大西健夫	88
経済・経営外国語(中国語)Ⅱ a. b	外国書講読(中国語)	全載旭	89
経済・経営外国語(外国人学生)Ⅱ a. b	外国書講読(外国人学生)	ジム・ブローガン	90
マクロ経済学a. b	マクロ経済学	塩田尚樹	91
マクロ経済学a. b	マクロ経済学	松本正信	92
ミクロ経済学a. b	ミクロ経済学	小林進	93
ミクロ経済学a. b	ミクロ経済学	藤山英樹	94
経済学史a. b	経済学史	黒木亮	95
経済変動論a. b	経済変動論	松本正信	96
経済統計論a・b	経済統計論	松本正信	97
計量経済学a・b	計量経済学	藤山英樹	98
経済政策論a・b	経済政策論	阿部正浩	99
経済開発論a・b	経済開発論	千代浦昌道	100
環境政策論a・b		塩田尚樹	101
日本経済史a・b	日本経済史	奈倉文二	102
日本社会史a・b	日本社会史	新井孝重	103
西洋経済史a・b	西洋経済史	御園生眞	104
国際経済論a・b	国際経済論	益山光央	105
国際金融論a・b	国際金融論	山本美樹子	106
日本経済論a・b	日本経済論	波形昭一	107
アメリカ経済論a・b	北アメリカ経済論	本田浩邦	108
ラテンアメリカ経済論a・b	ラテンアメリカ経済論	松本栄次	109
西ヨーロッパ経済論a・b	西ヨーロッパ経済論	大西健夫	110
東アジア・中国経済論a・b	東アジア・中国経済論	全載旭	111
オセアニア経済論a. b	東南アジア・オセアニア経済論	森 健	112
アフリカ経済論a. b	中東・アフリカ経済論	千代浦昌道	113
金融経済論a. b	金融経済論	斉藤美彦	114
金融システム論a. b	金融システム論	斉藤美彦	115
財政学a. b	財政学	野村容康	116
公共経済学a. b	公共経済学	伊藤為一郎	117
地方財務論a. b	地方財政論	伊藤為一郎	118
環境経済学a. b	環境経済学	浜本光紹	119
経済地理学a. b	経済地理学	犬井正	120
交通経済論a. b	交通経済論	岡田博	121
産業組織論a. b	産業組織論	青木雅明	122
産業構造論a. b	産業構造論	山越徳	123
労働経済学a. b	労働経済学	山越徳	124

## (経済学科) 関連専門科目

01科目名	98科目名	担当者	ページ
経営学原理a. b	経営学原理	黒川文子	125
経営学原理a. b	経営学原理	富田忠義	126
企業論a. b	企業論	西川純子	127
会計学a. b	会計学	内倉滋	128
応用統計学a. b	応用統計学	本田勝	129
標本調査論a. b	標本調査論	松井敬	130
データベース論a・b	データベース論	高柳敏子	131
コンピュータ・シミュレーション論a・b	コンピュータ・シミュレーション論	富田幸弘	132
マルチメディア論a・b	マルチメディア論	立田ルミ	133
マルチメディア論a・b	マルチメディア論	森園子	134
プログラミング論	プログラミング論	高柳敏子	135
プログラミング論	プログラミング論	立田ルミ	136
プログラミング論	プログラミング論	森園子	137
政治学総論	政治学総論	杉田孝夫	138
民法	民法	椿久美子	139
商法	商法	柴崎暁	140
総合講座(1)a. b	総合講座(1)	経済学部	141
特殊講義A(経済学入門)	特殊講義A(経済学入門)	経済学部	142
特殊講義B「経済と法」(春期完結)	特殊講義B「経済と法」(春期完結)	住田裕子	217
特殊講義B「企業と法」(秋期完結)	特殊講義B「企業と法」(秋期完結)	住田裕子	217
特殊講義B	特殊講義B	経済学部	143

「資本市場とグローバル証券ビジネス」(秋期完結) 「資本市場とグローバル証券ビジネス」(秋期完結)

## (経営学科) 学科専門科目

01科目名	98科目名	担当者	ページ
経済・経営外国語Ⅱ a. b	外国書講読	黒木亮	85
経済・経営外国語Ⅱ a. b	外国書講読	波形昭一	86
経済・経営外国語Ⅱ a. b	外国書講読	益山光央	87
経済・経営外国語(ドイツ語)Ⅱa. b	外国書講読(ドイツ語)	大西健夫	88
経済・経営外国語(中国語)Ⅱ a. b	外国書講読(中国語)	全載旭	89
経済・経営外国語(外国人学生)Ⅱ a. b	外国書講読(外国人学生)	ジム・ブローガン	90
経営学原理a. b	経営学原理	黒川文子	125
経営学原理a. b	経営学原理	富田忠義	126
経営戦略論a. b	経営戦略論	富田忠義	144
経営管理論a. b	経営管理論	黒川文子	145
経営組織論a. b	経営組織論a. b	高松和幸	146
経営財務論a. b	経営財務論	細田哲	147
人的資源管理論a. b	経営労務論	清水絹代	148
国際経営論a. b	国際経営論	小林哲也	149
経営史a・b	経営史	柳 敦	150
日本経営史a. b	日本経営史	奈倉文二	151
マーケティング論a. b	マーケティング論	大久保貞義	152
広告論a.b	広告論	梶山皓	153
行動科学論a.b	行動科学論	大久保貞義	154
保険論a.b	保険論	岡村国和	155
貿易論a.b	貿易論	米山昌幸	156



証券市場論a. b	証券市場論	高橋元	157
企業論a. b	企業論	西川純子	127
ベンチャービジネス論a. b(2年生)	ベンチャービジネス論(2年生)	上坂卓朗	158
ベンチャービジネス論a. b(3・4年生)	ベンチャービジネス論(3. 4年生)	上坂卓朗	159
非営利組織マネジメント論a. b	協同組合論	高松和幸	160
会計学原理a・b	会計学原理	内倉滋	161
財務会計論a.b	財務会計論	中村泰將	162
管理会計論a.b	管理会計論	香取徹	163
管理会計論a.b	社会会計論	湯田雅夫	164
原価計算論a. b	原価計算論	齋藤正章	165
会計監査論a. b	会計監査論	米田正巳	166
財務会計論a. b	税務会計論	山田浩一	167
経営分析論a. b	経営分析論	百瀬房徳	168
上級簿記(工業)a・b	上級簿記	香取徹	169
上級簿記(商業)a・b	上級簿記	細田哲	170
国際会計論a・b		五十嵐則夫	171
経営数学a・b	経営数学	本田勝	172
応用統計学a. b	応用統計学	本田勝	129
標本調査論a. b	標本調査論	松井敬	130
データベース論a・b	データベース論	高柳敏子	131
コンピュータ・シミュレーション論a・b	コンピュータ・シミュレーション論	富田幸弘	132
マルチメディア論a・b	マルチメディア論	立田ルミ	133
マルチメディア論a・b	マルチメディア論	森園子	134
情報検索論a.b	情報検索論	福田求	173
情報システム論a.b	情報システム論	今福啓	174
プログラミング論a.b	プログラミング論	高柳敏子	135
プログラミング論a.b	プログラミング論	立田ルミ	136
プログラミング論a.b	プログラミング論	森園子	137
情報社会論a・b		柴崎信三	175
情報通信ネットワークa	特殊講義A「情報通信ネットワーク」春期	安井直彦	176
情報通信ネットワークb	特殊講義A「情報通信ネットワーク」秋期	三宅真	176
コンピュータネットワーク(春期完結)		富澤儀一	177
コンピュータアーキテクチャ(秋期完結)		今福啓	178
情報と職業a		富田幸弘	179
情報と職業b		小林哲也	179
アルゴリズム論a・b		木村昌史	180
オペレーションズ・リサーチa・b	オペレーションズ・リサーチ	正道寺勉	181
システムズ・エンジニアリングa・b	システムズ・エンジニアリング	天笠美知夫	182
経営システム工学a	管理工学(前期)	鈴木淳	183
経営システム工学b	管理工学(秋期)	日下泰夫	183

### (経営学科) 関連専門科目

01科目名	98科目名	担当者	ページ
マクロ経済学a. b	マクロ経済学	塩田尚樹	91
マクロ経済学a. b	マクロ経済学	松本正信	92
ミクロ経済学a. b	ミクロ経済学	小林進	93
ミクロ経済学a. b	ミクロ経済学	藤山英樹	94
経済政策論a・b	経済政策論	阿部正浩	99
日本経済論a・b	日本経済論	波形昭一	107

日本経済史a・b	日本経済史	奈倉文二	102
国際経済論a・b	国際経済論	益山光央	105
金融経済論a.b	金融経済論	斉藤美彦	114
財政学a. b	財政学	野村容康	116
政治学総論	政治学総論	杉田孝夫	138
民法	民法	椿久美子	139
商法	商法	柴崎暁	140
著作権法		長塚真琴	184
総合講座(1)a. b	総合講座(1)	経済学部	141
特殊講義A(経済学入門)	特殊講義A(経済学入門)	経済学部	142
特殊講義B「経済と法」(春期完結)	特殊講義B「経済と法」(春期完結)	住田裕子	217
特殊講義B「企業と法」(秋期完結)	特殊講義B「企業と法」(秋期完結)	住田裕子	217
特殊講義B	特殊講義B	経済学部	143
「資本市場とグローバル証券ビジネス」(秋期完結)		「資本市場とグローバル証券ビジネス」(秋期完結)	

# 目次

(1994年度～1997年度入学者用)

98年度の対応する科目を探し1998年度～2002年度を参照してください

## (経済学科／経営学科共通) 一般基礎科目

97科目名	98科目名	担当者
文学(日本文学)	文学(日本文学)	福沢健
文学(日本文学)	文学(日本文学)	肥田野昌之
文学(世界文学)	文学(世界文学)	野々山ミチコ
文学(世界文学)	文学(世界文学)	宮谷尚実
国語	国語	飯島一彦
国語	国語	小島幸枝
国語	国語	千本健一郎
国語	国語	肥田野昌之
国語	国語	福沢健
歴史学(日本史)	歴史学(日本史)	櫻井彦
歴史学(日本史)	歴史学(日本史)	新宮譲治
歴史学(東洋史)	歴史学(東洋史)	熊谷哲也
日本文化論(社会)	現代文化論	柴崎信三
思想(哲学)	哲学	谷口郁夫
思想(哲学)	哲学	松丸壽雄
法学	法学	野村武司
地理学	地理学	秋本弘章
地理学	地理学	犬井正
心理学	心理学	増田直衛
数学	数学	遠藤信
保健論	医療・福祉概論	藤井賢一郎
体育理論	スポーツ・健康論	和田智

## (経済学科) 専門基礎科目

97科目名	98科目名	担当者
経済学(再)	経済学(再)	阿部正浩
経済学(再)	経済学(再)	片岡晴雄
経済学(再)	経済学(再)	浜本光紹
経済原論	マクロ経済学	塩田尚樹
経済原論	マクロ経済学	松本正信
日本経済史	日本経済史	奈倉文二
経済地理	経済地理学	犬井正
経済政策	経済政策論	阿部正浩
日本経済論	日本経済論	波形昭一
統計学	統計学	富田幸弘
統計学	統計学	本田勝
統計学	統計学	松井敬
経済統計	経済統計論	松本正信
情報処理概論	情報処理概論	各担当教員

## (経済学科) 主要専門科目

97科目名	98科目名	担当者
計量経済学	計量経済学	藤山英樹
経済変動論	経済変動論	松本正信
近代経済学	ミクロ経済学	小林准
近代経済学	ミクロ経済学	藤山英樹
経済学史	経済学史	黒木亮
西洋経済史	西洋経済史	御園生眞
国際経済論	国際経済論	益山光央
産業構造論	産業構造論	山越徳
産業組織論	産業組織論	青木雅明
交通経済論	交通経済論	岡田博
経済開発論	経済開発論	千代浦昌道
地域経済論(1)	北アメリカ経済論	本田浩邦
地域経済論(2)	西ヨーロッパ経済論	大西健夫
地域経済論(4)	東南アジア・オセアニア経済論	森 健
地域経済論(6)	ラテンアメリカ経済論	松本栄次
労働経済論	労働経済学	山越徳
財政学	財政学	野村容康
地方財政論	地方財政論	伊藤為一郎
公共経済学	公共経済学	伊藤為一郎
金融論	金融経済論	斉藤美彦
国際金融論	国際金融論	山本美樹子

## (経済学科) 一般専門科目

97科目名	98科目名	担当者
地域精神衛生論	精神衛生論	中野隆史
経営学(経済)	経営学(経済)	清水絹代
保険論	保険論	岡村国和
会計学	会計学	内倉滋
応用統計学	応用統計学	本田勝
プログラミング論	プログラミング論	高柳敏子
プログラミング論	プログラミング論	立田ルミ
プログラミング論	プログラミング論	森園子
情報処理論(1)	データベース論	高柳敏子
情報処理論(2)	コンピュータ・シミュレーション論	富田幸弘
情報処理論(3)	マルチメディア論	立田ルミ
情報処理論(3)	マルチメディア論	森園子
民法	民法	椿久美子
商法	商法	柴崎暁
政治学総論	政治学総論	杉田孝夫
第一外国語	第一外国語	98～02入学者用「第一外国語」参照
第二外国語	第二外国語	98～02入学者用「第二外国語」参照
外国書研究Ⅰ	経済・経営外国語	98～02入学者用「経済・経営外国語」参照
外国書研究Ⅱ	外国書講読	98～02入学者用「外国書講読」参照
総合講座(1)	総合講座(1)	経済学部
特殊講義B「経済と法」(春期完結)	特殊講義B「経済と法」(春期完結)	住田裕子
特殊講義B「企業と法」(秋期完結)	特殊講義B「企業と法」(秋期完結)	住田裕子
特殊講義B	特殊講義B	経済学部
「資本市場とグローバル証券ビジネス」(秋期完結)	「資本市場とグローバル証券ビジネス」(秋期完結)	

98科目名		担当者	
-------	--	-----	--

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	経済学 a	担当者	片岡晴雄
-------	-------	-----	------

講義目的および講義概要	近代経済学の一方の柱であるミクロ経済学について講義する。ミクロ経済学は市場経済下における個々人の合理的な経済行動を体系化した学問である。このような個々人の合理的な経済行動を通じて形成される経済秩序は優れた経済効率を達成している。その経済効率とは如何なるものかについて述べる。	授業計画	1 経済学の目的と役割
			2 近代経済学誕生までの経済学の流れ
			3 市場と価格
			4 需要と供給の基礎理論
			5 家計の行動
			6 企業行動の理論
			7 完全競争市場と経済効率
			8 所得分配
			9 市場機構の限界
			10 不完全競争の理論 I
			11 不完全競争の理論 II
			12 ミクロ経済学の応用
評価方法	出席とテストの結果を見て総合的に判断する		
テキスト参考文献	テキスト：小野 俊夫編『現代経済学の基礎』(学文社)		

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	経済学 b	担当者	片岡晴雄
-------	-------	-----	------

講義目的および講義概要	マクロ経済学について講義する。マクロ経済学は、集計量と呼ばれる操作可能な戦略的に重要な少数の変数を用いて一国全体の経済の動きを明らかにすることを目的としている。そのような重要な集計量とは、GNP、国民所得、消費、投資、貯蓄、貨幣量、物価利子率、国際収支、雇用量等々である。	授業計画	1 マクロ経済循環
			2 経済学の危機とケインズ革命
			3 国民所得の決定
			4 投資乗数の理論
			5 投資の決定
			6 政治活動と国民所得
			7 貨幣市場
			8 生産物市場と貨幣市場の同時均衡
			9 経済のマクロ的一般均衡体系
			10 インフレーション
			11 経済の変動と成長
			12 開放体系のマクロ経済学
評価方法	出席とテストの結果をみて総合的に判断する		
テキスト参考文献	テキスト：小野 俊夫編『現代経済学の基礎』(学文社)		

98科目名		担当者	
-------	--	-----	--

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	経済学 b	担当者	小林進
-------	-------	-----	-----

講義目的および講義概要	最近は経済学の重要性が増しているにもかかわらず、たとえば多重債務者の増加にみられるように経済学の基礎が十分に理解できていないことが憂慮されるので、1年生を対象にしたこの講義では特に経済理論の必要性を十分に理解できるように講義を進める。また身近な経済の話題を通じて経済学への関心を高めたい。	授 業 計 画	最初の講義のときにプリント配布 (マクロ経済学の基礎)
評価方法	学期末試験		
テキスト	使用しない。参考文献は講義の中で指示する		

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	経済学 a	担当者	小林進
-------	-------	-----	-----

講義目的および講義概要	最近は経済学の重要性が増しているにもかかわらず、たとえば多重債務者の増加にみられるように経済学の基礎が十分に理解できていないことが憂慮されるので、1年生を対象にしたこの講義では特に経済理論の必要性を十分に理解できるように講義を進める。また身近な経済の話題を通じて経済学への関心を高めたい。	授 業 計 画	最初の講義のときにプリント配布 (ミクロ経済学の基礎)
評価方法	学期末試験		
テキスト	使用しない。参考文献は講義の中で指示する		

98科目名		担当者	
-------	--	-----	--

01科目名		担当者	
03科目名	経済学a	担当者	益山光央

講義目的および講義概要	<p>ミクロ経済学なかから基本的事柄を学びます。 毎回出席調査します。</p>	授業計画	1 ミクロ経済学概観
			2 消費者の理論
			3 消費者の理論
			4 生産者の理論
5 生産者の理論			
6 生産者の理論			
7 完全競争市場			
8 完全競争市場			
9 不完全競争市場			
10 不完全競争市場			
11 資源配分			
12 資源配分			
評価方法	試験 60%、レポート 30% 出席 10%		
テキスト参考文献	大石泰彦・金沢哲雄『エレメンタルミクロ経済学』英創社		

01科目名		担当者	
03科目名	経済学b	担当者	益山光央

講義目的および講義概要	<p>マクロ経済学なかから基本的事柄を学びます。 毎回出席調査します</p>	授業計画	1 国民所得の諸概念
			2 国民所得決定
			3 国民所得決定
			4 投資関数
5 利子率の決定			
6 利子率の決定			
7 IS-LM 分析			
8 財政・金融政策と完全雇用			
9 物価水準と労働市場			
10 国民所得と経済成長			
11 国民所得と外国貿易			
12 国民所得と外国貿易			
評価方法	試験 60%、レポート 30% 出席 10%		
テキスト参考文献	大石泰彦・金沢哲雄『エレメンタルマクロ経済学』英創社		

98科目名	経済学(再)	担当者	阿部正浩
-------	--------	-----	------

01科目名	経済学a(再)	担当者	阿部正浩
-------	---------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	講義の目標 「経済学の考え方とは何かから始め、経済学をツールとして「現代社会の問題をどのように分析すればよいのか」まで理解できるようにする。 講義概要 テキストの内容に沿って講義を行なう。なお、ほとんど毎回課題を出すので、それを自習すること。二回に一回の割合で課題の提出をしてもらう。詳細については一回目の講義で説明する。	授業計画	1 この授業のすすめ方
			2 経済学の考え方
			3 取引と貿易
			4 需要と供給と価格
			5 予備日
			6 需要・供給分析の応用(その1)
			7 需要・供給分析の応用(その2)
			8 時間とリスク(その1)
			9 時間とリスク(その2)
			10 公共部門(その1)
			11 公共部門(その2)
			12 予備日
評価方法	レポートと期末テスト		
テキスト参考文献	「入門経済学」ジョセフ・E・スティグリッツ(東洋経済新報社)		

01科目名	経済学b(再)	担当者	阿部正浩
-------	---------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	講義の目標 「経済学の考え方とは何かから始め、経済学をツールとして「現代社会の問題をどのように分析すればよいのか」まで理解できるようにする。 講義概要 テキストの内容に沿って講義を行なう。なお、ほとんど毎回課題を出すので、それを自習すること。二回に一回の割合で課題の提出をしてもらう。詳細については一回目の講義で説明する。	授業計画	1 GNPとは(その1)
			2 GNPとは(その2)
			3 マクロ経済学と完全雇用(その1)
			4 マクロ経済学と完全雇用(その2)
			5 経済成長(その1)
			6 経済成長(その2)
			7 失業と総需要(その1)
			8 失業と総需要
			9 インフレーション(その1)
			10 インフレーション(その2)
			11 まとめ
			12 予備日
評価方法	レポートと期末テスト		
テキスト参考文献	「入門経済学」ジョセフ・E・スティグリッツ(東洋経済新報社)		



98科目名	経済学(再)	担当者	片岡晴雄
-------	--------	-----	------

01科目名	経済学a(再)	担当者	片岡晴雄
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	近代経済学の一方の柱であるミクロ経済学について講義する。ミクロ経済学は市場経済下における個々人の合理的な経済行動を体系化した学問である。このような個々人の合理的な経済行動を通じて形成される経済秩序は優れた経済効率を達成している。その経済効率とは如何なるものかについて述べる。	授業計画	1 経済学の目的と役割
			2 近代経済学誕生までの経済学の流れ
			3 市場と価格
			4 需要と供給の基礎理論
			5 家計の行動
			6 企業行動の理論
			7 完全競争市場と経済効率
			8 所得分配
			9 市場機構の限界
			10 不完全競争の理論 I
			11 不完全競争の理論 II
			12 ミクロ経済学の応用
評価方法	出席とテストの結果を見て総合的に判断する		
テキスト参考文献	テキスト：小野 俊夫編『現代経済学の基礎』(学文社)		

01科目名	経済学b(再)	担当者	片岡晴雄
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	マクロ経済学について講義する。マクロ経済学は、集計量と呼ばれる操作可能な戦略的に重要な少数の変数を用いて一国全体の経済の動きを明らかにすることを目的としている。そのような重要な集計量とは、GNP、国民所得、消費、投資、貯蓄、貨幣量、物価利子率、国際収支、雇用量等々である。	授業計画	1 マクロ経済循環
			2 経済学の危機とケインズ革命
			3 国民所得の決定
			4 投資乗数の理論
			5 投資の決定
			6 政治活動と国民所得
			7 貨幣市場
			8 生産物市場と貨幣市場の同時均衡
			9 経済のマクロ的一般均衡体系
			10 インフレーション
			11 経済の変動と成長
			12 開放体系のマクロ経済学
評価方法	出席とテストの結果をみて総合的に判断する		
テキスト参考文献	テキスト：小野 俊夫編『現代経済学の基礎』(学文社)		

98科目名	経済学(再)	担当者	浜本光紹
-------	--------	-----	------

01科目名	経済学 a (再)	担当者	浜本光紹
-------	-----------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>本講義では、現実の経済の仕組みを理解し、理論的に考察するうえで必要な分析道具であるマクロ経済学およびミクロ経済学の基礎を習得し、経済理論を用いながら現実の経済問題の本質的要因を探り処方箋を考える力を養うことを目標とする。</p> <p>経済学 a では、国民所得の決定メカニズムおよびマクロ経済における家計・企業・政府の関係について解説する。</p>	授業計画	1 経済学という学問について
			2 マクロ経済学の課題について
			3 家計の消費・貯蓄行動
			4 企業の投資行動
			5 企業の資金調達と株価市場
			6 貨幣と経済活動
			7 マクロ経済モデル
評価方法	定期試験の結果に出席状況を加味して評価する。		
テキスト参考文献	福田・照山『マクロ経済学・入門』有斐閣		

01科目名	経済学 b (再)	担当者	浜本光紹
-------	-----------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>経済学 b では、経済学 a の講義内容を踏まえて、マクロ経済政策の効果について解説する。続いて、ミクロ経済学を取り上げ、需要と供給および経済厚生について解説し、規制緩和・公共政策・環境政策の効果について講義を行なう。</p> <p>学生は、経済学 a を既習のうえで受講することが望ましい。</p>	授業計画	1 マクロ経済政策
			2 労働市場と失業
			3 為替レートと経常収支
			4 ミクロ経済学の課題について
			5 需要曲線と供給曲線
			6 社会的余剰の考え方
			7 競争市場と独占
			8 市場の失敗と公共政策
			9 環境政策の理論と実際
評価方法	定期試験の結果に出席状況を加味して評価する。		
テキスト参考文献	経済学 a で用いたものを引き続き使用するほか、ミクロ経済学については適宜指示する。		

98科目名	経済学(経営)	担当者	米山昌幸
-------	---------	-----	------

01科目名	経済学 a(経営)	担当者	米山昌幸
-------	-----------	-----	------

03科目名	経済学 a(経営)	担当者	米山昌幸
-------	-----------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>私たちが経済学を勉強するのは、経済学の理論的枠組みを用いて現実の経済社会についての理解を深め、さらには問題解決の手掛かりを見出すためです。</p> <p>講義の目的は、第1に、はじめて経済学を勉強する学生に、経済学が現実経済を理解する上で、どのように有用であるかを知ってもらい、経済学に興味をもってもらうこと、そして第2に、分析用具としての経済学の基礎的な考え方を理解してもらうこと、この2つです。この講義は、経済学を学ぼうとする初心者をおもな対象としていますが、2年生以上でまだ経済学を履修していない学生にも是非履修してもらいたいと思っています。経営学科の学生にとっても、経済学は必要不可欠だと考えます。</p> <p>経済学の分野は、ミクロ経済学とマクロ経済学に大別されます。春学期は、ミクロ経済学の分野を中心に講義します。</p>	授業計画	週	内容		
			1	第1章 経済学とは		
			2	第2章 経済学的な考え方		
			3 4	第3章 取引と貿易		
			5 6	補論 比較優位と貿易利益		
			7	第4章 需要・供給と価格		
			8 9	補論 市場メカニズムと経済厚生分析—需要・供給曲線分析—		
			10 11	第5章 需要・供給分析の応用		
			12	補論 コメ市場における政府介入の経済厚生分析		
			評価方法	定期試験で成績評価を行うが、練習問題の提出も考慮する。		
			テキスト参考文献	第1回目の授業で説明する。		

01科目名	経済学 b(経営)	担当者	米山昌幸
-------	-----------	-----	------

03科目名	経済学 b(経営)	担当者	米山昌幸
-------	-----------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>私たちが経済学を勉強するのは、経済学の理論的枠組みを用いて現実の経済社会についての理解を深め、さらには問題解決の手掛かりを見出すためです。</p> <p>講義の目的は、第1に、はじめて経済学を勉強する学生に、経済学が現実経済を理解する上で、どのように有用であるかを知ってもらい、経済学に興味をもってもらうこと、そして第2に、分析用具としての経済学の基礎的な考え方を理解してもらうこと、この2つです。この講義は、経済学を学ぼうとする初心者をおもな対象としていますが、2年生以上でまだ経済学を履修していない学生にも是非履修してもらいたいと思っています。経営学科の学生にとっても、経済学は必要不可欠だと考えます。</p> <p>経済学の分野は、ミクロ経済学とマクロ経済学に大別されます。春学期は、ミクロ経済学の分野を中心に講義します。</p>	授業計画	週	内容		
			1 3	第1章 マクロ経済学とGDPの測定		
			2	補論 GDPと三面等価の原則		
			4 5 6 7	第2章 基本的完全雇用マクロ・モデル—長期マクロ・モデル—		
			8	第3章 失業と総需要—短期マクロ・モデル—		
			9 10 11	補論 所得・支出分析—生産物市場における国民所得決定の理論(45度線分析)—		
			12	まとめ		
			評価方法	定期試験で成績評価を行うが、練習問題の提出も考慮する。		
			テキスト参考文献	第1回目の授業で説明する。		

98科目名	統計学	担当者	富田幸弘
-------	-----	-----	------

01科目名	統計学 a	担当者	富田幸弘
-------	-------	-----	------

03科目名	統計学 a	担当者	富田幸弘
-------	-------	-----	------

講義目的・講義概要	<p>近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学や経営学を含む諸科学にも多くの貢献をしてきている。特に、近年のコンピュータの発達、データの取り扱いと統計的方法への接近を容易にしている。</p> <p>こうしたことから、統計学の背景にある科学的方法としての理論の枠組みとその重要性を十分に理解し、応用力を身につけることを目標としている。</p> <p>その内容は、データの整理、確率分布である。</p>	授業計画	1 講義概要・評価・受講上の注意などについて 統計学の利用例
	<p>定期試験の結果により評価する。 (出席状況なども考慮する)</p>		2 統計学の発展史 統計的な考え方
評価方法			3 データの整理 (1) 位置の尺度・散布の尺度
			4 データの整理 (2) 度数分布表・ヒストグラム
			5 データの整理 (3) 簡便法
			6 データの整理 (4) 相関係数・回帰直線
			7 データの整理 (5) 計算演習とまとめ
			8 順列・組合せ 二項定理
			9 離散型確率分布 二項分布・漸化式
			10 連続型確率分布 (1) 正規分布・標準化
			11 連続型確率分布 (2) 確率計算・その他の確率分布
			12 確率と確率分布 計算演習とまとめ

01科目名	統計学 b	担当者	富田幸弘
03科目名	統計学 b	担当者	富田幸弘

講義目的・講義概要	<p>近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学や経営学を含む諸科学にも多くの貢献をしてきている。特に、近年のコンピュータの発達、データの取り扱いと統計的方法への接近を容易にしている。</p> <p>こうしたことから、統計学の背景にある科学的方法としての理論の枠組みとその重要性を十分に理解し、応用力を身につけることを目標としている。</p> <p>その内容は、統計的推定、統計的仮説検定である。</p>	授業計画	1 講義概要・評価・受講上の注意などについて 統計学 a の復習
	<p>定期試験の結果により評価する。 (出席状況なども考慮する)</p>		2 母集団と標本 無作為標本・標本調査、国勢調査
評価方法			3 統計的推定 (1) 比率の区間推定・サンプルサイズ
			4 統計的推定 (2) 母平均の区間推定、計算演習
			5 統計的仮説検定 (1) 概説、帰無仮説・第1種の過誤・有意水準
			6 統計的仮説検定 (2) 比率の仮説検定、比率の差の仮説検定
			7 統計的仮説検定 (3) 分割表による仮説検定
			8 統計的仮説検定 (4) 母平均の仮説検定、母平均の差の仮説検定
			9 統計的仮説検定 (5) 相関係数の仮説検定、等分散の仮説検定
			10 統計的仮説検定 (6) その他の仮説検定
			11 統計的仮説検定 (7) 計算演習とまとめ
			12 統計学のまとめ

98科目名	統計学	担当者	本田勝
-------	-----	-----	-----

01科目名	統計学 a	担当者	本田勝
-------	-------	-----	-----

03科目名	統計学 a	担当者	本田勝
-------	-------	-----	-----

講義目的および講義概要	<p>我々の身の回りには大量のデータが存在する。それらは観測や測定あるいは実験のデータであったり、各種の調査から得られたデータであったり、その種類は様々である。これらのデータを解析し、推論していく、推測統計学を軸とする近代統計学の手法は、経済学や経営学の分野でもいろいろな形で応用されている。</p> <p>この講義では、統計学の基本的考え方とそれらを具体的に応用していく方法について述べていく。</p> <p>講義は以下のような内容についてテキストを中心に進めるが、スライドを使用することもある。</p> <p>データの整理の方法 確率の概念 確率分布の考え方 特殊な確率分布</p>	授業計画	1 統計学とは何かについて、統計学の導入を行なう。
	2 標本として得られるデータの整理のしかたについて述べる。平均、中央値、最頻値など。		
	3 ばらつきの尺度によるデータ特性の把握のしかたについて述べる。		
4 データ整理の方法を理解するための演習をおこなう。			
5 確率導入のための準備として、集合および事象について述べる。			
6 確率を導入し、加法定理、条件付確率および乗法定理について述べる。			
7 確率変数と確率分布の考え方を述べ、離散型および連続型の例を考えてみる。			
8 確率分布の密度関数について説明し、分布の平均や分散などの特性値について述べる。			
9 2項分布を例に、離散型確率分布の性質を調べる。			
10 ポアソン分布の性質を調べる。問題演習。			
11 連続型確率分布の性質について、一様分布、指数分布、正規分布を例に述べる。			
12 正規分布の確率の求め方と確率変数の標準化について述べる。問題演習			
評価方法	定期試験および出席調査による総合評価		
テキスト参考文献	本田 勝『基本統計学』 産業図書		

01科目名	統計学 b	担当者	本田勝
-------	-------	-----	-----

03科目名	統計学 b	担当者	本田勝
-------	-------	-----	-----

講義目的および講義概要	<p>講義目的は統計学 a と同じ</p> <p>講義は以下のような内容についてテキストを中心に進めるが、スライドを使用することもある。</p> <p>標本分布の考え方といくつかの例 統計学における推定の問題 統計学における仮説検定の問題 2変量間の関係のとらえ方</p>	授業計画	1 標本分布とは何かについて述べ、中心極限定理についても言及する。
	2 標本比率の確率分布について述べ、2項分布の正規分布近似についても言及する。		
	3 カイ2乗分布およびt分布を説明したあと、標本分散の確率分布について述べる。		
4 母集団パラメータの推定について、点推定、区間推定の考え方を述べる。			
5 母平均の区間推定のし方を述べる。問題演習。			
6 母集団比率及び母分散の区間推定のし方を述べる。			
7 統計的仮説検定の考え方と母平均の検定法について述べる。			
8 2変量間の相関とは何かについて述べる。			
9 回帰直線について述べる。(線形回帰、最小2乗法)			
10 カイ2乗検定の考え方について述べる。			
11 問題演習			
12 一年間の総復習を行う。			
評価方法	定期試験および出席調査による総合評価		
テキスト参考文献	統計学 a と同じ		

98科目名	統計学	担当者	松井敬
-------	-----	-----	-----

01科目名	統計学 a	担当者	松井敬
-------	-------	-----	-----

03科目名	統計学 a	担当者	松井敬
-------	-------	-----	-----

講義目的および講義概要	<p>近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学、経営学を含む諸科学に大きく貢献してきた。近年は、コンピュータなどのデータ処理システムの発展もあって、人間活動のあらゆる分野で広く利用されている。本講義は、統計学の基礎的な概念と方法について正確な知識と応用能力を身につけることを目的とする。統計学は現実への応用に大きく関わった学問なので、出来るだけ具体的な問題を意識し、適宜計算演習をまじえながら進めてゆく。</p> <p>内容は記述的な統計から、探索的なデータ解析の考え方、単純回帰、現代統計学の枠組み(母集団と標本)、データの得られるメカニズム(モデル、確率分布)などである。</p> <p>試験問題は講義中の演習問題が中心になるので、普段からキチンと出席し、テーマ毎に理解しておくことが大切である。</p>	授業計画	1. 統計学とはどんな学問か、なぜ統計学を学ぶのか。ほかに授業の進め方、方針。
			2. 統計的な見方、考え方とはどんなことか。データを測定する尺度について。
			3. データを記述する方法 - データを記述するための様々な尺度の意味と特徴、計算など。
評価方法	期末の試験によって評価する。		4. 探索的なデータ解析の方法と考え方。
テキスト参考文献	資料を準備し、適宜配布する。(予定)		5. 身長と体重、需要と供給といった2つの変数間の関連性を説明する尺度について考える。
			6. 2つないし3つ以上の変数間の“線型”な関係を調べる。回帰直線。
			7. 確率 - 統計と確率の接点。確率の基本的な考え方など。
			8. データの得られるしくみ - 実験や観察の結果(データ)とそれを作り出すモデル(分布)。
			9. 現代統計学の枠組み - 母集団と標本。データの持つ意味、データの得られる機序。
			10. 離散型の分布 - 二項分布、ポアソン分布など。分布の特徴づけ。データとの関係。
			11. 連続型の分布 - 連続型確率分布。正規分布の形状や特徴など。
			12. 正規分布とその周辺の事柄について。前期のまとめ。

01科目名	統計学 b	担当者	松井敬
-------	-------	-----	-----

03科目名	統計学 b	担当者	松井敬
-------	-------	-----	-----

講義目的および講義概要	<p>本講義では、統計的応用のための様々な手法の意味や考え方を説明したい。データは実験、観察、調査などに関連して得られるが、データの処理にはその背景にある様々な条件を勘案しつつ、適切な統計的方法を選択する必要がある。その際に留意すべき点や問題となる点を明確にしながら説明してゆきたい。</p> <p>取り扱うのは推定、検定、ノンパラメトリック法などである。それぞれの方法が、どういった考え方で組み立てられているかを知ることが統計的な考え方を理解するうえで基本的なことと思うので、そのあたりに十分留意し講義してゆきたい。</p> <p>また、統計的概念の理解は、実際にデータに対峙し、計算を行うことで(データ処理によって)深まってゆくので、随時演習を行い、各手法がより十分に理解されるようにしたい。例題や演習問題には積極的に取り組んでいただきたい。</p>	授業計画	1. データ解析の考え方 - 母集団と標本の枠組み。統計的推測について。
			2. 統計的推定 - 母集団のパラメータを推定する際の考え方。点推定、最尤推定、標本分布など。
			3. 母集団比率と正規分布の母平均の推定。推定量の意味、性質、比較など。
評価方法	期末の試験によって評価する。		4. 区間推定。サンプルの大きさを決める方法。標本調査の考え方。
テキスト参考文献	資料を準備し、適宜配布する。(予定)		5. 統計的仮説検定の考え方。
			6. 比率の検定 - 考え方と定式化。1標本と2標本。
			7. 2×2分割表の考え方と方法。r×s表。
			8. 適合度検定
			9. 正規分布の母平均の検定など。
			10. ノンパラメトリックな方法。符号検定など。
			11. 順位にもとづく検定など。ノンパラメトリックな検定法の考え方、効率。
			12. 統計的推測：統計的方法の枠組みと様々な手法の関連を再考する。後期のまとめ。

98科目名	情報処理概論	担当者	各担当教員
-------	--------	-----	-------

01科目名	コンピュータ入門 a	担当者	各担当教員
-------	------------	-----	-------

03科目名	コンピュータ入門 a	担当者	各担当教員
-------	------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>現代社会で必要不可欠なコンピュータとネットワークの仕組みについての概要を講義し、学部学生が4年間の学習、研究生活を通して必要とされるコンピュータとネットワークに関して、実習を通して基礎的技術を養うことを目的とする。</p> <p>講義および実習を通して上記の目標を達成するために、OS（オペレーティングシステム）の操作方法、ブラウザ、メールソフト、ワープロソフトの使用方法を始め、現在のコンピュータの持つマルチメディア機能の理解も含め、コンピュータとネットワーク全般の基礎的なテーマを扱う。</p> <p>なお、各テーマの取り扱われる順序、時間配分については担当教員によって若干異なることがある。</p>	授業計画	1 ガイダンス ID、パスワード、情報倫理	
	評価方法		出席、レポートおよび試験で評価	2 コンピュータの基礎 各装置、2進法、OS、ネットワークの仕組み
			テキスト 参考 文献	獨協大学情報センター編『コンピュータ入門』 各担当教員指定の教科書
			4 タイプ練習、ペイントの利用 ファイルの保存	
			5 文字の入力と変換 メモ帳の利用	
			6 電子メールの活用 メールの設定、メールの送受信	
			7 携帯メールとのやりとり 携帯メールと大学のメール	
			8 ファイルの添付 タイプ練習結果ファイルの添付	
			9 ホームページの活用 検索エンジンの利用、URL、ダウンロード	
			10 ワープロの利用（1） 文書作成、編集、保存	
			11 ワープロの利用（2） 画像と図形の挿入	
			12 レポート作成 ワープロによるレポート作成	

01科目名	コンピュータ入門 b	担当者	各担当教員
-------	------------	-----	-------

03科目名	コンピュータ入門 b	担当者	各担当教員
-------	------------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>コンピュータ入門 a で学んだ基礎知識をベースに、経済学部で4年間勉学するのに必要な表計算ソフトの利用方法と、研究発表に必要なプレゼンテーションソフトの利用方法について学ぶ。これらのソフトの利用方法については、例題を通じてひとつひとつマスターして欲しい。そして、出された課題は必ず提出するようにして欲しい。また、プレゼンテーションソフトを利用する際に必要なアニメーションや静止画などの知識についても学ぶ。これらをまとめて、プレゼンテーションファイルを作成する。さらに、マルチメディアに関する基礎的な知識についても概説する。これらの基礎を学んだ後、プログラミング論、マルチメディア論、データベース論、コンピュータシミュレーション論、コンピュータネットワーク論などの科目が設置されているので、さらなる知識を得て欲しい。</p>	授業計画	1 表計算の基礎 表計算ソフトの概説、作表、表の計算	
	評価方法		出席、レポートおよび試験で評価	2 グラフの作成（1） グラフ作成の基礎
			テキスト 参考 文献	獨協大学情報センター編『コンピュータ入門』 各担当教員指定の教科書
			4 関数の利用（1） 平均、最大、最小	
			5 関数の利用（2） ローン返済	
			6 関数の利用（3） シミュレーションとグラフ作成	
			7 関数の利用（4） 損益シミュレーション	
			8 プレゼンテーションソフト（1） 文字スライド作成	
			9 プレゼンテーションソフト（2） ワードアート、クリップアートの利用	
			10 プレゼンテーションソフト（3） グラフ、表の作成	
			11 プレゼンテーションソフト（4） 図形の作成、写真の利用	
			12 プレゼンテーションソフト（5） リハーサル、アニメーション効果、リンク	

98科目名		担当者	
-------	--	-----	--

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	コンピュータ入門(アドバンス) a	担当者	久東義典
-------	-------------------	-----	------

講義目的および講義概要	この講義では、情報処理(基礎)をさらにすすめる、レポートの作成、卒業論文作成などの際に、次のようなソフトウェアを活用できるようにすることを目的とする。①卒業論文はワープロやその他のソフトを統合して利用する。②必要な資料やデータは、インターネットや外部データベースなどを使って見つけ出す。③表計算ソフトを利用して、経済、経営情報をまとめる。④データベースソフトを利用して、データベースを構築し、必要なデータの検索ができる。 この講義を受講する学生は、ワープロ、表計算ソフト、インターネットの基礎についての知識と技能を有することが前提である。希望者が多い場合には、第1回目のガイダンスで抽選を行うので、必ず出席すること。	授業計画	1 ガイダンス 授業の内容、多い場合は抽選	
	評価方法		出席、レポート、試験で評価	2 表計算1 作表、表の計算、グラフ作成
			テキスト参考文献	授業で指示する
			4 表計算3 シミュレーション	
			5 表計算4 ダウンロードしたデータの処理	
			6 表計算5 マクロ機能	
			7 表計算6 データベース機能、ソート、フィルター	
			8 データベース1 ACCESSの概要	
			9 データベース2 入力フォームの作成と入力	
			10 データベース3 テーブルのリレーションシップ	
			11 データベース4 データの抽出、ソート	
			12 総合問題 データベースの総合	

01科目名		担当者	
03科目名	コンピュータ入門(アドバンス) b	担当者	久東義典

講義目的および講義概要	この講義コンピュータ入門a(アドバンス)をさらにすすめる、レポートの作成、卒業論文作成などの際に、次のようなソフトウェアを活用できるようにすることを目的とする。①E-mailを使って、情報交換、資料のやり取りをする。②有用な情報を自らホームページ作成して発信する。③マルチメディアを活用する。④卒論発表を、パソコンを使って行なう。ここでは、ホームページを作成する方法を実際に体験することにより、自分で作成したものを世界中に発信することを体得する。また、ホームページがどのように作成されているかを、他のページを参考にして知ることが目的とする。この授業を受講するには、コンピュータ入門で行われるワープロ、表計算、インターネットの知識が必要である。	授業計画	1 電子メール ファイルの添付、メールの整理	
	評価方法		出席、レポート、試験で評価	2 画像作成 ペイントの利用
			テキスト	授業で指示する
			4 簡単なホームページ HTML、タグ、書体	
			5 画像のあるWebページ 画像の挿入、背景	
			6 ハイパーリンク 外部リンク、内部リンク	
			7 リストの利用 番号つきリスト、番号なしリスト	
			8 フレームの利用 フレームの定義	
			9 テーブルの利用 テーブルの定義、テーブル作成	
			10 フォームの利用 フォーム作成	
			11 スタイルシート スタイルの定義	
			12 ホームページ完成 サーバにホームページをアップロード	



01科目名	プレゼンテーション技法(秋期完結)	担当者	富澤儀一
03科目名	プレゼンテーション技法(秋期完結)	担当者	富澤儀一

講義目的および講義概要	<p>講義の目的: プレゼンテーションには「発表」と「送呈」の意味がある。相手にプレゼントするような気持ちで発表することに他ならない。相手の立場に立って、表現を工夫する心がけが大切である。この結果、聞き手に研究成果を理解してもらうことができるし、また顧客の心を動かし、何らかの意志決定や行動を促すものとなる。このような発表を目指す。</p> <p>講義概要: コンテンツの作成、スライドの作成、発表マナー、リハーサル、プレゼンテーションの順にする。コンテンツは Excel を使って経営問題についてシミュレーションを行い、吟味を重ねる。コンテンツが確定した後、PowerPoint を使う。発表マナーについては、発表態度、表現、発表時間について、練度を高める。次に本番として、クラスの学生に聞いてもらう。</p> <p>受講上の注意 Excel と PowerPoint は使えることが前提</p>	授業計画	1 ガイダンス
			2 コンテンツ (1) の作成 「PID 制御による水面制御シミュレーション」
			3 シミュレーションの結果の吟味 ストーリーの作成
			4 スライドの作成 (その 1)
			5 スライドの作成 (その 2)
			6 リハーサル 先輩の発表ビデオをみる。各自リハーサル
			7 発表 (1 回目)
			8 発表 (2 回目)
			9 コンテンツ (2) の作成 「産業連関分析」
			10 スライドの作成 (その 1)
			11 スライドの作成 (その 2) (リハーサルは各自行う)
			12 発表 各自がクラス全員の前で発表をおこなう。
評価方法	出題された課題に対して、コンテンツと発表によって評価する。		
テキスト 参考 文献	必要な資料は、授業のときに配布する。テキストは使用しない。		

98科目名	経営学(経済)	担当者	清水絹代
-------	---------	-----	------

01科目名	経営学 a(経済)	担当者	清水絹代
-------	-----------	-----	------

03科目名	経営学 a(経済)	担当者	清水絹代
-------	-----------	-----	------

講義目的および講義概要	<p><b>講義目的</b> 本講義の目的は大別して三つあります。第一の目標は、経営に関する基礎理論を学び、その応用能力を身につけることです。第二の目標は、経営に関する問題発見と解決策を提示する能力を獲得することにあります。最後に、組織内で効果的に他者と関わるために必要なコミュニケーション能力を獲得することも目指します。</p> <p><b>講義概要</b> 本講義では、上記目標を達成するために右記テーマ、内容に基づき、様々なレポートやディスカッション、グループ・プレゼンテーションなどが課せられます。グループ・プレゼンテーション(ビデオ・カメラで撮影、後にそのテープを見てレポートを書く)の発表者は全員、スーツで参加します。毎回講義終了前10分程度で、講義フィードバックを書き、高い評価を得た学生のもので無記名で縮小コピーし、次週の講義で配布します。遅刻厳禁。携帯電話、PHSの電源は切ること(マナーモードは禁止)。履修希望者は初回講義に必ず出席すること。</p>	授業計画	1 イントロダクション: 課題レポート「経営に関する基礎の基礎確認」
			2 グループ・プロジェクト決定及びレポートの書き方: 課題レポート「日本企業の経営に関する問題を考える」
			3 経営戦略①: 課題レポート「企業の経営戦略分析」
			4 経営戦略②提出物「グループ・プレゼンテーション・アウトライン 1 回目」
			5 経営戦略③
			6 組織のマネジメント①提出物「グループ・プレゼンテーション・アウトライン 2 回目」
			7 組織のマネジメント②: 課題レポート「インタビュー: 組織の効果的なマネジメント」
			8 グループ・プレゼンテーション 1: 提出物「発表原稿と参考文献リスト」
			9 グループ・プレゼンテーション 2: 提出物「発表原稿と参考文献リスト」
			10 組織のマネジメント③
評価方法	出欠席、参加態度、課題レポート等の提出物、プレゼンテーションなどを総合的に評価します。		11 企業のガバナンス
テキスト参考文献	開講時に指示します。		12 今期の総復習

01科目名	経営学 b(経済)	担当者	清水絹代
-------	-----------	-----	------

03科目名	経営学 b(経済)	担当者	清水絹代
-------	-----------	-----	------

講義目的および講義概要	<p><b>講義目的</b> 上記同様</p> <p><b>講義概要</b> 上記同様</p>	授業計画	1 イントロダクション: 課題レポート「経営に関する基礎の基礎確認」
			2 グループ・プロジェクト決定及びレポートの書き方: 課題レポート「日本企業の経営に関する問題を考える」
			3 リーダーシップ①: 課題レポート「リーダーシップと組織」
			4 リーダーシップ②提出物「グループ・プレゼンテーション・アウトライン 1 回目」
			5 シミュレーション・ゲーム
			6 日本的経営①: 提出物「グループ・プレゼンテーション・アウトライン 2 回目」
			7 日本的経営②: 課題レポート「インタビュー: 日本的経営の変革」
			8 グループ・プレゼンテーション 1: 提出物「発表原稿と参考文献リスト」
			9 グループ・プレゼンテーション 2: 提出物「発表原稿と参考文献リスト」
			10 経営計画
評価方法	上記同様		11 企業文化
テキスト参考文献	上記同様		12 今期の総復習

98科目名	経営学	担当者	上坂卓郎
-------	-----	-----	------

01科目名	経営学 a	担当者	上坂卓郎
-------	-------	-----	------

03科目名	経営学 a	担当者	上坂卓郎
-------	-------	-----	------

講義目的および講義概要	この講義は経済学部学生として学習を進める上で、また将来企業人として仕事をする上で必要となる「企業」や「経営」に関する基礎的知識の習得をめざす。 また諸君の企業に対する関心の惹起や見方を形成するための導入になるような講義を意図している。 事前に次週のテキストの該当章に目を通していただくこと。日頃より新聞やニュース等で企業の動向に関心を持つこと まじめで、真摯な学習態度をこころがけてください	授業計画	1 変貌するビジネス	
			2 会社制度と企業経営	
			3 会社の目的と業績評価	
	4 経営戦略の策定			
	5 経営組織の姿			
	6 IT革新とネットワーク組織			
	7 生産の戦略、中間小テスト			
	8 マーケティング戦略			
	9 人的戦略			
	10 財務戦略			
評価方法	中間小テスト・定期試験を主体とするので必ず受験すること。また出席も勘案する			11 コーポレートガバナンス
テキスト参考文献	高橋宏幸ほか著『現代経営・入門』有斐閣 2002年。また参考資料を適宜配布する			12 まとめ、期末テスト

01科目名	経営学 b	担当者	上坂卓郎
-------	-------	-----	------

03科目名	経営学 b	担当者	上坂卓郎
-------	-------	-----	------

講義目的および講義概要	経営学 a と同様	授業計画	1 変貌するビジネス	
			2 会社制度と企業経営	
			3 会社の目的と業績評価	
	4 経営戦略の策定			
	5 経営組織の姿			
	6 IT革新とネットワーク組織			
	7 生産の戦略、中間小テスト			
	8 マーケティング戦略			
	9 人的戦略			
	10 財務戦略			
評価方法	経営学 a と同様			11 コーポレートガバナンス
テキスト参考文献	経営学 a と同様			12 まとめ、期末テスト

98科目名	経営学	担当者	小林哲也
-------	-----	-----	------

01科目名	経営学 a	担当者	小林哲也
-------	-------	-----	------

03科目名	経営学 a	担当者	小林哲也
-------	-------	-----	------

講義目的および意義要	<p>本講義では、現代企業をめぐる国際化と情報化の動きを中心に、新しい企業理論の展開を議論する。</p> <p>現代企業を取り巻く条件は、急速に変化している。例えば、1980年代には終身雇用制度などを柱とするいわゆる日本の経営が、長期的な研究開発や投資に適合的として賞賛された時期がある。これは90年代になると「グローバル・スタンダード」の視点から、経営てきた。しかし、こうした「グローバルスタンダード」壊を契機に、再び見直されようとしている。</p> <p>本講義では、主として日本企業の経験に学びながら、理論の流れを紹介していくことにする。</p> <p>と個人との関係の特質、すなわち日本社会論・日本人テムの考察を含めて、幅広く企業経営を考察する術を身につけていく</p>	授業計画	1 はじめに ノートの取り方・勉強の進め方
			2 情報技術革命と日米企業
			3 大企業体制の成立とその変遷
			4 技術革新と寡占的競争 ハイテク産業の盛衰
			5 ME革命とFMS / 日本の生産システム
			6 情報化とネットワーク インターネットの衝撃
			7 ---経済・経営情報探索術---
			8 技術革新と新しい国際分業
			9 日本企業の海外進出
			10 日本企業の海外進出
			11 情報化とグローバリゼーション
			12 日本的経営論の革新
評	出席と小レポートおよび定期試験		
テ	(参)東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学』 有斐閣		

01科目名	経営学 b	担当者	小林哲也
03科目名	経営学 b	担当者	小林哲也

講義目的および意義要	<p>本講義では、現代企業をめぐる国際化と情報化の動きを中心に、新しい企業理論の展開を議論する。</p> <p>現代企業を取り巻く条件は、急速に変化している。例えば、1980年代には終身雇用制度などを柱とするいわゆる日本の経営が、長期的な研究開発や投資に適合的として賞賛された時期がある。これは90年代になると「グローバル・スタンダード」の視点から、経営や会計の透明性などの問題で、批判されるようになってきた。しかし、こうした「グローバルスタンダード」も、米国のエンロン事件やアメリカのITバブルの崩壊を契機に、再び見直されようとしている。</p> <p>本講義では、主として日本企業の経験に学びながら、現代企業をめぐる国際化・情報化の波と、新しい企業理論の流れを紹介していくことにする。</p>	授業計画	1 はじめに ノートの取り方・勉強の進め方
			2 情報技術革命と日米企業
			3 大企業体制の成立とその変遷
			4 技術革新と寡占的競争 ハイテク産業の盛衰
			5 ME革命とFMS / 日本の生産システム
			6 情報化とネットワーク インターネットの衝撃
			7 ---経済・経営情報探索術---
			8 技術革新と新しい国際分業
			9 日本企業の海外進出
			10 日本企業の海外進出
			11 情報化とグローバリゼーション
			12 日本的経営論の革新
評	出席と小レポートおよび定期試験		
参	東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学』 有斐閣		

98科目名	経営学	担当者	高松和幸
-------	-----	-----	------

01科目名	経営学a	担当者	高松和幸
-------	------	-----	------

03科目名	経営学a	担当者	高松和幸
-------	------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>この講義は、経営学の入門講座としての性格をもつ。すなわち、経営学科で学ぶ専門科目の基礎として、経営学の基本的な考え方、経営学でとりあげられる諸問題についてのトピックを講義する。この講義をつうじて、経営学への興味を高めるように努めたい。</p> <p>春期・秋期交代による授業のため、開講初日に講義レジメを配布してガイダンスをする。概ね右の年間授業内容に従う。</p>	授業計画	1ベンチャー起業について…ここでは企業創業のプロセスについて学ぶ。	
	評価方法		期末定期試験・平常授業の課題・出席など	2現代企業について…ここではアメリカの石油産業を支配の歴史をみる。
			テキスト参考文庫	最初の授業で指示する
			4新事業の創出について…新事業の創造は現代企業の宿命である。	
			5競争戦略について…ここでは「競争戦略」について、具体例を通じて説明する。	
			6M&Aについて…企業は外部資源を利用することで、内部資源の不足を補うことができる。	
			7日本的経営について…終身雇用・年功序列などによる日本的経営の転換など。	
			8寡占について…経済学では、市場に複雑だが少数の売り手が存在するとき、それを寡占と呼ぶ。	
			9よい会社とは何か…それぞれの会社はそうなりたいと願う「良い会社」のイメージがある。	
			10製品開発について…「ポケットモンスター」について社会問題まで巻き起こした。	
			11ネットワーク組織について…企業が、市場に柔軟に対応できる組織が求められる。	
			12会社は誰のものか…ここでは現代企業の行動とそのコントロールについて考える。	

01科目名	経営学b	担当者	高松和幸
-------	------	-----	------

03科目名	経営学b	担当者	高松和幸
-------	------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>この講義は、経営学の入門講座としての性格をもつ。すなわち、経営学科で学ぶ専門科目の基礎として、経営学の基本的な考え方、経営学でとりあげられる諸問題についてのトピックを講義する。この講義をつうじて、経営学への興味を高めるように努めたい。</p> <p>春期・秋期交代による授業のため、開講初日に講義レジメを配布してガイダンスをする。概ね右の年間授業内容に従う。</p>	授業計画	1春期に同じ	
	評価方法		期末定期試験・平常授業の課題・出席など	2
			テキスト参考文庫	最初の授業で指示する
			4	
			5	
			6	
			7	
			8	
			9	
			10	
			11	
			12	

9 8 科目名	経営学	担当者	富田忠義
---------	-----	-----	------

0 1 科目名	経営学 a	担当者	富田忠義
---------	-------	-----	------

0 3 科目名	経営学 a	担当者	富田忠義
---------	-------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>企業、経営、管理をキーワードとして取り上げて、実践学としての現代経営学について概説する。はじめて経営学を学ぶ受講生を前提にして、最新の内容と入門的易しさを両立させたいと考えている。本講義は、「経営学入門の入門」である。</p> <p>ここでは現代企業とその経営の解明を、現代経営学の最新の研究成果の紹介を通して行う。まず経営学の研究対象と研究方法について概説し、この学問が企業の経営と管理を実践学的方法で研究するものであることを明らかにする。次に企業についてその種類や性格、他の企業との関係の仕方について概説する。最後に、現代企業についてその目的や理念、戦略を、激動する企業環境と関連させて概説して、全体として、現実の企業行動を専門的に理解するための経営学的見方を教授する。</p>	授業計画	1 前期授業計画の概要
			2 経営と管理
			3 機能と機関
			4 企業形態
			5 株式会社
			6 企業間関係
			7 企業集団
			8 経営理念
			9 経営社会責任
			10 経営環境
評価方法	期末試験の結果と、授業出席状況による		11 経営戦略
テキスト参考文献	河野重榮『マネジメント要論』八千代出版		12 前期授業のまとめ

0 1 科目名	経営学 b	担当者	富田忠義
0 3 科目名	経営学 b	担当者	富田忠義

講義目的および講義概要	<p>企業、経営、管理をキーワードとして取り上げて、実践学としての現代経営学について概説する。はじめて経営学を学ぶ受講生を前提にして、最新の内容と入門的易しさを両立させたいと考えている。本講義は、「経営学入門の入門」である。</p> <p>ここでは現代企業とその経営の解明を、現代経営学の最新の研究成果の紹介を通して行う。まず経営学の研究対象と研究方法について概説し、この学問が企業の経営と管理を実践学的方法で研究するものであることを明らかにする。次に企業についてその種類や性格、他の企業との関係の仕方について概説する。最後に、現代企業についてその目的や理念、戦略を、激動する企業環境と関連させて概説して、全体として、現実の企業行動を専門的に理解するための経営学的見方を教授する。</p>	授業計画	1 後期授業計画の概要
			2 経営と管理
			3 機能と機関
			4 企業形態
			5 株式会社
			6 企業間関係
			7 企業集団
			8 経営理念
			9 経営社会責任
			10 経営環境
評価方法	期末試験の結果と、授業出席状況による		11 経営戦略
テキスト	河野重榮『マネジメント要論』八千代出版		12 後期授業のまとめ

98科目名	経営学	担当者	西川純子
-------	-----	-----	------

01科目名	経営学 a	担当者	西川純子
-------	-------	-----	------

03科目名	経営学 a	担当者	西川純子
-------	-------	-----	------

講義目的および講義概要	経営学の入門講座。基礎的な知識を与えながら、学生諸君の経営学への興味をかき立てていくような講義を心掛けたい。歴史的な考証、理論的な整理、現状分析など、いろいろな方法を用いながら、日本的経営のあり方を考察する。	授業計画	1 企業家・資本家・経営者 その1
			2 企業家・資本家・経営者 その2
			3 企業家・資本家・経営者 その3
			4 日本の経営 その1
			5 日本の経営 その2
			6 日本的経営 その1 財閥
			7 日本的経営 その2 企業集団
			8 日本的経営 その3 企業系列
			9 日本的経営の転換 その1
			10 日本的経営の転換 その2
			11 アメリカ的経営
			12 日本の選択
評価方法	筆記試験		
テキスト 参考 文献	特に定めない。		

01科目名	経営学 b	担当者	西川純子
-------	-------	-----	------

03科目名	経営学 b	担当者	西川純子
-------	-------	-----	------

講義目的および講義概要		授業計画	1 企業家・資本家・経営者 その1
			2 企業家・資本家・経営者 その2
			3 企業家・資本家・経営者 その3
			4 日本の経営 その1
			5 日本の経営 その2
			6 日本的経営 その1 財閥
			7 日本的経営 その2 企業集団
			8 日本的経営 その3 企業系列
			9 日本的経営の転換 その1
			10 日本的経営の転換 その2
			11 アメリカ的経営
			12 日本の選択
評価方法			
テキスト			

98科目名	経営学	担当者	細田哲
-------	-----	-----	-----

01科目名	経営学 a	担当者	細田哲
-------	-------	-----	-----

03科目名	経営学 a	担当者	細田哲
-------	-------	-----	-----

講義目的および講義概要	<p><b>講義の目標</b></p> <p>授業計画に示したテーマを題材にして、学生諸君が企業（組織）を考察する場合の次のような基本的事項について理解する。</p> <p>○企業は何を目的としてどのように組織化され、各階層の人々は日々どのような意思決定を行ない、活動しているのか。</p> <p>○企業目標の達成度は、資本市場（投資家）から厳しく評価されている。どのような方法により、企業評価がなされるべきか。</p> <p>○企業は、企業目標達成のため、他企業との競争下、日々革新を迫られている。革新の手法には、どのような方法が存在するのか。</p> <p><b>講義概要</b></p> <p>授業計画を参照のこと。各テーマについて概説する。なお、学生諸君には適宜レポート作成をもとめる。</p>	<p><b>前期授業計画 (後期同一)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに。</li> <li>2. 企業とは。株式会社とは。</li> <li>3. 企業と資本市場。</li> <li>4. 企業の利害関係者とコーポレート・ガバナンス。</li> <li>5. 企業の投資意思決定。</li> <li>6. 企業の資金調達意思決定。</li> <li>7. 企業の財務リスク管理。</li> <li>8. 企業の財務報告。</li> <li>9. 企業評価 (1)。</li> <li>10. 企業評価 (2)。</li> <li>11. 企業組織再編の手法、事業内容、財務のリストラクチャリング。</li> <li>12. 日本企業の経営課題。</li> </ol>
	<p><b>評価方法</b></p> <p>前後期ともに期末試験の結果、出席状況、レポートの内容を総合的に評価する。</p>	
	<p><b>テキスト参考文献</b></p> <p>井手正介、高橋文郎「ゼミナール経営財務入門」(日経)。重要な文献については、適宜、コピーを配布する。</p>	

01科目名	経営学 b	担当者	細田哲
03科目名	経営学 b	担当者	細田哲

講義目的および講義概要	授業計画	1
		2
		3
		4
		5
		6
		7
		8
		9
		10
		11
		12



9 8 科目名	簿記原理	担当者	井出健二郎
---------	------	-----	-------

0 1 科目名	簿記原理 a	担当者	井出健二郎
---------	--------	-----	-------

0 3 科目名	簿記原理 a	担当者	井出健二郎
---------	--------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>社会や企業をどう見るかは様々です。一つには、おカネという切り口があるはずですが。簿記は、そのおカネの切り口のもとになる勉強なのです。会社が黒字だ・赤字だと聞くでしょう。それは、簿記からできた情報なのです。</p> <p>また、就職などで社会に出ることになったとき、皆さんの味方になるものは「資格」があります。ここでも簿記は皆さんの強い味方になります。商工会議所の簿記検定、税理士、公認会計士、国税専門官、そして海外志向など。</p> <p>講義は全くの初心者の方を対象としています。大学に入ってから簿記を勉強する方、他学部で一つくらいは就職に役立つ資格でも、と考えている方などです。</p> <p>また、新聞や雑誌を通じてビジネス・経営に関係する内容も取り上げていきます。</p>	年間授業計画	1 講義を進めるにあたってのイントロダクション
			2 簿記とは
			3 簿記手続① 仕訳
			4 簿記手続② 仕訳
			5 簿記手続③ 転記
			6 簿記手続④ 試算表
			7 簿記手続⑤ 貸借対照表
			8 簿記手続⑥ 損益計算書
			9 簿記手続⑦ 精算表
			10 個別の処理 現金預金
			11 個別の処理 商品売買
			12 まとめ
評価方法	出席 50% 試験 40% その他 10%		
テキスト参考文献	開講時に指示します		

0 1 科目名	簿記原理 b	担当者	井出健二郎
---------	--------	-----	-------

0 3 科目名	簿記原理 b	担当者	井出健二郎
---------	--------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>簿記原理 a を受講された方を前提としていきます。</p> <p>簿記は資格につながる科目であると説明しました。本講義で目標とできる資格は日本商工会議所簿記検定 3 級の試験です。</p> <p>そこで、その目標に近づくための講義を心がけていきます。したがって、多少なりとも試験対策的な内容も取り混ぜていきます。</p> <p>したがって、皆さんにも電卓を使って実際に問題を解いてもらうこと、など実践的な講義となる予定です。</p> <p>また、簿記をはじめとして会計学関連科目は 2 年生以降多くの講義があります。それらに関心をもってもらえるようにも配慮していきます。</p>	年間授業計画	1 講義前のイントロダクション
			2 個別の処理 掛取引
			3 個別の処理 有価証券
			4 個別の処理 貸倒れ
			5 個別の処理 固定資産
			6 個別の処理 手形
			7 個別の処理 減価償却
			8 個別の処理のまとめ
			9 試験対策①
			10 試験対策②
			11 試験対策④
			12 これまでのまとめ
評価方法	出席 50% 試験 40% その他 10%		
テキスト参考文献	開講時に指示します		

98科目名	簿記原理	担当者	内倉滋
01科目名	簿記原理 a	担当者	内倉滋
03科目名	簿記原理 a	担当者	内倉滋

講義目的および講義概要	<p>企業会計は、しばしば「事業の言語」であると言われる。言葉にはすべて文法があるように、企業会計という1つの言語にも「文法」に相当するものがある。「簿記原理」という科目は、いわば、その企業会計の「文法」に相当するものの基本的部分を純粹に形式的に解明していく分野であるといえよう。</p> <p>会計という言語は、今日では1つの世界共通語である。それゆえその「文法」に相当するものの中身もまた、基本的には共通的なものであるといえよう。本講義では、そうした共通的な中身のうちの、とりわけ最大公約数の部分だけを、丹念に議論していきたいと考えている。そのうち「簿記原理 a」では、決算整理を含まない、「分記法」を前提とした「簿記一巡の手続き」までの内容を取り扱うこととなる。</p>	授業計画	1 企業の財政状態と貸借対照表……簿記の目的；資本；貸借対照表の内容
	2 企業の経営成績と損益計算書……簿記の第2目的の達成方法；損益計算書等式（損益計算書）		
	3 取引と取引の分解……期首 B/S と「取引」記録からの B/S・P/L の作成；「取引」記録のルール		
評価方法	小テスト等も実施するが、評価の中心は期末試験の結果である。その際には、相対評価を基本とし、絶対評価を加味したい。	4 仕訳帳と総勘定元帳その1：「仕訳」……仕訳とは；設例による説明	
テキスト参考文献	中村泰將 編著、『講座現代簿記』（中央経済社）	5 その2：「勘定口座」……その必要性；勘定口座の形式；勘定口座への記入ルール	
		6 その3：「仕訳帳と元帳」……仕訳帳；元帳（形式、「仕丁」欄、「摘要」欄、「相手勘定科目」）	
		7 試算表と精算表その1：「試算表」……決算について；合計試算表；残高試算表；合計残高試算表	
		8 試算表と精算表その2：「精算表」……仮設例の提示（次回と共通）；精算表の原理	
		9 「勘定の振替え」という技法について……定義；具体例による説明	
		10 決算手続その1：純損益の振替……決算の第1の目的（＝資本金勘定を正しい値に修正）	
		11 決算手続その2：帳簿の締切りと繰越試算表……財務諸表の作成を含む	
		12 総復習……同形式の問題により、期末試験の予行演習	

01科目名	簿記原理 b	担当者	内倉滋
03科目名	簿記原理 b	担当者	内倉滋

講義目的および講義概要	<p>「簿記原理 a」の知識を前提として「簿記原理 b」では、「商品3分法」や各種の「決算整理」といったディテールを内容的に付け加えていき、「会計言語」の文法の中身を、より実際の会計実践に近い形のものに深化させていくことしたい。</p>	授業計画	1 現金と預金・有価証券……当座借越・有価証券の評価の問題を含む
	2 商品の3分法その1……設例の提示；“修正された”分記法；3分法		
	3 商品の3分法その2……値引・返品処理；諸経費の処理		
評価方法	「簿記原理 a」と同様	4 仕入と売上の記帳その1……帳簿の種類；仕入帳・売上帳；掛け売買の記帳（貸倒れの問題含む）	
テキスト参考文献	中村泰將 編著、『講座現代簿記』（中央経済社）	5 仕入と売上の記帳その2：商品有高帳……その必要性・位置付け；移動平均法と先入先出法	
		6 貸倒引当金繰入と貸倒引当金……貸倒れの見越しの意義；原理；償却債権の取立て	
		7 受取手形と支払手形……手形の種類；簿記上の勘定と処理；手形の裏書譲渡；手形記入帳	
		8 有形固定資産……固定資産の記帳；減価償却（意義、毎期の減価償却費、売却時の処理）	
		9 その他の債権債務・資本金と引出金……その他の債権・債務の処理；個人企業の資本の記帳	
		10 収益・費用の見越しと繰延べ……設例の提示；収益・費用の繰延べ；収益・費用の見越し	
		11 決算整理項目と決算整理仕訳・振替仕訳……8桁精算表の作成を含む	
		12 総復習……同形式の問題により、期末試験の予行演習	

98科目名	簿記原理	担当者	香取徹
-------	------	-----	-----

01科目名	簿記原理 a	担当者	香取徹
-------	--------	-----	-----

03科目名	簿記原理 a	担当者	香取徹
-------	--------	-----	-----

講義目的および講義概要	<p>簿記は必ず身に付けておかなければならない基本的な技術です。どのような職業についても簿記の知識は実社会で不可欠ですから、全学の学生が履修する必要があります。この講義では、日本商工会議所簿記検定3級の範囲を完全に網羅します。また、会計学原理、財務会計論、原価計算論、管理会計論などの会計に関連する科目を学ぶ上でとても重要な基礎になります。</p> <p>簿記は決して難しいものではありませんが、技術ですから、身につけるためには、練習が必要です。そのため、毎回の講義では、一つずつ項目を説明し例題の解説をしてから講義に合せてプリントを配布して練習します。講義中に練習しながら質問を受けていきますし、プリントでも意見や質問を書いて下さい。また、ワークブックも自宅での練習に利用してください。</p>	授業計画	1 Chapter1 I 簿記の世界へようこそ
			2 Chapter1 II 貸借対照表 III 損益計算書
			3 Chapter2 日常の手続き I 簿記上の取引 II 仕訳
			4 Chapter2 III 勘定と転記
			5 Chapter3 決算の手続き(1) I 決算とは II 試算表
			6 Chapter3 III 6 桁精算表 IV 決算振替記入と帳簿の締め切り
			7 Chapter4 商品売買 I 三分法 II 掛取引
			8 Chapter4 III 返品と値引 IV 商品売買の諸費用
			9 Chapter5 現金と預金 I 現金 II 現金過不足
			10 Chapter5 III 当座預金 IV 当座借越 V 小口現金
			11 Chapter6 手形 I 約束手形 II 為替手形
			12 Chapter6 III 手形の割引 IV 手形の裏書譲渡
			評価方法
テキスト参考文献	TAC 出版『とおるテキスト日商簿記3級』『とおるゼミ日商簿記3級』		

01科目名	簿記原理 b	担当者	香取徹
-------	--------	-----	-----

03科目名	簿記原理 b	担当者	香取徹
-------	--------	-----	-----

講義目的および講義概要	<p>簿記は必ず身に付けておかなければならない基本的な技術です。どのような職業についても簿記の知識は実社会で不可欠ですから、全学の学生が履修する必要があります。この講義では、日本商工会議所簿記検定3級の範囲を完全に網羅します。また、会計学原理、財務会計論、原価計算論、管理会計論などの会計に関連する科目を学ぶ上でとても重要な基礎になります。</p> <p>簿記は決して難しいものではありませんが、技術ですから、身につけるためには、練習が必要です。そのため、毎回の講義では、一つずつ項目を説明し例題の解説をしてから講義に合せてプリントを配布して練習します。講義中に練習しながら質問を受けていきますし、プリントでも意見や質問を書いて下さい。また、ワークブックは自宅での練習に利用してください。簿記原理 a を履修した人、またはその程度の知識のある人を対象。</p>	授業計画	1 Chapter7 その他の債権債務
			2 Chapter8 有価証券・有形固定資産 I 有価証券
			3 Chapter8 II 有形固定資産
			4 Chapter9 決算の手続(2) I 決算整理記入 II 売上原価の計算
			5 Chapter9 III 貸倒の見積り IV 消耗品費の処理
			6 Chapter9 V 収益・費用の繰延 VI 収益・費用の見越
			7 Chapter10 精算表・財務諸表 I 精算表
			8 Chapter10 II 損益計算書と貸借対照表
			9 Chapter13 日商の3級型の精算表
			10 Chapter11 帳簿(1) I 仕訳帳と元帳 II 手形記入帳 III 売上帳と仕入帳
			11 Chapter11 IV 商品有高帳 V 仕入先元帳と得意先元帳
			12 Chapter12 帳簿(2) I 3 伝票制 II 5 伝票制
			評価方法
テキスト参考文献	TAC 出版『とおるテキスト日商簿記3級』『とおるゼミ日商簿記3級』		

98科目名	簿記原理	担当者	金井繁雅
-------	------	-----	------

01科目名	簿記原理 a	担当者	金井繁雅
-------	--------	-----	------

03科目名	簿記原理 a	担当者	金井繁雅
-------	--------	-----	------

講義目的および講義概要	<p><b>講義の目標</b></p> <p>複式簿記の計算原理を探究することに主眼を置き、商企業の経済活動つまり取引を正確に記録・計算・整理する能力を身につけることを目的とする。この科目は、会計学原理、財務会計論、原価計算論、経営分析論、上級簿記など会計系統の諸科目の基礎講座として機能するので、会計学の理解にとって不可欠である。</p> <p><b>講義概要</b></p> <p>複式簿記の原理およびその計算構造を学び、複式簿記の一連の手続を習得し、商企業の日常取引の記帳処理と決算処理を理解してもらう。つまり、資産、負債、資本、収益および費用という5つの概念とその相互関係、資本等式や貸借対照表等式を解説し、資本をストックとしてとらえて利益を計算する財産法と資本をフローとしてとらえて利益を計算する損益法の計算原理を理解してもらう。更に、簿記の対象である取引を分解し、仕訳帳に記入し、それを総勘定元帳に転記し、決算において、試算表を作成し、その記録の正確性を検証し、精算表を作成し、帳簿決算の手続を経て、財務諸表を作成するという簿記手続の全体像を把握してもらう。</p>	授業計画	1	【簿記の意義と目的】企業社会において、簿記の果たす機能とその目的について概説する。
			2	【資産・負債・資本】簿記の基本概念である資産、負債および資本の意味とそれらの相互関係について説明する。
			3	【収益・費用】収益と費用の概念を明らかにするとともに、その差額である利益について考察する。
		4	【財産法と損益法】利益計算の方法としての財産法と損益法の原理について考える。	
		5	【取引と勘定記入】簿記上の取引と一般的な取引の区別および勘定記入の法則について説明する。	
		6	【仕訳と転記】仕訳の意味、仕訳の方法および仕訳帳について説明すると同時に、元帳への転記の方法を概説する。	
		7	【試算表と精算表】貸借平均の原理、試算表の意義および8桁精算表の構造と作成方法について説明する。	
		8	【帳簿決算手続】主に英米式決算法を解説する。また、決算振替仕訳について十分に練習する。	
		9	【現金・預金】現金と通貨代用証券、現金過不足勘定、小口現金、当座預金と当座借越について学ぶ。	
		10	【有価証券】有価証券の購入と売却および評価替えについての記帳を解説する。	
		11	【商品勘定の3分法】分記法と3分法の相違および3分法での決算整理について説明する。	
		12	【仕入帳と売上帳】商品の仕入と売上についての明細を記録する補助簿について学ぶ。	
評価方法	定期試験および出席率を加味して総合的に成績評価を行う。			
テキスト参考文献	中村泰将編著「講座現代簿記」中央経済社			

01科目名	簿記原理 b	担当者	金井繁雅
-------	--------	-----	------

03科目名	簿記原理 b	担当者	金井繁雅
-------	--------	-----	------

講義目的および講義概要	<p><b>講義の目標</b></p> <p>複式簿記の計算原理を探究することに主眼を置き、商企業の経済活動つまり取引を正確に記録・計算・整理する能力を身につけることを目的とする。この科目は、会計学原理、財務会計論、原価計算論、経営分析論、上級簿記など会計系統の諸科目の基礎講座として機能するので、会計学の理解にとって不可欠である。</p> <p><b>講義概要</b></p> <p>複式簿記の原理およびその計算構造を学び、複式簿記の一連の手続を習得し、商企業の日常取引の記帳処理と決算処理を理解してもらう。つまり、資産、負債、資本、収益および費用という5つの概念とその相互関係、資本等式や貸借対照表等式を解説し、資本をストックとしてとらえて利益を計算する財産法と資本をフローとしてとらえて利益を計算する損益法の計算原理を理解してもらう。更に、簿記の対象である取引を分解し、仕訳帳に記入し、それを総勘定元帳に転記し、決算において、試算表を作成し、その記録の正確性を検証し、精算表を作成し、帳簿決算の手続を経て、財務諸表を作成するという簿記手続の全体像を把握してもらう。</p>	授業計画	1	【商品有高帳】商品有高帳の作成方法、つまり先入先出法や移動平均法等を理解する。
			2	【得意先元帳と仕入先元帳】売掛金勘定と得意先元帳の関係および買掛金勘定と仕入先元帳の関係について考える。
			3	【手形取引の記帳】約束手形と為替手形の意味と手形取引の仕訳を学ぶ。また手形の裏書や割引にも触れる。
		4	【その他の債権・債務】前払金と前受金、立替金と預り金、仮払金と仮受金などを学ぶ。	
		5	【貸倒れと貸倒引当金】貸倒れの意味と貸倒引当金の設定（差額補充法）について学ぶ。	
		6	【固定資産と減価償却】固定資産と減価償却の意味および定額法による減価償却の処理について説明する。	
		7	【資本金と引出金】個人企業における資本金勘定と引出金勘定について概説する。	
		8	【収益・費用の繰延】損益の期末整理として、前受収益と前払費用の処理について学ぶ。	
		9	【収益・費用の見越】損益の期末整理として、未収収益と未払費用の処理について学ぶ。	
		10	【試算表の作成】試算表の作成に関する問題を練習する。	
		11	【8桁精算表】8桁精算表の作成に関する問題を練習する。	
		12	【財務諸表の作成】財務諸表の作成について総合的に考察する。	
評価方法	定期試験および出席率を加味して総合的に成績評価を行う。			
テキスト参考文献	中村泰将編著「講座現代簿記」中央経済社			

98科目名	簿記原理	担当者	千葉啓司
-------	------	-----	------

01科目名	簿記原理 a	担当者	千葉啓司
-------	--------	-----	------

03科目名	簿記原理 a	担当者	千葉啓司
-------	--------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>講義の目標</p> <p>簿記は、企業が行う経済活動を記録する手段であり、最終的に企業が一年間の活動の結果、どれだけ利益を上げたか、またいかなる財政状態にあるかを計算し、表示する為の基礎資料を提供する。簿記が企業のどのような経済活動を記録の対象としているか、そしてどのように記録するのか。これには一定の規則があり、この規則は簿記をコンピュータ化する時にも非常に役に立っている。これらの規則のうち基本的なものを習得することが本講義の目標である。</p> <p>講義概要</p> <p>まず、現在企業において広く使われている簿記の全体的な仕組み、体系について解説を加える。つぎに取引の記録の目的および基本原則、取引記録の集計および決算の意味を概説する。そして企業が行う一般的な取引の内現金・預金に関する取引および商品売買に関する取引を取り上げ、その取引の仕組みと簿記における記録の仕方について説明する。</p> <p>各回講義を行った後、その講義に対する理解を深めるために練習問題を課す。</p>	授業計画	1 簿記の意義、役割、体系
			2 簿記における記録の対象と記録方法（仕訳と勘定）
			3 仕訳と勘定（詳説）
			4 記録の集計
			5 決算の意味と方法
			6 勘定の体系
			7 現金・預金の取引とその記録 1 現金と現金出納帳
			8 現金・預金の取引とその記録 2 小切手と当座預金、当座借越
			9 商品売買取引とその記録 1 分記法、総記法、三分法、掛取引
			10 商品売買取引とその記録 2 仕入帳、商品有高帳
11 商品売買取引とその記録 3 売上原価の算定			
12 まとめ			
評価方法	ほぼ毎回行う予定の練習問題、出席状況と期末試験によって成績を総合的に評価する。		
テキスト参考文献	百瀬房徳著『体系複式簿記』森山書店 加古宜士監修『段階式日商簿記ワークブック 3級商業簿記』 税務経理協会 穂山幹夫		

01科目名	簿記原理 b	担当者	千葉啓司
-------	--------	-----	------

03科目名	簿記原理 b	担当者	千葉啓司
-------	--------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>講義の目標</p> <p>本講義の目的は2つある。1つめは、簿記原理 a の知識を前提に、より多くの企業の取引及びその記録方法を習得することである。これらを習得することで、簿記の記録の規則をより正確に理解することができるようになる。</p> <p>2つめは、簿記の最終的な目的とも言える決算について学習することである。決算についての正しい理解を得て初めて簿記の体系を理解することができる。</p> <p>講義概要</p> <p>まず、簿記原理 a の知識を呼び戻すべく、復習の講義をする。次に簿記の基本を理解するために不可欠と言える各種の取引の記録方法について解説を加える。その後、決算の意義、手続きについて詳細な説明を行っていくことにする。</p> <p>簿記原理 a 同様、各回講義を行った後、その講義に対する理解を深めるために練習問題を課す。</p>	授業計画	1 簿記原理 a の復習
			2 手形取引とその記録 1 約束手形と為替手形
			3 手形取引とその記録 2 手形の裏書と売却
			4 その他の債権・債務取引とその記録 1 前払金・前受金、未収金・未払金、商品券、貸付金・借入金
			5 その他の債権・債務取引とその記録 2 立替金・預り金、仮払金・仮受金未決算
			6 引当金 引当金の意義・種類、貸倒引当金、退職給付引当金
			7 有価証券の取引とその記録 有価証券の分類、取得、売却、評価
			8 固定資産の取引とその記録 固定資産の取得、減価償却
			9 資本取引とその記録 個人事業の資本、株式会社の資本
			10 決算 1 決算整理仕訳のまとめ、収益と費用の整理
11 決算 2 試算表・財産目録の作成			
12 決算 3 精算表、貸借対照表、損益計算書の作成			
評価方法	ほぼ毎回行う予定の練習問題、出席状況、期末試験によって成績を総合的に評価する。		
テキスト参考文献	百瀬房徳著『体系複式簿記』森山書店 加古宜士監修『段階式日商簿記ワークブック 3級商業簿記』 税務経理協会 穂山幹夫		

9 8 科目名	簿記原理	担当者	中村泰將
---------	------	-----	------

0 1 科目名	簿記原理 a	担当者	中村泰將
0 3 科目名	簿記原理 a	担当者	中村泰將

講義目的および講義概要	<p>コンピュータの発達により、計算技術は急速に高まり、また正確な計算が可能になった。しかし、経済活動の記録と計算の技術は簿記システムを学ばなければ、コンピュータに経済活動のデータをインプットすることはできない。</p> <p>簿記は、企業の利益を計算したり、財産の状態を計算したりする計算システムである。したがって、この計算構造と原理を学ぶことが本講座の目的である。</p> <p>春学期：簿記は、企業の経済活動を貨幣でもって測定し、富をフローとストックで表示する報告書を作成することであるが、それは一連の生産工程で製品を作るのと同じ原理である。その一連の行為を「ワン・サイクルの学習」と呼ぶが、春学期はそれを学ぶ。</p>	授業計画	1 簿記とは何か	
	評価方法		出席 20%、宿題 10%、試験 70% その他クイズ(小テスト)を加味する。	2 (1)複式簿記の基本等式 (2)複式簿記の基礎概念 (3)複式簿記の5つの基本要素
				3 簿記上の取引の意味と種類
テキスト参考文献	中村泰將編著『講座現代簿記』中央経済社	4 「勘定」とは何か 「勘定」で何をどのように計算するか		
		5 (1)「仕訳」とは何か (2)仕訳取引の8要素 (3)「仕訳」から「勘定」への転記		
		6 第5回までの一連のプロセスを学ぶ 取引→仕訳(帳)→勘定(元帳)		
		7 試算表の作成:(1)試算表とは何か (2)試算表の作成の仕方		
		8 精算表の作成:(1)精算表とは何か (2)試算表→損益計算書と貸借対照表の作成		
		9 決算の方法(I):(1)計算とは何か (2)決算の手続き (3)元帳の締め切り		
		10 同上		
		11 決算の方法(II):(1)費用収益勘定の締め切り (2)当期純利益を資本金勘定に振り (3)資産・負債・資本の各勘定の締め切り		
		12 同上		

0 1 科目名	簿記原理 b	担当者	中村泰將
0 3 科目名	簿記原理 b	担当者	中村泰將

講義目的および講義概要	秋学期：後期は前期よりも経済活動が複雑になるだけであって、その記録と計算の原理は同じである。	授業計画	1 現金と預金 (1) 現金出納帳の作成 (2) 小口現金出納帳
			2~4 商品の仕入・管理・販売の処理 (1) 商品の売買利益の算定方法 (2) 商品の3分割 (3) 商品有高帳の作成 (4) 仕入帳と売上帳の作成
			5 有価証券の購入・保有・売買の処理
評価方法	中村泰將編著『講座現代簿記』中央経済社		6 固定資産の購入・利用・修繕・処分処理
			7 手形の取引 (1) 受取手形の処理 (2) 支払手形の処理
テキスト参考文献	出席 20%、宿題 10%、定期試験 70% クイズ(小テスト)も加味する。		8 その他の債権・債務
			9 資本金の処理 (1) 引出金の処理
			10 決算の修正手続(I) (1) 収益と費用の繰延 (2) 前払費用と前受収益
			11 決算の修正手続(II) (1) 収益と費用の見越し (2) 未収収益と未払費用
			12 決算の修正手続(III) (1) 収益・費用勘定を資本金勘定に振替える (2) 当期純利益を資本金勘定に振替える (3) 資産・負債・資本の各勘定を締切る

98科目名	簿記原理	担当者	細田哲
-------	------	-----	-----

01科目名	簿記原理 a	担当者	細田哲
-------	--------	-----	-----

03科目名	簿記原理 a	担当者	細田哲
-------	--------	-----	-----

講義目的および講義概要	<p>講義の目標</p> <p>「複式簿記」の基本的仕組み、簿記一巡の手続について理解すること。また企業における基本的な取引について記帳し、決算手続を遂行し、損益計算書、貸借対照表作成ができるようになることを目標とする。</p> <p>講義概要</p> <p>前期講義は、学生諸君が複式簿記を理解し、簡単な精算表の作成、決算本手続を遂行できるようにすることを目的とする。講義の個々のテーマを列挙すると、次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複式簿記とは</li> <li>・簿記の仕組み</li> <li>・試算表と精算表</li> <li>・決算 (I)</li> </ul>	授業計画	1. 1. 複式簿記とは (1)
			a) 簿記の目的と種類
			2. 1. 複式簿記とは (2)
	b) 簿記の要素		
	3. 2. 簿記の仕組み (1)		
	a) 取引と勘定、b) 勘定記入法		
	4. 2. 簿記の仕組み (2)		
	a) 取引と勘定、b) 勘定記入法		
	5. 2. 簿記の仕組み (3)		
	c) 仕訳と転記、d) 仕訳帳と総勘定元帳		
	6. 2. 簿記の仕組み (4)		
	c) 仕訳と転記、d) 仕訳帳と総勘定元帳		
	7. 3. 試算表と精算表 (1)		
	a) 試算表の作成、b) 精算表の作成		
	8. 3. 試算表と精算表 (2)		
	a) 試算表の作成、b) 精算表の作成		
	9. 4. 決算 (I) (1)		
	a) 決算の意味と手続		
	10. 4. 決算 (I) (2)		
	b) 大陸式決算法、c) 英米式決算法		
	11. 4. 決算 (I) (3)		
	b) 大陸式決算法、c) 英米式決算法		
	12. 4. 決算 (I) (4)		
	d) 損益計算書と貸借対照表の作成、e) 開始記入		
評価方法	前後期ともに、期末試験の結果による。		
テキスト参考文献	中村泰将 (編著)「講座 現代簿記」(中央経済社)		

01科目名	簿記原理 b	担当者	細田哲
-------	--------	-----	-----

03科目名	簿記原理 b	担当者	細田哲
-------	--------	-----	-----

講義目的および講義概要	<p>後期講義は、学生諸君が次の事項を容易に遂行できるようにすることを目的とする。個々の取引に対する記帳、8桁精算表の作成、決算本手続の遂行、損益計算書と貸借対照表の作成である。講義の個々のテーマを列挙すると、次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現金・預金取引の記帳</li> <li>・商品売買取引の記帳</li> <li>・手形取引の記帳</li> <li>・その他の取引の記帳</li> <li>・決算 (II) 決算整理</li> <li>・損益計算書と貸借対照表の作成</li> </ul>	授業計画	1 5. 現金・預金取引の記帳
			2 6. 商品売買取引の記帳 (1)
			a) 分記法、3分法
	3 6. 商品売買取引の記帳 (2)		
	b) 仕入帳と売上帳、c) 商品有高帳		
	4 6. 商品売買取引の記帳 (3)		
	b) 仕入帳と売上帳、c) 商品有高帳 d) 掛取引の記帳		
	5 7. 手形取引の記帳 (1) a) 約束手形と為替手形、		
	b) 受取手形勘定と支払手形勘定、c) 手形の裏書と割引		
	6 7. 手形取引の記帳 (2) d) 受取手形記入帳と支払手形記入帳、		
	e) 不渡手形、f) 手形貸付金と手形借入金		
	7 8. その他の取引の記帳 a) その他の債権、債務取引、		
	b) 有価証券取引、c) 固定資産取引、d) 営業費等の取引		
	8 9. 決算 (II) 決算整理 (1)		
	a) 決算整理の意味、b) 棚卸減耗損および商品評価損		
	9 9. 決算 (II) 決算整理 (2)		
	c) 有価証券評価損額、d) 固定資産の減価償却		
	10 9. 決算 (II) 決算整理 (3)		
	e) 費用・収益の繰延べと見越し、f) 8桁精算表の作成		
	11 9. 決算 (II) 決算整理 (4)		
	e) 費用・収益の繰延べと見越し、f) 8桁精算表の作成		
	12 損益計算書と貸借対照表の作成		
評価方法			
テキスト参考文献			

98科目名	簿記原理	担当者	百瀬房徳
01科目名	簿記原理 a	担当者	百瀬房徳
03科目名	簿記原理 a	担当者	百瀬房徳

講義目的および講義概要	簿記原理では複記構造を内包した商業簿記を取り上げる。この簿記を商業簿記と称する。複式簿記は取引の借方と貸方による仕訳に基づき、勘定に分解し、元帳における勘定システムを通じて、事業の資産、負債および資本の増・減を測定する。この勘定システムと事業体の組織に関連して、各勘定の意義および機能と各勘定の具体的な処理について基本的な理解を深める。	授業計画	1 複式簿記の現代における意義
			2 複式簿記の体系および簿記における取引とは何か
			3 仕訳の基本原則および取引勘定への転記
			4 補助簿への記入および試算表の作成
			5 精算表の作成原理および損益勘定と残高勘定への転記
			6 取引パターン別の仕訳例の説明
			7 パターン別に仕訳された例の勘定への転記
			8 例題による取引の仕訳および勘定への転記
			9 例題による精算表の作成および決算に際しての損益勘定および残高勘定の完成
			10 練習問題・・・取引の仕訳帳記入および仕訳帳から元帳への転記
			11 練習問題・・・試算表の作成および精算表の作成
			12 練習問題・・・元帳の締切による損益勘定および残高勘定の完成
評価方法	テスト		
テキスト参考文献	百瀬房徳『体系複式簿記』森山書店		

01科目名	簿記原理 b	担当者	百瀬房徳
03科目名	簿記原理 b	担当者	百瀬房徳

講義目的および講義概要	複式簿記の基本的勘定システムを理解した後、各の勘定について、勘定とそれに関連する補助簿の記入を具体的に理解する。そして、最終的に決算制度に関連して、試算表および精算表の作成を通じて、損益勘定から損益計算書を、残高勘定（大陸法）から貸借対照表を作成するプロセスを理解する。	授業計画	1 現金勘定と現金出納帳
			2 当座預金と当座預金出納帳、および小口現金と小口現金出納帳
			3 商品勘定の記入方法・・・単純な商品勘定、混合商品勘定および商品勘定の分割
			4 仕入勘定と売上帳、商品の仕入価格および商品の返品と値引
			5 仕入勘定と仕入帳、および売上勘定と売上帳
			6 繰越商品勘定と商品有高帳、および棚卸減耗損および商品評価損
			7 売掛金勘定と得意先元帳、および買掛金勘定と仕入先元帳
			8 受取手形勘定と受取手形記入帳、および支払手形勘定と支払手形記入帳
			9 その他債権・債務の諸勘定、有価証券勘定
			10 固定資産の諸勘定・・・特に減価償却に関する処理
			11 決算前の諸勘定の整理について
			12 決算・・・勘定の締切、損益勘定および残高勘定（大陸法）の完成、および8桁精算表の作成
評価方法	テスト		
テキスト参考文献	百瀬房徳『体系複式簿記』森山書店		



98科目名	簿記原理	担当者	湯田雅夫
-------	------	-----	------

01科目名	簿記原理 a	担当者	湯田雅夫
-------	--------	-----	------

03科目名	簿記原理 a	担当者	湯田雅夫
-------	--------	-----	------

講義目的および講義概要	講義の目標 本講義は、受講生全員が日本商工会議所検定3級の実力を修得するよう、初級簿記の原理と技法を解説する。 講義概要 複式簿記の基本原則と技法を完全に修得させることを主眼として、講義と記帳・計算練習を並行して行う。 受講生は、授業の進捗度に応じて教科書の練習問題について記帳練習を重ねる必要がある。	授業計画	1	イントロダクション：講義概要、授業の進め方
	2		簿記の歴史	
	3		第1章簿記の意義と目的；第2章資産・負債・資本と貸借対照表	
	4		第2章東京商会の事例解説；第3章収益・費用と損益計算書	
	5		第4章取引；第5章勘定	
	6		第6章仕訳と転記	
	7		第7章帳簿	
	8		第8章簿記一巡の手続き	
	9		第9章現金預金	
	10		第10章商品売買	
	11		第10章商品売買	
	12		第11章有価証券；第12章売掛金と買掛金	
評価方法	期末試験と授業中に行う小テスト、出席状況から総合的に評価する。			
テキスト参考文献	上田・小川・渋谷・湯田『演習商業簿記入門』中央経済社			

01科目名	簿記原理 b	担当者	湯田雅夫
-------	--------	-----	------

03科目名	簿記原理 b	担当者	湯田雅夫
-------	--------	-----	------

講義目的および講義概要	講義の目標 本講義は、受講生全員が日本商工会議所検定3級の実力を修得するよう、初級簿記の原理と技法を解説する。 講義概要 複式簿記の基本原則と技法を完全に修得させることを主眼として、講義と記帳・計算練習を並行して行う。 受講生は、授業の進捗度に応じて教科書の練習問題について記帳練習を重ねる必要がある。	授業計画	1	第13章その他の債権・債務
	2		第14章手形	
	3		第15章貸倒れと貸倒引当金	
	4		第16章固定資産；第17章資本金と引出金	
	5		第18章収益・費用の繰延と見越	
	6		第19章決算予備手続	
	7		第19章決算予備手続	
	8		第19章例題解説	
	9		第20章決算本手続	
	10		第21章財務諸表の作成	
	11		総合問題	
	12		本講義の結びとして、「簿記学習の継続」の必要性を指摘。	
評価方法	期末試験と授業中に行う小テスト、出席状況から総合的に評価する。			
テキスト参考文献	上田・小川・渋谷・湯田『演習商業簿記入門』中央経済社			

98科目名	ドイツ語 I A	担当者	各担当教員
-------	----------	-----	-------

01科目名	ドイツ語 I A	担当者	各担当教員
-------	----------	-----	-------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>目標：2年間でドイツ語検定4級の取得を目指します。</p> <p>概要：ドイツ語の旅行会話を中心に、実践的なドイツ語の習得を目指します。テキストはビデオを中心に作られていますので、会話を通じてドイツ語の基礎を学びます。各課で必要な文法事項は副教材を利用して学びますので、読んだり書いたりする力の養成にもなります。</p> <p>春学期ははじめて学ぶドイツ語ですので、ドイツ語とドイツ語圏のイントロダクションを中心に比較的ゆっくりと授業を進めていきます。</p> <p>テキストは第1回目の授業でプリントを配布しますので、受講希望者はA4のファイルを各自必ず用意して下さい。</p> <p>進度については第1回目の授業で説明します。</p>	授業計画	1 ガイダンス
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	期末統一試験、出席、平常点		
テキスト参考文献	Deutsch Plus (プリント配布) 副教材：中島・平尾・朝倉『練習中心 初級ドイツ文法』白水社		

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

98科目名	ドイツ語 I A	担当者	各担当教員
-------	----------	-----	-------

01科目名	ドイツ語 I A	担当者	各担当教員
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>目標：2年間でドイツ語検定4級の取得を目指します。</p> <p>概要：ドイツ語の旅行会話を中心に、実践的なドイツ語の習得を目指します。テキストはビデオを中心に作られていますので、会話を通じてドイツ語の基礎を学びます。各課で必要な文法事項は副教材を利用して学びますので、読んだり書いたりする力の養成にもなります。</p> <p>春学期ははじめて学ぶドイツ語ですので、ドイツ語とドイツ語圏のイントロダクションを中心に比較的ゆっくりと授業を進めていきます。</p> <p>テキストは第1回目の授業でプリントを配布しますので、受講希望者は <u>A4</u> のファイルを各自必ず用意して下さい。</p> <p>進度については第1回目の授業で説明します。</p>	1 ガイダンス
		2
		3
		4
		5
		6
		7
		8
		9
		10
		11
		12
		評価方法
テキスト参考文献	Deutsch Plus (プリント配布) 副教材：中島・平尾・朝倉『練習中心 初級ドイツ文法』白水社	

01科目名		担当者	
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要		1
		2
		3
		4
		5
		6
		7
		8
		9
		10
		11
		12
		評価方法
テキスト参考文献		

98科目名	ドイツ語 I B	担当者	各担当教員
-------	----------	-----	-------

01科目名	ドイツ語 I B	担当者	各担当教員
-------	----------	-----	-------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>目標：1年目でドイツ語検定4級、2年目で3級の取得を目指します。</p> <p>概要：ドイツ語の旅行会話を中心に、1年目は現在中心の日常会話、2年目では過去や未来などより高度な会話を中心に実践的なドイツ語の習得を目指します。テキストはビデオを中心に作られていますので、会話を通じてドイツ語の基礎を学んでいきます。各課で必要な文法事項は副教材を利用して学びますので、読んだり書いたりする力の養成にもなります。</p> <p>ドイツ語 I C との履修となります。</p> <p>テキストは第1回目の授業でプリントを配布しますので、受講希望者は A4 のファイルを各自必ず用意して下さい。</p> <p>進度については第1回目の授業で説明します。</p>	授業計画	1 ガイダンス
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	期末統一試験、出席、平常点		
テキスト参考文献	Deutsch Plus (プリント配布) 副教材：中島・平尾・朝倉『練習中心 初級ドイツ文法』白水社		

01科目名		担当者	
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

98科目名	ドイツ語 I C	担当者	各担当教員
-------	----------	-----	-------

01科目名	ドイツ語 I C	担当者	各担当教員
-------	----------	-----	-------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>目標：1年目でドイツ語検定4級、2年目で3級の取得を目指します。</p> <p>概要：ドイツ語 I B で学んだ事柄をネイティブ教員との練習によってより実践的に身に付けていきます。特に会話力と聞き取り力の養成を目指します。</p> <p>ドイツ語 I B との履修となります。</p> <p>進度については第1回目の授業で説明します。</p>	授業計画	1 ガイダンス
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	期末試験、出席、平常点		
テキスト参考文献	副教材：中島・平尾・朝倉『練習中心 初級ドイツ文法』白水社		

98科目名	フランス語 I A	担当者	各担当教員
-------	-----------	-----	-------

01科目名	フランス語 I A	担当者	各担当教員
-------	-----------	-----	-------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>これは週1回の授業で、2年かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした授業です。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指します。</p> <p>教科書は MOSAIQUES という新しいタイプのものを使用します。</p> <p>前期は ABC から始まって、leçon 5 まで進みます。</p> <p>授業はビデオと MD を使って行います。右におおよその進み方を示しますが、具体的な進度は担当の先生により異なります。</p>	授業計画	1 発音とつづりの読み方 (1)
			2 発音とつづりの読み方 (2)
			3 第1課
4 第1課			
5 第2課			
6 第3課			
7 第3課			
8 第4課			
9 第4課			
10 第5課			
11 第5課			
12 まとめ			
評価方法	担当の各先生により指示されます。		
テキスト参考文献	MOSAIQUES 辞書等は授業の際指示します。		

01科目名		担当者	
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>これは週1回の授業で、2年かけてフランス語の初歩を習得することを目的とした授業です。フランス語を知識として学ぶのではなく、実際に身につけ、簡単な会話ができるようになることを目指します。</p> <p>教科書は MOSAIQUES という新しいタイプのものを使用します。</p> <p>後期は leçon 6 から始まって、leçon 9 か 10 まで進みます。</p> <p>授業はビデオと MD を使って行います。右におおよその進み方を示しますが、具体的な進度は担当の先生により異なります。</p>	授業計画	1 第6課
			2 第6課
			3 第6課
4 第7課			
5 第7課			
6 第7課			
7 第8課			
8 第8課			
9 第8課			
10 第9課			
11 第9課			
12 第9課			
評価方法	担当の各先生により指示されます		
テキスト参考文献	MOSAIQUES		

98科目名	フランス語 I B	担当者	各担当教員
-------	-----------	-----	-------

01科目名	フランス語 I B	担当者	各担当教員
-------	-----------	-----	-------

03科目名		担当者	
		担当者	

講義目的および講義概要	<p>この講座は週2回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的としています。基本文法事項を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。教科書はINITIALvol.1で、フランス人講師とのペアで授業を行います。1Bは日本人、1Cはフランス人講師が担当します。</p> <p>IBではとくに文法と語彙の習得が中心になります。文法や語彙に関する練習を数多く行います。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひとってもらいたい授業です。</p> <p>右の表は目安です。具体的な授業の進行は担当の各先生が指示します。</p>	授業計画	1 発音とつづり字の読み方(1)
			2 発音とつづり字の読み方(2)
			3 Unité1 leçon1
			4 Unité1 leçon2
			5 Unité1 leçon3
			6 Unité1 leçon4
			7 Unité2 leçon5
			8 Unité2 leçon6
			9 Unité2 leçon7
			10 Unité2 leçon8
			11 Unité3 leçon9
			12 Unité3 leçon10
評価方法	担当の各先生が指示します。		
テキスト参考文献	INITIALvol.1		

01科目名		担当者	
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>この講座は週2回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的としています。基本文法事項を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。教科書はINITIALvol.1で、フランス人講師とのペアで授業を行います。1Bは日本人、1Cはフランス人講師が担当します。</p> <p>IBではとくに文法と語彙の習得が中心になります。文法や語彙に関する練習を数多く行います。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひとってもらいたい授業です。</p> <p>実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひとってもらいたい授業です。</p> <p>右の表は目安です。具体的な授業の進行は担当の各先生が指示します。</p>	授業計画	1 Unité3 leçon11
			2 Unité3 leçon12
			3 Unité4 leçon13
			4 Unité 4 leçon14
			5 Unité4 leçon15
			6 Unité4 leçon16
			7 Unité5 leçon17
			8 Unité5 leçon18
			9 Unité5 leçon19
			10 Unité5 leçon20
			11 まとめ(1)
			12 まとめ(2)
評価方法	担当の各先生が指示します。		
テキスト参考文献	INITIALvol.1		

98科目名	フランス語 I C	担当者	各担当教員
-------	-----------	-----	-------

01科目名	フランス語 I C	担当者	各担当教員
-------	-----------	-----	-------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的 および 講義概要	<p>この講座は週2回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的としています。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力をつけることを目指します。</p> <p>フランス語 IB とペアになる授業ですが、この IC はフランス人講師が担当いたします。会話と決まった言い回し (expressions) を中心に学びます。実際に使えるフランス語を身につけたい学生諸君には IB とともにぜひ取っていただきたい授業です。</p> <p>右に進度を示しますが、これは目安であって、実際の進行は先生により異なります。</p>	授業計画	1 発音 (1)
			2 発音 (2)
			3 Unité1 leçon1
4 Unité1 leçon2			
5 Unité1 leçon3			
6 Unité1 leçon4			
7 Unité2 leçon5			
8 Unité2 leçon6			
9 Unité2 leçon7			
10 Unité2 leçon8			
11 Unité3 leçon9			
12 Unité3 leçon10			
評価方法	担当の各先生が指示します。		
テキスト 参考 文献	INITIALvol.1		

01科目名		担当者	
03科目名		担当者	

講義目的 および 講義概要	<p>この講座は週2回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的としています。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力をつけることを目指します。</p> <p>フランス語 IB とペアになる授業ですが、この IC はフランス人講師が担当いたします。会話と決まった言い回し (expressions) を中心に学びます。実際に使えるフランス語を身につけたい学生諸君には IB とともにぜひ取っていただきたい授業です。</p> <p>右に進度を示しますが、これは目安であって、実際の進行は先生により異なります。</p>	授業計画	1 Unité3 leçon11
			2 Unité3 leçon12
			3 Unité4 leçon13
4 Unité4 leçon14			
5 Unité4 leçon15			
6 Unité4 leçon16			
7 Unité5 leçon17			
8 Unité5 leçon18			
9 Unité5 leçon19			
10 Unité5 leçon20			
11 まとめ (1)			
12 まとめ (2)			
評価方法	担当の各先生が指示します。		
テキスト 参考 文献	INITIALvol.1		



9 8 科目名	スペイン語 I A(基礎)	担当者	各担当教員
0 1 科目名	スペイン語 I A(基礎)	担当者	各担当教員
0 3 科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>週一コマスペイン語を学習する学生を対象とし、スペイン語を初めて学ぶ学生のために、口頭練習を中心にしながら、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。具体的には、あいさつや自己紹介、所在に関する表現、数に関する表現、現在形での質問の依頼ができ、その答えについても話し、聞き取れることを目的とする。</p> <p><b>注意!</b>  <u>秋学期、木曜2限のスペイン語 I Aa (浦部) と同じく秋学期、火曜1限のスペイン語 I Ab (ガリド) はどちらも秋学期に置かれてあるが、ともに初心者用の授業を行う。したがって、この二つの授業を秋学期に取ることで、春・秋通して、スペイン語 I Aa, スペイン語 I Ab をとることと同じになる。また、この二つの授業はペア授業とするため、他のクラスとの組み合わせはできない。</u></p>	授業計画	1 発音・アクセント
			2 名詞の性・数、冠詞
			3 形容詞
			4 動詞の活用 --- 直説法現在規則形
			5 動詞の活用 --- 直説法現在不規則形
			6 ser, estar 動詞の使い方
			7 代名詞の使い方
			基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
評価方法	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	テキスト 参考文献	『オラ・アミーゴス』(芸林書房) および、担当者が随時プリントを配布。 また、スペイン語-日本語辞書を用意してもらう。 辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。

0 1 科目名		担当者	
0 3 科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>スペイン語 I Aa に引き続き、週一コマスペイン語を学習する学生を対象とし、口頭練習を中心にしながら、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。具体的には、あいさつや自己紹介、所在に関する表現、数に関する表現、現在形での質問の依頼ができ、その答えについても話し、聞き取れることを目的にする。</p> <p><b>注意!</b>  <u>秋学期、木曜2限のスペイン語 I Aa (浦部) と同じく秋学期、火曜1限のスペイン語 I Ab (ガリド) はどちらも秋学期に置かれてあるが、ともに初心者用の授業を行う。したがって、この二つの授業を秋学期に取ることで、春・秋通して、スペイン語 I Aa, スペイン語 I Ab をとることと同じになる。また、この二つの授業はペア授業とするため、他のクラスとの組み合わせはできない。</u></p>	授業計画	1 動詞の活用 --- 直説法現在形の復習とまとめ
			2 動詞の活用 --- 直説法現在形の復習とまとめ
			3 代名詞の使い方
			4 動詞の活用 --- 直説法点過去規則形
			5 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則形
			基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。
評価方法	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		
テキスト 参考文献			『オラ・アミーゴス』(芸林書房) また、担当者が随時プリントを配布。

98科目名	スペイン語 I B(総合)	担当者	各担当教員
-------	---------------	-----	-------

01科目名	スペイン語 I B(総合)	担当者	各担当教員
-------	---------------	-----	-------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>週二コマスペイン語を学習する学生を対象とし、スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。動詞の直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。</p> <p>会話コースであるスペイン語 I Ca との同時履修とする。</p>	授業計画	1 発音・アクセント
			2 名詞の性・数、冠詞
評価方法	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		3 名詞の性・数、冠詞
			4 形容詞
テキスト等文献	<p>『オラ・アミーゴス』(芸林書房)</p> <p>また、担当者が随時プリントを配布。</p> <p>また、スペイン語-日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。</p>		5 動詞の活用 --- 直説法現在規則形
			6 動詞の活用 --- 直説法現在不規則形
			7 ser, estar 動詞の使い方
			8. 代名詞の使い方
			基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。

01科目名		担当者	
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>スペイン語 I Ba に引き続き、週二コマスペイン語を学習する学生を対象とし、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。動詞の直説法点過去形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。</p> <p>会話コースであるスペイン語 I Cb との同時履修とする。</p>	授業計画	1 動詞の活用 --- 直説法現在形の復習とまとめ
			2 動詞の活用 --- 直説法現在形の復習とまとめ
評価方法	出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。		3 代名詞の使い方
			4 動詞の活用 --- 直説法点過去規則形
テキスト等文献	<p>『オラ・アミーゴス』(芸林書房)</p> <p>また、担当者が随時プリントを配布。</p>		5 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則形
			基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。

98科目名	スペイン語 I C(会話)	担当者	各担当教員
-------	---------------	-----	-------

01科目名	スペイン語 I C(会話)	担当者	各担当教員
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	週ニコマスペイン語を学習する学生を対象とし、スペイン語を初めて学ぶ学生のために、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的とする会話中心のクラスである。スペイン語 C の担当者は、基本的にスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 文法コースであるスペイン語 I Ba との同時履修とする。	授業計画	学習目標となる文法項目は、スペイン語 I Ba の項目と同じであるが、スペイン語 I Ca ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語 I Ba の「授業計画」を参照のこと。
	評価方法		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。
	テキスト 参考 文献		『オラ・アミーゴス』(芸林書房) また、担当者が随時プリントを配布。 また、スペイン語-日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。

01科目名		担当者	
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	スペイン語 I Ca に引き続き、週ニコマスペイン語を学習する学生を対象とし、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的とする会話中心のクラスである。スペイン語 C の担当者は、基本的にスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。 文法コースであるスペイン語 I Bb との同時履修とする。	授業計画	学習目標となる文法項目は、スペイン語 I Bb の項目と同じであるが、スペイン語 I Cb ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語 I Bb の「授業計画」を参照のこと。
	評価方法		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。
	テキスト 参考 文献		『オラ・アミーゴス』(芸林書房) また、担当者が随時プリントを配布。

98科目名	ロシア語Ⅰ(会話)	担当者	佐藤千登勢
-------	-----------	-----	-------

01科目名	ロシア語Ⅰ(会話)	担当者	佐藤千登勢
-------	-----------	-----	-------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>はじめてロシア語を学ぶ学生を対象としています。ロシア語は、そのアルファベットのかたち(キリル文字)からしてカッコよく、音もとても美しい言葉です。ロシア人はこれを誇って次のように言ってるほどです。「ドイツ語は男と話すに良く、フランス語は女と話すのに良い。スペイン語は神と話すにふさわしい。ところがロシア語はそのすべてに適している」と。</p> <p>この授業では、発音、イントネーション、リズムを正しく身につけていく練習を重ね、ロシア語で挨拶をしたり、買い物をしたりできるようにします。また、ロシアの文化や生活習慣について、映像資料などを通して紹介していきます。</p> <p><b>Говорим по-русски!</b> <b>Я желаю вам успехов в учёбе.</b></p>	授業計画	1	
			2	
			3	<p>発音練習、アクセントを基調としたリズム練習、イントネーション練習に力を入れます(ヒアリングのためには、自ら正しい発音を獲得していることが重要ですので、音読練習を徹底させます)。</p> <p>毎回の授業は、音読→暗記→ディクテーションという流れで前半を進め、後半は会話練習(さまざまな状況における決まった表現を習得)を行い、最後にロシアの映像を10分程度鑑賞していきます。</p> <p>会話練習の内容において予定しているのは、「自己紹介」「家族紹介」「買い物をする」などです。</p>
			4	
			5	
			6	
			7	
			8	
			9	
			10	
			11	
12				
評価方法	期末に行う試験(会話・ディクテーション)。もともウェートを占めるのは出席率です。			
テキスト参考文献	プリントを配付します。			

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>「ロシア語ⅠBb」の続きとなります。ロシア語の音の響きの美しさをともに味わいながら、会話の練習をさらに深めていきます。</p>	授業計画	1	
			2	
			3	<p>発音練習、アクセントを基調としたリズム練習、イントネーション練習に力を入れます(ヒアリングのためには、自ら正しい発音を獲得していることが重要ですので、音読練習を徹底させます)。</p> <p>毎回の授業は、音読→暗記→ディクテーションという流れで前半を進め、後半は会話練習(さまざまな状況における決まった表現を習得)を行い、最後にロシアの映像を10分程度鑑賞していきます。</p> <p>会話練習の内容において予定しているのは、「道を訊ねる」「外食する」「ホテルに泊まる」などです。</p>
			4	
			5	
			6	
			7	
			8	
			9	
			10	
			11	
12				
評価方法	期末に行う試験(会話・ディクテーション)。もともウェートを占めるのは出席率です。			
テキスト参考文献	プリントを配付します。			

9 8 科目名	ロシア語 I (総合)	担当者	齋藤毅
---------	-------------	-----	-----

0 1 科目名	ロシア語 I (総合)	担当者	齋藤毅
0 3 科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>ヨーロッパとアジアのちょうど間にあたるロシアは、今日の国際情勢の中で重要な位置を占めているだけでなく、1000年以上の期間に渡り、西欧とは異なる独特の文化を培ってきました。その言語であるロシア語も、文字はもちろんのこと、音の響きや文法の面でも、英語などとはかなり違った特徴を持っています。</p> <p>この授業はまったくの初心者を対象とし、文字の読み方・書き方から始め、後期の「ロシア語 I Ab」を含め一年間でロシア語文法の最初歩をマスターすることを目指します。</p> <p>会話を中心とした「基礎ロシア語 I (文法)」、「ロシア語 I Ba」と併せて受講することが原則ですが、単独での履修も可能です。</p>	全体で教科書の第9課まで進むことを目標とし、文字の読み方、発音の練習にも重点を置きます。
		2
		3
		4
		5
		6
		7
		8
		9
		10
		11
		12
		評価方法
テキスト 参考 文献	黒田龍之助『ロシア語文法への旅』(大学書林) 辞書等は授業時に紹介してゆきます。	

0 1 科目名		担当者	
0 3 科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>「ロシア語 I Aa」の続編の授業です。「Aa」と同じ教科書を持ちいて、引き続きロシア語の文法を学んでゆきます。</p>	全体で教科書の第20課まで進むことを目標とします。
		2
		3
		4
		5
		6
		7
		8
		9
		10
		11
		12
		評価方法
テキスト 参考 文献	黒田龍之助『ロシア語文法への旅』(大学書林) 辞書等は授業時に紹介してゆきます。	

98科目名	中国語 I A	担当者	各担当教員
-------	---------	-----	-------

01科目名	中国語 I A	担当者	各担当教員
-------	---------	-----	-------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	講義の目的 週1回のクラスで、中国語の簡単な文章の読み書きと、会話の初歩を習得する。	授 業 計 画	1	
	講義の概要 中国語は発音が難しいと言われる。 この授業は、まず最初の難関である発音に重点を置く。 ローマ字発音表記法（ピンイン）を正しく発音できるように、また中国語独特の抑揚（四声）を完全に把握できるようにする。同時に、今中国で使われている簡体字、基本的語彙・語法を習得する。		2	授業計画
			3	1回 ガイダンス 発音練習 2回 発音練習
			4	3回 発音練習 小テスト 4回 第1課
		5	5回 第2課	
		6	6回 第3課	
		7	7回 第1～3課のまとめ 8回 復習テスト 第4課	
		8	9回 第5課	
		9	10回 第6課 11回 第4～6課のまとめ 12回 復習テスト	
		10		
評価方法	成績は、定期試験と出席点・小テスト・練習問題への取り組みなどによる平常点と両方によって評価する。総合成績が60点以上で単位取得となる。		11	
テキスト参考文献	『中国語ステップアップ』 白水社		12	

01科目名		担当者	
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	講義の目的 これまでに習得した基礎的な語学力を発展させ、更に日常の様々な活動を言い表す対話を中心とした実用中国語を耳から口へというコースで習得する。	授 業 計 画	1	
	講義の概要 まずはじめに、発音の復習に重点を置く。 中国についての基本的な知識が身につけられるよう、会話内容を充実させ、簡単な文の組み立てができるように、基本的な語彙を修得する。		2	第1回 復習 第7課
			3	第2回 8課 第3回 9課
			4	第4回 10課 第7～10課まとめ 第5回 復習テスト 第11課
		5	第6回 第12課	
		6	第7回 第13課 第8回 第14課	
		7	第9回 第11～14課まとめ 第10回 復習テスト 第15課	
		8	第11回 16課 第15・16課のまとめ 第12回 復習テスト	
		9		
		10		
評価方法	成績は、定期試験と出席点・小テスト・練習問題への取り組みなどによる平常点と両方によって評価する。総合成績が60点以上で単位取得となる。		11	
テキスト参考文献	『中国語ステップアップ』 白水社		12	

98科目名	中国語 I B	担当者	各担当教員
-------	---------	-----	-------

01科目名	中国語 I B	担当者	各担当教員
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	中国語を学ぶ上で、発音の習得は非常に重要です。正しく発音できることは、自信につながり、中国語そのものも楽しくなります。この授業では、発音の繰り返し練習に重点を置き、文法は必要最小限に抑さえ、話せる中国語を目指します。  教科書に沿って進みます。前期は発音や中国語の音声表記であるピンインの習得が最大の課題です。	授業計画	1	教科書に沿って進みます。(詳しくは各担当先生が授業中に指示します。)
			2	
			3	
			4	
			5	
			6	
			7	
			8	
			9	
			10	
			11	
			12	
評価方法	出席を重視し、授業態度、学期末試験と総合して評価します。			
テキスト参考文献	『発信型 中国語初級テキスト』 大塚秀明他著 光生館 2,400円			

01科目名		担当者	
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	目的は前期と同様、概要は実際の会話文の発音練習を中心に進み、基本例文の暗記とその応用が中心となります。テキストの本文の暗記、暗唱が必要最低条件です。	授業計画	1	教科書に沿って進みます。(詳しくは各担当先生が授業中に指示します。)
			2	
			3	
			4	
			5	
			6	
			7	
			8	
			9	
			10	
			11	
			12	
評価方法	出席を重視し、授業態度、学期末試験と総合して評価します。			
テキスト参考文献	『発信型 中国語初級テキスト』 大塚秀明他著 光生館 2,400円			

98科目名	中国語 I C	担当者	各担当教員
-------	---------	-----	-------

01科目名	中国語 I C	担当者	各担当教員
-------	---------	-----	-------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>まず、中国語の正確な発音法の習得に力をいれます。次いで、基礎的文法と基本語彙を習得し、さらにその知識を応用し、中国語を使ったごく初歩的な会話ができるようになることを目指します。</p> <p>具体的には、はじめの数週間で、発音練習を集中的に行い、中国語のすべての音節の発音法を習得します。その後は、テキストに沿って、文法事項の解説を行い、本文（平易な会話文）を読解するという形式で授業を進めます。基本文を暗記し、練習問題を解く作業を通じて、知識の定着を目指します。</p>	授業計画	1 ガイダンス 第1課：発音（声調）
			2 第1課：発音（単母音・複母音）
			3 第2課：発音（子音）
			4 第3課：発音（鼻音を伴う母音）
			5 第4課：発音
			6 発音のまとめ
			7 第5課
			8 第6課
			9 Review（第5,6課の復習）
			10 第7課
			11 第8課
			12 Review（第7,8課の復習）
評価方法	具体的な評価方法については、学年始めに担当教員に説明を求めてください。		
テキスト 参考文献	テキスト：『学ビテ時ニ之ヲ習フ』好文出版 辞典：『プログレッシブ中国語辞典』小学館		

01科目名		担当者	
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>前期の中国語 I Ca を受講した学習者を対象とします。</p> <p>日常会話に必要なレベルの基礎的文法や語彙を習得し、さらにその知識を応用し、中国語を使った簡単な会話ができるようになることを目指します。</p> <p>基本的には、テキストに沿って、文法事項の解説を行い、本文（平易な会話文）を読解するという形式で授業を進めます。基本文を暗記し、練習問題を解く作業を通じて、知識を定着させると同時に、口頭並びに書面による表現能力を身に付けてゆきます。</p>	授業計画	1 第9課
			2 第10課
			3 Review（第9,10課の復習）
			4 第11課
			5 第12課
			6 Review（第11,12課の復習）
			7 第13課
			8 第14課
			9 Review（第13,14課の復習）
			10 第15課
			11 第16課
			12 Review（第15,16課の復習）
評価方法	具体的な評価方法については、学年始めに担当教員に説明を求めてください。		
テキスト 参考文献	テキスト：『学ビテ時ニ之ヲ習フ』好文出版 辞典：『プログレッシブ中国語辞典』小学館		



9 8 科目名	韓国語 I (総合)	担当者	朴勇俊
---------	------------	-----	-----

0 1 科目名	韓国語 I (総合)	担当者	朴勇俊
---------	------------	-----	-----

0 3 科目名		担当者	
---------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>日本と韓国は古来から密接な関係を保ってきており、今後とも政治、経済、社会、文化などの諸分野にわたり、特に民間レベルでのより盛んな交流が進展していくことが期待される。さらに日本における韓国語の需要も今後ますます増えていくと思われる。</p> <p>このような観点から本科目では読解力、生きたコミュニケーションができる表現力、新聞や雑誌などから時事情報を得る基本的な能力の総合的な定着を目指し、多角的な授業を行う。</p>	授業計画	1 本講義に対する紹介、概要説明
			2～5 韓国語の文字・文章の理解と解読
			6～11 次のような内容を題材に読解・作文力の基礎を定着させる。 「自己紹介」 「挨拶」 「学校生活①」 「学校生活②」 「家族①」 「家族②」
評価方法	評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。		12 前期末試験
テキスト参考文献	「韓国語学習－基礎から完成まで－」 朴勇俊 (プリント)		

0 1 科目名		担当者	
0 3 科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>日本と韓国は古来から密接な関係を保ってきており、今後とも政治、経済、社会、文化などの諸分野にわたり、特に民間レベルでのより盛んな交流が進展していくことが期待される。さらに日本における韓国語の需要も今後ますます増えていくと思われる。</p> <p>このような観点から本科目では読解力、生きたコミュニケーションができる表現力、新聞や雑誌などから時事情報を得る基本的な能力の総合的な定着を目指し、多角的な授業を行う。</p>	授業計画	1～11 次のような内容を題材に読解・作文力の基礎を定着させる。 「友人①」 「友人②」 「買い物①」 「買い物②」 「趣味①」 「趣味②」 「海外旅行①」 「海外旅行②」 「伝統文化」 「衣食住①」 「衣食住②」	
				12 後期末試験
	評価方法		評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。	
テキスト参考文献	「韓国語学習－基礎から完成まで－」 朴勇俊 (プリント)			

98科目名	韓国語 I (会話)	担当者	李貞美
-------	------------	-----	-----

01科目名	韓国語 I (会話)	担当者	李貞美
-------	------------	-----	-----

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>韓国語を初めて学ぶ人を対象に韓国語と日本語の共通点、類似点を示し、学習の容易さと有用性を理解させながらハングル文字の読み書き、辞書の活用ができるようにするとともに、実用会話を入門指導する。</p> <p>会話の学習については、韓国固有の民俗、歴史、生活、芸術、衣食住などのストーリー性のある題材、日常生活で当面する様々な典型的局面や節目での文型、会話を選び、そのような場面を想定、再現することで実感を深めながら反復指導する。また、写真、スライド、ビデオ等をも活用することで臨場感を深め積極的に学習に取り組むようにする。</p>	授業計画	<p>1 本講義に対する紹介、概要説明</p> <p>2～5 韓国語の文字・文章の理解と解読</p> <p>6～11 次のような多様な生活場面を設定し、柔軟に対応できるような表現力の定着を目指す。</p> <p>「市場」</p> <p>「スーパーマーケット」</p> <p>「薬局」</p> <p>「喫茶店」</p> <p>「郵便局」</p> <p>「洋服店」</p> <p>12 前期末試験</p>
	評価方法		評価は原則として定期試験と授業への取り組み、出席状況などを総合的に判定する。
	テキスト参考文献		『韓国語学習－基礎から完成まで－』朴勇俊 (プリント)

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>韓国語を初めて学ぶ人を対象に韓国語と日本語の共通点、類似点を示し、学習の容易さと有用性を理解させながらハングル文字の読み書き、辞書の活用ができるようにするとともに、実用会話を入門指導する。</p> <p>会話の学習については、韓国固有の民俗、歴史、生活、芸術、衣食住などのストーリー性のある題材、日常生活で当面する様々な典型的局面や節目での文型、会話を選び、そのような場面を想定、再現することで実感を深めながら反復指導する。また、写真、スライド、ビデオ等をも活用することで臨場感を深め積極的に学習に取り組むようにする。</p>	授業計画	<p>1～11 次のような多様な生活場面を設定し、柔軟に対応できるような表現力の定着を目指す。</p> <p>「映画館」</p> <p>「スポーツ」</p> <p>「図書館」</p> <p>「クリーニング店」</p> <p>「銀行」</p> <p>「役所」</p> <p>「銭湯」</p> <p>「美容院」</p> <p>「趣味」</p> <p>「国際電話」</p> <p>「健康管理」</p> <p>12 後期末試験</p>
	評価方法		評価は原則として定期試験と授業への取り組み、出席状況などを総合的に判定する。
	テキスト参考文献		「韓国語学習－基礎から完成まで－」朴勇俊 (プリント)

98科目名	ドイツ語ⅡA	担当者	各担当教員
-------	--------	-----	-------

01科目名	ドイツ語ⅡA	担当者	各担当教員
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>ドイツ語Ⅰで修得した基礎知識を応用し、辞書さえ利用すれば、大方のドイツ文の内容を正確に読み取れるだけの読解力を養成します。</p> <p>読解練習のテーマとしてはノンフィクション、ドイツの政治・経済・社会・雑誌などに関する文章やエッセイをテキストとして使用します。</p> <p>最初に文法の基本事項の復習と未習事項の学習を行い、その後テキストの読解に入ります。はじめは文法的な解説を十分に行い、ドイツ文の構造を理解させることに力点を置きます。</p> <p>それから徐々にテキスト内容の全体的な把握に授業の重点を移し、読解の速度を上げていきます。</p>	授業計画	1 ガイダンス
			2 文法の復習、未習事項の学習
			3 同上
			4 同上
			5 同上
			6 同上
			7 同上
			8 読解練習
			9
			10
			11
			12
			評価方法
テキスト参考文献	各担当教員の指示するテキスト		

01科目名		担当者	
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
			評価方法
テキスト参考文献			

98科目名	ドイツ語ⅡB	担当者	各担当教員
-------	--------	-----	-------

01科目名	ドイツ語ⅡB	担当者	各担当教員
-------	--------	-----	-------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	ドイツ語Ⅰで修得した基礎知識を応用し、辞書さえ利用すれば、大方のドイツ文の内容を正確に読み取れるだけの読解力を養成します。 読解練習のテーマとしてはフィクション、小説・童話・説話などをテキストとして使用します。 最初に文法の基本事項の復習と未習事項の学習を行い、その後テキストの読解に入ります。はじめは文法的な解説を十分に行い、ドイツ文の構造を理解させることに力を置きます。 それから徐々にテキスト内容の全体的な把握に授業の重点を移し、読解の速度を上げていきます。	授業計画	1 ガイダンス
			2 文法の復習、未習事項の学習
			3 同上
			4 同上
			5 同上
			6 同上
			7 同上
			8 読解練習
			9
			10
			11
			12

評価方法	期末試験の成績と授業への出席状況など総合的に判断して評価します。
------	----------------------------------

テキスト参考文献	各担当教員の指示するテキスト
----------	----------------

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

評価方法	
------	--

テキスト参考文献	
----------	--

98科目名	ドイツ語ⅡC	担当者	各担当教員
-------	--------	-----	-------

01科目名	ドイツ語ⅡC	担当者	各担当教員
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>ドイツ語Ⅰで修得した基礎知識や基本単語を使って何とか自分の意思をドイツ語で相手に伝える能力を養成することを目標とします。</p> <p>読解練習のテーマとしてはフィクション、小説・童話・説話などをテキストとして使用します。</p> <p>最初に文法の基本事項の復習と未習事項の学習を行い、その後場面に応じて、基本的な文章と聞き取り、反復・応答ができるように練習します。</p>	授業計画	1 ガイダンス
			2 文法の復習、未習事項の学習
			3 同上
			4 同上
			5 同上
			6 同上
			7 同上
			8 口頭練習
			9
			10
			11
			12
			評価方法
テキスト参考文献	各担当教員の指示するテキスト		

01科目名		担当者	
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
			評価方法
テキスト参考文献			

98科目名	フランス語Ⅱ	担当者	各担当教員
-------	--------	-----	-------

01科目名	フランス語Ⅱ	担当者	各担当教員
-------	--------	-----	-------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	1年次に学んだ基礎フランス語をもとに、さらにフランス語の力を伸ばすための講座です。2人の先生がペアを組んで授業を行います。クラス分けは教務課の方で行います。	授業計画	1
	授業の内容および進め方に関しては担当の先生より説明があります。		2
			3
評価方法	担当の各先生から説明があります。		4
			5
テキスト参考文献	授業の際、担当の先生が指示します		6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

01科目名		担当者	
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	1年次に学んだ基礎フランス語をもとに、さらにフランス語の力を伸ばすための講座です。2人の先生がペアを組んで授業を行います。クラス分けは教務課の方で行います。	授業計画	1
	授業の内容および進め方に関しては担当の先生より説明があります。		2
			3
評価方法	担当の各先生から説明があります。		4
			5
テキスト参考文献	授業の際、担当の先生が指示します		6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

9 8 科目名	スペイン語Ⅱ(総合)	担当者	各担当教員
---------	------------	-----	-------

0 1 科目名	スペイン語Ⅱ(総合)	担当者	各担当教員
---------	------------	-----	-------

0 3 科目名		担当者	
---------	--	-----	--

		担当者	
		担当者	
講義目的および講義概要	<p>スペイン語Ⅱ(総合)は、スペイン語Ⅰ(総合)の継続の授業である。接続法現在および過去までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。  <u>スペイン語Ⅱ(会話)</u>との同時履修とする。</p>	授業計画	1 動詞の活用 --- 直説法点過去
			2 動詞の活用 --- 直説法線過去
			3 点過去と線過去の違い
			4 比較表現
			5 過去分詞と現在分詞
			6 動詞の活用 --- 直説法現在完了形
			7 動詞の活用 --- 現在進行形
			8 動詞の活用 --- 接続法現在規則形
			9 動詞の活用 --- 接続法現在不規則形
			10 命令表現
基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を最低限学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。			
評価方法	定期テストと平常点、および授業への積極的参加。担当者によっては、小テストを行う場合がある。		
テキスト 参考文獻	『オラ・アミーゴス』(芸林書房) また、担当者が随時プリントを配布。		

0 1 科目名		担当者	
0 3 科目名		担当者	

講義目的および講義概要		授業計画	
評価方法			
テキスト 参考文獻			

98科目名	スペイン語Ⅱ(会話)	担当者	各担当教員
-------	------------	-----	-------

01科目名	スペイン語Ⅱ(会話)	担当者	各担当教員
-------	------------	-----	-------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>スペイン語Ⅱ(会話)は、スペイン語Ⅰ(会話)の継続の授業である。接続法現在および過去までの基礎的文法事項をまなび、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。語学力だけではなく、スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。  <u>スペイン語Ⅱ(総合)との同時履修とする。</u></p>	授業計画	<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅱ(総合)の項目と同じであるが、スペイン語Ⅱ(会話)ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。          学習項目に関してはスペイン語Ⅱ(総合)の「授業計画」を参照のこと。</p>
評価方法	<p>定期テストと平常点、および授業への積極的参加。担当者によっては、小テストを行う場合がある。</p>		
テキスト参考文献	<p>『オラ・アミーゴス』(芸林書房)          また、担当者が随時プリントを配布。</p>		

01科目名		担当者	
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要		授業計画	
評価方法			
テキスト参考文献			



98科目名	ロシア語Ⅱ (総合)	担当者	佐藤千登勢
01科目名	ロシア語Ⅱ (総合)	担当者	佐藤千登勢
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>基本的には、基礎ロシア語Ⅰを履修した学生を対象としています。初級文法の復習を行いつつ、さらなるロシア語の力を身につけていきます。また、筆記体でロシア語を書く練習も並行して行います。筆記体を習得することで、ロシア語の勉強はいつそう楽しくなることでしょう。</p> <p>ロシアはヨーロッパとアジアの融合とよく言われるように、その文化や自然、民族は多様性に富んでおり、豊かな芸術を誇る国です。映像資料を通してロシアの文化や生活習慣についても紹介していきます。価値観の画一化が地球的規模で進んでいる昨今ですが、こういう時代だからこそ改めて、民族・文化の多様性について知り、マイナーなものに対する眼差しを忘れないようにしてほしいと思います。</p> <p>「基礎ロシア語Ⅱ (会話)」「ロシア語ⅡB」と併せて受講することが望ましいのですが、単独での履修も可能です。</p>	授業計画	1	
			2	
			3	
			4	
			5	テキストは12課からはじめ、文法の確認と補強を行いながら、語彙力や表現力を高めていきます。
			6	動詞の人称変化、所有の表現、運動の動詞 (定動詞、不定動詞)、動詞の体 (完了体、不完了体) 比較級を確実に学んでいきます。
			7	
			8	
			9	
			10	
			11	
			12	

評価方法	レポートと平常点により決定しますが、もっともウェートを占めるのは出席率です。
テキスト参考文献	「ロシア語文法への旅」黒田龍之助著 大学書林

01科目名		担当者	
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>「ロシア語ⅡAa」の続きとなります。これと同じテキストを用いて、ひき続き、文法の習得を中心に授業を進めます。ロシアの文化・芸術を知るためのビデオ、映画もできるだけ楽しむようにしたいと思います。ロシア語も2年目になると、だいたい耳が慣れてきて、映画なども面白くなっていくはずです。</p>	授業計画	1	
			2	
			3	
			4	
			5	
			6	テキストは18課から続けていきます。命令形、関係代名詞など新たな文法事項を習得し、練習問題や作文を多くこなして力をつけていきます。
			7	
			8	
			9	
			10	
			11	
			12	

評価方法	レポートと平常点により決定しますが、もっともウェートを占めるのは出席率です。
テキスト参考文献	「ロシア語文法への旅」黒田龍之助著 大学書林

98科目名	ロシア語Ⅱ(会話)	担当者	齋藤毅
-------	-----------	-----	-----

01科目名	ロシア語Ⅱ(会話)	担当者	齋藤毅
-------	-----------	-----	-----

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>昨年度に法・経済学部「ロシア語Ⅰ」、外国語学部の「基礎ロシア語Ⅰ」を履修した人を対象としますが、ロシア語の初歩を学んだことのある人なら誰でも受講できます。</p> <p>この授業では、会話中心の教科書、および音声教材を用い、これまで学んだ文法事項を復習しながら、易しい会話表現を学んでゆきます。とくにロシア語は発音がやや難しい言語ですので、受講者の皆さん一人一人の発話練習に重点を置きます。発音がある程度楽にできるようになれば、ロシア語が生きた言葉として感じられてくるようになると思います。</p> <p>文法を中心とした「基礎ロシア語Ⅱ(総合)」、「ロシア語ⅡA」と併せて受講することが原則ですが、単独での履修も可能です。</p>	全体で教科書の第8課まで進むことを目標とします。
		2
		3
		4
		5
		6
		7
		8
		9
		10
		11
		12
評価方法	①期末試験、②出席などの平常点。とくに出席を重視する。	
テキスト 参考 文献	米重文樹、P.トマルキン『話すロシア語入門』(白水社)。辞書等は授業時に紹介します。	

01科目名		担当者	
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>「ロシア語ⅡBa」の続編の授業です。「Ba」と同じ教材を用い、引き続きロシア語の発音・会話表現を練習してゆきます。</p>	全体で教科書の第17課まで進むことを目標とします。
		2
		3
		4
		5
		6
		7
		8
		9
		10
		11
		12
評価方法	①期末試験、②出席などの平常点。とくに出席を重視する。	
テキスト 参考 文献	米重文樹、P.トマルキン『話すロシア語入門』(白水社)。辞書等は授業時に紹介します。	

98科目名	中国語Ⅱ(講読)	担当者	大嶋広美
-------	----------	-----	------

01科目名	中国語Ⅱ(講読)	担当者	大嶋広美
-------	----------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	中国語作文のテキストを使って、1年で習得した中国語文法を復習しながら中国語で書く能力をつけることを目指す。テキスト中の練習文や単語を授業中に暗記するだけでなく、毎回小テストを行う。授業内容はハードであるが、作文の能力が身につけば同時に話す能力も培うことになり、出席者が中国語検定4級に合格できるよう指導していきたい。予習をしてきたことを前提として授業を進めるので、予習を怠らないこと。	授業計画	1 発音のおさらい	
	評価方法		小テスト、前期・後期テスト及び授業の参加度	2 一語文・一句文——形容詞述語文、間投詞、評価の表現、決まり文句
			テキスト参考文献	董燕・遠藤光暁著『書く中国語』、『わかる中国語単語1000』(共に朝日出版社)
			4 時間(時点と時間量)——主な時間詞、数量補語、動詞の重ね型、離合詞	
			5 場所と存在・移動——方位詞、存現文、移動を表す文	
			6 疑問・否定——“呢”疑問文、疑問詞疑問文、推測を確認するための疑問文	
			7 願望・必要——願望の表し方“想”“祝”“希望”等、必要の表し方“要”“得”等	
			8 命令・依頼・可能——命令文、禁止、依頼のしかた、丁寧な依頼文	
			9 推定・伝聞——推定を表す副詞、“不一定”と“不可能”、蓋然性を表す助動詞	
			10 数量表現——量詞の種類、数量表現の位置、“~多”の位置	
			11 修飾語——動詞句または文が定語となった場合、複数の定語の配列順	
			12 まとめ及びテスト	

01科目名		担当者	
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要		授業計画	1 形容詞の程度と動詞の様態——形容詞の程度、“太”と“太~了”、様態補語	
	評価方法			2 比較・類似——比較の言い方、比較の否定、比較の疑問形、差量の表し方、一致と類似
			テキスト参考文献	
			4 結果・方向・可能——結果補語、方向補語及びその派正義、可能を表す助動詞と可能補語	
			5 二重目的語と対象を表す前置詞——二重目的語、取得対象を表す前置詞“向”等	
			6 使役・受身・“把”——使役文と使役動詞、受身文、“把”構文、意味上の受身	
			7 仮定・条件——接続詞と接続副詞、もしも~なら、~したからには、たとえ~	
			8 順序・全称——時間的順序、~するしないや、同一疑問詞の呼応、~すら	
			9 原因・目的・逆接——因果関係、原因、目的、連動式、逆接、~ではなく~だ	
			10 並列・累加——並列、~しながら~する、~かのどちらかだ、~だけでなく~も	
			11 手紙の書き方について	
			12 まとめ及びテスト	

98科目名	韓国語Ⅱ(総合)	担当者	朴勇俊
-------	----------	-----	-----

01科目名	韓国語Ⅱ(総合)	担当者	朴勇俊
-------	----------	-----	-----

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	韓国語の読解、会話、作文力を基盤に多様かつ実用的な表現力をつけるため、それぞれについて毎時間くわしいプリントを作成配布し、学習を進めていく。また、韓国の文学(詩や小説)や映画、音楽などを題材に取り上げることで文化や芸術に対する理解を深めるとともに多様な表現力の習得を目指す。	授業計画	1 本講義に対する紹介、概要説明
			2~11 次のような内容を題材に読解・作文力の基礎を定着させる。 「誕生日」 「古宮」 「旅行」 「登山」 「正月の風俗」 「虎と干し柿」(民話) 「民族衣装」
			12 前期末試験
評価方法	評価は原則として定期試験と学習への取り組み、出席状況などを総合的に判定する。		
テキスト参考文献	「韓国語学習ー基礎から完成までー」 朴勇俊 (プリント)		

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	韓国語の読解、会話、作文力を基盤に多様かつ実用的な表現力をつけるため、それぞれについて毎時間くわしいプリントを作成配布し、学習を進めていく。また、韓国の文学(詩や小説)や映画、音楽などを題材に取り上げることで文化や芸術に対する理解を深めるとともに多様な表現力の習得を目指す。	授業計画	1~11 次のような内容の題材を取り上げ、読解・作文学習を行っていく。 「農楽」 「端午」 「世宗大王」 「交通」 「記念日」 「手紙」 「牛になった怠け者」(民話) 「済州島」 「韓国の風俗と礼節」
			12 後期末試験
評価方法	評価は原則として定期試験と学習への取り組み、出席状況などを総合的に判定する。		
テキスト参考文献	「韓国語学習ー基礎から完成までー」 朴勇俊 (プリント)		

98科目名	韓国語Ⅱ(講読)	担当者	李貞美
-------	----------	-----	-----

01科目名	韓国語Ⅱ(講読)	担当者	李貞美
-------	----------	-----	-----

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	韓国語の多面的な会話表現力の定着を目指し、日本人が韓国で遭遇する様々な状況を設定し、臨機応変に対応できるように実際に使われる表現・文型等を身につけさせる。また、外国語は異文化の集積体であることを感得させ、背景となっている当該外国文化の諸相への関心と探求意欲を育てて行くことにも留意していく。スライド・ビデオ・テープ等の視聴覚教材を用い、韓国の歴史・文化・時事情報等を題材に選び、多様で実用的な表現力を定着させていく。	授業計画	1 本講義に対する紹介、概要説明
			2~11 次のような内容を題材にクラスをいくつかのグループに分け、会話を交わす実演を通じて会話文を暗唱できるようにしていく。 「入国審査」 「外国人登録」 「両替」 「国際電話」 「地下鉄」 「ホテル」 「観光」 「名刺交換」 「伝統的行事」
			12 前期末試験
評価方法	評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。		
テキスト参考文献	「韓国語学習ー基礎から完成までー」 朴勇俊 (プリント)		

01科目名		担当者	
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	韓国語の多面的な会話表現力の定着を目指し、日本人が韓国で遭遇する様々な状況を設定し、臨機応変に対応できるように実際に使われる表現・文型等を身につけさせる。また、外国語は異文化の集積体であることを感得させ、背景となっている当該外国文化の諸相への関心と探求意欲を育てて行くことにも留意していく。スライド・ビデオ・テープ等の視聴覚教材を用い、韓国の歴史・文化・時事情報等を題材に選び、多様で実用的な表現力を定着させていく。	授業計画	1~11 以下のような内容の題材を取り上げ、幅広い会話力の定着を目指す。 「出身地」 「伝言」 「ビザの延長」 「健康管理」 「演劇」 「予約」 「病状」 「余暇」 「韓国料理」 「忘れ物」 「慶州」
			12 後期末試験
評価方法	評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。		
テキスト参考文献	「韓国語学習ー基礎から完成までー」 朴勇俊 (プリント)		

98科目名	高齢化社会論	担当者	奥山正司
-------	--------	-----	------

01科目名	高齢化社会論 a	担当者	奥山正司
-------	----------	-----	------

03科目名	高齢化社会論 a	担当者	奥山正司
-------	----------	-----	------

講義目的および講義概要	講義の目的 現代社会が、情報化、国際化、高齢化の社会であるといわれてから久しい。本講義では、その高齢化や加齢（エイジング）という現象を通して、経済・社会にどのような変化が生じているのかを明らかにしていくことをねらいとする。	授業計画	1 講義の説明及び高齢化社会に関する社会科学と周辺科学について
	講義概要 人口高齢化や平均寿命の延長がもたらす社会的インパクトや老年期における高齢者の社会生活の変化などについて学ぶ。		2 老年学（Gerontology）の代表的理論である離脱理論、活動理論等について
	各講義では、人口高齢化、平均余命、寿命、健康寿命、エイジズム、家族、居住形態、ライフ・サイクル、就業など高齢者の生活の様相について、主に客観的な側面から講義し、高齢（化）社会の全体像を明らかにする。		3 人口高齢化、高齢化社会、エイジング及びエイジズム（Agism）とはどういう現象か
評価方法	試験、出席、レポートなどの合計点による		4 人口高齢化の要因と地域的偏在及びそこに生起する問題について
テキスト参考文献	テキスト：小笠原祐次『高齢者福祉』（新版）有斐閣、2002		5 高齢者と家族 高齢者のいる家族構成の縦断的横断的变化
			6 老親子の居住形態について、老親と子どもの生活の統合と分離及び家族機能の変化
			7 ライフサイクル（家族周期）と老年期 ライフサイクルとはどういう現象か
			8 ライフサイクル（家族周期）と老年期 日本における戦前と現在の比較について
			9 高齢者と生涯学習、社会参加 退職後の社会参加・余暇活動等について
			10 高齢者と生計 高齢者の生計をとりまく経済状況について
			11 高齢者と就業・雇用 労働力の高齢化と経済社会の動向
			12 高齢者の就業意向と定年退職 シルバー人材センター等の高年齢雇用対策

01科目名	高齢化社会論 b	担当者	奥山正司
-------	----------	-----	------

03科目名	高齢化社会論 b	担当者	奥山正司
-------	----------	-----	------

講義目的および講義概要	講義の目的 現代社会が、情報化、国際化、高齢化の社会であるといわれてから久しい。本講義では、その高齢化や加齢（エイジング）という現象を通して、高齢者保健・福祉サービスにどのような変化が生じているのかを明らかにしていくことをねらいとする。	授業計画	1 講義の説明と医療・保健・福祉に関する専門用語の説明
	講義概要 老年期における高齢者の社会生活の変化及び高齢者福祉、老後保障などについて学ぶ。		2 高齢者と保健・医療・福祉に関する専門用語の説明
	各講義では、老人福祉、老後保障、介護保険など日本の高齢者保健・福祉についての制度・政策及び具体的なサービスについて講義し、高齢（化）社会の全体像を明らかにする		3 老人福祉の歴史（1） 明治期以前の老人福祉
評価方法	試験、出席、レポートなどの合計点による		4 老人福祉の歴史（2） 明治期の恤救規則と昭和初期の救護法
テキスト参考文献	テキスト：小笠原祐次『高齢者福祉』（新版）有斐閣、2002		5 戦後の老人福祉対策 福祉六法成立期と老人福祉法
			6 高齢者の保健・医療 老人保健法と老人の医療
			7 高齢者の在宅サービス ホームヘルプサービス、デイサービスなど
			8 高齢者の施設サービス 特別養護老人ホーム、老人保健施設の推移
			9 高齢者と介護保険（1） 介護保険法の制度と内容
			10 高齢者と介護保険（2） 介護保険法と利用者、問題点など
			11 高齢者と社会保障・財政支出 老後生活と年金、医療保障
			12 諸外国の高齢者福祉対策 北欧諸国と英国、米国の高齢者対策

98科目名	社会学	担当者	有吉広介
-------	-----	-----	------

01科目名	社会学(通年)	担当者	有吉広介
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>講義目標</p> <p>現代社会の問題は、18世紀後半に起こった産業革命に端を発し、現在も進行する産業化、そして20世紀後半に生れた脱工業化やグローバル化、さらにこれらが引き起こした社会構造の変化と大いに関係がある。講義では、このような諸点から、現代のわれわれの日常生活にみられる諸変化と、そこに起こる様々な社会問題とを考える。</p> <p>講義概要</p> <p>豊かでゆとりある生活の実現とか、余暇の確保とかがテーマになる時代に、現実には、職場では能力主義的管理体制の下にサービス残業が行われ、過労死までもかみられる。そこには、日本社会の特殊性もあるが、市場原理に結びついた産業化の論理が社会や文化に浸透し、これらを変えてきた事情がある。核家族化、組織の官僚制化、都市化、流動化社会、学歴社会、高齢化と少子化、そしてグローバル化などもそうした社会変化の流れのなかで起こる。講義では、産業化が職業上の問題を含めて、多くの社会問題をどのように作りだしていくのかを説明する。</p> <p>単位を落とした者も継続履修、あるいは次年度再履修してもよい。</p>	授業計画	1 産業社会の出現と社会学の関心
			2 世俗化と合理化
			3 都市化とコミュニティの衰退
			4 近代産業社会における工場制生産の仕組み
			5 中央集権化と民主化
			6 組織の官僚制化
			7 産業社会の基本構造
			8 脱工業社会の到来
			9 職業の社会構造(その1)
			10 同(その2)
			11 社会のグローバル化
			12 前期講義のまとめ
評価方法	期末に行う定期試験の結果による。		
テキスト参考文献	講義では毎回、要点をまとめたプリントを配る。参考文献は毎回紹介する		

01科目名		担当者	
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>講義の目標および概要</p> <p>社会学(前期)および社会学aと同じであるが、より具体的な問題を取りあげる。</p> <p>単位を落とした者は次年度再度履修してもよい</p>	授業計画	1 産業社会における教育の構造
			2 日本の近代化と教育の構造
			3 社会階層：不平等の構造
			4 その続き
			5 流動化社会の現実
			6 日本の階層構造
			7 少子・高齢化社会
			8 高齢化社会の諸問題
			9 少子社会の諸問題
			10 グローバルな不平等構造
			11 その他グローバル化に伴う社会的現象
			12 まとめ
評価方法	期末に行う定期試験の結果による。		
テキスト参考文献	講義では毎回、要点をまとめたプリントを配る。参考文献は毎回紹介する		

98科目名	法学	担当者	野村武司
-------	----	-----	------

01科目名	法学(通年)	担当者	野村武司
-------	--------	-----	------

03科目名	法学a	担当者	野村武司
-------	-----	-----	------

春学期授業計画

<p>&lt;講義目的および講義概要&gt;          現代社会において法は重要な機能を果たしている。それが社会でしばしば起る紛争の解決に有意義な手段を提供していることはいままでのない。また、そうした法があるから、違法な行為を差し控えるということがあるかもしれない。一方、日常生活レベルではあまり法は関係がないような気もするが、法に根拠づけられた許認可等の規制がなされていることで滞りなく生活ができるという側面も見のがすことはできない。そして、政策を遂行するための法もある。こうした法の機能を念頭に置きながら法の仕組みを素描できればと考えている。</p> <p>講義では、法および法学についてのイントロダクションを経た後、具体的な問題も取り入れながら、憲法と人権、行政と法、市民生活と法、企業および経済生活と法、犯罪と法、国際社会と法のそれぞれの分野、さらに裁判・裁判制度及び紛争解決の法について概観する。講義形式を基本とし、ときに指名をし質問をすることがあるが、答えることに遠慮をする必要はない。</p> <p>&lt;評価方法&gt;          原則として定期試験による。</p> <p>&lt;テキスト・参考文献&gt;          開講時および随時指示する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション 法とは何か(1)</li> <li>2. 法とは何か(2)</li> <li>3. 法の歴史と法構造</li> <li>4. 日本法の特質</li> <li>5. 法の諸分野 憲法と人権(1)</li> <li>6. 憲法と人権(2)</li> <li>7. 人権保障と統治機構(1)</li> <li>8. 人権保障と統治機構(2)</li> <li>9. 行政と法(1)</li> <li>10. 行政と法(2)</li> <li>11. 市民生活と民法(1)</li> <li>12. 市民生活と民法(2)</li> </ol>
--	---

01科目名		担当者	
03科目名	法学b	担当者	野村武司

秋学期授業計画

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 市民生活と民法(3)</li> <li>2. 企業と法(1)</li> <li>3. 企業と法(2)</li> <li>4. 経済生活と法(1)</li> <li>5. 労働者と法</li> <li>6. 犯罪と法(1)</li> <li>7. 犯罪と法(2)</li> <li>8. 国際社会と法</li> <li>9. 法と救済 裁判および裁判所の仕組み</li> <li>10. 裁判手続の法(1)</li> <li>11. 裁判手続の法(2)</li> <li>12. まとめ</li> </ol>
---



98科目名		担当者	
-------	--	-----	--

01科目名	日本国憲法（通年）	担当者	加藤一彦
-------	-----------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>憲法学の内、人権分野を中心に講義する。 毎回事例を紹介し、学説・判例の習得を目指す。 人権の大切さが理解できれば、十分である。 なお、六法は必携（出版社は問わない）。 出席は一切とらない。</p>	授業計画	1	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の説明</li> <li>2. 六法の使い方／憲法総論</li> <li>3. 日本憲法史／憲法の三大原理</li> <li>4. 人権総論／人権の享有主体性</li> <li>5. 法の下での平等</li> <li>6. 精神的自由権（1）信教の自由</li> <li>7. 精神的自由権（2）学問の自由</li> <li>8. 精神的自由権（3）表現の自由／総論</li> <li>9. 精神的自由権（4）報道の自由</li> <li>10. 精神的自由（5）プライバシー権</li> <li>11. 精神的自由（6）結社の自由</li> <li>12. 予備日。</li> </ol>
	評価方法		2回の定期テストの総合評価。	
	テキスト参考文献		加藤・植村編著『現代憲法入門講義』（北樹出版） 芦部ほか編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣）	

01科目名		担当者	
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要		授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>13. 経済的自由（1）</li> <li>14. 経済的自由（2）</li> <li>15. 人身の自由</li> <li>16. 社会権（1）総論</li> <li>17. 社会権（2）生存権</li> <li>18. 社会権（3）教育権</li> <li>19. 平和主義（1）</li> <li>20. 平和主義（2）</li> <li>21. 選挙権（1）総論</li> <li>22. 選挙権（2）選挙の憲法原則</li> <li>23. 選挙権（3）判例研究</li> <li>24. 予備日</li> </ol>
	評価方法		
	テキスト参考文献		

98科目名	現代文化論	担当者	柴崎信三
-------	-------	-----	------

01科目名	現代文化論 a	担当者	柴崎信三
-------	---------	-----	------

03科目名	現代文化論 a	担当者	柴崎信三
-------	---------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>「文化」がかかわる領域はきわめて多様で多彩な広がりをもっている。言葉や習慣、衣食住といった個人の暮らしに直接かかわるものから、芸術や思想・宗教といった人間の内面を動かす抽象的な価値にとどまらず、例えば企業や社会を支えるルールや価値観などもそれぞれの地域や民族、歴史といった空間的、時間的な制約の下で異なった表情をのぞかせる。現代は異なった文化を統合する大きな文明のうねりが広がる一方で、その対立や葛藤が広がる時代だろう。</p> <p>この前期の授業ではいま世界秩序を支配する「新しい帝国」として登場した米国が広げるグローバル化の大きな波を巡って、その文化的な統合と反発のかたちをさまざまな領域に探り、日本を含めた世界が直面する問題を考える。政治、経済、ビジネスを含めた社会システムやモラルのあり方などにも踏み込んで考察をすすめた。</p>	授業計画	1 はじめに 「9/11」以降の世界をどうみるか	
	評価方法		期末の定時試験の成績に、講義の中で求めるレポートの実績を加味して評価する。	2 米国という鏡 その成り立ち
			テキスト参考文献	特に指定しない。参考文献を各回講義で紹介し、資料を配布する。
4 米国という鏡 民主主義				
5 米国という鏡 覇権と市場				
6 冷戦後の世界 国際関係				
7 冷戦後の世界 ビジネス				
8 冷戦後の世界 国家				
9 冷戦後の世界 消費				
10 冷戦後の世界 民族				
11 冷戦後の世界 大衆文化				
12 まとめ				

01科目名	現代文化論 b	担当者	柴崎信三
-------	---------	-----	------

03科目名	現代文化論 b	担当者	柴崎信三
-------	---------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>社会制度や人々の価値観の変容と、ビジネスモデルから大衆文化にいたる表象を通して日本型システムと日本が発信する情報が世界にどんな影響をもたらしたかを考える。</p> <p>近代の日本は「脱亜入欧」をスローガンに欧米モデルの近代化を急いできたが、その結果として敗戦という国家の破綻と経済大国としての成功を経験した。ここでは日本型システムとよばれる固有の社会のしくみや人々の価値観が、時に高いパフォーマンスをもたらし、時に手痛いダメージにつながった。</p> <p>後期の授業ではこの「日本」というモデルを政策決定や競争システム、共通の価値観や芸術表現の推移など、異なった角度からとらえ、構造改革などで現在直面する問題のありかを探りながら、世界における文化の特殊性と普遍性という二重化された構造を学んでいきたい。</p>	授業計画	1 はじめに 日本問題への視点	
	評価方法		期末の定時試験の成績に、講義の中で求めるレポートの実績を加味して評価する。	2 日本システム 起源
			テキスト参考文献	特に指定しない。参考文献を各回講義で紹介し、資料を配布する。
4 日本システム 再構造化				
5 日本システム 成功				
6 日本システム 破綻と再生				
7 日本の表象と世界 (脱亜入欧)				
8 日本の表象と世界 (集団主義・天皇制)				
9 日本の表象と世界 (トヨタとSONY)				
10 日本の表象と世界 (礼賛とパッシング)				
11 日本の表象と世界 (消費・家族・表現)				
12 まとめ				

98科目名	文化人類学	担当者	井上兼行
-------	-------	-----	------

01科目名	文化人類学 (通年)	担当者	井上兼行
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	文化人類学は、現在急速に消えつつある、'未開'と呼ばれてきた社会の文化を、異文化として理解しようとする学問である。a.においてはこの学問の形成の歴史、対象、方法などを概括的に学ぶ。	授業計画	1 としな学問か	
			2 本の紹介	
			3 前史 (1)	
	4 前史 (2)			
	5 前史 (3)			
	6 文化人類学の誕生へ			
	7 対象としての'文化'の概念 (1)			
	8 対象としての'文化'の概念 (2)			
	9 初期の視点 — 歴史的視点			
	10 視点の変化 — 現在の視点へ			
評価方法	定期試験期間中の試験により評価。			11 方法としての実地調査 (1)
テキスト参考文献	テキストはなし。参考文献は随時紹介する。			12 方法としての実地調査 (2)

01科目名		担当者	
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	a. で学んだ事例を基礎に、'未開'文化の事例を具体的に示し、それをどのように理解するかを学ぶ。またそれを通してわれわれの文化にも検討を加えようことを学ぶ。事例としては'婚嫁・家族・親族' '儀礼' '時間認識' などを取り上げようと考えている。	授業計画	1		
			2		
			3		
			4		
			5		
			6		
			7		
			8		
			9		
			10		
	評価方法		定期試験期間中の試験により評価。		11
	テキスト参考文献		テキストはなし。参考文献は随時紹介する。		12

98科目名	心理学	担当者	増田直衛
-------	-----	-----	------

01科目名	心理学（通年）	担当者	増田直衛
-------	---------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	心理学とはどんな学問なのでしょう。おそらく多くの人々にとっては、心理学というとTVや雑誌に登場してくる性格診断やフロイトの精神分析学を思いおこすと思います。もちろん、このような分野も心理学の一部ではありますが、それらはほんの一部分なのです。心理学は人間や動物の行動を科学的に研究することで「心」を理解しようとしてきました。そして行動を個体と環境との相互作用としてとらえようとしています。 ここでは、個体がいかに環境からの情報を得て行動しているのか、知覚、認知を中心に講義をします。 VTRなどAV資料を使って具体的に理解できるようにここがけます。 心理学a（知覚・認知）のみでも完結した講義スタイルをとりますが、心理学b（行動・個性）とあわせて受講すると理解は一層深まります。	授 業 計 画	1 心理学では心をどのように理解しようとしたか
			2 個体と環境 心理学のもののとらえ方
			3 物理的世界と心理学的環境
			4 感覚の世界
			5 主観のものさし
			6 まとまりのある知覚世界（1）
			7 まとまりのある知覚世界（2）
			8 認知的判断
			9 判断と意志決定
			10 態度の形成とダイナミクス
			11 社会的現実の構築
			12 まとめ
評価方法	定期テストと、随時行う出席調査をかねる小レポートなどによります。		
テキスト参考文献	テキストは特に指定しません。 講義中に参考になる図書をそのつど紹介します。		

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	心理学とはどんな学問なのでしょう。おそらく多くの人々にとっては、心理学というとTVや雑誌に登場してくる性格診断やフロイトの精神分析学を思いおこすと思います。もちろん、このような分野も心理学の一部ではありますが、それらはほんの一部分なのです。心理学は人間や動物の行動を科学的に研究することで「心」を理解しようとしてきました。そして行動を個体と環境との相互作用としてとらえようとしています。 ここでは、環境に適応して生きていくためにどのような行動するか、動物も含めて行動変容のダイナミクスを講義します。個性をどのように理解し、それはどのように形成されてくるのか考えます。 VTRなどAV資料を使って具体的に理解できるようにここがけます。 心理学b（行動・個性）のみでも完結した講義スタイルをとりますが、心理学a（知覚・認知）とあわせて受講すると理解は一層深まります。	授 業 計 画	1 行動を理解するために
			2 環境への適応様式
			3 生得的行動・獲得的行動
			4 遺伝的に規定された行動
			5 行動の変容（1）レスポナント行動
			6 行動の変容（2）オペラント行動
			7 行動分析学とその応用
			8 個性をどのように理解するか
			9 個性をいかに測定するか
			10 パーソナリティのダイナミクス
			11 個性はどのように発達するのか
			12 まとめ
評価方法	定期テストと、随時行う出席調査をかねる小レポートなどによります。		
テキスト参考文献	テキストは特に指定しません。講義中に参考になる図書をそのつど紹介します。		

9 8 科目名	歴史学 (日本史)	担当者	櫻井彦
---------	-----------	-----	-----

0 1 科目名	歴史学 (日本史) (通年)	担当者	櫻井彦
0 3 科目名		担当者	

講義目的および講義概要	鎌倉時代末期，西国を中心に行動を活発化させた「悪党」は，当時の政治・社会・経済といった諸側面の矛盾が表面化したものとして，早くから研究対象とされてきた。しかしそこに内在する諸問題が極めて広範であるために，各研究者によって切り口は様々である。そこで本講座では，多彩な「悪党」研究の蓄積を，近年の研究者を中心に，研究者ごとに整理して概観することにより，当該期「悪党」の姿を浮き彫りにする。	授 業 計 画	1 戦前の「悪党」研究①
			2 戦前の「悪党」研究②
			3 戦前の「悪党」研究③
			4 黒田俊雄
			5 網野善彦
			6 小泉宜右
			7 佐藤和彦
			8 新井孝重
			9 渡邊浩史
			10 海津一朗
評価方法	講座内容に則した試験の結果に，出席状況を加味して評価する。		11 小林一岳
テキスト参考文献	講座中に随時指示，もしくは配布する。		12 「悪党」研究の現在

0 1 科目名		担当者	
0 3 科目名		担当者	

講義目的および講義概要	鎌倉時代末期，西国を中心に行動を活発化させた「悪党」は，当時の政治・社会・経済といった諸側面の矛盾が表面化したものとして，早くから研究対象とされてきた。しかしその姿は一様ではなく，各地の「悪党」ごとに様々な側面を見せている。そこで本講座では，具体的な「悪党」事件を史料に基づいて掘り下げることにより，当該期「悪党」が直面した諸問題について考える。素材としては，近衛家領丹波国宮田荘を取り上げる。	授 業 計 画	1 宮田荘の研究史
			2 近衛家領荘園について
			3 宮田荘の悪党①
			4 宮田荘の悪党②
			5 宮田荘の悪党③
			6 宮田荘の悪党④
			7 宮田荘の悪党⑤
			8 宮田荘の悪党⑥
			9 宮田荘の悪党⑦
			10 宮田荘の悪党⑧
評価方法	講座内容に則した試験の結果に，出席状況を加味して評価する。		11 宮田荘の悪党⑨
テキスト参考文献	講座中に随時指示，もしくは配布する。		12 宮田荘の悪党⑩

98科目名	歴史学（日本史）	担当者	新宮譲治
-------	----------	-----	------

01科目名	歴史学（日本史）（通年）	担当者	新宮譲治
-------	--------------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>〔講義目的〕</p> <p>幕藩体制の崩壊過程から明治維新を経て、自由民権運動の高揚と政府の対応までの歴史を追って、その後の日本社会を長く（かなりの程度、現代まで）しばった「維新の変革」とは何であったかを考える。</p> <p>〔講義概要〕</p> <p>①徳川幕藩体制を支える村の生活。          ②百姓一揆とその変質。          ③明治維新政権の成立と中央集権体制への歩み。とりわけ「地租改正」の意義。          ④自由民権運動とその変質。          ⑤明治維新と日本の近代。</p>	授業計画	1 徳川幕藩体制下の農村。
			2 本百姓体制の変質。
			3 百姓一揆とその変質。
			4 世直し騒動（武州一揆など）。
			5 日本近代の特質と現代。
			6 地租改正の経過。
			7 地租改正と日本の近代。
			8 自由民権運動のはじまり。
			9 私擬憲法を中心にみた自由民権。
			10 独逸学協会結成前後。
評価方法	論述テストによる。		11 大日本帝国憲法制定への動向。
テキスト参考文献	『日本史概説講義案』（1）。新宮譲治『戦争碑を読む』光陽出版社。齊藤博『民衆史の構造』新評論社。		12 「明治維新」と日本の近代化。

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>〔講義目的〕</p> <p>明治維新によって開かれた日本の近代は、自由民権という近代市民革命の様相を呈したデモクラシー要求実現を目指す民衆運動がみられたにもかかわらず、欧米とも、アジアとも違う歴史発展の途を歩んだ。日本の近代とはいかなる特殊性をもつか、またその現代的意味を考える。</p> <p>〔講義概要〕</p> <p>①幕末徳川封建体制の動揺、明治維新への胎動。          ②新政権の中央集権化への取り組み、特に地租改正がその後の日本の資本主義経済発展に与えた影響。          ③自由民権運動と政府の憲法制定への動向。          ④明治憲法体制下の日本。          ⑤日本近代の特質と現代。</p>	授業計画	1 明治維新について。
			2 地租改正の意義。
			3 文明開化と福沢諭吉。
			4 自由民権運動と大日本帝国憲法。
			5 国民国家としての明治憲法体制。
			6 日清戦争と三国干渉。
			7 資本主義経済の発展。
			8 日英同盟と国際的地位の向上。
			9 日露戦争。
			10 韓国併合（日本の植民地支配）。
評価方法	論述テストによる。		11 日本資本主義発達史論争。
テキスト参考文献	『日本史概説講義案』（2）。新宮譲治『戦争碑を読む』光陽出版社。齊藤博『民衆史の構造』新評論社。		12 日本近代化の特質。

98科目名	歴史学（東洋史）	担当者	熊谷哲也
01科目名	歴史学（東洋史）（通年）	担当者	熊谷哲也
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>（講義の目的） 西アジアの歴史について講述する。イスラーム世界の歴史を知ることにより、彼らが何を規範とし、何に価値を置き、何を理想として求めてきたかを考えてみたい。</p> <p>（講義概要） 7世紀における預言者ムハンマドの出現から16世紀にいたるまでの歴史を概観し、イスラーム教が拡大して広大なイスラーム世界が形成されるまでを理解する。宗教、社会、文化についての基本的な知識も学ぶ。</p>	授業計画	1 イスラームにかんする基本事項について説明する。オリエンテーションをかねる。
			2 イスラーム教の誕生以前の世界について考える。
			3 預言者ムハンマド（マホメット）の出現と、その時代背景について考える。
			4 最初の4人のカリフ（正統カリフ）の時代について。第一次内乱、シーア派の出現を理解。
評価方法	毎回出席をとる。期末に筆記試験。		5 ウマイヤ朝の歴史。ヴェルハウゼンの古典理論における「アラブ帝国」の意味を検討する。
			6 アッバース朝の歴史。「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への移行の意味を検討する。
テキスト参考文献	とくにさだめない。		7 啓示の書であるコーラン、預言者の言行録であるハディース、それらの解釈をめぐって。
			8 アッバース朝時代から発達したアラビア科学と、中世におけるイスラーム神秘主義。
			9 アッバース朝の弱体化に伴い、各地に出現した軍事政権とその展開について概観する。
			10 マムルーク朝について。とくにイクター制が西欧の封建制と比較される点を検討する。
			11 ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係。レコンキスタ、十字軍、大航海時代など。
			12 同 その2

01科目名		担当者	
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>（講義の目的） イスラームは今日の国際情勢を読むための主要なキーワードであるが、その鍵を解くためにも、彼らの歴史を理解することはとても大切である。皆さんの視野が広がることを目標とする。</p> <p>（講義概要） 後期はイスラーム世界の近代化の歴史を地域別・テーマ別に考察する。今日イスラームがかかわるさまざまな国際関係についても、理解が深められるよう留意したい。</p>	授業計画	1 オスマン朝の成立と発展について。「完成されたイスラーム国家」の定義も検討する。
			2 欧米列強による帝国主義とイスラーム世界とのさまざまな関係について概説する。
			3 西洋の衝撃によってイスラーム世界の内部にあらわれた改革運動の起こりとその内容。
			4 さまざまなイスラーム改革運動、ネオ・スーフイズムなどの問題について考える。
評価方法	毎回出席をとる。期末に筆記試験。		5 エジプトの近代化とその過程について考える。
			6 トルコの近代化とその過程について。トルコナショナリズムとパン・イスラミズムの理解。
テキスト参考文献	とくにさだめない。		7 近代化がイスラーム世界の人々の生活と信仰におよぼした影響とゆくえんについて考察する。
			8 知識人階層であるウラマー、宗教的寄進であるワクフなど、イスラーム社会について検討。
			9 近・現代のアラブ世界の文化について考える。
			10 今世紀のイスラーム世界について考える。マイノリティの問題もとりあげる。
			11 現在のアラブ諸国のかかえる問題、東西冷戦終結後における欧米諸国との関係を考える。
			12 まとめをおこなう

9 8 科目名	哲学	担当者	谷口郁夫
---------	----	-----	------

0 1 科目名	哲学 (通年)	担当者	谷口郁夫
---------	---------	-----	------

0 3 科目名		担当者	
---------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>前後期を通じてのこの講義の課題ですが、まず自分の頭で考えることを要請します。哲学は知識の集成ではありません。知識はもちろん必要ですが、いわゆる哲学者の思想を覚えることに大した意味はありません。まず、ひとりひとりがどう考えるかが重要です。講義では、多くの思想家の思想を取り上げますが、それはあくまでも考えるための契機に過ぎません。</p> <p>前期は、欧米人の最も基本的な考え方がどのようなものであるのか、それはどこから来ているのか、について考えます。古代ギリシャ・キリスト教から現代まで、駆け抜けますが、テーマは一貫して、『自己』についてです。</p>	授業計画	1 『ソクラテスの弁明』『パイドン』『クリトン』を通じて表明される、ソクラテスの死の思想。	
	評価方法		各学期終了時に試験を行ないます。	2 前回到引き続き、ソクラテスが自らの死に対して、いかに振舞ったかを考えます。
			テキスト参考文献	プリントは講義担当者が準備します。HP を開設し、参考文献はそちらから配布します。
				4 ギリシャ思想・キリスト教がどのようにして西洋の個人主義の源流となっているかを考察します。
			5 デカルト『方法叙説』を取り上げます。	
			6 パスカル『パンセ』を取り上げます。	
			7 カントの道徳思想を取り上げ、併せて、西洋哲学とキリスト教との関係を考察します。	
			8 ルターとキルケゴールを取り上げ、さらに個人主義と「孤独」について考えます。	
			9 フォイエルバッハの『キリスト教の本質』を取り上げます。	
			10 サルトルの『実存主義とは何か』を取り上げ、現代人の孤独、不安、人間の本質の考察。	
			11 前回の続き。	
			12 予備、もしくは試験を行ないます。	

0 1 科目名		担当者	
---------	--	-----	--

0 3 科目名		担当者	
---------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>手法は前期と変わりませんし、テーマも『自己』であることに変わりはありません。ただし、視点が変わります。歴史的状況のなかで考える、という視点になります。</p> <p>まず問わなければならないのは、歴史哲学は可能か、ということになります。つまり、歴史のなかには何らかの必然性なり、論理なりを見出すことは可能だろうか、ということです。</p> <p>「人類の歴史」という視点で、文字に書かれた歴史という意味では、たかだか3000年に過ぎません。いわば我々はその3000年目に置かれているのです。もし我々が歴史のなかには必然性を読み取ることが可能だという立場に立つなら、未来は予見可能になります。不可能だという立場に立つなら、我々は混沌の只中に立つことになります。</p>	授業計画	1 仏教・キリスト教・イスラム教の歴史観	
	評価方法		各学期終了時に試験を行ないます。	2 アウグスティヌス『神の国』に見られるキリスト教的歴史観について
			テキスト参考文献	プリントは講義担当者が準備します。HP を開設し、参考文献はそちらから配布します。
				4 ヘーゲルの『歴史哲学講義』歴史哲学の可能性について
			5 前回の続き	
			6 マルクスの唯物史観	
			7 前回の続き	
			8 ショーペンハウアーの悲観論的哲学について	
			9 ニーチェの超人論とその時代背景・および影響について	
			10 19世紀後半から20世紀前半の歴史的事象の考察	
			11 20世紀後半の歴史的事象の考察を通じて、歴史哲学の可能性を探ります。	
			12 予備、もしくは試験を行ないます。	



98科目名	哲学	担当者	松丸壽雄
-------	----	-----	------

01科目名	哲学(通年)	担当者	松丸壽雄
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>実地に現代の諸問題の根元を把握し、これらの諸問題に対処する立場と方法を検討し、解決の可能性をディスカッションを通して思索する。実践的な応用哲学を学習する。みずから問題の根源を見つけだし、みずから考究する態度を身につけるべく、課題が与えられて、それを小グループで討議し、解決の方向を検討する講義である。</p> <p>前期は愛が中心テーマになるが、恋愛だけでなく幅広く考えよう。</p> <p>ディスカッションにまじめに参加する気のない学生はこの授業を登録しても無意味ばかりでなく迷惑である。したがって、ディスカッションができる範囲の学生数に止めるために、初回に人数制限を行う。</p>	授業計画	1 概要説明と人数調整
			2 グループ分け
			3 愛についての諸見解の説明
4 小グループディスカッション			
5 全体ディスカッション			
6 愛にかかわるビデオ(1)と説明			
7 小グループディスカッション			
8 全体ディスカッション			
9 愛にかかわるビデオ(2)と説明			
10 小グループディスカッション			
11 全体ディスカッション			
12 調整日			
評価方法	討議への参加回数と試験評価 (最低2回のディスカッション出席が単位取得必要条件)		
テキスト参考文献	講義中に指示することもある		

01科目名		担当者	
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>実地に現代の諸問題の根元を把握し、これらの諸問題に対処する立場と方法を検討し、解決の可能性をディスカッションを通して思索する。実践的な応用哲学を学習する。みずから問題の根源を見つけだし、みずから考究する態度を身につけるべく、課題が与えられて、それを小グループで討議し、解決の方向を検討する講義である。</p> <p>後期はさまざまな角度から、生死の問題を扱う。</p> <p>ディスカッションにまじめに参加する気のない学生はこの授業を登録しても無意味である。したがって、ディスカッションができる範囲の学生数に止めるために、初回に人数制限を行う。</p>	授業計画	1 概要説明
			2 グループ分け
			3 「生きる」についてのビデオ(1)と説明
4 小グループディスカッション			
5 全体ディスカッション			
6 「生きる」についてのビデオ(1)と説明			
7 小グループディスカッション			
8 全体ディスカッション			
9 「生きる」についてのビデオ(1)と説明			
10 小グループディスカッション			
11 全体ディスカッション			
12 調整日			
評価方法	討議への参加回数と試験評価 (最低2回のディスカッション出席が単位取得必要条件)		
テキスト参考文献	講義中に指示することもある		

98科目名	文学（日本文学）	担当者	肥田野昌之
-------	----------	-----	-------

01科目名	文学（日本文学）（通年）	担当者	肥田野昌之
-------	--------------	-----	-------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	『古事記』『日本書紀』『風土記』『日本霊異記』などの古文獻を読みながら、古代の神話や説話について概観する。そして古代人の豊かな心をさぐるとともに、その文学的特質を考え、また日本周辺の神話からさらにギリシア神話など世界各地の神話との類似性や世界大拡布の説話との関連性についても言及したい。	授業計画	1 天地創造の神話——記紀を中心として、世界の創成神話についても言及する。
	主として、黄泉国訪問・天の石屋戸・ヤマタのオロチ退治・海幸山幸などの神話について、古代祭式や氏族伝承の問題などと関係させて解説したい。		2 黄泉国訪問——オルベウス型との比較や呪的逃亡譚について
	また、昔話「蛇掬入」「鳥女房」と親近な関連にある三輪山型説話や羽衣説話など、いわゆる異類婚姻譚といわれるものを中心に、広く伝説や仏教説話について考察してみたい。		3 天の石屋戸神話——特に鎮魂祭儀礼との関連について
			4 八俣大蛇退治——ペルセウス・アンドロメダ型との比較や生贖伝説について
評価方法	授業への出席および試験によって決定する。		5 大國主神の神話——通過儀礼および死と復活・ジェソン型についても考える。
テキスト参考文献	プリントを配布 西郷信綱『古事記の世界』（岩波新書）		6 国譲りと天孫降臨——神々と神社について述べ、大嘗祭儀礼との関連
			7 木花之佐久夜毘売——世界各地の死の起源譚についても考える。
			8 海佐知毘古と山佐知毘古そのⅠ——失われた釣針型との比較や準人舞の起源
			9 海佐知毘古と山佐知毘古そのⅡ——蛇女房・竜女説話との関連
			10 異類婚姻譚について、そのⅠ——三輪山型と昔話「蛇掬入」について
			11 異類婚姻譚について、そのⅡ——丹塗矢型（賀茂社縁起）および蟹崎寺縁起
			12 異類婚姻譚について、そのⅢ——羽衣説話（白鳥処女説話）と天人女房

01科目名		担当者	
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	日本の代表的な古典である『万葉集』を講読する。主として作品の背景をなす万葉の時代・万葉人の生活・歴史的事件などについて解説し、教養として必要な「万葉集入門」となるような講義をしたいと思う。	授業計画	1 巻一國歌大鑑番号1番・雄略天皇の歌について考える。
	初期万葉の歴史的の事件を背景として、有間皇子や大津皇子の悲劇・額田王や但馬皇女の恋などについて、その歌とのかかわりで物語風に概説するとともに代表歌人たる柿本人麿や山部赤人についても考察する。また、伝説・説話の歌から東歌・防人歌の問題および山上憶良・大伴家持などの有力歌人についても広く検討してみたい。		2 中大兄の三山歌について、いろいろな角度から考察する。
			3 大津皇子・大伴皇女について、謀反事件を考察しながら、それらの歌を読む。
			4 穂積皇子と但馬皇女の悲恋と歌物語について。
評価方法	授業への出席と試験によって決定する。		5 有間皇子の謀反と歌について、日本書紀を参考にして考える。
テキスト参考文献	授業時プリント 斎藤茂吉『万葉秀歌』上下（岩波新書）		6 柿本人麿とその長歌を中心に読む。
			7 山部赤人「不尺山を望く歌」を中心に読む。
			8 山上憶良とその歌——貧窮問答歌を中心にして——
			9 高橋虫麻呂の伝説歌について——浦島子・菟原処女など——
			10 万葉集の用字法——特に義訓・戲訓など。
			11 東歌についての説明と歌。防人歌についての説明と歌。
			12 大伴家持とその歌について講読する。

98科目名	文学（日本文学）	担当者	福沢健
-------	----------	-----	-----

01科目名	文学（日本文学）（通年）	担当者	福沢健
-------	--------------	-----	-----

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p><b>講義目的</b> 日本文学史は、上代（奈良）・中古（平安）・中世（鎌倉・室町）・近世（江戸）・近代（明治・大正・昭和）に区分される。この講義では上代から中古前期までの代表的な作品を取り上げ、その作品の魅力と時代背景について話す。文学aと文学bは内容的に関連を持つものなので、共に履修することが望ましい。また、受講生が多数にわたる場合、履修者を抽選で定めることがある。</p> <p><b>講義概要</b> 受講生が日本古典文学に触れる機会は、高等学校の古文の時間以外にほとんどなかったと推測されるが、高等学校の古文の評価はよくないのが実情である。しかし、古典を教材ではなく、文学テキストとして読み直してみると、それぞれのテキストの魅力をあらためて見いだすことができるだろう。講義の形態は、1時間に1作品を取り上げ、その抜粋を読んで解説を行なうというかたちとなる。</p>	授業計画	1 はじめに
			2 【上代①】 大王の歌－雄略天皇（万葉集）
			3 【上代②】 神としての天皇－柿本人麻呂（万葉集）
			4 【上代③】 天皇家の神話－日子番能逐々芸命（古事記）
	5 【上代④】 春の愁い－大伴家持（万葉集）		
	6 【中古①】 四海朝宗帰聖王－小野峯守（文華秀麗集）		
	7 【中古②】 王朝の美－紀貫之他（古今和歌集）		
	8 【中古③】 いちはやきみやび－在原業平（伊勢物語）		
	9 【中古④】 幸福な記憶－清少納言（枕草子）		
	10 【中古⑤】 地上世界の天女－桐壺帝・桐壺更衣（源氏物語）		
	11 【中古⑥】 貴種流離の物語－光源氏（源氏物語）		
	12 おわりに		
評価方法	期末試験		
テキスト	特に定めない。プリント配布。		

01科目名		担当者	
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p><b>講義目的</b> 日本文学史は、上代（奈良）・中古（平安）・中世（鎌倉・室町）・近世（江戸）・近代（明治・大正・昭和）に区分される。この講義では中古前期から近世までの代表的な作品を取り上げ、その作品の魅力と時代背景について話す。文学aと文学bは内容的に関連を持つものなので、共に履修することが望ましい。また、受講生が多数にわたる場合、履修者を抽選で定めることがある。</p> <p><b>講義概要</b> 前期の文学aに引き続き、日本文学の代表的なテキストを1時間に1つ取り上げ、その抜粋を読んで解説を行なう。</p>	授業計画	1 はじめに
			2 【中古①】 苦悩の王権－光源氏（源氏物語）
			3 【中古②】 都の崩壊－藤原常行（今昔物語集）
			4 【中世①】 おごれる心－平清盛（平家物語）
	5 【中世②】 華麗なる滅亡－平教経（平家物語）		
	6 【中世③】 乱世と芸術至上主義－藤原定家（新古今和歌集）		
	7 【中世④】 合理主義の誕生－兼好（徒然草）		
	8 【中世⑤】 花の舞－世阿弥（井筒）		
	9 【近世①】 欲望の肯定－井原西鶴（日本永代蔵）		
	10 【近世②】 伝統と革新－松尾芭蕉（奥の細道）		
	11 【近世③】 江戸の華－助六（助六由縁江戸桜）		
	12 おわりに		
評価方法	期末試験		
テキスト	特に定めない。プリント配布。		

98科目名	文学(世界文学)	担当者	野々山ミチコ
-------	----------	-----	--------

01科目名	文学(世界文学)(通年)	担当者	野々山ミチコ
-------	--------------	-----	--------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	スヘインの古典の名作ドン・キホーテを読み名場面やビデオを見ながら解説する。	授業計画	1	ドン・キホーテ
	現代スペイン文学からほガルシア・ロルカの劇「血の婚礼」「ベルナルダ・アルバの家」を取りあげ、ビデオを見ながら解説する。		2	"
			3	"
最後はスペイン内戦からこの文学に与えた影響について考察する。	4		"	
	5		"	
作品の主要部分は、2コマにて配行する。	6		"	
	7		ロルカ「血の婚礼」	
評価方法	出席とレポート。		8	
テキスト参考文献	野々山真輝州著「スペイン内戦と文学」(彰流社)		9	ロルカ「ベルナルダ・アルバの家」
			10	
			11	スペイン内戦と文学
			12	スペイン内戦と文学

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	現代ラテンアメリカ文学の主要な流れ、マジックリアリズムの作品を取りあげる。	授業計画	1	
	作品名と順序は未定。		2	
			3	
同時に評判の映画の鑑賞を行う。	4			
	5			
評価方法	出席とレポート		6	
テキスト参考文献	野々山真輝州著「ラテンアメリカ短編集」(彰流社)		7	
			8	
			9	
			10	
			11	
			12	

98科目名	文学（世界文学）	担当者	宮谷尚美
-------	----------	-----	------

01科目名	文学（世界文学）（通年）	担当者	宮谷尚美
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p><b>講義の目的</b> この講義の目的は、参加する皆さんが「テキストとつきあうことの楽しさ」を味わうことです。皆さんは「文学」にどんなイメージを持っているでしょう？本屋や図書館に溢れかえって愛や死をながながと綴る小説や詩でしょうか？これまで「文学」を敬遠していた人にも、文学をとっても愛している人にも、この講義をとおして新しい「テキスト体験」をしてもらいたいと思います。</p> <p><b>講義概要</b> 折に触れて幅広く文学案内もしますが、中心的に扱うのは19世紀ドイツで編纂された「グリム童話」です。細かく丁寧に読めば読むほど、「テキスト」とは何か、それがメディアとして歴史や社会の中でどのように機能しているかに気付くことでしょう。文学ジャンルとしてのメルヒェンを概説することからはじめ、文学史や文学方法論とも知り合いつつ、グリム童話を素材としてテキストを読み解きます。</p>	授業計画	1 オリエンテーション 「むかしむかしあるところに」	
	評価方法		期末レポート、および出席、授業参加度、授業時間内の感想文を総合して評価します。	2 文学ジャンルとしてのメルヒェンと「グリム童話」 ー 諸学の交差点
			テキスト参考文献	特に定めません。適宜プリントを配布します。
		4 文学を読む方法（2）		
			5 テキストの形成と伝承（1） KHM 11 「兄と妹」	
			6 テキストの形成と伝承（2） KHM 45 「親指小僧」	
			7 テキストの形成と伝承（3） KHM 50 「いばら姫」	
			8 文学テキストの映像化（1） ディズニー映画「眠れる森の美女」	
			9 文学テキストの映像化（2） ディズニー映画「白雪姫」	
			10 テキストの形成と伝承（4） KHM 53 「白雪姫」	
			11 文学テキストの映像化（3） 「スノー・ホワイト」	
			12 まとめ	

01科目名		担当者	
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p><b>講義目的</b> 「文学を読む」とは何を意味するでしょうか？ひとつのテキストから、「翻訳」をすることも、「映画化」することも「読み」の行為です。それを受け取る私たちが生きる現代日本の視点から、グリム童話をもういちど積極的に「読んで」みましょう。そこで新しいテキストと自分とに出会うはずです。</p> <p><b>講義概要</b> まず「オリジナル」テキストを丁寧に読み、それらを翻訳や映像と比較します。その中で、気が付いたことや考えたことを発表形式で担当者に報告してもらいます。メルヒェンが現代日本に生きる私たちにとってどのような意味を持つか、ひとりひとりの参加者が自分の頭と心で自分の視点から積極的に「読む」ことを大切にします。</p> <p>前期科目「文学a」からの継続で履修すると、文学、特にグリム童話について予備知識が得られ、より大きな流れで理解することができますが、半期のみの履修でも構いません。</p>	授業計画	1 オリエンテーション	
	評価方法		期末レポート、および出席、授業参加度、授業時間内の感想文を総合して評価します。	2 現代日本の視点から「白雪姫」を読む
			テキスト参考文献	特に定めません。適宜プリントを配布します。
		4 明治期日本におけるメルヒェンの翻訳を読む（2）		
			5 現代ドイツにおけるメルヒェンの再話を読む KHM 1 「カエルの王さま」	
			6 現代日本の視点から「シンデレラ」を読む（1） ディズニー映画「シンデレラ」	
			7 現代日本の視点から「シンデレラ」を読む（2） KHM 21 「灰かぶり」	
			8 現代日本の視点から「シンデレラ」を読む（3） 映画「エヴァー・アフター」	
			9 現代日本の視点から「シンデレラ」を読む（4） ディズニー映画「シンデレラ II」	
			10 現代日本の視点から「ヘンゼルとグレーテル」を読む（1） KHM 15 「ヘンゼルとグレーテル」	
			11 現代日本の視点から「ヘンゼルとグレーテル」を読む（2） 映画「ヘンゼルとグレーテル」	
			12 まとめ	

98科目名	国語	担当者	飯島一彦
-------	----	-----	------

01科目名	国語（通年）	担当者	飯島一彦
-------	--------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>言語には「話す」「聞く」「読む」「書く」の4つの側面があり、これらがバランス良く習得されていなければ言語を十分に獲得出来たとは言えない。ところが日本の近代教育は学校教育における日本語習得の機会（国語という科目）をゆがませてきた。現在の国語の学習指導要領には明確に上記の4側面の学習が明記されているにもかかわらず、現実にはほとんどの教室で「話す」「聞く」については機能していない。</p> <p>この時間は、日本語の口頭表現の訓練を基本からやりなおすことを主体に、実践的にコミュニケーションの原理を体得して行くことを目標とする。講義は少ない。トレーニングの時間である。</p> <p>毎回の出席と膨大な課題の提出・実践、長大なレポートが求められるので、心して履修すること。なお内容上の必要性から、受講者数の上限を50名とする。</p>	授業計画	1 導入・オリエンテーション 「話す」「聞く」と「考える」
	評価方法		11 コミュニケーションの実践⑦ 再び「話す」「聞く」と「考える」
			12 まとめ
テキスト参考文献	なし		

01科目名		担当者	
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>上記科目（春学期開設）の単位を修得した学生のみ（02年度以前入学生の通年受講者はこの限りにあらず）の受講を許可する。</p> <p>コミュニケーションの基本を獲得すれば、あとはより深い表現力を身につけることが求められよう。</p> <p>ここでいう表現力とは豊かで多彩な言葉、人に伝えることの出来る強い言葉の力である。</p> <p>表現力は自然に身に付くものではない。意図的に獲得していかなければならない。特に「話す」「聞く」ことに関しては意図的なトレーニングを必要とするのである。この科目も様々な方法で表現力を実感し身につけるトレーニングの時間である。</p> <p>毎回の出席と膨大な課題の提出・実践、長大なレポートが求められるので、心して履修すること。</p>	授業計画	1 導入・オリエンテーション 「伝える」こと、「伝わる」こと
	評価方法		11 何が「伝わる」のか？
			12 まとめ
テキスト参考文献	なし		

98科目名	国語	担当者	小島幸枝
-------	----	-----	------

01科目名	国語(通年)	担当者	小島幸枝
-------	--------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	過去の人間の考え方に共鳴したり、未来の人間に語利かけられるのは言葉の力である。しかしことばは、ただ通じればよいというものでもない。人の心を打つ美しいことば、的確な表現、それは確かに才能にもよるが、たゆまぬ努力と訓練によってある程度は習熟できるものである。本講は、社会人予備軍としての大学生の日本語力を培うために、社会の変化に関心をもち、情報の収集および判断力を養うこと、敬語の使い方の修得など、日本語の運用面について講述する。若者の日本語力をつけることを目標とする。 今期は、音声言語表現を中心とし、1分間スピーチの演習や、朗読、敬語の使い方の修得など、日本語の運用面について講述する。日本語力をつけることを目指したい。	授業計画	1 表現者(送り手)と理解者(受けて)のことばにおけるメカニズムを概説	
	評価方法		平常点。(新聞社説要約、800字の作文、読書報告文の提出とともに、毎回、授業開始の前に漢字小テストを課す)	2 音声言語について、文字言語との差異および特徴の認識
			テキスト参考文献	岡田啓助『国語表現法』(おうふう)
			4 日本語の基礎知識—アクセントの特徴	
			5 美しい言葉の条件—正確さと品位をどのように獲得するか	
			6 スピーチ(演習)—互いのスピーチを聞いて評価、および自己採点する	
			7 ディベート(ビデオ鑑賞)	
			8 反省とまとめ	
			9 敬語について(日本語の敬語の特徴と歴史—上代から中世)	
			10 敬語について(同上—中世から現代)	
			11 (12) 文学作品の朗読と批評	
			12	

01科目名		担当者	
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	第2期は、文字言語表現を中心とする。社会人になって書く実用文の実作、相互の交換、添削、手紙文の書き方を学ぶ。日本語の文法を総復習する。	授業計画	1 日本語の文と文章
			2 文の構造
			3 文章の構造
評価方法	第1期に同じ		4 文章の種類
			5 文字言語—文章を書く手順
テキスト参考文献	第1期に同じ		6 主題と題材
			7 材料を集める—説明文、報告文を書く
			8 材料を並べる—アウトラインを作る(効率よく文章を書くために)
			9 文献、資料を用いて文章を補強する
			10 交換。批評しあう。
			11 推敲のポイントを学ぶ
			12 まとめ

9 8 科目名	国語	担当者	千本健一郎
---------	----	-----	-------

0 1 科目名	国語 (通年)	担当者	千本健一郎
---------	---------	-----	-------

0 3 科目名		担当者	
---------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>&lt;目的&gt; 日本人なら日本語を読み書きできるのは当然、と思いこんでいるとしたら危うい。たとえば、自分のメモや日記をつけるだけのことなら問題はない。だが、いったん人に読ませるとなったら、自分勝手に書き散らし、ひとりで納得しているだけではすまなくなる。では、開かれた文章表現法を会得するには何が必要か。ここでは例文を読み、宿題を書くという行為を通して、日本語文章の表現力と読解力の向上をめざす。</p> <p>&lt;概要&gt; 文章を書くうえで心すべきことは正確さ、簡潔さ、それに明快さ。骨組みはこれだけだ。問題は、それをどう実現するかにある。授業では読むべき本を講読、あるいは提示しつつ、自分の考えを過不足なく他者に伝えるための文章表現を追究する。履修者には宿題などの形で、理にかなった読み書きの実際に触れてもらう。本講座では、<small>コンポジション</small>作文の基礎能力養成に主眼を置く。</p>	授業計画	1 ガイダンス。							
	2		3	4	5	6 → 実践的文章論とトレーニング (基礎編)	7	8	9	10
	11		12	まとめ。レポート出題。	レポート提出。					
評価方法	期末に課するレポートによって評価する。									
テキスト参考文献	<p>&lt;テキスト&gt; 随時、提示する。</p> <p>&lt;参考文献&gt; 千本健一郎 『「書く力」をつける本』(三笠書房) 千本健一郎 『「いい文章」の書き方』(三笠書房・知的生き方文庫)</p>									

0 1 科目名		担当者	
---------	--	-----	--

0 3 科目名		担当者	
---------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>&lt;目的&gt; 書く力の源泉は読む力にある。第一、他人の書いたものに興味や関心をもてない人が、なぜ自分の書いたものに他人が目を向けてくれるなどと思えるのだろうか。というわけで、授業ではさまざまな文体、語り口をもった散文を読む。それによって文章の多様な型を知り、発想・表現・知識(情報)の面で学ぶべきものをさぐる。そのうえで書く力は、膨大な模倣の積み重ねから少しずつ得られる、という事実を体験する。</p> <p>&lt;概要&gt; 自分に伝えたいものがなければ、書くということ自体が成り立たない。だがその一方で、伝える内容さえあれば文章は粗雑でもいい、ということにはならない。この二つを両立させてはじめて、文章の名に値するものが生まれるのだ。そのための訓練として毎回、宿題を出す。主題を決め、それについて考えぬき、調べあげ、一字一字刻んでいく集中力と持続力をみがく。この講座では、<small>コンポジション</small>作文の応用力育成に主力を注ぐ。</p>	授業計画	1 ガイダンス。							
	2		3	4	5	6 → 実践的文章論とトレーニング (応用編)	7	8	9	10
	11		12	まとめ。レポート出題。	レポート提出。					
評価方法	期末に課するレポートによって評価する。									
テキスト参考文献	<p>&lt;テキスト&gt; 随時、提示する。</p> <p>&lt;参考文献&gt; 千本健一郎 『「書く力」をつける本』(三笠書房) 千本健一郎 『「いい文章」の書き方』(三笠書房・知的生き方文庫)</p>									



98科目名	国語	担当者	肥田野昌之
-------	----	-----	-------

01科目名	国語(通年)	担当者	肥田野昌之
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	日本語への関心を深め、日本語による表現を豊にしようとするものである。また常用漢字の練習や日本語・日本文学の基本的な知識の学習を通して大学生としての教養を深めたいと思う。  論理的な文章表現の習得を目的とし、文章の構成・段落の問題、表記法、原稿用紙の使い方などの基礎的事項についての講義と実習を行い、文章による効果的な伝達の技能を養うようにしたい。また、日本文学に関連する基本的知識についても言及したい。	授 業 計 画	1 現代社会における文章の機能についての考察とともに文章上達法についても考える。	
			2 「文は人なり」について考えるとともに文章と文体についても言及する。	
			3 豊かな内容とは——物の見方や読書などについて。	
	4 作文を書く(添削と採点)			
	5 作品を返還して、感想や注意事項を述べる。誤字の問題、常体・敬体の混在など。			
	6 教養として能・狂言の入門——熊野・附子など——			
	7 教養としての歌舞伎入門——勸進帳など——			
	8 国語表記の問題——段落の分け方や送りなどが			
	9 原稿用紙の使い方や校正などについても説明する。			
	10 文章を書く			
評価方法	授業への出席と実作によって決定する。			11 黒板に出て、漢字かなづけ・漢字書き取りを行う。
テキスト参考文献				12 ことばと社会について——ことばの乱れや敬語法

01科目名		担当者	
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	日本語への関心を深め、日本語による表現を豊にしようとするものである。また常用漢字の練習や日本語・日本文学の基本的な知識の学習を通して大学生としての教養を深めたいと思う。  論理的な文章表現の習得を目的とし、文章の構成・段落の問題、表記法、原稿用紙の使い方などの基礎的事項についての講義と実習を行い、文章による効果的な伝達の技能を養うようにしたい。また、文字の問題・仮名づかいなど日本語に関する基本的知識についても言及したい。	授 業 計 画	1 文章のさまざま——実用性の濃い文章と芸術性の濃い文章など——	
			2 国語表記の問題・原稿用紙の使い方	
			3 課題作文を書く(添削と採点)	
	4 文章の目的・主題の選定・主題の限定など			
	5 材料の意義・材料の源泉などについて			
	6 材料の順序と構成やアウトラインについて			
	7 文字について			
	8 仮名づかいについて			
	9 標準語と方言について			
	10 手紙の書き方——手紙の形式を中心にして			
評価方法	授業への出席と実作によって決定する。			11 手紙を書く
テキスト参考文献				12 黒板に出て、四字句の完成などを行う。

98科目名	国語	担当者	福沢健
-------	----	-----	-----

01科目名	国語（通年）	担当者	福沢健
-------	--------	-----	-----

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的 および 講義概要	<p><b>講義目的</b> 言語の表現手段には、「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能がある。この4技能のうち、「読む」「書く」に焦点を絞り、さまざまな問題演習を行ないつつ、大学生活において必須となるレポート・論文の書き方を学ぶ。</p> <p><b>講義概要</b> 基本的な概念は講義するが、それを基にした実践、つまり学生諸君の実際の作業が主体となる。具体的には、作業を通して、最終的にレポート（400字詰め7枚以上）を完成させることを目標とする。作業が教室内で完了しない場合は、宿題となることもある。</p>	授業計画	1 前期講義の概要・予告
			2 問題意識
			3 資料検索
			4 序論①
			5 序論②
			6 引用・グラフ・表
			7 本論①
			8 本論②
			9 本論③
			10 結論
評価方法	レポート・平常点（出席・課題の提出状況）		11 注
テキスト	特に定めない。プリントを使用する。		12 前期講義のまとめ

01科目名		担当者	
03科目名		担当者	

講義目的 および 講義概要	<p><b>講義目的</b> 言語の表現手段には、「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能がある。この4技能のうち、「読む」「書く」に焦点を絞り、さまざまな問題演習を行なう。</p> <p><b>講義概要</b> 基本的な概念は講義するが、それを基にした実践、つまり学生諸君の実際の作業が主体となる。具体的には、小論文を書く練習を行ないつつ、日本語検定2級程度に対応できる文章表現能力を身につけることを目標とする。</p>	授業計画	1 後期授業の概要
			2 文章の組み立て①【部分を設けて書く】
			3 文章の組み立て②【文章の定型による構成】
			4 文章の組み立て③【文章構成の原理】
			5 文章の組み立て④【定型がない場合の文章構成】
			6 文章表現①【正しい表現】
			7 文章表現②【わかりやすく書く】
			8 文章表現③【短い文章を書く】
			9 文章を書く①【文章を読んで要旨を捉える】
			10 文章を書く②【論説・議論文を書く】
評価方法	平常点（出席・課題の提出状況）		11 文章を書く③【書簡文を書く】
テキスト	特に定めない。プリントを使用する。		12 後期授業のまとめ

98科目名	地球環境論	担当者	鈴木滋
-------	-------	-----	-----

01科目名	地球環境論	担当者	鈴木滋
-------	-------	-----	-----

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	講義目的 人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題は自然・環境・人間の相互関係の上で発生している。本講義では地球科学・資源環境科学・一般科学技術の立場からその内容の把握を目的とする。さらに、自然科学の持つ客観的な物の見方を養う。	授業計画	1 オリエンテーション：授業概要等の説明
	講義概要 我々の環境は目まぐるしく変化している。その状況を地球規模で、タイムリーに的確に理解するためには、地球環境を自然科学的側面から捉えることが必要である。 講義では、地球環境の変化とその要因として、地球誕生後の地球環境の変遷とその自然のおよび人為的要因について検討する。また、地球環境問題に対する地球環境の位置づけや地球規模の問題として資源と環境がどのような因果関係にあるのか考察する。		2 地球環境とは何か？ 今何が起っているのか？
	評価方法 基本的には定期試験による。		3 地球環境の歴史
	テキスト参考文献 テキスト：特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。 参考文献：講義内容によって、適時指示する。		4 地球環境の構造等：地球という惑星について
			5 地球環境と地球システム
			6 地球環境と資源（I）：資源の特性
			7 地球環境と資源（II）：エネルギー
			8 地球環境と材料：地球材料学とは
			9 地球環境と科学技術：科学技術は地球環境に何をもたらしたか？
			10 環境：地球環境と広域・地域環境との比較
			11 地球環境問題概論
			12 まとめ
			備考：授業の進度により若干の変更がある

01科目名		担当者	
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	講義目的 人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題は自然・環境・人間の相互関係の上で発生している。本講義では地球科学・資源環境科学・一般科学技術の立場からその内容の把握を目的とする。さらに、自然科学の持つ客観的な物の見方を養う。	授業計画	1 オリエンテーション：授業概要等の説明
	講義概要 地球環境問題は国際的な文化・経済・社会等に大きな影響を与えている。この問題を理解し、把握することは、グローバルなものを見方を養うと共に、地球環境の保全に欠かせないと思われる。 講義では、地球環境問題と環境保全として、地球環境問題各論を中心に、地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨などの地球環境に生じる具体的現象、その原因と影響ならびに対策について資源論・環境論を交えて検討する。		2 地球環境問題各論（I）：地球温暖化(a)
	評価方法 基本的には定期試験による。		3 地球環境問題各論（I）：地球温暖化(b)
	テキスト参考文献 テキスト：特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。 参考文献：講義内容によって、適時指示する。		4 地球環境問題各論（I）：オゾン層破壊(a)
			5 地球環境問題各論（I）：オゾン層破壊(b)
			6 地球環境問題各論（I）：酸性雨
			7 地球環境問題各論（II）：海洋汚染
			8 地球環境問題各論（II）：有害廃棄物越境移動
			9 地球環境問題各論（III）：砂漠化、森林減少
			10 地球環境問題各論（III）：野生生物減少、開発途上国公害など
			11 地球環境の保全：文化・経済・社会等の今後のあり方
			12 まとめ
			備考：授業の進度により若干の変更がある

98科目名	数学	担当者	遠藤信
-------	----	-----	-----

01科目名	数学 a・b	担当者	遠藤信
-------	--------	-----	-----

03科目名	数学 a・b	担当者	遠藤信
-------	--------	-----	-----

講義目的および講義概要	<p>講義の目標          経済学は、多かれ少なかれ、数学的な学問である。或る程度の数学の知識がなければ、経済学を学ぶことは難しいと云っても過言ではない。また、経済学でよく使われる基本的な概念が、数学で扱われる問題の特殊な場合であることが多い。この講義では、経済学を学ぼうとする学生にとって必要最小限と思われる基礎的な数学の知識と数学的な考え方を身につけ、学生が経済学をより深く理解できることを目標とする。扱う分野は、線形代数と微分である。</p> <p>講義概要          前期 a では、行列と行列式を講義する。これらは、数学の基礎であるとともに、例えば線形計画法、産業連関分析のように、経済学部の学生が実社会に出て、応用することが多い分野である。</p> <p>後期 b では、微分（常微分と偏微分）を講義する。これは、応用分野が広範であるとともに、経済学の発展の上で極めて重要性をもつものである。</p> <p>定理の証明や公式を導くにあたっては、数学の厳密さよりも分かり易さを第1とし、数学的な考え方を中心に、複雑な計算をできるだけ避けるように心がける。</p>	授業計画	1 行列の定義 行列の演算	
	評価方法		出席状況と授業中におこなう演習での平常点と、授業中におこなう何回かのまとめのテストの成績を総合して成績評価をする。数学では、きちんと出席して、演習問題を解くことが非常に大切なので、欠席の多い者（全授業数の3分の1以上を欠席した者）は単位が取れない。第1回目の授業(bだけの者は後期の第1回目の授業)には必ず出席して、大切な注意事項をよく聞くこと	2 行列の演算
			テキスト 参考 文献	テキスト 特に定めない 参考書の類いは枚挙にいとまがない位ある。授業の際に、適当と思われるものを示す
			4 行列式の定義	
			5 行列式の計算	
			6 行列式の性質	
			7 行列式の性質と行列式の計算	
			8 余因子とその性質	
			9 余因子とその性質	
			10 余因子を用いて逆行列を求める方法	
			11 連立1次方程式 Cramerの公式	
			12 補充とまとめ	

01科目名	数学 a・b	担当者	遠藤信
-------	--------	-----	-----

03科目名	数学 a・b	担当者	遠藤信
-------	--------	-----	-----

講義目的および講義概要	a を参照	授業計画	1 関数と関数の極限
	評価方法		2 関数の極限 関数の連続
			3 微分係数と導関数の定義
テキスト 参考 文献			4 微分法の公式 関数の和、積、商の微分 いろいろな関数形の微分
			5 微分法の公式 関数の和、積、商の微分 いろいろな関数形の微分
			6 chain rule 高次導関数
			7 関数の極大・極小
			8 平均値の定理
			9 偏微分の定義 偏微分の計算
			10 偏微分の計算
			11 微分の社会科学への応用
			12 補充とまとめ

98科目名	地理学	担当者	秋本弘章
01科目名	地理学(通年)	担当者	秋本弘章
03科目名	地理学a	担当者	秋本弘章

講義目的および講義概要	<p>地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。</p> <p>まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、各地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題を取りあげ、地球的視点から検討する。</p>	授業計画	1 オリエンテーション、地理学とはどのような学問か
			2 自然と人間とのかかわり
			3 環境の諸要素(1)
			4 環境の諸要素(2)
			5 環境の諸要素(3)
			6 熱帯地域(1) - 自然的特質と伝統的農業
			7 熱帯地域(2) - アジアの稲作
			8 熱帯地域(3) - 熱帯の開発と問題(1)
			9 熱帯地域(4) - 熱帯の開発と問題(2)
			10 砂漠地域(1) - 自然的特質とイスラム
			11 砂漠地域(2) - 石油資源と近代化
			12 前期のまとめ
評価方法	定期試験および出席状況		
テキスト参考文献	山本正三(他)著『自然環境と文化』大明堂 参考文献は授業中に示す		

01科目名		担当者	
03科目名	地理学b	担当者	秋本弘章

講義目的および講義概要	<p>地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。</p> <p>まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、各地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題を取りあげ、地球的視点から検討する。</p>	授業計画	1 温帯地域(1) 自然的特質
			2 温帯地域(2) 地中海森林地域
			3 温帯地域(3) 温帯混交林地域(ヨーロッパ)
			4 温帯地域(4) 温帯混交林地域(アジア)
			5 温帯地域(5) 新大陸
			6 冷帯地域
			7 冷帯地域・寒帯地域
			8 山地地域
			9 世界の環境問題(1) 人口
			10 世界の環境問題(2) 食料
			11 世界の環境問題(3) 温暖化と砂漠化
			12 まとめ
評価方法	定期試験および出席状況		
テキスト参考文献	山本正三(他)著『自然環境と文化』大明堂 参考文献は授業中に示す		

98科目名	地理学	担当者	犬井正
-------	-----	-----	-----

01科目名	地理学(通年)	担当者	犬井正
-------	---------	-----	-----

03科目名	地理学a	担当者	犬井正
-------	------	-----	-----

講義目的および講義概要	<p>地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、日常生活している環境とは大きく異なる地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。</p> <p>まず、環境の諸要素を概観し、熱帯地域、沙漠地域、亜寒帯針葉樹林地帯、山地地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。</p>	授業計画	1 オリエンテーションー地理学とはどのような学問か
			2 環境の諸要素(1)地形環境
			3 環境の諸要素(2)気候環境
			4 熱帯地域(1)熱帯林と伝統的生活様式
			5 熱帯地域(2)熱帯林の開発と環境問題
			6 沙漠地域(1) 自然的特色と伝統的経済活動、沙漠と世界宗教の起源地
			7 沙漠地域(2) 石油資源と近代化、沙漠の開発
			8 亜寒帯森林地域、タイガの中の生活
			9 ツンドラ地域と氷雪地域
			10 山地地域の自然環境
評価方法	定期試験による		11 山地地域の生活様式
テキスト参考文献	山本正三他著『自然環境と文化』		12 自然環境と文化のまとめ

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	地理学b	担当者	犬井正
-------	------	-----	-----

講義目的および講義概要	<p>近年、全国で「里山保全運動」が広がっている。里山は高度経済成長期前まで、農業や農村生活の再生産を維持し、人と自然の共生関係を育んできた。身近な自然である全国の里山に目を注ぎながら、そのかわりの履歴を読み解いていく。各地の里山で展開してきた二次林文化を明らかにし、里山の豊かさが時空を超えて存在してきたことを明らかにし、「身近な自然を守る」ということはどのような意味をもつのか、里山での文化を、持続可能な社会システムを作る原理として現代の人々が何を学び取るべきかなどを考えていく。</p>	授業計画	1 里山とは何か
			2 里山と雑木林
			3 里山の自然史ー氷期以降の自然
			4 里山と生物の多様性(1)
			5 里山と生物の多様性(2)
			6 里山と農村生活
			7 里山と農業
			8 里山の諸相
			9 里山と二次林文化ー循環型社会の原像
			10 里山の開発ー東洋のアルカディアの崩壊
評価方法	定期試験による		11 里山保全ー身近な自然を守るとは
テキスト参考文献	テキスト：犬井 正『里山と人の履歴』(新思泉社)		12 まとめー市民による里山保全活動

98科目名	精神衛生論	担当者	中野隆史
-------	-------	-----	------

01科目名	精神衛生論 (通年)	担当者	中野隆史
-------	------------	-----	------

03科目名	精神衛生論 a	担当者	中野隆史
-------	---------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>21世紀は心の世紀といわれているが、家庭・学校・職場・地域において心の健康に関連するできごとが大きな社会問題となっている。とくに長引く経済不況下で中高年の自殺が増加し、自殺者は年間2万人から3万人へと激増している。心の健康に関する知識と理解はわれわれが生産的な社会生活を送る上で必須である。本講義では健常者の精神的健康の維持増進のためのストレス対処法やメンタルヘルス不全者への対応など精神衛生(精神保健)の基本的な知識を身につけ、日常の生活の中に生かしていける社会人を育成することを目標とする。</p> <p>精神衛生(精神保健)の概念とその実践の対象から講義を始める。次いで精神保健の理解に必要な精神医学の基本的知識を学ぶ。これらを踏まえて、ライフサイクル(乳幼児期、児童期、思春期・青年期、成人期、老年期)から見た精神保健を考えていく。講義全体を通して、自分の身の回りの問題やマスメディアの報道などを精神保健の視点からとらえ、これらの事例に関する討論を通じて精神保健の知識と理解を深めてゆく。</p>	授業計画	1 オリエンテーション 精神衛生(精神保健)とは何か	
	評価方法		出席点と期末試験の得点を加えて評価する。出席を重視する。	2 精神保健の実践の対象—健常者の精神の健康管理、精神保健不全者への対応、精神障害に対する社会的偏見
			テキスト 参考 文献	テキストはとくに指定しない。必要に応じてプリントを配布する。参考文献は講義の際に紹介する。
			4 精神医学の基本的知識(2) 心因性精神障害 心因反応、神経症(不安障害、身体表現性障害)	
			5 精神医学の基本的知識(3) 内因性精神障害 うつ病(気分障害)、統合失調症	
			6 精神医学の基本的知識(4) 精神科の治療 薬物療法、精神療法、精神科リハビリテーション	
			7 ライフサイクルから見た精神保健(1) 乳幼児期 精神遅滞、分離不安障害、広範性発達障害、幼児虐待	
			8 ライフサイクルから見た精神保健(2) 児童期 不登校、注意欠陥/多動障害、行為障害	
			9 ライフサイクルから見た精神保健(3) 思春期・青年期 家庭内暴力、不登校、いじめ、非行、統合失調症	
			10 ライフサイクルから見た精神保健(4) 成人期 ストレス反応、出社拒否、うつ病、自殺	
			11 ライフサイクルから見た精神保健(5) 老年期 喪失体験、うつ病、自殺、痴呆	
			12 まとめ	

01科目名		担当者	
03科目名	精神衛生論 b	担当者	中野隆史

講義目的および講義概要	<p>21世紀は心の世紀といわれているが、家庭・学校・職場・地域において心の健康に関連するできごとが大きな社会問題となっている。とくに長引く経済不況下で中高年の自殺が増加し、自殺者は年間2万人から3万人へと激増している。心の健康に関する知識と理解はわれわれが生産的な社会生活を送る上で必須である。本講義では健常者の精神的健康の維持増進のためのストレス対処法やメンタルヘルス不全者への対応など精神衛生(精神保健)の基本的な知識を身につけ、日常の生活の中に生かしていける社会人を育成することを目標とする。</p> <p>精神衛生論(健康学)aを踏まえて、生活の場(家族、学校、職場、地域)から見た精神保健を考えていく。さらに、精神障害の予防と精神の健康管理(精神的健康の維持増進)について学ぶ。講義全体を通して、自分の身の回りの問題やマスメディアの報道などを精神保健の視点からとらえ、これらの事例に関する討論を通じて精神保健の知識と理解を深めてゆく。</p>	授業計画	1 生活の場から見た精神保健(1) 家庭の精神保健(1) 夫婦関係、親子関係、妊娠時の出産への不安、育児不安	
	評価方法		出席点と期末試験の得点を加えて評価する。出席を重視する。	2 生活の場から見た精神保健(2) 家庭の精神保健(2) 愛着障害、分離体験、被虐待児童候群、家庭内暴力
			テキスト 参考 文献	テキストはとくに指定しない。必要に応じてプリントを配布する。参考文献は講義の際に紹介する。
			4 生活の場から見た精神保健(4) 学校の精神保健(2) 大学—精神疾患(統合失調症など)、無気力、摂食障害	
			5 生活の場から見た精神保健(5) 職場の精神保健(1) 精神疾患(うつ病、不安障害)、不適応	
			6 生活の場から見た精神保健(6) 職場の精神保健(2) テクノストレス、経済不況と自殺、産業保健サービスシステム、復職システム	
			7 生活の場から見た精神保健(7) 地域の精神保健 地域リハビリテーション、社会復帰のための社会資源	
			8 わが国の精神科医療の現状 入院治療中心から通院治療中心へ	
			9 精神障害の予防と健康管理(1) 心の健康づくり、ストレスとその対処法	
			10 精神障害の予防と健康管理(2)	
			11 精神障害の予防と健康管理(3) 医療システム、保健システム、福祉システム	
			12 まとめ	

98科目名	医療・福祉概論	担当者	藤井賢一郎
-------	---------	-----	-------

01科目名	医療・福祉概論 a	担当者	藤井賢一郎
03科目名	医療・福祉概論 a	担当者	藤井賢一郎

講義目的および講義概要	医療・福祉制度の背景となる、以下のテーマについて講義を行います。	授業計画	1 オリエンテーション
	① 少子高齢化の進展		2 我が国の少子高齢化の進展状況
	② 性役割と育児・介護		3 高齢化の原因
③ 社会保障の給付と負担の動向	4 家族・地域の変貌		
テキストをもとに授業を行いますので、必ず用意してうえで参加してください。	5 ライフスタイルの変化と介護・子育て(1)		
	6 ライフスタイルの変化と介護・子育て(2)		
	7 ライフスタイルの変化と介護・子育て(3)		
	8 女性の労働力率と合計特殊出生率		
	9 社会保障の給付と負担(1)		
	10 社会保障の給付と負担(2)		
	11 社会保障の給付と負担(3)		
	12 まとめ		
評価方法	レポート(電子メールにて受取予定)		
テキスト参考文献	三菱総合研究所『図説 福祉・介護ハンドブック』		

01科目名	医療・福祉概論 b	担当者	藤井賢一郎
03科目名	医療・福祉概論 b	担当者	藤井賢一郎

講義目的および講義概要	医療と高齢者介護の制度に関する、以下のテーマについて講義を行います。	授業計画	1 オリエンテーション
	① 我が国の医療保険制度及び課題		2 医療に関する基礎知識(1)
	② 我が国の介護保険制度及び課題		3 医療に関する基礎知識(2)
テキストをもとに授業を行いますので、必ず用意したうえで参加してください。	4 我が国の医療の特徴と課題(1)		
	5 我が国の医療の特徴と課題(2)		
	6 医療保険制度		
	7 介護保険制度が必要とされる背景(1)		
	8 介護保険制度が必要とされる背景(2)		
	9 介護保険制度の給付と負担		
	10 要介護認定		
	11 各種サービスとケアマネジメント		
	12 まとめ		
評価方法	試験(教科書持ち込み可の予定)		
テキスト参考文献	三菱総合研究所『図説 福祉・介護ハンドブック』		



98科目名	ｽﾎｰｯ・健康論	担当者	和田智
-------	----------	-----	-----

01科目名	ｽﾎｰｯ・健康論 a	担当者	和田智
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p><b>[講義目的]</b> 健康・生涯スポーツの創造に向けて、自己のライフステージや心身の状態に適した運動・スポーツを生活の中に取り入れ、健康で豊かなライフスタイルを形成できる能力を身につけるため、健康・生涯スポーツの考え方・実践のしかたを考える。</p> <p><b>[講義概要]</b> 前期には、我々を取り巻く、自由時間、健康、スポーツなどの現状を把握し、プレー・レジャー論についての文化的視点から、その考え方・価値について話し合う。後期では、健康づくりや楽しみのための運動・スポーツを科学的視点で話し合う。 5名程度のグループにわけ、それぞれのグループでグループレポートをまとめてもらいます。また、いくつかのグループにはプレゼンテーションをしてもらう。 積極的にインターネットを利用するので、ブラウザを操作する・Eメールを送る等の知識はつけておいてください。</p>	授業計画	1オリエンテーション
			2あなたの自由時間の現状
			3レジャーとレクリエーション
			4古典的解釈から知るレジャー
			5人生80年時代のレジャー
			6クオリティオブライフとレジャー
			7自由時間に関わるトピック1
			8自由時間に関わるトピック2
			9自由時間に関わるトピック3
			10学生プレゼンテーション
			11学生プレゼンテーション
			12学生プレゼンテーション まとめ
評価方法	出席状況(40%)、テストの結果(40%)、レポート・プレゼンテーション(20%)で評価する。		
テキスト参考文献	必要に応じて印刷物を配布します。 中野孝次、「清貧の思想」、草思社。 ミヒヤエル・エンデ(大島かおり訳)、「モモ」、岩波書店。		

01科目名	ｽﾎｰｯ・健康論 b	担当者	和田智
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p><b>[講義目的]</b> 健康・生涯スポーツの創造に向けて、自己のライフステージや心身の状態に適した運動・スポーツを生活の中に取り入れ、健康で豊かなライフスタイルを形成できる能力を身につけるため、健康・生涯スポーツの考え方・実践のしかたを考える。</p> <p><b>[講義概要]</b> 前期には、我々を取り巻く、自由時間、健康、スポーツなどの現状を把握し、プレー・レジャー論についての文化的視点から、その考え方・価値について話し合う。後期では、健康づくりや楽しみのための運動・スポーツを科学的視点で話し合う。 5名程度のグループにわけ、それぞれのグループでグループレポートをまとめてもらいます。また、いくつかのグループにはプレゼンテーションをしてもらう。 積極的にインターネットを利用するので、ブラウザを操作する・Eメールを送る等の知識はつけておいてください。</p>	授業計画	1自分の体について知ろう： 身体計測、体力測定についてのガイダンス
			2計測結果をどのように見るか：
			3肥満について
			4運動しないとどのようにになってしまうか
			5運動と栄養について
			6トレーニングについて
			7筋力トレーニングについて
			8エアロビクストレーニング
			9健康・スポーツに関するトピック
			10学生プレゼンテーション
			11学生プレゼンテーション
			12学生プレゼンテーション
評価方法	出席状況(40%)、テストの結果(40%)、レポート・プレゼンテーション(20%)で評価する。		
テキスト参考文献	特になし。		

98科目名	外国書講読	担当者	黒木亮
-------	-------	-----	-----

01科目名	経済・経営外国語Ⅱa	担当者	黒木亮
-------	------------	-----	-----

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<b>講義目標</b> 本講義の目的は、経済学の英語に慣れるだけでなく、理論的な理解を深めることである。丁寧に翻訳をつけ、ゆっくりと文献を読み進めることによって、読解力の向上も目指す。  <b>講義概要</b> あらかじめ担当者を決めず、毎回ランダムに当て、ひとり数行ずつ、できるだけ多くの人に訳出してもらう。  <b>受講者への要望</b> 毎回しっかり予習をし、辞書（例えば小学館『プログレッシブ英和中辞典』）を持参して授業に臨んでください。	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	出席状態、予習の程度、報告（翻訳）内容、期末テスト。		
テキスト参考文献	W. Breit & R. Roger. <i>The Academic Scribblers</i> . 3 <sup>rd</sup> ed., 1998.		

01科目名	経済・経営外国語Ⅱb	担当者	黒木亮
-------	------------	-----	-----

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	aと同じ	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

98科目名	外国書講読	担当者	波形昭一
-------	-------	-----	------

01科目名	経済・経営外国語Ⅱa	担当者	波形昭一
-------	------------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>日本経済がバブル状態にあったのは、今からおおよそ15年ほど前のことに過ぎない。それが今や深刻なデフレ不況に悩んでいる。こうしてみると、経済の先行きなどわかったものではない。とはいえ、座して待つというわけにも行かないのが人間社会である。</p> <p>そこで、本講義では、当時のバブル状況はどうだったのか、それを外国人の目を通して勉強してみようとするものである。テキストは若干古い書物だが、Christopher Woodの“The Bubble Economy”,1992を使うことにした。</p> <p>本書は約200ページからなる書物であり、これを1年間ですべて読み尽くすのは無理なので、Chap.1 Bubble do matterとChap.9 The Economyをとりあげる予定。</p>	授業計画	1 Chap.1 Bubble do matter
			2
			3
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
評価方法	教室での積極性と期末試験の結果を総合して評価する。		
テキスト参考文献	プリントを配布。		

01科目名	経済・経営外国語Ⅱb	担当者	波形昭一
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	同上	授業計画	1 Chap.9 The economy
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	同上		
テキスト参考文献	同上		

98科目名	外国書講読	担当者	益山光央
-------	-------	-----	------

01科目名	経済・経営外国語Ⅱa	担当者	益山光央
-------	------------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	テキサスインスツルメント社製の関数電卓 BA II Plus の英文マニュアルに挑戦する。当然、受講生は電卓を購入し、マニュアルと電卓のセットで受講することとなる。電卓操作をマスターしたあとで、さまざまな経済計算を取り扱う。複利現象と割引現在価値をめぐる諸概念が中心となる。 教材は高価なので、一年通じてじっくり学習することのできる受講生を希望する。	年間授業計画	1 基本操作 1
			2 基本操作 2
			3 基本操作 3
			4 基本操作 4
			5 基本操作 5
			6 基本操作 6
			7 基本操作 7
			8 複利と単利
			9 割引現在価値
			10 投資の限界効率
			11 償還
			12 まとめ 1
			13 まとめ 2
評価方法	出席 30%、質問・コメント 20%、試験 50%		
テキスト参考文献	テキサスインスツルメント社製の関数電卓 BA II Plus のマニュアル		

01科目名	経済・経営外国語Ⅱb	担当者	益山光央
-------	------------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	前期に引続き電卓操作の習得を目的とする。8回目からは受講生に課題を指定するので、その発表を中心にすすめていく。	年間授業計画	1 対数と指数 1
			2 対数と指数 2
			3 三角関数 1
			4 三角関数 2
			5 統計関数 1
			6 統計関数 2
			7 統計関数 3
			8 課題報告 1
			9 課題報告 2
			10 課題報告 3
			11 課題報告 4
			12 課題報告 5
			13 課題報告 6
評価方法	出席 40%、発表 40%、質問・コメント 20%		
テキスト参考文献			

98科目名	外国書講読(ドイツ語)	担当者	大西健夫
-------	-------------	-----	------

01科目名	経済・経営外国語(ドイツ語) II a	担当者	大西健夫
-------	---------------------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	ドイツ語の文献・資料の購読を通じて経済学・経営学におけるドイツ的な考え方が理解できるようになることを目的とする。 経済学の基礎である経済循環図を読み取る作業からはじめて、新聞の記事が読めるように授業を組み立て、指導する。 学期前半は、経済体制に関するテキストを購読するが、学期後半のテキスト選択には学生諸君の希望を取り入れたい。	年間授業計画	1 Wirtschaftskreislauf
			2 Erweiterter Model
			3 Freie Marktwirtschaft
	4 Zentralverwaltungswirtschaft		
	5 Mischformen		
	6 Soziale Marktwirtschaft		
	7 Oekologisch-Soziale Marktwirtschaft		
	8 Wirt.-und Gesellschaftsordnung		
	9 Zeitungsartikel		
	10 Zeitungsartikel		
	11 Zeitungsartikel		
	12 Zeitungsartikel		
評価方法	購読への参加度と期末試験		
テキスト参考文献	最初の授業で配布		

01科目名	経済・経営外国語(ドイツ語) II b	担当者	大西健夫
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	ドイツ語の文献・資料の購読を通じて経済学・経営学におけるドイツ的な考え方が理解できるようになることを目的とする。 経済学の基礎知識である経済循環図を読み取る作業からはじめて、新聞の経済記事を読めるように授業を組み立て、指導する。 学期前半は、経済循環、経済政策に関する内容のテキストを購読するが、学期後半の授業テキスト選択には学生諸君の希望を取り入れたい。	年間授業計画	1 Wirtschaftskreislauf
			2 Erweiterter Model
			3 Waerungspolitik der Zentralbank
			4 Deutsche Bundesbank
			5 Europaeische Zentralbank
			6 Staatshaushalt
			7 Ausgabenpolitik
			8 Steuerpolitik
			9 Zeitungsartikel
			10 Zeitungsartikel
			11 Zeitungsartikel
			12 Zeitungsartikel
評価方法	購読への参加度と期末試験		
テキスト参考文献	最初の授業で配布		

98科目名	外国書講読（中国語）	担当者	全載旭
-------	------------	-----	-----

01科目名	経済・経営外国語（中国語）Ⅱa	担当者	全載旭
-------	-----------------	-----	-----

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	この授業では経済・経営外国語Ⅰ（中国語）を履修し、さらに中国経済に関心のある学生を対象にする。ただし経済・経営外国語Ⅰ（中国語）を履修しなくてもこの授業が履修できる中国語の能力があれば対象にする。授業の内容は履修者の中国語習得レベルに合わせて調整する。 中国政治・経済に関する新聞記事を取り上げて授業を進めるが、必要に応じて講義もする。	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

01科目名	経済・経営外国語（中国語）Ⅱb	担当者	全載旭
-------	-----------------	-----	-----

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	最近の中国経済の動向や日中経済関係などの経済関連記事を選び、それに沿って授業を進める。 講読資料の選択には学生諸君の提案も可能である。	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

98科目名	外国書講読(外国人学生)	担当者	ジム・ブローガン
01科目名	経済・経営外国語(外国人学生)Ⅱa	担当者	ジム・ブローガン
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>初級、中級、上級のいずれかのクラスを受講します。3年生は昨年度の成績に基づいてクラスを指定します。</p> <p>。上級クラスよりも入門クラスの方が宿題(自宅学習)が多くなりますので、クラス分けテストではくれぐれもがんばって下さい。各クラスの授業概要は以下の通りです。</p> <p><b>初級クラス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ アルファベット 時間の表現 簡単な自己紹介</li> <li>■ 日常会話の基礎 場所をたずねる/食事を注文する/意志を伝える/買い物をする</li> <li>■ 聞く、話す、何かをやってみる</li> <li>■ 重要な記載事項を理解する。時刻表や説明書など</li> <li>■ 簡単なメッセージを伝える</li> </ul> <p><b>中級クラス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 過去形での表現 未来形での表現</li> <li>■ 形容詞を用いた人物表現・場所表現</li> <li>■ 希望や意図を伝える 人に何かをたのむ</li> <li>■ 聞く、話す、要点を理解する 簡単な手紙を書く</li> </ul> <p><b>上級クラス</b> (中級クラスの内容に次のものを加える。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 抽象的な内容を伝える 会話の進め方</li> <li>■ 論理的な議論の組み立て</li> <li>■ かたい表現、やわらかい表現 アドバイスをする</li> <li>■ いろんな表現で手紙を書く</li> </ul>	年間授業計画	1 各週の講義予定はクラス分けを行った後の状況を見て随時決めます。
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
			13

01科目名	経済・経営外国語(外国人学生)Ⅱb	担当者	ジム・ブローガン
03科目名		担当者	

上記参照

98科目名	マロ経済学	担当者	塩田尚樹
-------	-------	-----	------

01科目名	マロ経済学 a	担当者	塩田尚樹
-------	---------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>マクロ経済学の基本的な理論の取得を目標とします。</p> <p>「一国全体の経済活動をどのようにとらえるか」ということからスタートし、その指標となる GDP, 利子率, 失業率, あるいは、為替レートなどがどのような要因によって決定されるのか検討します。</p> <p>扱う範囲の広さより、理解の深さを重視します。右の計画は最速の場合を想定しています。</p> <p>分析ツールとして、行列、対数、極限、微分などの数学的概念を使用します。授業中に丁寧に解説しますが、心の準備をして置いてください。</p> <p>「各人の授業を受ける権利」は「他の人の授業を受ける権利」を侵害しない範囲内で行使されるべきだと考えますので、授業態度のよくない人は退出してもらいます。</p>	年間授業計画	1 授業方針の確認など
			2 国民所得統計(1)
			3 国民所得統計(2)
	4 GDP の決定(1)		4 GDP の決定(1)
	5 GDP の決定(2)		5 GDP の決定(2)
	6 資産市場(1)		6 資産市場(1)
	7 資産市場(2)		7 資産市場(2)
	8 IS/LM モデル(1)		8 IS/LM モデル(1)
	9 IS/LM モデル(2)		9 IS/LM モデル(2)
	10 IS/LM モデル(3)		10 IS/LM モデル(3)
評価方法	定期試験で評価します。授業中の迷惑行為などで減点する場合があります。		11 オープン・エコノミーのマクロ経済学(1)
テキスト参考文献	吉川 洋 (2001) 『マクロ経済学 (第2版)』岩波書店。		12 オープン・エコノミーのマクロ経済学(2)

01科目名	マロ経済学 b	担当者	塩田尚樹
-------	---------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>「マクロ経済学 a」からの継続です。前期の進捗に応じて授業計画を変更する場合がありますので、第一回目の授業には出席してください。</p> <p>今年度の「マクロ経済学 a」の内容の理解は前提として進めます。</p> <p>物価の変動を考慮した、より複雑なモデル、および、景気循環・経済成長などの動学的な問題も取り扱う予定です。</p> <p>分析ツールとして、前期に加えて、差分方程式、微分方程式などの数学的概念を使用します。授業中に丁寧に解説しますが、心の準備をして置いてください。</p> <p>「各人の授業を受ける権利」は「他の人の授業を受ける権利」を侵害しない範囲内で行使されるべきだと考えますので、授業態度のよくない人は退出してもらいます。</p>	年間授業計画	1 授業方針の確認など
			2 失業とインフレーション/デフレーション(1)
			3 失業とインフレーション/デフレーション(2)
	4 新古典派マクロ経済学(1)		4 新古典派マクロ経済学(1)
	5 新古典派マクロ経済学(2)		5 新古典派マクロ経済学(2)
	6 消費・貯蓄と投資(1)		6 消費・貯蓄と投資(1)
	7 消費・貯蓄と投資(2)		7 消費・貯蓄と投資(2)
	8 景気循環(1)		8 景気循環(1)
	9 景気循環(2)		9 景気循環(2)
	10 経済成長(1)		10 経済成長(1)
評価方法	定期試験で評価します。授業中の迷惑行為などで減点する場合があります。		11 経済成長(2)
テキスト参考文献	吉川 洋 (2001) 『マクロ経済学 (第2版)』岩波書店。		12 経済成長(3)



98科目名	マロ経済学	担当者	松本正信
-------	-------	-----	------

01科目名	マロ経済学a	担当者	松本正信
-------	--------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>「経済学」(1年必修)の基礎を前提に、マクロ経済学の通論を講義します。講義の概要は「授業計画」をご覧ください。ここでは、以下、私の講義方針と受講する学生諸君へのメッセージを記すことにします。</p> <p>経済学は何人の為にある。答はそう簡単ではない。政策責任者はこれを識っているも用いない。識らないか、あるいは誤って用いる。経済・景気の適格な判断は、経営トリアの重要な要件の一つである。優れた経営者もそうでない経営者も経済学を識らない人が多い。理論と現実とは異なるという点もある。ことによると経済学を識らない方がよいかも知れない。</p> <p>経済学は何人の為に学ぶ。学生諸君にとって、必修・重要科目だから、これは当然なり。株を儲けるため、これも当然なり。経済学者、同じ意味だがエコノミスト、あるいは経済学愛好者の趣味の為にある。これは或る程度当てはまる。</p> <p>先進国の多くが歴史上経験した経済成長について、N.カールドは「定形化された事実」を共通した重要な現象として抽出し、立証した。いわく、労働1人当りGNPも資本ストックも長期的に上昇もしくは増加し続けた。利殖率は短期的には変動しても長期的に平均すればほぼ一定であった。資本-産出高比率も一定。等々。このカールドの「定形化された事実(マロ経済学b)」</p>	授業計画	1 年間を通じて、おなめち春学期のマロ経済学aと秋学期のマロ経済学bを通じて、つぎのような内容
			2 の講義をします。講義の進め方によっては多少順序を変更するかも知れません。その際は、受講生に予め告知
			3 承解を得たいと思ひます。また、マロ経済学aとbの区
			4 れも予めご承知いただきたい。
			5 序論
			6 1. マロ経済学の概観と見方、私の考え方
			7 2. マロ経済の短期と長期、その2つの意味
			7 第I部 マロ経済学と景気循環論
			8 3. 景気変動の歴史的・学説的素地
			8 4. ケインズ学説の変動理論と
			9 5. ハロッド=ドナーの均衡成長論とその不安定性
			9 6. サミエルソンの乗数と加速度の原理
10 7. ヒックスの景気循環論			
10 7. ヒックス=ハンセンのIS-LM分析(閉鎖経済)			
11 8. マネタリストと合理的期待形成派ルカス			
12 批判とそのモデル			
	(マロ経済学bへ続く)		

01科目名	マロ経済学b	担当者	松本正信
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>(マロ経済学aの)の帰結として最も大切な事実は賃金率が長期的に上昇し続けた事である。これを説明する理論として、Solow Modelが充分であると云ったでしょう。</p> <p>理論は、現実の経済現象を説明するための充分条件でしか過ぎない。したがって、1つの現象を説明する理論モデルが幾つも生まれるのは当然である。経済学は伝承され受け継がれる。送り手も勿論だが、受け手もつと優れたより理論を創造したと思ひても不思議ではないはずだ。諸君、挑戦してみてもいいかな。</p> <p>最後に、歴史上過去において経済学の知識の有無にかかわらず見事な経済政策の成果を上げた政治指導者・政策責任者は数多くいた。しかしながら、現代においては経済学の知識がより多くの人達に理解され、普及して行くことは社会をよくなるための必要な条件であるに違いない。そのわけは、講義直接皆さんにお話しします。時代が変わると経済学が希求するパラダイムも変わり、したがって新しい経済学も誕生することになります。その担い手は諸君の中にいる筈です。</p> <p>講義は歴史的出来事や現在生起しつつある事象を織り交ぜながら、出来得れば政治経済の未来像の姿形やロードマップやビジョンも暗示するような講義の進め方をしたいものです。</p>	授業計画	1 (マロ経済学aより続く)
			2 第II部 マロ経済学と経済成長論
			3 9. 新古典派成長論のソロー・モデル
			4 10. R&Dモデルと人的資本蓄積論とその内生的進化論的考え方
			5 11. 消費関数論、ライフ・サイクル仮説、恒常所得仮説、ランダム・ウォーク仮説、資産効果
			6 12. 投資関数論、トービンのq、将来の期待収益の不確実性論
			7 13. インフレーションと失業の現代的問題
			8 14. 金融政策と財政・税政策
			9 (以上)
			10
			11
			12

評価方法	秋学期末定期試験の結果に、春学期末試験結果を加味して評価します。詳細は講義の際にお話しします。
テキスト参考文献	マロ経済学aと同じ。

98科目名	ミ加経済学	担当者	小林進
-------	-------	-----	-----

01科目名	ミ加経済学 a	担当者	小林進
-------	---------	-----	-----

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	受講者が経済理論を理解して現実の経済問題に応用できる水準に達することを目標とする。ただし受講者のすべて人のレベルが必ずしも高いとはいえないので、場合によっては初歩的な経済理論にも随時触れる予定である。参考書については(原則として本学図書館にあるものを)必要に応じて推薦し、受講者の一層の学習努力を促すようにする。	授 業 計 画	最初の講義のときにプリント配布 (完全競争を中心にして講義)
評価方法	学期末試験		
テキスト	使用しない。参考文献は講義の中で指示する		

01科目名	ミ加経済学 b	担当者	小林進
-------	---------	-----	-----

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	受講者が経済理論を理解して現実の経済問題に応用できる水準に達することを目標とする。ただし受講者のすべて人のレベルが必ずしも高いとはいえないので、場合によっては初歩的な経済理論にも随時触れる予定である。参考書については(原則として本学図書館にあるものを)必要に応じて推薦し、受講者の一層の学習努力を促すようにする。	授 業 計 画	最初の講義のときにプリント配布 (不完全競争を中心にして講義)
評価方法	学期末試験		
テキスト	使用しない。参考文献は講義の中で指示する		

98科目名	ミロ経済学	担当者	藤山英樹
-------	-------	-----	------

01科目名	ミロ経済学 a	担当者	藤山英樹
-------	---------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>&lt;講義の目的&gt; ミクロ経済学の基礎を習得する。より具体的には、第1に諸概念の直感的な理解を得る。第2に諸概念の抽象的な記号表現をマスターする。第3にミクロ経済の至る所で用いられる関数の最大化の計算手法を修得する。以上は専門課程に進み、応用をおこなうときに必要不可欠となる。</p> <p>&lt;講義の方針&gt; できるだけ予備知識を前提とせず、授業内で自己完結した形で講義を行う。春期は不完全競争市場についての講義をする。</p> <p>&lt;テキストについて&gt; 現在は、ミクロ経済学については、基礎的な内容は定まっている。更に、一般に評価の高いテキストが、必ずしも個人的な好みにあうとはかぎらない。したがって、受講者の好みに合わせて購入もしくは図書館から借りてくれば良い。また、多くのテキストの巻末に他のテキストについての簡単なコメントが載っているので、それを参考にするのも良い。</p>	授業計画	1 イントロダクションおよび最大化の計算の仕方。
			2 独占市場：利潤を最大にする価格設定
			3 ナッシュ均衡：駆け引きのとらえ方
			4 ゲーム理論1（戦略形）：ジャンケン型のゲーム
			5 ゲーム理論2（展開形）：時間をともなうゲーム
			6 他のゲーム理論の応用例
			7 寡占市場1：生産量での競争
			8 寡占市場2：価格での競争
			9 不確実性について
			10 時間が余れば補足的なトピックスを説明します。
			11 時間が余れば補足的なトピックスを説明します。
			12 時間が余れば補足的なトピックスを説明します。
評価方法	試験で評価する。授業期間中に小テストを行うこともある。その時はその成績も評価に加える。		
テキスト参考文献	参考書：『新しい教養のすすめ 経済学』大西・三土編 昭和堂（1800円）		

01科目名	ミロ経済学 b	担当者	藤山英樹
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	講義の目的・方針ともに、前期と同じである。秋期は完全競争市場についての講義をする。	授業計画	1 イントロダクションおよび最大化の計算の仕方。（夏休みで忘れてしまった人、もしくは秋期から目覚めた人のために復習します。）	
				2 消費者行動1：消費者の選好の理論
				3 消費者行動2：効用最大化問題（需要関数の導出）
				4 消費者行動3：需要関数による財の特徴づけ
			5 企業行動1：生産の理論	
			6 企業行動2：利潤最大化問題（供給関数の導出）	
			7 企業行動3：費用関数について	
			8 市場の分析1：部分均衡分析（政策の影響）	
			9 市場の分析2：一般均衡分析（神の見えざる手）	
			10 時間が余れば補足的なトピックスを説明します。	
			11 時間が余れば補足的なトピックスを説明します。	
			12 時間が余れば補足的なトピックスを説明します。	
評価方法	前期と同じである。			
テキスト参考文献	テキストは前期と同様に特に指定しない。			

98科目名	経済学史	担当者	黒木亮
-------	------	-----	-----

01科目名	経済学史 a	担当者	黒木亮
-------	--------	-----	-----

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>本講義の目的は、経済学の形成過程を追体験し、経済理論への理解を深めてゆくための手がかりとして、経済学者が実際に取り組んだ問題や社会的背景、時代的文脈を考察することである。</p> <p><b>講義の概要</b> 近代自由主義社会の確立を基礎づけた17世紀の経済思想から、19世紀末の経済思想までを通覧する。</p> <p><b>受講者への要望</b> 授業に臨む前に、テキストの該当箇所を通読しておくといよいでしょう。経済学史・思想史という未知の世界をめぐるガイドブックのようなつもりで、一通り眺めておいてください。</p>	授業計画	1 ロックとヒューム：市民社会から文明社会へ
			2 ケネー：再生産の秩序と重農主義
			3 スミス：自然的自由の世界
			4 スチュアートとリスト：重商主義と保護主義
			5 リカード：市場経済の構造と発展
			6 マルサス：市場社会における貧困
			7 ベンサム：功利主義的統治の思想
			8 J.S.ミル：経済的自由主義の思想
			9 マルクス：自由時間とアソシアシオン
			10 シュモラー：社会政策思想
評価方法	レポート， 期末試験。		11 ワルラス：純粋経済学の意義と国家の役割
テキスト参考文献	高哲男編『自由と秩序の経済思想』名古屋大学出版会，2002。中村廣治・高哲男編『市場と反市場の経済思想』ミネルヴァ書房，2000。		12 古典派経済学と新古典派経済学

01科目名	経済学史 b	担当者	黒木亮
-------	--------	-----	-----

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>本講義の目的は、経済学の形成過程を追体験し、経済理論への理解を深めてゆくための手がかりとして、経済学者が実際に取り組んだ問題や社会的背景、時代的文脈を考察することである。</p> <p><b>講義の概要</b> 19世紀末の経済思想から、われわれの社会を支え、将来を基礎づけるであろう経済思想までを通覧する。</p> <p><b>受講者への要望</b> 授業に臨む前に、テキストの該当箇所を通読しておくといよいでしょう。経済学史・思想史という未知の世界をめぐるガイドブックのようなつもりで、一通り眺めておいてください。</p>	授業計画	1 マーシャル：市場と組織の経済学
			2 ヴェブレン：進化論的経済学の原点
			3 ヴェーバー：経済学・社会学・歴史学
			4 歴史学派と制度学派
			5 シュンペーター：企業経済のダイナミクス
			6 ケインズ：非自発的失業と貨幣の経済学
			7 ケインズの経済学とマクロ経済学
			8 ハイエクとフリードマン：新保守主義
			9 ガルブレイス：リベラル思想
			10 コースとノース：新制度学派
評価方法	レポート， 期末試験。		11 現代経済学の潮流
テキスト参考文献	高哲男編『自由と秩序の経済思想』，中村廣治・高哲男編『市場と反市場の経済思想』。		12 総括

98科目名	経済変動論	担当者	松本正信
-------	-------	-----	------

01科目名	経済変動論 a	担当者	松本正信
-------	---------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>講義の目標</p> <p>経済成長と景気循環のメカニズムの理論的枠組を、現代ケインズ派・古典派ならびに現代マネタリスト・合理的期待形成学派・新古典派などの諸説について年間に渡って講義するなかで、全体として理解して貰うのが目標である。今日の世界経済や日本の国内経済をみると、景気循環のメカニズムの本質がどのように関連しているかを示唆することも本講の大事な役割だと考えているが、これは第2の目標としたい。</p> <p>講義概要</p> <p>詳しくは授業計画を御覧あれ。</p> <p>はじめに景気変動の歴史的素描とその時代々々の諸説を対称させてみて行き、景気変動の現代的意義を考えることから出発する。本論では「講義の目標」で示したような諸説を順次紹介しながら現代景気循環論を構成して行く積りである。</p> <p>また、諸説の随所にカオス動学的視点の解釈を試みたいと考えている。</p>	授業計画	<p>以下の講義内容を春学期および秋学期の年間を通じて行なう。</p> <p>「経済成長と景気循環」に関する講義。ケインズならびにポスト・ケインズ学派以降今日までの有力諸説を中心としながら、現代経済の現状に即した理論分析を講義する。</p> <p>序論 経済変動論の現代的課題</p> <p>1 はじめに——現代の経済成長と景気循環</p> <p>2 経済変動の歴史的素描 産業革命前夜とアダム・スミス、産業革命と資本主義経済の勃興、資本主義経済の発展と問題</p> <p>3 経済変動の諸要因：その学説史的素描 資本蓄積論、恐慌論にみるマルクス、革命論、動態的経済発展論にみるシュンペーター、長期停滞論</p> <p>4 ケインズ経済思想とニュー・ディール、The Great Depression, New-Deal policy; New-Economics, 修正資本主義と混合経済体制、市場の不完全性、公共経済の拡大、社会保障、金本位制から管理貨幣制度へ、WTO体制と自由貿易、民主制政治と現代経済、ハーバー・ロードの前提崩壊</p> <p>5 経済変動要因の理論的類別</p> <p>6 有効需要拡大の「拡大」解釈—グローバル化—</p> <p>I 均衡成長とその不安定性論</p> <p>1 経済成長の不可避的要素と必要性 古典的マルサスにみる循環的成長論と長期定常経済、アダム・スミスの市民社会の定常状態、シュンペーターの動態経済発展論、現代における経済成長の不可避的要素と必要性、ゼロ経済成長とその意義(経済変動論 b へ)</p>
	評価方法		春学期末定期試験によって評価する。
	テキスト参考文献		テキストはなし。私の「講義ノート」による。参考文献は 講義の都度、指示する。

01科目名	経済変動論 b	担当者	松本正信
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	(経済変動論 a と同じ)	授業計画	(経済変動論 a より)
			<p>2 ハロッド・ドマーの均衡成長理論</p> <p>3 独立投資と誘発投資</p> <p>4 外生要因と内生要因</p> <p>II 景気循環のメカニズム</p> <p>1 定常状態の経済</p> <p>2 新投資の循環 (更新投資循環)</p> <p>3 在庫投資の循環</p> <p>4 ヒックスの景気循環モデル</p> <p>5 カレッキーの景気循環論</p> <p>6 カルドアの景気循環論</p> <p>7 景気変動への安定化要因</p> <p>8 景気循環論の類型と循環の局面</p> <p>9 景気循環と経済諸変量</p> <p>10 景気の転換点と景気動向指数</p> <p>III 経済成長と景気循環</p> <p>1 成長経済における「定型化された事実」</p> <p>2 新古典派成長理論の登場</p> <p>3 新古典派の経済成長理論</p> <p>4 技術進歩と資本蓄積 (技術移転と資本移動)</p> <p>IV 現代景気循環論</p> <p>1 経済ケインズ学派とマネタリスト・合理的期待形成学派</p> <p>2 経済成長軌道は安定か不安定か</p> <p>3 現代諸説の経済社会に対する考え方と経済制度の問題</p> <p>4 これからの景気循環論への展望</p>
	評価方法		秋学期末定期試験の結果に、春学期末試験の結果を加味して評価する。
テキスト参考文献	(経済変動論 a と同じ)		

98科目名	経済統計論	担当者	松本正信
-------	-------	-----	------

01科目名	経済統計論 a	担当者	松本正信
-------	---------	-----	------

03科目名	経済統計論 a	担当者	松本正信
-------	---------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>講義の目標</p> <p>経済統計は現に経済現象のほとんどあらゆる方面に関連し、また実際調査もなされているから、これを全て講義の対象としたのではとても時間が足りないし、また大学の経済学講義の一環としての意義も乏しい。それらは実社会にあって実際に必要になってから参照すればよい。本講では「経済統計」をば、むしろその体系的、方法的ならびに経済理論的な対応において、つぎの三部構成でなされよう。すなわち経済統計学の理論的枠組を理解していただくことが、講義の狙いである。</p> <p>講義概要</p> <p>第Ⅰ部 指数の問題、その成り立ちと理論的根拠</p> <p>第Ⅱ部 国民所得統計と産業連関表</p> <p>第Ⅲ部 時系列分析と回帰分析</p> <p>以上、詳しくは授業計画を見られよ。ただし、講義の順序はこの通りとは限らない。また、例年時間的余裕があるので、教科書の付録にしたがって、付論「オペレーションズ・リサーチとゲームの理論」を現代の経済・経営の実際応用と経済戦略という有意義な視点で講話します。</p>	授業計画	<p>以下の、序論を含めた 19 の項目を前期・後期を通じて 1~3 回にわたる講義で進める予定である。</p> <p>序 論</p> <p>経済と経済統計と経済学</p> <p>第Ⅰ部 指数</p> <p>1 指数について (指数理論)</p> <p>2 平均値について</p> <p>3 物価指数と数量指数</p> <p>4 消費者物価指数 (付論: 消費者選好理論とヴォルトケウイッチの関係式)</p> <p>5 その他の物価指数の例と各種デフレーター</p> <p>6 生産数量と生産指数——いくつかの代表例</p> <p>第Ⅱ部 国民所得統計と産業連関表</p> <p>1 国民所得統計と国民所得分析</p> <p>2 社会会計の考え方とマトリックス (2の付論: コンピュータ通信システムの発達と国民総背番号制)</p> <p>3 新 SNA</p> <p>4 産業連関表</p> <p>5 産業連関分析とその応用</p> <p>(経済統計論 b へ)</p>
	評価方法		春学期末定期試験によって評価する。
	テキスト参考文献		<p>テキスト ・森田優三『経済統計読本』東洋経済新報社、1991年(21刷)</p> <p>参考文献 ・講義の都度指示。</p>

01科目名	経済統計論 b	担当者	松本正信
-------	---------	-----	------

03科目名	経済統計論 b	担当者	松本正信
-------	---------	-----	------

講義目的および講義概要	(経済統計論 a と同じ)	授業計画	<p>(経済統計論 a より)</p> <p>第Ⅲ部 時系列分析と回帰分析</p> <p>1 時系列データとその解析</p> <p>2 時系列分析——トレンド (趨勢、傾向線)、循環変動、季節変動、不規則変動——</p> <p>3 時系列分析の方法——移動平協法、趨勢線のあてはめ、他——</p> <p>4 景気動向指数——ディフュージョン・インデックス——</p> <p>5 回帰分析と回帰方程式</p> <p>6 計量経済学の方法</p> <p>7 構造推計と将来予測</p> <p>付 論 OR の話; オペレーション・リサーチとゲームの理論</p>
	評価方法		秋学期末定期試験の結果に、春学期末試験の結果を加味して評価する。
	テキスト参考文献		(経済統計論 a と同じ)

98 科目名	計量経済学	担当者	藤山英樹
--------	-------	-----	------

01 科目名	計量経済学 a	担当者	藤山英樹
--------	---------	-----	------

03 科目名		担当者	
--------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>&lt;講義の目的&gt; 計量経済学の標準的な諸概念を習得する。理論的に得られた経済モデルと現実経済との距離を測るために計量経済学は不可欠なツールである。特に諸概念の理論的な意味を把握することが主たる目的となる。</p> <p>&lt;講義の進め方&gt; 原則として、テキストに準拠して講義を進めてゆく。ただし、できるだけ予備知識を前提とせず、授業内で自己完結した形となるようにする。春期に「Ⅰ基礎編：回帰分析」を講義する。</p> <p>参加者が講義内容を着実に理解をし、最終的には自学自習で計量経済学を学べてゆけるようになることが何よりも大事だと考えます。したがって、講義のペースは受講者の状況に合わせて、調整されることとなります。よって、必ずしも授業計画通りに進むとは限らないので、この点はあらかじめご了承ください。</p>	授業計画	1 計量経済学とは。
			2 から 4. 最小二乗法について。 主たる内容は、直線のあてはめ。あてはまりの尺度、計算の手順など。
			5 から 9. 単純回帰分析。
			10 から 12. 多重回帰モデル。 主たる内容は、多重回帰モデル、多重共線性、変数の過不足についての問題など。
評価方法	試験で評価する。授業期間中に小テストを行うこともある。その時はその成績も評価に加える。		
テキスト参考文献	山本拓『計量経済学』、新世社、1995 年。		

01 科目名	計量経済学 b	担当者	藤山英樹
03 科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>基本方針は前期と同じである。</p> <p>秋期は「Ⅱ応用編：計量経済学」を講義する。</p>	授業計画	1 から 2. 多重回帰モデル。主たる内容は前期のものと同様。(夏休みで回帰分析を忘れてしまった人にはその復習、後期に目覚めた人にはその概要を提示するためにもう一度、同様の内容を講義します。)
			3 および 4. モデルの関数型と特殊な変数。
			5 および 6. F 検定と構造変化の検定。
			7 および 8. 分布ラグ・モデル。
			9 および 10. 不均一分散。
			11 および 12. 攪乱項の系列相関。
			もし時間があれば、説明変数と錯乱項の相関、同時方程式モデルについても解説する。
評価方法	前期と同じである。		
テキスト参考文献	山本拓『計量経済学』、新世社、1995 年。		

98科目名	経済政策論	担当者	阿部正浩
-------	-------	-----	------

01科目名	経済政策論 a	担当者	阿部正浩
-------	---------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>講義の目標</p> <p>ますます重要性を増しているミクロ経済政策を主とした講義を行います。また、経済政策を論ずるにあたっては、法律や制度の役割も重要です。法律や制度が経済にどのような影響を与えているのかについて考えていきます。</p> <p>講義概要</p> <p>ミクロ経済学のおさらいをしながら、経済政策の諸問題について考えていきます。授業は理論的なフレームワークを講義するだけでなく、現実の経済問題を演習形式で考えていきます。</p>	授業計画	1 経済学者の考え方
			2 マクロ経済学とミクロ経済学
			3 完全競争市場
			4 完全競争市場 (演習)
			5 市場の失敗と政府の役割
			6 市場の失敗と政府の役割(演習)
			7 独占
			8 独占(演習)
			9 寡占
			10 寡占(演習)
評価方法	レポートおよび期末テスト		11 コースの定理
テキスト参考文献	特にありません		12 コースの定理 (演習)

01科目名	経済政策論 b	担当者	阿部正浩
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>講義の目標</p> <p>ますます重要性を増しているミクロ経済政策を主とした講義を行います。また、経済政策を論ずるにあたっては、法律や制度の役割も重要です。法律や制度が経済にどのような影響を与えているのかについて考えていきます。</p> <p>講義概要</p> <p>ミクロ経済学のおさらいをしながら、経済政策の諸問題について考えていきます。授業は理論的なフレームワークを講義するだけでなく、現実の経済問題を演習形式で考えていきます。</p>	授業計画	1 プリンシパル=エージェント理論
			2 プリンシパル=エージェント理論(演習)
			3 契約理論
			4 契約理論(演習)
			5 裁量とルール
			6 裁量とルール(演習)
			7 法と経済
			8 法と経済 (演習)
			9 情報の問題
			10 情報の問題 (演習)
評価方法	レポートと期末テスト		11 まとめ
テキスト参考文献	特になし		12 予備日



98科目名	経済開発論	担当者	千代浦昌道
-------	-------	-----	-------

01科目名	経済開発論 a	担当者	千代浦昌道
-------	---------	-----	-------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p><u>講義目的</u> 経済開発の歴史、理論、戦略などを分析し、それらを発展途上国の経済開発の現状にどのように適合させれば健全で持続可能な発展ができるかを探る。また、その目的のために先進国はどのような協力ができるかを考える。</p> <p><u>講義概要</u> 経済開発論の学問的位置づけ、発展途上国の現状と経済開発に関連する基礎知識の充実を図る。</p>	授業計画	1 経済開発論をなぜ学ぶか、授業の進め方、参考文献/統計資料の紹介	
	評価方法		期末試験による。随時に出欠をとり成績評価の参考とする。	2 経済開発論の基礎的概念(経済開発/発展/成長の意味、経済開発論の経済学上の位置づけ)
				3 発展途上国の基本問題(低開発の歴史的背景、産業構造の変化、貧困と所得分配、A. センの思想)
参考文献	『M. トダロの開発経済学』国際協力出版会、1997		3 発展の非経済的側面Ⅰ(政治的側面、社会文化的要因、社会学的把握)	
			4 発展の非経済的側面Ⅱ(家族単位、階級構造、民族、人種、宗教)	
			6 先進工業国経済発展の教訓Ⅰ(工業化とその波及、イギリス/フランスの工業化)	
			7 先進工業国経済発展の教訓Ⅱ(ドイツ/アメリカ/ロシア/日本の工業化)	
			8 人口と経済発展(人口爆発、人口増加と経済発展、人口問題論争、人口政策)	
			9 都市と農村(農村・都市間移住とトダロ理論、都市のスラム化とインフォーマル部門、政治と都市)	
			10 雇用と失業(失業と低雇用、ヌルクセの偽装失業理論、ルイスの2部門モデル)	
			11 教育と発展Ⅰ(教育と発展、人的資源、教育機会と貧困)	
			12 教育と発展Ⅱ(教育と人口問題/国内移住、頭脳流出、知的従属、教育と農村開発)	

01科目名	経済開発論 b	担当者	千代浦昌道
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p><u>講義目的</u> 経済開発論 a と同じ。</p> <p><u>講義概要</u> 経済発展の理論的解明、国際経済関係における発展途上国問題の位置づけなどを中心に講義する。</p>	授業計画	1 経済発展のモデルⅠ(古典派、K. マルクス、ハロッド=ドマー理論、ロストウ、シュンペーター)	
	評価方法		期末試験による。随時に出欠をとり成績評価の参考とする。	2 経済発展のモデルⅡ(新古典派、チェネリー、従属理論、E.F. シューマッハー、新自由主義)
				3 農業と発展(植民地経済とモノカルチャー、人口都市化、農地改革と農村開発)
参考文献	西垣、下村『開発援助の経済学』、有斐閣、1997		4 工業化と開発戦略(均整成長論とビッグアツシュ、不均整成長論と連関効果、輸入代替・輸出促進工業化)	
			5 貿易と発展Ⅰ(重商主義とアダム・スミス、比較生産費の理論)	
			6 貿易と発展Ⅱ(プレビッシュ=シンガー・テーゼ、従属理論、新国際経済秩序)	
			7 貿易と発展Ⅲ(アジアNIESの発展、関税と為替レート、地域経済統合)	
			8 多国籍企業と発展途上国(直接投資理論、多国籍企業の利害得失)	
			9 国際収支と途上国債務問題(国際収支構造と経済発展、累積債務問題)	
			10 途上国債務問題への国際的対応(冷戦終結の影響、世銀/IMFへの批判、債務=環境スワップ)	
			11 国際援助と経済開発Ⅰ(途上国援助の歴史と現状、基本的ニーズ、構造調整融資)	
			12 国際援助と経済開発Ⅱ(参加型援助と女性の役割、草の根援助とNGO、国際援助の展望)	

98科目名		担当者	
-------	--	-----	--

01科目名	環境政策論 a	担当者	塩田尚樹
-------	---------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>「ミクロ経済学」の理論を応用して、環境問題にアプローチします。</p> <p>環境問題は、経済学的にどのようにとらえることができるのか？ そのような問題がなぜ生じるのか？ 解決に向けて何が必要なのか？ について考察します。</p> <p>分析ツールとして、微分、積分、偏微分、差分方程式などの数学的概念を使用します。授業中に丁寧に解説しますが、心の準備をして置いてください。</p> <p>「ミクロ経済学」および「公共経済学」の知識は、この授業を理解するために非常に有益です。あわせて履修することをお勧めします。</p> <p>「各人の授業を受ける権利」は「他の人の授業を受ける権利」を侵害しない範囲内で行使されるべきだと考えますので、授業態度のよくない人は退出してもらいます。</p>	年間授業計画	1 授業方針の確認など
	2 効率的生産と完全競争市場(1)		
	3 効率的生産と完全競争市場(2)		
4 外部性(1)			
5 外部性(2)			
6 公共財(1)			
7 公共財(2)			
8 囚人のジレンマ			
9 再生可能資源とストック外部性(1)			
10 再生可能資源とストック外部性(2)			
11 枯渇性資源と蓄積性廃棄物(1)			
12 枯渇性資源と蓄積性廃棄物(2)			
評価方法	定期試験で評価します。授業中の迷惑行為などで減点する場合があります。		
テキスト参考文献	柴田 弘文 (2002) 『環境経済学』 東洋経済新報社。		

01科目名	環境政策論 b	担当者	塩田尚樹
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>「環境政策論 a」からの継続です。前期の進度に応じて授業計画を変更する場合がありますので、第一回目の授業には出席してください。</p> <p>今年度の「環境政策論 a」の内容をふまえ、今日処方箋として検討されている環境税や排出許可証取引の長所および限界は何なのか検討します。また、環境の貨幣的評価についても取り扱う予定です。</p> <p>分析ツールとして、微分、積分、偏微分、差分方程式などの数学的概念を使用します。授業中に丁寧に解説しますが、心の準備をして置いてください。</p> <p>「各人の授業を受ける権利」は「他の人の授業を受ける権利」を侵害しない範囲内で行使されるべきだと考えますので、授業態度のよくない人は退出してもらいます。</p>	年間授業計画	1 授業方針の確認など
	2 コースの定理		
	3 直接的規制		
4 ピグー税(1)			
5 ピグー税(2)			
6 ボーモル/オーツ税			
7 排出許可証取引			
8 被害者の自己防衛			
9 費用/便益分析			
10 環境の評価法			
11 リスクと不確実性に対する方策			
12 地球温暖化問題			
評価方法	定期試験で評価します。授業中の迷惑行為などで減点する場合があります。		
テキスト参考文献	柴田 弘文 (2002) 『環境経済学』 東洋経済新報社。		

98科目名	日本経済史	担当者	奈倉文二
-------	-------	-----	------

01科目名	日本経済史 a	担当者	奈倉文二
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>本講義は、戦前日本の財閥などの大企業システムはどのような特徴をもっていたのか、それは日本資本主義の形成発展過程のあり方とどのような関連を持っていたのか、ということ明らかにすることを目的とする。</p> <p>国際環境との関連に留意しながら、日本資本主義の成立発展過程（とくに独占資本形成確立過程）を概観した上で、1920年代を中心に「戦前日本型大企業システム」の特徴を明らかにし、次いで、その変容を昭和恐慌から敗戦までの日本資本主義の転換・変化と関連させながら述べる。</p> <p>なお、「授業計画」中の項目・順序は場合により変更することがあり得る。</p> <p>【受講者への要望】</p> <p>学生諸君の講義に対する参画意欲を引き出すため、極力質疑応答方式を取り入れるので積極的に応じてもらいたい。</p>	授業計画	1 はじめに	
	評価方法		筆記試験またはレポート。質疑応答への積極的参画状況をも評価する。	2 日本資本主義の形成
			テスト参考文獻	適宜指示する。
			4 独占資本の形成確立過程	
			5 戦前日本型大企業システムⅠ	
			6 戦前日本型大企業システムⅡ	
			7 戦前日本型大企業システムⅢ	
			8 金解禁と昭和恐慌	
			9 「高橋財政」と準戦時経済	
			10 旧財閥の転換と新興コンツェルン	
			11 戦時統制経済の特徴	
			12 戦時「重化学工業化」と独占資本	

01科目名	日本経済史 b	担当者	奈倉文二
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>現代日本の大企業システムがいかなる歴史過程のもとで、どのような特徴をもって形成されてきたのか、という関心から「戦後日本資本主義の発展と大企業システム」をメイン・テーマとして講義する。</p> <p>戦後改革と財閥解体の内容と意義を明らかにした上で、日本資本主義の復興・再建と「高度成長」を概観しつつ、企業集団の形成・発展過程、寡占資本間競争と重化学工業化のメカニズムなどを産業政策や国際摩擦との関連にも言及しながら明らかにし、戦後日本型大企業システムとしての企業集団体制の具体的内容に及ぶ。</p> <p>なお、「授業計画」中の項目・順序は場合により変更することがあり得る。</p> <p>また、「日本経済史 a」同様、極力質疑応答方式を取り入れるので積極的に応じてもらいたい。</p>	授業計画	1 はじめに	
	評価方法		筆記試験（またはレポート）。質疑応答への積極的参画状況をも評価する。	2 戦後改革と財閥解体
			テスト参考文獻	適宜指示する。
			4 企業集団の形成	
			5 日本経済の「高度成長」	
			6 寡占資本間競争	
			7 重化学工業化と鉄鋼独占	
			8 企業集団の発展	
			9 産業政策と「日本株式会社論」	
			10 経済摩擦と'Keiretsu'批判	
			11 企業集団体制の定着	
			12 展望：企業集団体制の変容	

98科目名	日本社会史	担当者	新井孝重
-------	-------	-----	------

01科目名	日本社会史 a	担当者	新井孝重
-------	---------	-----	------

03科目名	日本社会史 a	担当者	新井孝重
-------	---------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>中世の飢餓、病気、戦乱の中を人間はいかにして生きてきたか。当時の社会状態を観察しながら考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 治承・寿永の戦乱</li> <li>・ 重源の東大寺再建活動とその周囲にみられる民間浄土教の高揚</li> <li>・ 荘園住民の大仏燈油料寄進</li> </ul> <p>以上3つの事柄を講義する。</p>	授 業 計 画	1	源平戦乱期の社会状態
			2	方丈記を読む (飢餓、辻風、火災、地震)
			3	中世の庶民のくらし
評価方法	試験		4	東大寺炎上 東大寺大勧進職重源
			5	重源の活動のあとをたどる 社会事業の諸相
テキスト参考文献	なし		6	道路の修善。港湾の修築
			7	(都市的な場の登場) 農業用水池の開さく
			8	(中世の農業と村落)
			9	寺院の建築 寺院の建築
			10	まとめ (庶民の生活、庶民の動員、大仏再建
			11	仏教の胎動) 燈油聖の活動
			12	(土地の集積) 燈油料田の発生

01科目名	日本社会史 b	担当者	新井孝重
-------	---------	-----	------

03科目名	日本社会史 b	担当者	新井孝重
-------	---------	-----	------

98科目名	西洋経済史	担当者	御園生真
-------	-------	-----	------

01科目名	西洋経済史 a	担当者	御園生真
-------	---------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	イギリスは、産業革命を達成して19世紀中葉に世界経済の中心国となる。しかし、19世紀後半に入るとイギリス経済は衰退に向う。この衰退の要因について考えてみたい。 (注意) 最新のシラバスは第1回の授業で配布するので履習者は必ず出席すること。 授業のマナーを守ること。 このシラバスの予定は変更される場合がある。	授業計画	1 序論とガイダンス
			2 「世界の工場」としてのイギリス
			3 (続)
			4 (続)
			5 (続)
			6 イギリス経済衰退の要因
			7 (続)
			8 (続)
			9 (続)
			10 19世紀後半の世界経済とイギリス
評価方法	8回以上の出席と試験成績60点以上の両方を満たすことが単位認定の条件。		11 (続)
テキスト参考文献	第1回の授業で説明する。		12 まとめ

01科目名	西洋経済史 b	担当者	御園生真
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	イギリス経済を19世紀後半に衰退に向かわせた要因のひとつは、ドイツやアメリカなど後発国の工業的発展である。ここではドイツの工業化を対象とし、その特徴と問題点を考えてみたい。 (注意) 最新のシラバスは第1回の授業で配布するので履習者は必ず出席すること。 授業のマナーを守ること。 このシラバスの予定は変更される場合がある。	授業計画	1 序論
			2 ドイツ工業化の前提条件
			3 (続)
			4 ドイツ工業化の過程と特徴
			5 (続)
			6 (続)
			7 (続)
			8 (続)
			9 ドイツ工業化の問題点
			10 (続)
評価方法	8回以上の出席と試験成績60点以上の両方を満たすことが単位認定の条件。		11 (続)
テキスト参考文献	第1回の授業で説明する。		12 まとめ

98科目名	国際経済論	担当者	益山光央
-------	-------	-----	------

01科目名	国際経済論 a	担当者	益山光央
-------	---------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>国際経済を理解するのに最低限必要と思われる基本的な事柄を講義します。国際経済論 a では貿易理論、国際貿易の一般均衡および貿易政策を取り扱います。</p> <p>貿易理論ではリカード的比較優位説およびヘクシャー・オリーンの定理に力点が置かれます。これらの考えかたはよりすすんだ諸理論を学ぶための必須の事項なので厳密な展開を心がけます。</p> <p>貿易政策では関税、輸出補助金の効果を中心に、数量制限、輸出自主規制の分析を学習します。</p> <p>毎回、出席調査します。</p>	授業計画	1 国際貿易の基本的諸概念
			2 リカード的比較優位説
			3 ヘクシャー・オリーンの定理
			4 ヘクシャー・オリーンの定理
5 国際貿易の一般均衡 二国モデル			
6 国際貿易の一般均衡 二国モデル			
7 経済成長と貿易			
8 国際生産要素移動			
9 関税			
10 輸入数量制限			
11 不完全競争と国際貿易			
12 産業政策			
評価方法	定期試験 70%、レポート 20% 出席 10%		
テキスト参考文献	大田道広・伊藤元重 『国際貿易』 岩波書店		

01科目名	国際経済論 b	担当者	益山光央
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>前期に扱った貿易理論とともに国際経済学の主要な内容である国際収支に関連する事柄を学びます。</p> <p>国際収支の赤字、黒字からはじまり、だんだんと高度な内容に移りますが、すべて基本的な内容であり厳密に理解してください。前期、国際経済論 a を履修しているほうが理解が深まります。</p> <p>毎回出席調査します。</p>	授業計画	1 国際収支と国民所得勘定
			2 外国為替市場
			3 外国為替市場
			4 外国為替市場
5 開放経済所得決定メカニズム 固定相場制			
6 開放経済所得決定メカニズム 固定相場制			
7 開放経済所得決定メカニズム 変動相場制			
8 開放経済所得決定メカニズム 変動相場制			
9 国際収支と財政・金融政策			
10 国際資本移動と財政・金融政策			
11 国際通貨制度 ブレトンウッズ体制			
12 国際通貨制度 ブレトンウッズ体制以後			
評価方法	定期試験 70%、レポート 20% 出席 10%		
テキスト参考文献	未定		

98科目名	国際金融論	担当者	山本美樹子
-------	-------	-----	-------

01科目名	国際金融論 a	担当者	山本美樹子
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>金融とは借り手と貸しての間でお金を融通する仲介手段である。これは国内金融であっても国際金融であってもおなじである。が、国際金融では各国の通貨が異なることから生じる国際金融独特の問題がある。</p> <p>前期（a）は国際金融論上基礎的なテーマである為替レートにかかわる諸問題、国際収支、為替レートの決定理論について講義をする。</p> <p>前期、後期を通して目標とするのは、新聞、ニュースの国際金融にかかわる記事を理解できるようにすることである。</p>	授 業 計 画	1	オリエンテーション
			2	国際収支とは何か - 国際収支表 -
			3	経常収支の黒字の意味すること
4	経常収支の金融的側面			
5	いわゆる Jカーブ効果等経常収支の調整過程上の問題			
6	外国為替と為替レート			
7	為替レートの変動リスク回避行動 ① 貿易業者のリスクヘッジ行動			
8	② 金利裁定行動			
9	為替投機 ①			
10	為替投機 ②			
11	外国為替市場への介入行動			
12	前期のまとめ			
評価方法	学期末試験 アトランダムに出席をとる			
テキスト参考文献	参考文献を講義時に指示			

01科目名	国際金融論 b	担当者	山本美樹子
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>後期（b）は開放マクロ経済理論、国際資本移動、最近の国際金融派生商品等、応用分野を講義し、今後の国際金融システムについて考えていく。</p>	授 業 計 画	1	為替レートの決定理論 ① 購買力平価説
			2	② フローアプローチとアセットアプローチ
			3	固定相場制とは何か
4	基軸通貨と基軸通貨制度のサステナビリティ			
5	外国貿易乗数			
6	固定相場制の開放マクロ経済政策			
7	マンデル・フレミングモデルとポリシーミックス			
8	変動相場制の開放マクロ経済政策			
9	国際資本移動 ①			
10	金融デリバティブとオプショントレーディング			
11	発展途上国の累積債務問題			
12	最近の国際金融上の問題とまとめ			
評価方法	学期末試験 アトランダムに出席をとる			
テキスト参考文献	参考文献を講義時に指示			

98科目名	日本経済論	担当者	波形昭一
-------	-------	-----	------

01科目名	日本経済論 a	担当者	波形昭一
-------	---------	-----	------

03科目名	日本経済論 a	担当者	波形昭一
-------	---------	-----	------

講義目的および講義概要	現在の日本経済を理解するには、その生い立ちを知っておくことが重要である。とりわけ高度成長期についての知識が不可欠である。そのため「日本経済論 a」では、高度成長期における日本経済の問題を中心に講義する。	授業計画	1 はじめに
			2 戦後民主化政策と経済改革
			3 戦後経済復興対策
			4 ドッジ・ラインとシャープ勧告
			5 朝鮮戦争と日本経済
			6 高度成長時代の到来
			7 高度成長の構造
			8 高度成長の精神的土台
			9 高度成長の時代的背景
			10 高度成長の終焉(1) ドル・ショック
評価方法	前期末試験の結果で評価する。絶対評価ではなく相対評価を採用。		11 高度成長の終焉(2) オイル・ショックとインフレ
テキスト参考文献	主に統計表などのプリントを配布。		12 安定成長時代の到来

01科目名	日本経済論 b	担当者	波形昭一
03科目名	日本経済論 b	担当者	波形昭一

講義目的および講義概要	1980年代から日本経済をめぐる内外の諸環境は大きく構造転換し、その結果として現在の日本経済がある。したがって「日本経済論 b」では、前期の講義をふまえて、80年代の構造変化とその結果をのべ、そのうえで最近における日本経済の再建論議の可否を議論してみたい。	授業計画	1 対外経済構造の激変 トリレンマとスタグフレーション
			2 レーガノミックス
			3 バブル経済の発生とその要因
			4 バブル経済の崩壊
			5 複合不況論
			6 「失われた十年」の主要経済指標
			7 デフレ不況の深化
			8 構造改革か景気対策か
			9 構造改革重視論
			10 景気対策重視論
評価方法	後期末試験の結果で評価する。絶対評価ではなく相対評価を採用。		11 第三の道論
テキスト参考文献	主に統計表などのプリントを配布。		12 まとめ 小泉・竹中改革の評価をめぐって



98科目名	北アメリカ経済論	担当者	本田浩邦
-------	----------	-----	------

01科目名	アメリカ経済論 a	担当者	本田浩邦
-------	-----------	-----	------

03科目名	アメリカ経済論 a	担当者	本田浩邦
-------	-----------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>現代アメリカ経済の発展を、その歴史、理論、政策の諸側面から講義します。</p> <p>春学期では、1930年代の大恐慌とニューディールを中心にお話します。アメリカの大恐慌には多くの未解明の問題が含まれており、今日でも多くの経済学者がこの時代の解明に取り組んでいます。現在の経済政策をめぐるさまざまな論争でも頻繁に言及される特別の時代でもあり、この時代をよく理解することは、現代の経済学の骨格を理解する上でとても重要だと思えます。</p> <p>1年生配当科目ですが、経済学の基礎的な知識が身に付いてからの受講が望ましいと思えますので、その点に留意してください。</p>	授業計画	1 ガイダンス 受講上の注意 評価方法の説明
			2 なぜ大恐慌とニューディールの時代を問題にするか——アメリカ経済論の現代的課題
			3 大恐慌とニューディール (1) ——29年恐慌の発生と波及
			4 大恐慌とニューディール (2) ——フーヴァーからルーズベルトへ
			5 大恐慌とニューディール (3) ——ニューディールの時代
			6 大恐慌とニューディール (4) ——ニューディールの終焉
			7 大恐慌とニューディール (5) ——大恐慌の原因をめぐる論争
			8 大恐慌とニューディール (6) ——大恐慌の国際的条件
			9 ケインズ経済学とマネタリズム (1)
			10 ケインズ経済学とマネタリズム (2)
			11 ケインズ経済学とマネタリズム (3)
			12 戦時経済から冷戦の時代へ
評価方法	定期試験		
テキスト 参考 文献	適宜プリントを配布します。		

01科目名	アメリカ経済論 b	担当者	本田浩邦
03科目名	アメリカ経済論 b	担当者	本田浩邦

講義目的および講義概要	<p>戦後から今日までのアメリカ経済の発展をお話しします。毎年、戦後から80年代まででかなりの時間をつかってしまっていて、あまり最近の時期のお話ができなかったため、今年は70年代までをごく簡単にすませて、80年代から今日までの時期に力点を置きたいと思えます。</p> <p>春学期同様、1年生配当科目ですが、経済学の基礎的な知識が身に付いてからの受講が望ましいと思えますので、その点に留意してください。</p>	授業計画	1 後期の授業のアウトライン アメリカ経済の最近の状況
			2 冷戦体制から60年代「ゆたかな社会」へ
			2 ニクソンショックと低成長期への以降 ——ケインズ政策の終焉
			4 レーガノミクス
			5 1990年代のアメリカ経済
			6 家計部門の所得と資産 ——経済格差は拡大するのか?
			7 財政と金融
			8 プラザ合意以降の通貨戦略と国際関係
			9 産業構造の再編と国際競争
			10 労働市場
			11 世界の中のアメリカ ——OECD 諸国との比較
			12 ブッシュのアメリカ経済
評価方法	定期試験		
テキスト 参考 文献	適宜プリントを配布します。		

98科目名	ラテンアメリカ経済論	担当者	松本栄次
-------	------------	-----	------

01科目名	ラテンアメリカ経済論 a	担当者	松本栄次
-------	--------------	-----	------

03科目名	ラテンアメリカ経済論 a	担当者	松本栄次
-------	--------------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>自然的基盤、歴史的背景、政治的社会的特性などの分析の上に立って、ラテンアメリカ全域の経済の特性について多面的に考察する。</p> <p>ラテンアメリカ経済の特徴をもたらした自然的基盤と歴史的背景などについて概観したうえで、ラテンアメリカ経済の発展過程について通覧する。さらに、変革期にある現代のラテンアメリカ経済の状況、およびこの地域の社会・経済が抱える諸問題とその将来展望について考察する。また、日本との関連などについても述べる。</p>	授業計画	1 ラテンアメリカの地域と経済の特徴	
	評価方法		定期試験の成績と出席状況を総合して行う。	2 ラテンアメリカ経済の自然的基盤（1）土地条件と資源・災害
			テキスト参考文献	加茂雄三ほか編『ラテン・アメリカ事典』1996年版 湯川攝子『ラテンアメリカ経済論』中央経済社、1999年
			4 ラテンアメリカ経済の歴史的背景（1）先住民文化とその影響	
			5 ラテンアメリカ経済の歴史的背景（2）ヨーロッパ人による植民地の開発	
			6 ラテンアメリカ経済の歴史的背景（3）住民と社会の形成	
			7 ラテンアメリカ経済の発展過程（1）植民地期の経済	
			8 ラテンアメリカ経済の発展過程（2）輸出経済期の経済	
			9 ラテンアメリカ経済の発展過程（3）輸入代替工業化期の経済	
			10 現代のラテンアメリカ経済（1）債務危機と「失われた10年」	
			11 現代のラテンアメリカ経済（2）構造調整下のラテンアメリカ経済	
			12 ラテンアメリカ経済と日本	

01科目名	ラテンアメリカ経済論 b	担当者	松本栄次
03科目名	ラテンアメリカ経済論 b	担当者	松本栄次

講義目的および講義概要	<p>自然的基盤、歴史的背景、政治的社会的特性などの分析の上に立って、多面的に、国および地方レベルの地域の経済について考察する。</p> <p>おもに、ラテンアメリカ経済の一つの中核をなすブラジルをとりあげ、その特異な産業経済の発展過程および諸地域における経済活動の特質を考察し、同国の経済発展の現状と問題点を指摘する。また、アマゾン流域地域を事例としてとりあげ、その自然環境・住民と社会・地域経済の特性について解説し、あわせて、国際的関心の高いこの地域の経済開発と環境保全の調和の問題について考察する。</p>	授業計画	1 ブラジル経済の地理的基盤	
	評価方法		定期試験の成績と出席状況を総合して行う。	2 ブラジルの産業史の特質—ブームとバーストの産業サイクル—
			テキスト参考文献	M. グールディング他著(山本・松本訳)『恵みの洪水—アマゾン沿岸の生態と経済』同時代社、2001年
			4 ブラジルの諸地域と経済（2）開発停滞期域—北東部地方	
			5 ブラジルの諸地域と経済（3）開発途上地域—北部・中西部地方	
			6 構造調整下の現代ブラジル経済	
			7 アマゾニア地方の自然生態的基盤	
			8 アマゾニア地方の住民と居住の歴史	
			9 アマゾニア地方における地域開発政策	
			10 アマゾニア地方における地域開発と環境問題（1）	
			11 アマゾニア地方における地域開発と環境問題（2）	
			12 アマゾニア地方における経済開発と生態系保全調和の道	

98科目名	西ヨーロッパ経済論	担当者	大西健夫
-------	-----------	-----	------

01科目名	西ヨーロッパ経済論 a	担当者	大西健夫
-------	-------------	-----	------

03科目名	西ヨーロッパ経済論 a	担当者	大西健夫
-------	-------------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>講義の目的 世界経済における西ヨーロッパ経済の位置付けから出発し、国際経済秩序の枠内における地域経済共同体としての EU の特徴を解説する。</p> <p>講義概要 まず国際経済秩序を概説し、西ヨーロッパ経済を地域経済として分析する方法を解説する。その後、西ヨーロッパ経済の中核である EU 経済を様々な視点から紹介する。</p>	授業計画	1 戦後国際経済秩序の形成
			2 西ヨーロッパ経済の形成
			3 国際貿易秩序
			4 国際決済秩序
			5 GATT/WTO における地域経済統合
			6 貿易取引と地域統合経済
			7 国際収支表にみる西ヨーロッパ経済
			8 西ヨーロッパの産業構造
			9 西ヨーロッパの主要企業
			10 西ヨーロッパの雇用問題
評価方法	期末に論文形式の試験を行い、これに基づき評価する		11 西ヨーロッパの金融市場
テキスト参考文献	大西・岸上「EU 統合の系譜」早大出版部		12 統合ヨーロッパ経済

01科目名	西ヨーロッパ経済論 b	担当者	大西健夫
-------	-------------	-----	------

03科目名	西ヨーロッパ経済論 b	担当者	大西健夫
-------	-------------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>講義の目的 戦後ヨーロッパの経済安全保障として出発した石炭鉄鋼共同体が地域経済統合へと発展していく過程を概観し、単一通貨ユーロ導入により超国家的な金融政策の一元化にまで進展した EU の構造と機能を明かにする。</p> <p>講義概要 まず EU の統合過程を概説し、これに基づき EU における市場の拡大と深化が西ヨーロッパ経済の再生を実現してゆくメカニズム分析する。</p>	授業計画	1 世界経済における西ヨーロッパ経済
			2 ヨーロッパ経済圏の形成
			3 ヨーロッパ統合の理念
			4 経済安全保障としての石炭鉄鋼共同体
			5 経済共同体と関税同盟
			6 域内貿易の進展
			7 共同市場と共通政策
			8 マーストリヒト条約と EU
			9 経済・通貨同盟
			10 EU の組織機構
評価方法	期末に論文形式の試験を行い、これに基づき評価する		11 EU の法的地位
テキスト参考文献	大西・岸上「EU 統合の系譜」早大出版部		12 EU 市場の拡大と深化

98科目名	東アジア・中国経済論	担当者	全載旭
-------	------------	-----	-----

01科目名	東アジア・中国経済論 a	担当者	全載旭
-------	--------------	-----	-----

03科目名	東アジア・中国経済論 a	担当者	全載旭
-------	--------------	-----	-----

講義目的および講義概要	<p>今日の世界経済において東アジアの重みが増していると言われている。なかでも中国経済の動向は 21 世紀の世界経済の新たな秩序を左右する最大のファクターの一つである。この授業では東アジア全体に目を配りつつ、中国経済を中心に考察する。日本もまた東アジアにあって、この地域の諸国と相互に密接な関係をもっている。本科目の履修を通じて、この地域のあり方に関心を向けてもらいたい。</p> <p>中国経済の歴史、発展可能性などを学ぶ。1970 年代末から始まった改革・開放を中心に講義を進めていきたい。</p>	授業計画	1	中国経済の全般的な動向 (1)
			2	中国経済の全般的な動向 (2)
			3	目覚めた巨龍はどこへ? (1)
			4	目覚めた巨龍はどこへ? (2)
			5	社会主義市場経済とは何か? (1)
			6	社会主義市場経済とは何か? (2)
			7	技術進歩なき成長か? (1)
			8	技術進歩なき成長か? (2)
			9	国有企業改革は失敗したか? (1)
			10	国有企業改革は失敗したか? (2)
			11	農村はいかに変化したか? (1)
			12	農村はいかに変化したか? (2)
評価方法	出席状況 (重視する) と試験で評価する。			
テキスト 参考 文献	南亮進・牧野文夫編『中国経済入門』日本評論社、2001 年。			

01科目名	東アジア・中国経済論 b	担当者	全載旭
-------	--------------	-----	-----

03科目名	東アジア・中国経済論 b	担当者	全載旭
-------	--------------	-----	-----

講義目的および講義概要	<p>中国経済の発展が東アジア経済をどう変えていくのかを実証的に検証し、今後の東アジア経済を展望する。また日中経済関係は年々強まり、中国にとって日本は最大の貿易パートナーであり、日本企業の中国戦略も変化している。そこで貿易と投資を通じて急速に緊密化している日中経済関係の今後のあり方についても考察する。</p>	授業計画	1	失業率は本当に低いのか?
			2	金融は中国経済のアキレス腱か?
			3	輸出は成長のエンジンか? (1)
			4	輸出は成長のエンジンか? (2)
			5	外資は何をもたらしたか? (1)
			6	外資は何をもたらしたか? (2)
			7	中国は国際社会にとって脅威か?
			8	日中関係はいかにあるべきか?
			9	何か成長を制約するか? (1)
			10	何が成長を制約するか? (2)
			11	改革の果実は誰の手に?
			12	21 世紀東アジア経済と中国経済
評価方法	出席状況 (重視する) と試験で評価する。			
テキスト 参考 文献	南亮進・牧野文夫編『中国経済入門』日本評論社、2001 年。			

98科目名	東南アジア・オセアニア経済論	担当者	森 健
-------	----------------	-----	-----

01科目名	オセアニア経済論 a	担当者	森 健
-------	------------	-----	-----

03科目名	オセアニア経済論 a	担当者	森 健
-------	------------	-----	-----

講義目的および講義概要	(目的) 世界の国は、それぞれ固有の自然条件、歴史、種族構成、文化を持つ。したがって、各国の経済活動もそれぞれの固有性を反映し、多様な形態を示す。しかし、このような多様な形態を持つ経済活動も、深く観察すれば、その根本には各国に共通する普遍的な論理が働いていることを確認できる場合が多い。 この講義では、日本経済との結びつきが強く、また、特にこの20年間で自由貿易主義と多文化主義社会政策を急速に進めてきたオーストラリアを取り上げ、この国がかかる政策を採用した理由とその帰結について考える。 (概要) 近年、オーストラリアは極めて大胆な政策転換を行った。同国は1989年にAPEC(アジア太平洋経済協力会議)の開催を主唱し、自国およびこの地域の貿易・投資の自由化に熱心な国として、また、アジアの難民、移民、留学生を多数受け入れ、多様な文化の維持、発展に努める国として知られる。しかし、同国は、かつては名だたる保護貿易主義国家であり、有色人種の移民を排除する人種差別国家であった。オーストラリアがこのような政策変換を進めた理由は何か。新政策はどのような変化をこの国に及ぼしているのか。この講義では、上記のような問題を様々な切り口(自然条件、歴史的条件、文化的背景、政治社会体制、国際環境、経済条件など)から解明する。春期ではこの内、自然条件、歴史的条件、および、多文化主義政策を採用する以前の文化的背景をとりあげる。	授業計画	1 講義の目的の確認。ビデオ
	2 オーストラリア社会経済構造変化の大きな流れ(1)・・・(講義全体を理解する上で特に重要)		
	3 オーストラリア社会経済構造変化の大きな流れ(2)		
評価方法	定期試験		4 歴史：流刑労働と羊毛産業の発展
テキスト参考文献	秋期の欄を参照		5 歴史：金発見とその影響(1)
			6 歴史：金発見とその影響(2)
			7 歴史：仲間主義(mateship)の起源と特徴：長期経済ブーム
			8 歴史：1890年代の恐慌とその影響
			9 歴史：連邦結成から第二次大戦終了まで(1)
			10 歴史：連邦結成から第二次大戦終了まで(2)：経済ナショナリズム
			11 文化：エトス、アイデンティティ、ヒーロー
			12 文化：アボリジニ

01科目名	オセアニア経済論 b	担当者	森 健
-------	------------	-----	-----

03科目名	オセアニア経済論 b	担当者	森 健
-------	------------	-----	-----

講義目的および講義概要	講義目的および概要は春期「オセアニア経済論 a」に同じ。ただし、秋期では、講義の切り口を、多文化主義政策採用以降の社会文化環境、政治社会体制、国際環境、経済条件などから解明する。	授業計画	1 前期講義の復習をかねた歴史概観(1)
			2 前期講義の復習をかねた歴史概観(2)
			3 社会構造と問題
評価方法	春期「オセアニア経済論 a」に同じ)		4 労働問題
テキスト参考文献	プリントを配布する。また、参考文献の、竹田・森共編[1]は多用するがテキストではない。 [1]竹田いさみ、森健(共編)、『オーストラリア入門』、東京大学出版会、2002年第4刷。 [2]関根政美著、『多文化主義社会の到来』、朝日新聞社、2000年。 [3]J・ブレニー著、加藤めぐみ訳、『オーストラリア歴史物語』、明石書店、2000年 [4]竹田いさみ著、『物語オーストラリア』、中公新書、中央公論新社、2000年。		5 70年代中期以降の経済困難と多文化主義社会政策
			6 政治構造
			7 労働党政権と保守連立政権
			8 産業構造
			9 対外経済関係
			10 社会経済改革と経済パフォーマンス
			11 外交と国際関係(1)
			12 外交と国際関係(2)

98科目名	中東・アフリカ経済論	担当者	千代浦昌道
-------	------------	-----	-------

01科目名	アフリカ経済論 a	担当者	千代浦昌道
-------	-----------	-----	-------

03科目名	アフリカ経済論 a	担当者	千代浦昌道
-------	-----------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p><u>講義目的</u> 世界の中でも現在経済的にもっとも停滞しているとされるアフリカ地域を、経済面のみならず政治・社会・文化面からも多角的に捉えて、まずこの地域に関する正確な知識により歴史と現状を十分に把握し正しく理解した後に、経済問題を中心とする現在のさまざまな問題の解決へ向けて、世界の国々に、とりわけ日本などを中心とする先進諸国がどのような関わりを持つことができ、またどのような関わりを持つのが望ましいかを探る。</p> <p><u>講義概要</u> アフリカ大陸の全体像、アフリカ経済の歴史的背景に次いで、第二次大戦後に独立を迎えたアフリカ諸国の経済発展と経済の現状について講義する。 ビデオ映像、OHP、スライド、PCなどを使った多角的・立体的な講義を行う。</p>	授業計画	1 授業の進め方、参考文献の紹介など
			2 アフリカ概観Ⅰ (アフリカと世界、世界史におけるアフリカ、現在アフリカの国々)
			3 アフリカ概観Ⅱ (アフリカの気候/地理/天然資源/住民と文化/宗教/民族と言語)
			4 アフリカ概観Ⅲ (アフリカの地域区分/現在のアフリカ諸国/政治情勢/地域統合の現状)
			5 アフリカ概観Ⅳ (アフリカの経済発展/農業/鉱工業/貿易/外国人投資)
			6 アフリカ経済の歴史的背景Ⅰ (15世紀以前のアフリカ: 先史時代、アフリカ諸王国の興亡)
			7 アフリカ経済の歴史的背景Ⅱ (奴隷貿易時代: 大航海時代と重商主義、大西洋三角貿易)
			8 アフリカ経済の歴史的背景Ⅲ (アフリカの植民地化: 間接統治と同化政策の実態)
			9 アフリカ経済の歴史的背景Ⅳ (独立と国家建設: 多民族モザイク国家の形成、開発独裁の問題)
			10 現在アフリカの経済Ⅰ (国際政治経済とアフリカ: アフリカ社会主義、東西冷戦終結とアフリカ)
			11 現在アフリカの経済Ⅱ (アフリカの構造調整: 債務問題、世銀/IMFのアフリカ支援)
			12 現在アフリカの経済Ⅲ (アフリカ政治・経済の将来)
評価方法	期末試験による。		
参考文献	小田英郎他著『アフリカ』自由国民社、1999		

01科目名	アフリカ経済論 b	担当者	千代浦昌道
-------	-----------	-----	-------

03科目名	アフリカ経済論 b	担当者	千代浦昌道
-------	-----------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p><u>講義目的</u> アフリカ経済論 a と同じ。</p> <p><u>講義概要</u> アフリカ地域についての最重要課題である食糧・人口・都市・難民・環境等についてテーマ別に講義する。日本をはじめとする先進諸国の対アフリカ経済協力の現状についても述べる。アフリカ各国別の詳しい経済事情についてはあまり多くの時間を割くことはできないが、南ア、マダガスカル、カメルーン、ブルキナファソ、アルジェリアの5カ国を取り上げる。</p>	授業計画	1 アフリカの食糧問題 (農業と気候条件、植民地農業と一次産品輸出、食糧援助・輸入問題)
			2 アフリカの人口問題 (貧困と人口、幼児死亡率、文化・教育と人口、女性の社会的地位と人口)
			3 アフリカの都市問題 (都市と農村、スラム化とインフォーマル部門、政治権力と都市住民)
			4 アフリカの難民問題 (ルワンダ、エチオピア、スーダン、ソマリア、エリトリア、シエラレオネなど)
			5 アフリカの環境問題 (干ばつ・砂漠化の原因、木材輸出と森林乱伐、都市公害)
			6 対アフリカ国際協力の現状 (DAC諸国の経済協力、国際諸機関の援助体制、NGO活動)
			7 アフリカの地域経済統合 (ECOWAS、UEMOA、SADC、COMESA、CEEAC)
			8 AU (アフリカ連合) と NEPAD (アフリカ開発のための新パートナーシップ)
			9 アフリカ経済と日本 (貿易、援助、NGO、直接投資)
			10 アフリカ各国の経済Ⅰ (南アフリカ共和国)
			11 アフリカ各国の経済Ⅱ (マダガスカル、アルジェリア)
			12 アフリカ各国の経済Ⅲ (カメルーン、ブルキナファソ)
評価方法	期末試験による。		
参考文献	『アフリカを知る事典』平凡社、1999		

98科目名	金融経済論	担当者	斉藤美彦
-------	-------	-----	------

01科目名	金融経済論 a	担当者	斉藤美彦
-------	---------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>(目的) 金融の基礎を理解し、金融に関連した新聞記事が読め、議論が理解できることを目標とする。</p> <p>(概要) 講義は金融の基本的原理からはじまり、金融取引における金利の役割、さらにマクロ的に貨幣供給はどのように行われているのか、それと銀行業を中心とした決済システムは如何にかかわっているのか等について解説する。</p>	授業計画	1. 金融のフローとストック (1) *なぜ金融が必要か
			2. 金融のフローとストック (2) *金融業の役割
			3. 金融のフローとストック (3) *金融ストックの形成
			4. 金融のフローとストック (4) *金融取引・金融資産の全体図
			5. 金利・資産価格・利回り (1) *シグナルとしての金利
			6. 金利・資産価格・利回り (2) *資産市場における金利
			7. 金利・資産価格・利回り (3) *株式と株価
			8. 金利・資産価格・利回り (4) *金利を動かしているもの
			9. マネー (貨幣) と銀行業 (1) *現代のマネーと決済システム
			10. マネー (貨幣) と銀行業 (2) *銀行の信用創造機能
			11. マネー (貨幣) と銀行業 (3) *マネーの価値とインフレーション
			12. マネー (貨幣) と銀行業 (4) *マネーの変遷
評価方法	期末試験およびレポートによる。		
テキスト参考文献	辻信二『新版金融と銀行』学文社、1995年		

01科目名	金融経済論 b	担当者	斉藤美彦
-------	---------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>(目的) 金融政策、国際金融、現下の金融問題等についての議論を理解でき、自分なりの見解を持つことができるようになることを目的とする。</p> <p>(概要) 金融政策の基本から近年話題となっているデフレーション下における金融政策のありかた、国際金融の基本、近年の金融にかかわる諸問題等を幅広く解説する。</p>	授業計画	1. 中央銀行の役割 (1) *内生的貨幣供給説と外生的貨幣供給説
			2. 中央銀行の役割 (2) *金融政策の目的と波及経路
			3. 中央銀行の役割 (3) *金融政策の手段と準備預金制度
			4. 中央銀行の役割 (4) *デフレーションと金融政策
			5. 金融の国際的側面 (1) *為替相場の形成
			6. 金融の国際的側面 (2) *為替相場の形成
			7. 金融の国際的側面 (3) *国際通貨制度の変遷
			8. 金融問題 (1) *金融自由化の進展
			9. 金融問題 (2) *金融の「証券化」
			10. 金融問題 (3) *派生商品市場の発展
			11. 金融問題 (4) *リーテイルとホールセール
			12. 金融問題 (5) *銀行の収益とリスク
評価方法	期末試験およびレポートによる。		
テキスト参考文献	辻信二『新版金融と銀行』学文社、1995年		

98科目名	金融システム論	担当者	斉藤美彦
-------	---------	-----	------

01科目名	金融システム論 a	担当者	斉藤美彦
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	(目的) 世界各国の金融システムはそれぞれの国の歴史等を反映して個性的なものとして発展してきた。そしてそれらはグローバル化の進展の過程で変化しつつあることを理解することを目的とする。 (概要) 近代的な銀行業・金融システムが世界で最も早く発達し、今日においても世界の金融の中心のひとつであるイギリスの金融システムについて幅広く解説する。講義では預金取扱金融機関および機関投資家だけでなく、金融法制、監督体制についても解説を行う。	授業計画	1. 金融システムの諸相 *分業主義と兼業主義
			2. イギリスの金融システム (1) *金融システムの長期的傾向
			3. イギリスの金融システム (2) *金融サービス法から金融サービス市場法へ
			4. イギリスの金融システム (3) *商業銀行の再編
			5. イギリスの金融システム (4) *マーチャントバンクとウィンブルドン現象
			6. イギリスの金融システム (5) *住宅金融組合
			7. イギリスの金融システム (6) *信託貯蓄銀行
			8. イギリスの金融システム (7) *国民貯蓄銀行
			9. イギリスの金融システム (8) *機関投資家の発展
			10. イギリスの金融システム (9) *年金基金
評価方法	期末試験およびレポートによる。		11. イギリスの金融システム (10) *保険会社
テキスト参考文献	斉藤美彦『イギリスの貯蓄金融機関と機関投資家』日本経済評論社、1999年		12. イギリスの金融システム (11) *投資信託

01科目名	金融システム論 b	担当者	斉藤美彦
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	(目的) 日本の金融システムおよび監督制度の特性を理解し、近年の金融システム関連の諸問題を理解できるようになることを目的とする。 (概要) 日本の金融システムの特徴および各金融機関の概要について解説し、近年において生じている種々の問題点についても解説する。	授業計画	1. 日本の金融システム (1) *専門金融機関制度
			2. 日本の金融システム (2) *普通銀行等預金取扱金融機関
			3. 日本の金融システム (3) *保険会社・ノンバンク
			4. 日本の金融システム (4) *証券会社と証券市場
			5. 日本の金融システム (5) *公的金融機関と財政投融资制度
			6. 日本の金融システム (6) *金融監督機関と新たな監督体制
			7. 日本の金融システム (7) *銀行業への新規参入
			8. 日本の金融システム (8) *高度成長期の金融システム
			9. 日本の金融システム (9) *金融制度改革とビッグバン
			10. 日本の金融システム (10) *金融危機と金融再生法
評価方法	期末試験およびレポートによる。		11. 日本の金融システム (11) *金融大再編と不良債権処理
テキスト参考文献	日本銀行銀行論研究会『金融システムの再生にむけて』有斐閣、2001年		12. 日本の金融システム (12) *預金保険制度



98科目名	財政学	担当者	野村容康
-------	-----	-----	------

01科目名	財政学 a	担当者	野村容康
-------	-------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<b>講義の目標</b> 本講義では、財政赤字、税制改革、年金改革、公共事業といったわが国の財政問題を考えていく際の手掛かりとなるように財政学の基礎的事項について概説する。本講の受講を通じて、財政の基本的な制度とその機能について理解を深め、現実の財政問題について自分なりに考える力を身につけてほしい。	授業計画	1. 財政とは何か 2. 財政学とその変遷 3. 資源配分の調整機能 4. 財政と所得再分配 5. 財政政策の理論① 6. 財政政策の理論② 7. 公共財の理論① 8. 公共財の理論② 9. わが国財政の現状 10. 公債の制度と理論 11. 公的高齢年金① 12. 公的高齢年金②
	<b>講義概要</b> 前期は、どちらかと言えば政府の支出活動面に重点を置きながら、財政の機能とわが国財政の現状、公共支出に関する理論、政府債務の問題、公的年金問題等について解説する。後期は、政府収入の中で最も重要な租税に関する議論（租税理論、制度、税制改革論等）に焦点を絞って授業を進める。		
	<b>受講者への要望</b> 受講生は新聞などを通じてできるだけ財政制度改革、税制改正の動向についてフォローし、わが国の財政に関する問題意識を高めてほしい。なお、受講のためにはミクロ経済学の基礎的知識を習得していることが望ましい。		
評価方法	前期・後期の試験の成績で評価する。出席は考慮しない。		
テキスト参考文献	テキスト 大島通義・神野直彦・金子勝編著『日本が直面する財政問題』八千代出版 参考書 加藤治彦編『図説日本の財政』東洋経済新報社（前期） 稲垣光隆編『図説日本の税制』財経詳報社（後期） その他、講義内容との関連において適宜指示する。		

01科目名	財政学 b	担当者	野村容康
-------	-------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	(財政学 a 参照)	授業計画	1. 租税の意義と根拠 2. 租税の基礎的概念 3. 課税の公平性と中立性 4. 租税の転嫁と帰着 5. 包括的所得税論 6. 支出税と最適課税の考え方 7. 二元的所得税の考え方 8. 個人所得課税 9. 法人所得課税 10. 間接消費課税 11. 資産課税 12. グローバル化と課税	
	評価方法			(財政学 a 参照)
	テキスト参考文献			(財政学 a 参照)

98科目名	公共経済学	担当者	伊藤為一郎
-------	-------	-----	-------

01科目名	公共経済学 a	担当者	伊藤為一郎
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	講義の目的 わたしたちの日々の生活は公共部門の活動によってささえられています。上下水道、ごみ処理。教育、福祉、警察、消防、外交、国防などさまざまな公共サービスの恩恵をうけています。公共部門と民間部門の経済活動とはどのような関係があるか。公的規制はどうあるべきか。公共部門の活動を活性化するためにはどうしたらよいか。国民の福祉問題にどう対応するべきか。このような公共部門の活動についての基礎的な理解を深めることが講義の目的です。	授業計画	1 はじめに。日本財政の現状と課題 文献紹介
	講義概要 公共部門が経済活動や社会生活にどのように連動しているか、図表を多用しながら講義を進める予定です。国民経済の発展とともに公共部門の機能も大きく変動してきましたが、その経過をたどることによって現代の政府活動の特徴を明らかにします。		2 経済の発展と財政の膨張 政府（中央・地方）の範囲
			3 公共部門存在の経済的根拠—公共財・外部性・市場の失敗・政府の失敗・公的供給と公的生産
評価方法 期末テストおよび中間での小テストの成績により評価します	テキスト参考文献 講義のはじめに指示します		4 政府の機能—資源配分
			5 政府の機能—所得分配と福祉政策
			6 政府の機能—経済安定・経済成長・フィスカルポリシー
			7 公共部門の支出政策—支出の拡大と発展
			8 公共投資と経済発展
			9 公共部門の歳入構造
			10 地方政府と地方財政の発展
			11 財政危機の構造
			12 まとめ—公共部門の課題

01科目名	公共経済学 b	担当者	伊藤為一郎
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	講義の目的 わたしたちの日々の生活は公共部門の活動によってささえられています。上下水道、ごみ処理。教育、福祉、警察、消防、外交、国防などさまざまな公共サービスの恩恵をうけています。公共部門と民間部門の経済活動とはどのような関係があるか。公的規制はどうあるべきか。公共部門の活動を活性化するためにはどうしたらよいか。国民の福祉問題にどう対応するべきか。このような公共部門の活動についての基礎的な理解を深めることが講義の目的です。	授業計画	1 はじめに 日本財政の現状と課題 文献紹介
	講義概要 公共部門が経済活動や社会生活にどのように連動しているか、図表を多用しながら講義を進める予定です。国民経済の発展とともに公共部門の機能も大きく変動してきましたが、その経過をたどることによって現代の政府活動の特徴を明らかにします。後期においては特に公共部門の活動に必要な財源について講義をします。		2 公共サービスの供給と財源調達 なぜ租税が必要か
			3 公平な租税とは—租税原則と租税配分
評価方法 期末テストおよび中間での小テストの成績により評価します	テキスト参考文献 講義のはじめに指示します		4 わが国の租税構造の変遷とその特徴
			5 現代の租税体系と分類 所得に課せられる税
			6 消費に課せられる税
			7 資産に課せられる税
			8 公債の累増—租税国家の危機
			9 地方政府の発展と財政危機 地方経済の自立は可能か
			10 高齢化社会と財政—年金財政の破綻
			11 環境問題と財政
			12 まとめ—日本経済の再生と財政再建

98科目名	地方財政論	担当者	伊藤為一郎
-------	-------	-----	-------

01科目名	地方財政論 a	担当者	伊藤為一郎
-------	---------	-----	-------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>講義の目的</p> <p>地方財政は「行政のデパート」といわれるように、教育、福祉、警察、消防などの行政サービスから上・下水道、経済振興策など多様なサービスを供給しています。地方公共団体のこのような活動を金銭面からとらえたものが地方財政です。住民の日常生活と深く関連している地方財政の役割を明らかにすることが目標です。</p> <p>講義概要</p> <p>都道府県から市町村まで3200余もある地方団体は、自然条件、地理的要因、産業構造、人口構成等さまざまな条件が異なっており、一律に論ずることはできませんが、マクロ的に地方財政の分析を行い、その特徴や問題点を指摘し、将来を展望します。</p>	授業計画	1 はじめに。地方財政の現状と課題 文献紹介
			2 経済の発展と地方財政の役割 地方政府と中央政府の範囲
			3 地方財政の歴史の変遷と国際比較
			4 地方財政の多様性 都道府県・市町村・社会経済条件の多様性
			5 地方自治・財政の歴史
			6 シャープ勧告から高度成長期の財政
			7 低成長経済と地方財政による景気対策 オイルショック、80年代の財政、90年代の財政
			8 地方支出の拡大と財政危機—バブルの崩壊その後 地方単独事業の膨張
			9 地方財政の機能の変化 地方公共財の多様化と拡大
			10 地方分権の推進—機関委任事務の廃止
評価方法	期末テストおよび中間での小テストの成績により評価します		11 地方主権と財源の再配分の実現は実現するか 地域の経済的活力をとりもどせるか
テキスト参考文献	講義のはじめに指示します		12 まとめ—地方財政の課題

01科目名	地方財政論 b	担当者	伊藤為一郎
03科目名		担当者	

01科目名	地方財政論 b	担当者	伊藤為一郎
03科目名		担当者	
講義目的および講義概要	<p>講義の目的</p> <p>地方財政は「行政のデパート」といわれるように、教育、福祉、警察、消防などの行政サービスから上・下水道、経済振興策など多様なサービスを供給しています。地方公共団体のこのような活動を金銭面からとらえたものが地方財政です。住民の日常生活と深く関連している地方財政の役割を明らかにすることが目標です。</p> <p>講義概要</p> <p>都道府県から市町村まで3200余もある地方団体は、自然条件、地理的要因、産業構造、人口構成等さまざまな条件が異なっており、一律に論ずることはできませんが、マクロ的に地方財政の分析を行い、その特徴や問題点を指摘し、将来を展望します。</p>	授業計画	1 はじめに 地方財政の現状と課題 文献紹介
			2 地方政府サービスと財源—財源配分をめぐる対立の歴史
			3 地方税体系、地方税の構造
			4 地方財政調整制度（1） 地方財源の偏在、地方交付税制度の役割
			5 地方財政調整制度（2） 国庫支出金（補助金・負担金・委託金）
			6 地方財政調整制度（3） 地方消費税・新たな財源をもとめて
			7 地方税・地方公債以外の地方収入 受益者負担・各種料金・使用量・手数料・その他
			8 地方債—地方債の累積
			9 過密と過疎 都市の財政需要増と財政危機、農山村部の過疎化と生活危機
			10 地方公営企業の現状
評価方法	期末テストおよび中間での小テストの成績により評価します		11 地方分権の流れ—行政改革への取り組み
テキスト参考文献	講義のはじめに指示します		12 まとめ—地方財政の課題

98科目名	環境経済学	担当者	浜本光紹
-------	-------	-----	------

01科目名	環境経済学 a	担当者	浜本光紹
-------	---------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	近年の環境問題の深刻化とともに、環境保全と経済活動の調和を求めて、新たな社会経済システムの構築への模索が試みられている。本講義では、経済学の立場から、環境破壊が進行する要因を検討し、環境保全型社会経済システムの構築のために環境政策はどのように設計される必要があるのかについて考えていく。 「環境経済学 a」では、環境経済学の理論的基礎、環境資源の貨幣的評価とその手法、および環境問題の解決において司法や行政が果たす役割について講義を行なう。	授業計画	1 インTRODクシヨン…環境経済学がいかなる分析視点から環境問題を考察するのかについて解説する。
			2 環境と開発…経済開発と環境問題をめぐる「効率」と「衡平」について考察する。
			3 環境評価手法…経済理論に則った環境価値の評価手法の意義と限界について考察する。
			4 環境問題の調整のあり方と環境政策…環境問題の調整において司法や行政が果たす役割について理論的に検討する。
			注：以上の4つのテーマはそれぞれ2～4回の講義にわたって解説が行なわれる。また、参考文献については講義中に適宜指示する。
評価方法	定期試験による。		
テキスト参考文献	植田和弘『環境経済学』岩波書店		

01科目名	環境経済学 b	担当者	浜本光紹
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	「環境経済学 b」では、日本や米国、欧州における現実の環境政策の諸事例を検討しながら、地球温暖化に代表されるような地球環境問題に対処するための環境政策の設計はいかにあるべきかということに関する政策的含意を導き出していく。 この講義は、環境経済学 a の講義内容を前提として行なわれるので、これを既習のうえで受講することが望ましい。	授業計画	1 日本の環境政策…日本の公害問題とその対策について、1960～70年代の環境政策を中心に検討する。
			2 米国の環境政策…米国の酸性雨対策において導入されている二酸化硫黄排出許可証取引制度について検討する。
			3 地球温暖化…地球温暖化をめぐる国際的取り組みの経緯を解説し、京都メカニズムの課題について考察する。
			4 環境税制改革…欧州における環境税導入の事例を検討しながら環境保全型社会経済システムの構築に向けた税体系のあり方を考察する。
			注：以上の4つのテーマはそれぞれ2～4回の講義にわたって解説が行なわれる。また、参考文献については講義中に適宜指示する。
評価方法	定期試験による。		
テキスト参考文献	植田和弘『環境経済学』岩波書店		

98科目名	経済地理学	担当者	犬井正
01科目名	経済地理学 a	担当者	犬井正
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>講義の目標</p> <p>経済地理学は経済の諸事象の地理的配置を説明し、経済地域の成立・構造・機能を明らかにすることを目的とする。経済事象は農業、工業、商業など多岐にわたるので、本講義では農業地理学を主体にしながら、経済地理学の方法と内容を学んでいく。</p> <p>講義概要</p> <p>単に講義による農業地理学の理論だけでなく、フィールドワークをおこなうとともに、スライドなどを用いできるだけ農業の具体的な現実のすがたが把握できるように努める。また、適当なトピックスを選んで、ディベート形式などもとり入れ、受講者の意見を発表する場も設定する。さらに受講者は前期・後期各1回（それぞれ4000字程度）の小論を提出し、レポート・論文の書き方の基本を習得する。</p>	授業計画	1 オリエンテーションを行い、受講者数を決定する	
	評価方法		レポート結果と講義への貢献度などから総合的に判定する。	2 経済地理学の研究方法と研究対象について、経済学と地理学の方法の相違をふまえながら講述する
				3 経済地理学研究のためのデータの収集とその活用方法について
テキスト参考文献	テキスト： D. グリッグ著『農業地理学』1997年、農林統計協会		4 農業活動と自然環境との関係を、具体的な農業地域を事例にして考察する	
			5 農業生産と農業労働力、専業・兼業別農家の経営形態の地域的差異を考察する〈小論提出〉	
			6 農業経営規模と土地の保有形態を中心として、農業経営形態や他産業との競合を視点として考察する	
			7 農産物と市場・流通・輸送形態の関係について具体的な農業地域を事例として考察する	
			8 国家と農業政策、土地利用と土地利用計画・政策について考察する	
			9 日本と世界の諸地域の農業経営形態の差異と農業地域区分の方法を考察する	
			10 東京近郊洪積台地上の農業地域のフィールドワーク実施（日曜日に振り替えて実施する）	
			11 同上	
			12 前期のまとめと評価。フィールドワークのレポート提出	

01科目名	経済地理学 b	担当者	犬井正
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>講義の目標</p> <p>経済地理学は経済の諸事象の地理的配置を説明し、経済地域の成立・構造・機能を明らかにすることを目的とする。経済事象は農業、工業、商業など多岐にわたるので、本講義では農業地理学を主体にしながら、経済地理学の方法と内容を学んでいく。</p> <p>講義概要</p> <p>単に講義による農業地理学の理論だけでなく、フィールドワークをおこなうとともに、スライドなどを用いできるだけ農業の具体的な現実のすがたが把握できるように努める。また、適当なトピックスを選んで、ディベート形式などもとり入れ、受講者の意見を発表する場も設定する。さらに受講者は前期・後期各1回（それぞれ4000字程度）の小論を提出し、レポート・論文の書き方の基本を習得する。</p>	授業計画	1 日本の農業の特色と農業地域の概観	
	評価方法		レポート結果と講義への貢献度などから総合的に判定する。	2 首都圏の農業地域の構造と特色
				3 輸送園芸農業地域の構造と特色
テキスト参考文献	テキスト： D. グリッグ著『農業地理学』1997年、農林統計協会		4 米作地域の農業経営の特色と問題点〈小論提出〉	
			5 農産物の自由化と日本の農業の関係を文化、経済の視点からみる	
			6 イギリスの農業の特色と農業地域の概観	
			7 イギリスのLFA地域と集約農業地域の特色を考察する	
			8 イギリスの工業化する農業と農業地域の特色	
			9 農産物の過剰生産と農業補助金政策をイギリスの小麦、日本の米を対象にして考察する	
			10 同上	
			11 パネルディスカッションの実施	
			12 まとめと評価 〈パネルディスカッションのレポート提出〉	

98科目名	交通経済論	担当者	岡田博
-------	-------	-----	-----

01科目名	交通経済論 a	担当者	岡田博
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>現代は車社会とも言われる。自動車の発達によって我々の日常生活は飛躍的に便利になった一方、自動車の排ガス、交通騒音等による環境問題、交通渋滞等の都市問題、地方鉄道、バス等の公共交通の経営問題など多くの問題を惹起している。</p> <p>本講義の目的は、これら交通に関する基礎理論を講じ、交通問題の解決への接近を試みる。本講義の概要は交通を研究対象として、これに経済理論の分析用具を用いて分析を行う。講義の主な内容：交通経済論のアプローチの方法について、交通需要の特性、交通サービス供給について、交通市場の構造と特性、運賃の理論と実際、交通調整問題、交通と環境問題、交通政策等々について。</p>	授業計画	1	交通経済論について、研究の方法、交通の概念等
			2	交通需要Ⅰ 交通需要の特性、交通需要の弾力性について
			3	交通需要Ⅱ 交通需要の予測とその方法
			4	交通サービスの供給Ⅰ 交通サービス供給の史的概観
			5	交通サービスの供給Ⅱ 交通サービス供給の3要素、交通基礎施設サービスの供給形態変化
			6	交通市場Ⅰ 交通市場の特性
			7	交通市場Ⅱ 交通市場の構造
			8	運賃理論Ⅰ 運送価値説
			9	運賃理論Ⅱ 独占運賃と差別運賃1
			10	運賃理論Ⅲ 独占運賃と差別運賃2
			11	運賃理論Ⅳ 運賃費用説
			12	運賃理論Ⅴ 限界費用運賃
評価方法	定期試験によって評価するが、ときにレポートの提出を指示することもあり、また出席、等を総合して評価する。			
テキスト参考文献	参考文献として、岡野行秀編『交通の経済学』有斐閣			

01科目名	交通経済論 b	担当者	岡田博
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>現代は車社会とも言われる。自動車の発達によって我々の日常生活は飛躍的に便利になった一方、自動車の排ガス、交通騒音等による環境問題、交通渋滞等の都市問題、地方鉄道、バス等の公共交通の経営問題など多くの問題を惹起している。</p> <p>本講義の目的は、これら交通に関する基礎理論を講じ、交通問題の解決への接近を試みる。本講義の概要は交通を研究対象として、これに経済理論の分析用具を用いて分析を行う。講義の主な内容：交通経済論のアプローチの方法について、交通需要の特性、交通サービス供給について、交通市場の構造と特性、運賃の理論と実際、交通調整問題、交通と環境問題、交通政策等々について。</p>	授業計画	1	交通の社会的費用Ⅰ 交通の社会的費用の概念
			2	交通の社会的費用Ⅱ 交通の社会的費用の実態と対策
			3	交通の社会的費用Ⅲ 交通の社会的費用の内外部化
			4	交通投資と資金調達Ⅰ 交通投資の経済効果
			5	交通投資と資金調達Ⅱ 資金調達の方法について
			6	国民経済と交通Ⅰ 交通の発達と経済成長、近年におけるGDPと輸送量の乖離とその要因
			7	国民経済と交通Ⅱ 交通の発達と地域開発
			8	国民経済と交通Ⅲ 交通の発達と生産物市場圏の変化
			9	国民経済と交通Ⅳ 交通システムの発達と企業形態、多頻度少量輸送の増大と問題点
			10	交通政策Ⅰ 交通政策の理論
			11	交通政策Ⅱ 交通安全政策
			12	おわりに
評価方法	定期試験によって評価するが、ときにレポートの提出を指示することもあり、また出席、等を総合して評価する。			
テキスト参考文献	参考文献として、岡野行秀編『交通の経済学』有斐閣			

98科目名	産業組織論	担当者	青木雅明
-------	-------	-----	------

01科目名	産業組織論 a	担当者	青木雅明
-------	---------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>経済学の1分野である産業組織論(Industrial Organization)の基本的考え方や手法、応用分野について学びます。産業組織論は、財貨サービス、労働、資本の各市場において生産者または供給者と消費者または最終需要者の行動と研究ですが、それらに影響を与える市場の構造や政府の規制その他の条件と明らかにします。その成果と経済政策に応用します。</p> <p>ミクロ経済学が産業組織論の基礎になっていますので、産業組織論と応用する経済政策はミクロ経済政策です。その中心は競争政策または独占禁止政策ですが、近年その他の分野にも拡大しています。</p> <p>企業の機能と構造、独占企業の行動、垂直的制限、競争形態、市場参入の効果、カルテルなどについて学びます。</p>	授 業 計 画	1 産業分析の基本概念的① コストとコスト決定要因
			2 産業分析の基本概念的② 需要、競争、経済厚生
			3 産業分析の基本概念的③ 市場構造、市場行動、市場成果
			4 企業の機能と構造 種類、規模分布、内部構造、利潤最大化行動、範囲と規模 (9決定)
			5 独占企業の行動① 過剰生産、独占の非効率
			6 独占企業の行動② 価格差別、品質の選択、反独占政策
			7 垂直的制限① 垂直統合の決定要因
			8 垂直的制限② 垂直支配、一テリトリ制、両販価格、専売店制度
			9 競争の形態① 数量競争、クレディット、コミットメント
			10 競争の形態② 価格競争、市場集中度の指標
			11 参入参入の経済効果 自然独占、コンスタブル市場、独占的競争
			12 カルテル① カルテルの種類と非効率性、カルテルの限界
評価方法	毎時限のレポーターまたは問題の解答と出席遅刻の状況によります。		
テキスト参考文献	長岡良男・平尾由紀子『産業組織の経済学』日本評論社 1998年 2940円		

01科目名	産業組織論 b	担当者	青木雅明
-------	---------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>「産業組織論 a」に引き続き情報の非対称性と企業行動、企業の戦略的行動、技術進歩と研究開発競争、知的財産権、共同研究開発、貿易と直接投資、規制と規制改革などについて学びます。</p>	授 業 計 画	1 カルテル② カルテルの維持可能性、カルテル規制、合併
			2 情報の非対称性と企業行動① 品質についての情報の非対称性、企業の戦略
			3 情報の非対称性と企業行動② 価格についての情報の非対称性、広告、政府の規制
			4 企業の戦略的行動① 類型、参入阻止と信憑性ある行動、略奪価格
			5 企業の戦略的行動② 政府の対応
			6 技術進歩と研究開発競争① 技術進歩と研究開発、研究開発のインセンティブ
			7 技術進歩と研究開発競争② 技術模倣、研究開発と市場構造、研究開発と経済厚生
			8 知的財産権 知的財産権と技術革新、技術のライセンス
			9 共同研究開発 形態と効果、ネットワーク外部性
			10 貿易と直接投資 貿易政策、直接投資政策
			11 規制と規制改革① 規制の目的、価格規制の理論
			12 規制と規制改革② 規制の便益、規制の評価、規制改革
評価方法	毎時限のレポーターまたは問題の解答と出席遅刻の状況によります。		
テキスト参考文献	長岡良男・平尾由紀子『産業組織の経済学』日本評論社 1998年(2940円)		

98科目名	産業構造論	担当者	山越徳
-------	-------	-----	-----

01科目名	産業構造論 a	担当者	山越徳
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	経済の発展、成長に伴い、様々な側面の経済構造が変化することはよく知られており、またその変化がより一層の発展、成長を促す。本講義ではそれらの構造変化の主たる産業構造の変動に注目し、近代的経済発展、産業社会の形成、生産技術構造、それらを支える経済構造、相互依存関係を考察し、高度経済成長や重化学工業化の意味を考える。そのため、その姿を捉える有力な分析道具の1つである産業連関表についても解説、それを用いた日本経済の分析についてもデータを用いて見ていくことにする。	授業計画	1 経済成長、経済発展：経済成長とは、S、クズネツツの指標、経済構造の変化、工業化、高度化、多様化
	2 近代的経済発展：1人当り国民所得、GNP、労働生産性、産業規模、産業社会、産業革命		
	3 産業の概念：産業の経済学、生産構造、生産技術、産業分類、分業、産業統計、商品ベースと企業ベース		
評価方法	レポート(課題は講義の中で提示)と期末テストによる。	4 経済成長と産業構造Ⅰ：経済進歩の歴史過程、エネルギー集約化、基本三部門分類、ベティの法則、AMS分類	
テキスト参考文献	宮沢健一『産業の経済学』第2版(東洋経済新報社) 米倉誠一郎『経営革命の構造』(岩波新書)	5 経済成長と産業構造Ⅱ：労働力構成と所得構成、成長の弾性、所得弾性、時系列データとクロスセクションデータ	
		6 経済成長と産業構造Ⅲ：発展段階説、製造業内部の構造と発展、消費財と投資財、最終財と中間財、輸入と国産化、輸入代替、生産規模	
		7 経済成長と産業構造Ⅳ：輸入指向型工業化、先進工業国とNIES、雁行形態、重化学工業化、ローマクラブ、石油危機	
		8 産業連関表とはⅠ：新SNA、投入係数、産出係数、逆行列、中間投入、中間需要、最終需要、付加価値部門、直接および間接の生産波及、相互依存関係	
		9 産業連関表とはⅡ：産業特性、感応度係数と影響度係数、前方連関と後方連関、投入係数の固定性と変化、貿易構造、スカイライン分析	
		10 産業連関表による分析Ⅰ：構造変化の要因分析、投入係数の変化と技術変化、生産プロセスと産業部門、部門の再配列、ブロック化、三角形化、部門の独立性	
		11 産業連関表による分析Ⅱ：素原材料系統の転換、工業原材料と生産規模、ユニットストラクチャー、構造転換、規模別I-O表	
		12 産業連関表による分析Ⅲ：資本マトリックス、産職マトリックス、地域I-O表、国際I-O表、国際分業、公害I-O表	

01科目名	産業構造論 b	担当者	山越徳
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	産業構造論 a の講義内容を踏まえて、石油危機後の激しい構造変化、サービス経済化、ソフト化、情報化、国際化などの変動の事例の分析を通して、新しく出てきた経済の諸問題、これまでの構造変化の指標にとってかわるべき新しい指標、産業構造の捉え方をいっしょに考察していくことにする。	授業計画	1 産業構造の新しい方向Ⅰ：サービス化、ソフト化、情報化、多様化、高度化、複合化、国際化、構造変化の指標、
	2 産業構造の新しい指標Ⅱ：財とサービス、サービスの生産物と生産性、有形財と無形財、間接労働と直接労働、労働投入と評価、構造変化の流れ		
	3 産業内部の構造変化・ケーススタディⅠ：3つのオートメーション、高度経済成長期の生産技術と80年代、90年代の生産技術、技術波及		
評価方法	レポート(課題は講義の中で提示)と期末テストによる。	4 産業内部の構造変化・ケーススタディⅡ：鉄鋼、電機、時計、印刷、銀行、小売などの事例	
テキスト参考文献	関満博『フルセット型産業構造を越えて』(中公新書) 清成忠男、橋本寿朗『日本型産業集積の未来像』(日本経済新聞社)他	5 産業内部の構造変化・ケーススタディⅢ：ロボットとコンピューター、労働への影響分析	
		6 産業内部の構造変化・ケーススタディⅣ：ME革命とIT化、何がおきているか	
		7 構造変化と就業構造Ⅰ：労働力の需要と供給、人口構造、産業構造と職業構造、基幹労働力と縁辺労働力、性別労働力	
		8 構造変化と就業構造Ⅱ：日本の労働市場、新規学卒労働力、大企業と中小企業、雇用制度、雇用慣行、雇用調整、労働の属性	
		9 構造変化と就業構造Ⅲ：ソフト化、知識集約化と職業構造および女子労働	
		10 産業と地域Ⅰ：地域活性化と産業、国際化と地域、大企業と中小企業、地場産業	
		11 産業と地域Ⅱ：大都市産業、産業集積、地域の取組みの事例	
		12 経済政策、産業政策、労働政策の結びつき、地域活力、インキュベータ、自治体の役割	



98科目名	労働経済学	担当者	山越徳
-------	-------	-----	-----

01科目名	労働経済学 a	担当者	山越徳
-------	---------	-----	-----

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	労働経済学は、多くの人々が人生においてさまざまな仕事(労働)に従事する時間・空間的次元, 言いかえると、「労働市場」の構造、機能、政策を分析対象とする応用経済学である。応用経済学の中では、次々と新たな問題が生まれ、新しい仮説も提示されているため、最も「面白い」領域といわれている。いわば臨床医学に相当するこの分野の全体像を把握するには、1年間の a, b の講義では十分ではないが、初歩的段階から専門文献が読めるまでの理論および実証分析のトレーニングを行いたい。 労働経済学 a の講義では、現実の複雑な事象を分析するための方法を、準備・蓄積するために理論的側面に重点を置くが、日本経済における現実の労働力状況についても、資料やデータを用いて取り上げていく。 なおこの講義の進行は受講生の理解度を見て調整する。	授業計画	1 労働経済学とは：研究対象、商品と労働、分析方法、最近の雇用情勢、講義プログラム
	2 労働とは：経済学と労働、労働力の概念、定義、用語、経済主体、労働力の属性、産業と職業、分類		
	3 労働統計とその見方：人口統計と労働統計、理論と調査、調査方式、賃金、労働時間、労働条件など、諸統計における労働		
評価方法	レポート（課題は講義にて提示）と期末テストによる。		4 労働市場の理論：学問的系譜、新古典派の労働市場理論、労働の供給と需要、ケインズの雇用理論
テキスト参考文献	清家篤『労働経済』（東洋経済新報社、2002年） 小野旭『労働経済学（第二版）』（東洋経済新報社、1995年） 桑原靖夫『放送大学テキスト：労使の関係』（日本放送出版協会、1995年）		5 労働供給の理論Ⅰ：供給主体、個人と家計、所得と余暇選好の理論、供給曲線
			6 労働供給の理論Ⅱ：有沢＝ダグラスの法則、家計類型、就業形態、労働時間と余暇、家事育児と就業、労働時間短縮
			7 労働需要の理論：生産の派生需要、需要主体、需要曲線、限界生産力命題、生産関数、技術変化
			8 労働市場の構造と機能Ⅰ：労働市場における需要調整、景気動向と雇用、失業、雇用調整、調整速度、フィリップス曲線、スタグフレーション
			9 労働市場の構造と機能Ⅱ：雇用調整の制度的対応、企業内対応、労働市場の分断化、充足率と失業率、UV分析
			10 日本の労働力構造と市場Ⅰ：戦後日本の雇用の推移、人口構造、経済成長と労働需給、高齢化と少子化、女子労働力
			11 日本の労働力構造と市場Ⅱ：安定雇用と雇用調整、基幹労働力と縁辺労働力、都市と農村、労働力供給源の変遷、日本の労働市場の模型
			12 日本の労働力構造と市場Ⅲ：二重構造、外部市場と内部市場、職業別労働市場、新卒採用と中途採用、学歴別労働力

01科目名	労働経済学 b	担当者	山越徳
-------	---------	-----	-----

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	労働経済学 a でみてきた理論図式と日本の労働力構造の姿およびその変化を踏まえて、この講義 b では、日本の労働市場および雇用問題を資料、データを用いて、取り挙げ、探る。	授業計画	1 新規学卒労働力：新規学卒労働力の推移（学歴別、性別、職業別）県外就職、地域間労働市場、集団就職、職安法
	2 性別年齢別労働力Ⅰ：高齢化状況、経済成長と産業構造、産業と職業、成長分野、衰退分野、安定分野、性別年齢構成の推移		
	3 性別年齢別労働力Ⅱ：性・年齢と雇用調整、労働力のコーホート、年齢による参入制限		
評価方法	レポート（課題は講義にて提示）と期末テストによる。		4 労働力のコーホート分析Ⅰ：産業別および職業別労働力増減状況、性別増減パターン、分野別労働力確保状況、退出状況
テキスト参考文献	樋口美雄『雇用と失業の経済学』（日本経済新聞社 2001年） 桑原靖夫『国境を越える労働者』（岩波新書、1991年）他		5 労働力のコーホート分析Ⅱ：若年採用、中途採用、定年制、就業可能年齢と引退曲線
			6 労働力のコーホート分析Ⅲ：産業職業クロスコーホート、コーホートによる労働市場、コーホート別部門シェア、女子進出分野
			7 年齢と勤続のコーホート分析Ⅰ：年齢と勤続、日本的雇用慣行、年功制、長期雇用、標準労働者
			8 年齢と勤続のコーホート分析Ⅱ：大企業と小企業、学歴と性別、ホワイトカラーとブルーカラー、大卒者の市場
			9 採用状況から見た労働市場：勤続0年、企業規模、WWとBW、性別、石油ショックの前と後、若年労働力の比重、競合関係、バブル期の前と後
			10 情報化、国際化と労働市場：海外直接投資、空洞化、国際化要員、ソフト化、サービス化、人材育成、モノ、カネの移動とヒトの移動、仕事の変化
			11 外国人労働力：国際労働力の推移、経済の国際化、日本の市場、送り出し国、受け入れ国、日系人労働力
			12 雇用見通しと労働市場の将来：人口構造、産業別、職業別、性、年齢別雇用見通し、諸政策との関係

98科目名	経営学原理	担当者	黒川文子
-------	-------	-----	------

01科目名	経営学原理 a	担当者	黒川文子
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>経営学が他の学問領域と異なる最も基本的かつ重要な問題を中心に講義する。その上に立って、今日の問題、すなわち規制緩和、企業の国際化と空洞化、E ビジネス等をアプローチする。経営学ほど変化の激しい領域はないので、原理を把握していれば、どのような状況にもうまく対処できよう。</p> <p>講義では、経営学説の紹介だけでなく、実際の企業のケースを取り上げて、理解しやすいように授業を進めていく。経営学原理 a では、企業の目的、株式会社制度などの企業経営の基本的なコンセプトを理解した上で、経営戦略の策定について学習する。</p>	年間授業計画	1 企業経営とは何か
			2 変貌する現代のビジネス
			3 企業とビジネスの関係
			4 ニュービジネスの登場と経営革新
			5 現代の会社制度と企業経営
			6 資本主義経済と株式会社
			7 経済のグローバル化と株式会社の機構改革
			8 企業の目的と業績評価
			9 業績評価尺度
			10 多角化企業と競争環境
評価方法	期末試験と出席によって、総合的に評価する。		11 持続的競争優位と戦略
テキスト参考文献	高橋宏幸・丹沢安治・坂野友昭著『現代経営・入門』有斐閣ブックス、2002年。		12 職務とは何か
			13

01科目名	経営学原理 b	担当者	黒川文子
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>経営学原理 b では、まず経営戦略と密接な関係にある組織について講義する。最近、「アウトソーシング」や「バーチャル・コーポレーション」などで注目を浴びている「IT 革新とネットワーク組織」についても見ていく。</p> <p>次に、生産、マーケティング、人的資源等の現代的な経営オペレーション・システムについて理解を深める。最後に、経営倫理やイノベーションとベンチャーといった、現代の経営にとって重要な問題についても焦点をあてて講義していく。</p>	年間授業計画	1 機能別組織とプロセス組織
			2 事業別組織とカンパニー制
			3 IT 革新とネットワーク組織
			4 伝統的な組織間関係
			5 日本的な企業グループと系列
			6 伝統的なジョブ・ショップと流れ作業生産
			7 モジュール組立方式とセル生産
			8 トヨタのカンバン方式とリーン生産
			9 マーケティング戦略
			10 人的資源戦略
評価方法	期末試験と出席によって、総合的に評価する。		11 経営倫理
テキスト参考文献	高橋宏幸・丹沢安治・坂野友昭著『現代経営・入門』有斐閣ブックス、2002年。		12 イノベーションとベンチャー
			13

98科目名	経営学原理	担当者	富田忠義
-------	-------	-----	------

01科目名	経営学原理 a	担当者	富田忠義
-------	---------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	われわれにとって「企業」とは一体なにか、その「経営」はどのような種類の人間によって、どのように行われているのか。本講義は、この種の疑問にたいして、経営学の最新の研究成果を概観することによって、答えようとしている。 講義では、組織の行動を基本的に方向づけ特色を与える企業目的と経営理念、経営の担い手としての専門経営者（CEO）の機能と役割、取締役会などの最高経営機関の仕組み、経営管理機能について研究を進めてきた現代経営学の生成と発展、経営管理の過程と要素機能、計画技法とコントロール技法、組織構造と組織過程、組織の活性化などの個別テーマについて順次考察する。	授業計画	1 年間講義計画の概要
			2 (経営学方法論) 経営学の対象
			3 マネジメント経営学の方法
			4 実践経営学の方法
			5 (経営理念) 現代企業の目的
			6 経営理念
			7 経営倫理、経営社会責任
			8 (経営リーダーシップ論) 最高経営機関とその機能
			9 株主総会、取締役会、CEO (最高経営責任者)
			10 COO (最高業務執行者)
評価方法	期末試験の結果と、授業出席状況による		11 コーポレート・ガバナンス
テキスト参考文献	河野重榮『マネジメント要論』八千代出版 小椋康宏『経営学原理』学文社		12 前期講義のまとめ

01科目名	経営学原理 b	担当者	富田忠義
-------	---------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	われわれにとって「企業」とは一体なにか、その「経営」はどのような種類の人間によって、どのように行われているのか。本講義は、この種の疑問にたいして、経営学の最新の研究成果を概観することによって、答えようとしている。 講義では、組織の行動を基本的に方向づけ特色を与える企業目的と経営理念、経営の担い手としての専門経営者（CEO）の機能と役割、取締役会などの最高経営機関の仕組み、経営管理機能について研究を進めてきた現代経営学の生成と発展、経営管理の過程と要素機能、計画技法とコントロール技法、組織構造と組織過程、組織の活性化などの個別テーマについて順次考察する。	授業計画	1 後期講義計画の概要
			2 (経営管理学説史) 現代経営学の生成と発展 テイラーとフォード
			3 ファヨールとフォレット
			4 バーナードとサイモン
			5 (マネジメント技法論) マネジメント・プロセス
			6 問題解決と意思決定
			7 戦略策定技法、計画技法、コントロール技法
			8 (経営組織論) 組織構造と組織過程
			9 組織の類型化、経営組織の設計、権限と責任
評価方法	期末試験の結果と、授業出席状況による		10 リーダーシップ
テキスト参考文献	河野重榮『マネジメント要論』八千代出版 小椋康宏『経営学原理』学文社		11 経営組織の活性化
			12 後期講義のまとめ

98科目名	企業論	担当者	西川純子
-------	-----	-----	------

01科目名	企業論 a	担当者	西川純子
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	企業とは何かを問いながら、企業が人間社会において果たしてきた役割とその問題点を検討してみたい。講義は歴史的な考察と理論的な検討を2本の軸としてすすめていく予定である。	授業計画	1 見えざる手と見える手 その1
			2 見えざる手と見える手 その2
			3 営利主義と職人的本能 その1
			4 営利主義と職人的本能 その2
			5 所有と支配 その1
			6 所有と支配 その2
			7 不在所有の制度 その1
			8 不在所有の制度 その2
			9 競争と独占 その1
			10 競争と独占 その2
			11 技術革新 その1
			12 技術革新 その2
評価方法	筆記試験		
テキスト参考文献	特に定めない。		

01科目名	企業論 b	担当者	西川純子
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要		授業計画	1 企業と国家 その1
			2 企業と国家 その2
			3 多国籍企業 その1
			4 多国籍企業 その2
			5 グローバリゼーション その1
			6 グローバリゼーション その2
			7 企業統治 その1
			8 企業統治 その2
			9 非営利企業 その1
			10 非営利企業 その2
			11 企業と環境 その1
			12 企業と環境 その2
評価方法			
テキスト			

98科目名	会計学	担当者	内倉滋
-------	-----	-----	-----

01科目名	会計学 a	担当者	内倉滋
-------	-------	-----	-----

03科目名	会計学 a	担当者	内倉滋
-------	-------	-----	-----

講義目的および講義概要	<p>企業会計もまた1つの言語であるとしばしば評されるが、言語を対象とした科学の分野には、その文法を純粹形式的に明らかにしていく「構文論」と、言葉の持つ意味の解明を試みる「意味論」と、社会的制度の中での言葉の用いられ方を研究する「語用論」とがある。本講義は、簿記原理という構文論の知識を前提に、それに内容的な意味付けを試みていくところの、会計学における「意味論」に相当するものであり、その後展開される会計学における「語用論」（＝経営分析論等の応用・専門学科目）への1つの橋渡しとなるものである。</p> <p>なお授業計画は右に掲げるとおりであるが、おおむね「会計学 a」では、個別財務諸表の作成にかかわる諸規定の概要説明およびその背後に存在する理論の内容紹介をしていきたい。</p>	授業計画	1 本講義の目的等	
	評価方法		主として、2回ほどのレポートにより評価していきたい。なおその際には、相対評価を基本とし絶対評価を加味することとする。	2 会計学の歴史;戦後の制度会計の変遷と「企業会計原則」
			テキスト参考文献	山浦久司・廣本敏郎 編著、『ガイドダンス企業会計入門』（白桃書房）
			4 テキスト第1章:決算書から見える世界[≒会計学の2つの領域]	
			5 テキスト第2章:会計と決算[≒複式簿記の原理]…その1	
			6 テキスト第2章:会計と決算[≒複式簿記の原理]…その2	
			7 テキスト第3章:決算書のルール	
			8 テキスト第4章:製造会社の決算書[≒原価計算論]	
			9 テキスト第5章:決算書の信頼性を確かめる[≒会計監査論]	
			10 テキスト第6章:決算書の内部利用[≒管理会計論]	
			11 テキスト第7章:決算書を読んでみよう[≒経営分析論]	
			12 テキスト第8章:決算書と税金[≒税務会計論]	

01科目名	会計学 b	担当者	内倉滋
-------	-------	-----	-----

03科目名	会計学 b	担当者	内倉滋
-------	-------	-----	-----

講義目的および講義概要	<p>個別財務諸表を前提とした「会計学 a」の知識を前提として「会計学 b」では、連結会計基準(「連結財務諸表原則」等)・退職給付(年金)会計基準(「退職給付に係る会計基準」等)・税効果会計基準(「税効果会計に係る会計基準」等)といった、比較的新しい問題(ないし、最近においてその制度的中身が大幅に改変された領域)を講義の対象としていきたい。</p>	授業計画	1 連結会計基準 その1:総論	
	評価方法		「会計学 a」と同様	2 連結会計基準 その2:資本連結手続きについて
			テキスト参考文献	未定
			4 連結会計基準 その4:連結精算表の作成	
			5 企業組織再編に関する会計基準について	
			6 外貨換算に関する会計基準について	
			7 金融商品会計基準について	
			8 リース会計基準について	
			9 退職給付および年金に関する会計基準について	
			10 キャッシュ・フロー会計基準について	
			11 税効果会計 その1:「申告調整」について	
			12 税効果会計 その2:税効果会計とその申告調整	

98科目名	応用統計学	担当者	本田勝
-------	-------	-----	-----

01科目名	応用統計学 a	担当者	本田勝
-------	---------	-----	-----

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>この講義では「統計学」で学んだ1変量統計学の知識をもとにして、多変量統計解析の考え方を習得する。</p> <p>多変量統計解析とは、お互いに何らかの関係を持つ多変量データを用いて、その背後にある総合特性を探り、判断あるいは評価の道具に利用することである。この解析にはコンピュータの利用が不可欠であり、本講義でもEXCEL やSASなどのプログラムパッケージを使用する。</p> <p>したがって、<u>コンピュータの操作はもちろんのこと EXCEL についても熟達している必要がある</u>ので、受講の際は注意すること。</p> <p>また受講は統計学の既習者か同程度の統計学の知識を持っている学生に限る。</p>	授業計画	1 多変量解析とは何かについての概観を行う。
			2 統計学の基本事項についての復習をする。 (平均、分散、共分散、相関係数、散布図)
			3 統計学の基本事項についての復習をする。 (確率の分布、正規分布、標準化)
			4 行列および行列式についての復習をする。 (行列、行列式、連立方程式の解法)
			5 行列および行列式についての復習をする。 (固有値、固有ベクトル)
			6 単回帰分析について述べる。 (説明変数、従属変数、最小2乗法)
			7 単回帰係数の評価方法について述べる。 (残差、標準回帰係数、重相関係数)
			8 実例データを各自用意し、演習を行う。 (分散分析表の見方、決定係数)
			9 重回帰分析への拡張を行う。 (係数の推定と検定)
			10 実例データによる重回帰分析の演習を行う。 (データの収集)
評価方法	定期試験、レポートおよび出席調査による総合評価		11 回帰分析演習(結果の解釈)
テキスト参考文献	永田靖、棟近雅彦『多変量解析法入門』サイエンス社		12 回帰分析における変数選択の方法について述べる。

01科目名	応用統計学 b	担当者	本田勝
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	応用統計学 a と同じ	授業計画	1 2変量データの主成分分析の考え方とその数式化を行う。
			2 P変量データの主成分分析の考え方とその数式化を行う。
			3 実例データを用いた例題と主成分の解釈。 (寄与率、累積寄与率)
			4 実例データを各自用意し、演習を行う。 (データの収集と入力)
			5 分析結果の解釈および検討
			6 2変量判別分析の考え方とその定式化。
			7 実例データを用いた判別分析の演習。
			8 P変量判別分析の定式化。
			9 実例データによるP変量判別分析の演習。
			10 実例データを各自用意し、P変量判別分析の演習を行う。
評価方法	定期試験、レポートおよび出席調査による総合評価		11 分析結果の解釈および検討
テキスト参考文献	応用統計学 a と同じ		12 クラスター分析など他の多変量解析手法の概略を述べる。

98科目名	標本調査論	担当者	松井敬
-------	-------	-----	-----

01科目名	標本調査論 a	担当者	松井敬
-------	---------	-----	-----

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>新聞、TVなどのメディア、官庁、企業など様々な機関から私たちの生活や社会にかかわる数多くの調査結果とその分析が公表されている。多くの場合、それらはあたかも私たちの総意であるかのように扱われているが、調査の実態は何であろうか。本講義では抽出の方法という観点から標本調査の問題点を整理してみる。</p> <p>講義では調査の歴史から始まり、授業計画に見られるような抽出法に関連した様々な問題を取り扱う。</p> <p>本講義の特色は応用例やコンピュータによるシミュレーションの結果を多く取り入れ、理解の助けとしていることである。そのため、演習などによる数値計算の作業が多いが、それらを厭わないことが大切である。</p> <p>出席と演習への貢献を大きく評価するので受講を考える学生はその点に留意していただきたい。</p>	授業計画	1. 標本調査とは何か、その意味や方法、問題点など。講義の進め方 - 方針と受講生への要請。
			2. 良いサンプルとは何か、よいサンプルを得るための歴史的な試み。有意抽出法。
			3. 母集団と標本（サンプル）の枠組み。母集団特性値と標本との関係。無作為抽出法の意味するところ。
評価方法	講義中の演習と出席。期末のレポート。		4. 単純無作為抽出法—復元と非復元抽出法。単純無作為標本の作り方。乱数。
テキスト参考文献	松井敬「標本調査論」、内田老鶴圃。他にプリントを適宜配布する。インターネット上にもテキスト、データ等をのせている。		5. 単純無作為抽出法の例。推定量と標本分布。推定量の性質。
			6. 誤差の評価。母平均と母集団総計の推定量。その分散と標準誤差。有限母集団補正。
			7. 標準誤差の意味。推定量の精度（誤差）、推定量の相互比較（効率）。母集団比率の推定。
			8. 標本の大きさを決める際の考え方。
			9. 層化無作為抽出法。抽出の方法。層化抽出法で問題となる点。構造模型。
			10. 層化抽出法におけるサンプルの配分—比例配分と最適配分。推定量とその分散。抽出法の比較。
			11. 層化抽出法における層の作り方、層の数。
			12. 層化抽出法で、調査項目が複数個の場合の取り扱い、サンプルの大きさの決定。

01科目名	標本調査論 b	担当者	松井敬
-------	---------	-----	-----

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>本講義の目的は、「標本調査論 a」で述べたことと同じである。</p> <p>本講義でも、現在実際に行われている幾つかの抽出法を取り上げ、その方法や特徴を説明してゆく。シミュレーションや演習を通してそれぞれの手法をより深く理解してもらおうとする試みも同じである。基本的な概念や用語などの説明はすでに「標本調査論 a」で済んでいるので、「標本調査論 b」のみの受講は「a」の基本的な内容について十分に理解しておく必要がある。なお、そのためにはインターネット上にテキストや用語集、Q&amp;Aを含めた諸情報が展開されているので、参考にされたい。</p> <p>後期には、現在行われている諸抽出法の全体像がつかめてくるので、右の授業計画の順序にかかわらず、具体的なトピック（たとえば、視聴率やRDD法など）を取り上げ講義の中の抽出法との関連で解説したい。</p>	授業計画	1. 系統抽出法。意味と方法。推定量とその分散。
			2. 系統抽出法が有効な事例、条件など。他の抽出法との関連。
			3. 比推定の考え方と推定量。抽出法の実際。
評価方法	講義中の演習と出席。期末のレポート。		4. 回帰推定の考え方と実際。抽出法の例。
テキスト参考文献	松井敬「標本調査論」、内田老鶴圃。他にプリントを適宜配布する。インターネット上にもテキスト、データ等をのせている。		5. 抽出確率が一定でない抽出法。抽出確率が等しくない場合を通して—究極の抽出法は？
			6. 1段集落（クラスター）抽出法。1段目を等確率抽出した場合。推定量の特徴と比較。
			7. 1段集落（クラスター）抽出法。1段目が確率比例抽出の場合。比率の場合。
			8. 2段集落（クラスター）抽出法。考え方。この抽出法にかかわる問題点の整理。構造模型。
			9. 2段集落（クラスター）抽出法。1段目の抽出が等確率の場合。
			10. 2段集落（クラスター）抽出法。2段目の抽出が確率比例抽出による場合。抽出法の例
			11. 抽出法再考—様々な抽出法相互の関係、意味、比較など。実際の標本調査における問題。
			12. 標本調査関連のQ&A、まとめ。課題。

98科目名	データベース論	担当者	高柳敏子
01科目名	データベース論 a	担当者	高柳敏子
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>はじめに、ファイルシステムの欠点を改善するために経験的に開発・改良されてきたデータベースの歴史を概観する。</p> <p>続いて、現在汎用機からパソコンまで多くの専用ソフトが作られ、使われている関係データベースのもっとも単純な例として、身近な表計算ソフト(MS-Excel)のデータベース機能を利用し、実習しながらデータベースおよびその検索の基礎を学ぶ。</p> <p>表計算ソフトは大変多彩な機能を持ったソフトで、データベース機能も充実しており、データベースおよび検索処理の入門および基礎を学習するには十分である。</p> <p>実際のデータベースとしては国勢調査の結果の人口情報と、古くから日本人が親しんでいる百人一首を利用し、それらの取り扱いを通じて数値中心のデータベースと文字列中心のデータベースの扱いの基礎を学ぶ。</p>	授業計画	1 ガイダンス、データベースとは(1) データベース概観
			2 データベースとは(2) 簡単な歴史、データベースモデル(航海型、関係型、次世代型)
			3 データベースとは(3) データベースの三層スキーマとデータベース管理システム、
			4 データベースの実際(1) レコード、項目、フィールド
			5 データベースの実際(2) レコードの分類と集計
			6 データベースの実際(3) 実習(1)レコードの分類と集計
			7 データベースの実際(4) レコードの抽出、条件検索と条件設定
			8 データベースの実際(5) 実習(2)レコードの抽出、条件検索(1)
			9 データベースの実際(6) 実習(3)条件検索(2)
			10 データベースの実際(7) クロス集計
			11 データベースの実際(8) 実習(4)クロス集計
			12 データベースの実際(9) まとめおよび問題
評価方法	定期試験、2回程度のレポートおよび出席を加味して評価する。		
テキスト参考文献	前田、松山、和高、高柳、石田共著『Windowsによる情報活用』共立出版、2002		

01科目名	データベース論 b	担当者	高柳敏子
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>この講義は「データベース論 a」の既習が前提となる。関係データベースモデルの理論と実際を実習を通して学習する。</p> <p>はじめに、1970年 E.F.Codd により提案され、現在テキストベースのデータベースとして最も普及している関係データベースの特徴を順に解説していく。その基礎となっている関係代数、二次元の表として表現される関係を示すデータ構造、専用言語 SQL について、実際に専用ソフト(MS-Access)を使用しながら順に理解していく。</p> <p>使用する主なデータベースは、表計算ソフト (MS-Excel) 上に用意されている国勢調査の結果を利用した人口情報と百人一首の情報である。これらが関係データベースとして専用ソフト上でどのように取り扱われるか、また要求する検索が SQL 言語を使用してどのように表現されるか等を通して関係データベースの実際を学ぶ。</p>	授業計画	1 関係データベース(1) 関係データベースモデル、タプル、アトリビュート、ドメイン、キー
			2 関係データベース(2) 関数従属、関係の正規化
			3 関係データベース(3) 関係代数と演算(1) 和、差、積、直積
			4 関係データベース(4) 関係代数と演算(2) 選択、射影、結合、商
			5 関係データベースの実際(1) 設計(1) Excel 上の表の正規化と Access へのインポート
			6 関係データベースの実際(2) 設計(2) 関係の確認、主キーの設定、関係間の関連付け
			7 関係データベースの実際(3) 実習(1) 設計の実際
			8 関係データベース(5) 管理(1) クエリーの表現 QBE と SQL
			9 関係データベースの実際(4) 実習(2) QBE による検索
			10 関係データベース(6) 管理(2) SQL と関係代数の演算
			11 関係データベースの実際(5) 実習(3) SQL による検索
			12 関係データベース(7) 管理(3) SQL によるデータベース定義、更新処理、まとめ
評価方法	定期試験、2回程度のレポートおよび出席を加味して評価する。		
テキスト参考文献	前田、松山、和高、高柳、石田共著『Windowsによる情報活用』共立出版、2002		



98科目名	コンピュータ・シミュレーション論	担当者	富田幸弘
-------	------------------	-----	------

01科目名	コンピュータ・シミュレーション論 a	担当者	富田幸弘
-------	--------------------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的・講義概要	<p>情報処理の応用コースとして開設されている科目である。「情報処理概論」・「コンピュータ入門」・「情報処理」で学習した Excel をより高度に利用し、「プログラミング論」で学習した Visual Basic の技法をも学習する。</p> <p>さらに、経営科学の考え方とその分析方法を学習するとともに、コンピュータシミュレーションの技法についても学習する。</p> <p>パソコンのより高度な利用法について体験学習するとともに、各自の興味に従ったコンピュータシミュレーションを作成する。</p> <p>必ず、第一回目の講義に出席して、自分が履修可能であるかどうかを判断すること。</p>	授業計画	1 講義の概要・必要な基礎知識・評価・受講上の注意などについて
	評価方法		<p>数回のレポート、各自の作成したデータ処理の内容などを考慮して総合評価する。(出席状況なども考慮する)</p>

01科目名	コンピュータ・シミュレーション論 b	担当者	富田幸弘
03科目名		担当者	

講義目的・講義概要	<p>情報処理の応用コースとして開設されている科目である。「情報処理概論」・「コンピュータ入門」・「情報処理」で学習した Excel をより高度に利用し、「プログラミング論」で学習した Visual Basic の技法をも学習する。</p> <p>さらに、経営科学の考え方とその分析方法を学習するとともに、コンピュータシミュレーションの技法についても学習する。</p> <p>パソコンのより高度な利用法について体験学習するとともに、各自の興味に従ったコンピュータシミュレーションを作成する。</p> <p>必ず、第一回目の講義に出席して、自分が履修可能であるかどうかを判断すること。</p>	授業計画	1 講義の概要・必要な基礎知識・評価・受講上の注意などについて
	評価方法		<p>各自の作成したシミュレーションゲームの内容・レポートなどを考慮して総合評価する。</p>

98科目名	マルチメディア論	担当者	立田ルミ
-------	----------	-----	------

01科目名	マルチメディア論 a	担当者	立田ルミ
-------	------------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	マルチメディア作成のソフトウェアを利用して図形・画像処理、静止画、アニメーションに関する講義と実習を行う。ここでは、マルチメディアシステムがどのようなものかを、CD-ROMなどで実例を挙げながら実習する。また図形・画像作成のためのソフトウェアを利用し、フォトタッチなどの機能を学ぶ。さらに音声とアニメーション作成のためのソフトウェアを用いて実習する。これらで作成したファイルを、Word や Power Point で利用し、プレゼンテーションを行う。また、静止画面作成のために必要なハードウェアとソフトウェアについての事例を通して、色彩変換や合成方法についても学び、これらのマルチメディアに対するファイルと圧縮方法についても講義とデモンストレーション並びに実習すると共に、マルチメディア作品を制作する。	授業計画	1 マルチメディアの基礎：講義 年間予定、授業方法について説明
			2 情報のデジタル表現：講義 デジタル化のメリット、2進法、文字の表現。
			3 静止画像の作成：講義と実習 静止画作成ソフトの利用
			4 画像ソフトとファイル形式：講義 解像度、画像圧縮、ファイル形式
			5 静止画の作成：講義と実習 レイヤーの利用、ファイル形式と記憶容量
			6 スキャナーの利用：講義と実習 スキャナーのタイプ、解像度、取り込み、加工
			7 デジカメ取り込みと画像処理：講義と実習 画像の取り込みと処理、画像の合成
			8 ワープロによるマルチメディアの処理：実習 ワープロによる静止画、音声処理
			9 アニメーション作成（1）：講義と実習 GIF アニメーションソフトの解説と実習。
			10 プレゼンテーションツールの利用：実習 プレゼンテーションツールで静止画の処理
			11 プレゼンテーションツールの利用：実習 プレゼンテーションツールで音声、動画の処理
			12 マルチメディア作品作成：実習 マルチメディア作品を作成
評価方法	出席 20%、試験 40%、レポート 40%		
テキスト	立田ルミ他『情報メディア入門』実教出版		

01科目名	マルチメディア論 b	担当者	立田ルミ
-------	------------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	インターネット上でのマルチメディアシステムがどのようなものかを、インターネット上で実例を挙げながら講義し、それらを作成するためにいくつかのソフトウェアを用いて実習を行う。ここでは、図形・画像作成のためのソフトウェアを利用し、三次元空間や画像変換などの機能を学ぶ。さらに音声とアニメーション作成のためのソフトウェアや、ワイヤフレームモデルやサーフェスモデルなどのモデルレンダリングなどを実習する。また、3Dやビデオ画面作成のために必要なハードウェアとソフトウェアについて事例を通して学び、これらのマルチメディアに対するファイルと圧縮方法についても講義とデモンストレーション並びに実習すると共に、受講生が独自の作品を制作しインターネット上に発表する。また、先輩の作成した作品を紹介する。	授業計画	1 インターネットとマルチメディア：講義 インターネットの概説とマルチメディア作品の紹介
			2 音声取り込みと処理：実習 オーディオファイル作成、音声出力
			3 音楽作成と編集：講義と実習 音階、音の長さ、音色、音声ファイルの種類
			4 音楽作成と編集：講義と実習 音の合成
			5 ホームページ作成（1）：講義と実習 タグを用いたホームページと静止画
			6 ホームページ作成（2）：講義と実習 複数のホームページの作成と音声
			7 ホームページ作成（3）：講義と実習 ホームページ作成ソフトによる作成
			8 アニメーション作成：講義と実習 Flash によるアニメーション
			9 アニメーション作成：講義と実習 図形を変化させる
			10 3D画像作成：講義と実習 モデリングとレンダリング
			11 ビデオ画像編集：講義と実習 ビデオ画像の合成と文字挿入
			12 マルチメディア作品作成：実習 インターネット上に作品発表
評価方法	出席 20%、試験 40%、レポート 40%		
テキスト	立田ルミ他『情報メディア入門』実教出版		

98科目名	マルチメディア論	担当者	森園子
01科目名	マルチメディア論 a	担当者	森園子
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	講義の目標 現在インターネット上でどのようなマルチメディアが利用され、インターネットでマルチメディア対応のプログラムを作成するためにはどのような手順が必要かを理解することを目標とする。そのために、いくつかのソフトウェアを利用して図形・画像処理・静止画・動画・音声処理に関する実習を行う。また、インターネットを用いてアメリカなどの大学にアクセスし、マルチメディアがどのような授業に使われているか、またマルチメディアがネットワークでどのように利用されているかも紹介する。	授 業 計 画	1. マルチメディアの基礎: 講義 マルチメディアとは何か、情報メディアについて
	講義概要 前期は、マルチメディアシステムがどのようなものかを、CD-ROM 等で実例を挙げながら実習する。また画像作成のためのソフトウェアを利用し、フォトレタッチ等の機能を学ぶ。さらに音声とアニメーション作成のためのソフトウェアを用いて実習する。これらで作成したファイルを、Word やPowerPoint で利用する。また、色彩変換や合成方法についても学び、これらのマルチメディアに対するファイルと圧縮方法についても講義とデモンストレーション並びに実習すると共に、マルチメディア作品を制作する。		2. 情報のデジタル表現: 講義 アナログとデジタル、2進法、文字の表現
	評価方法 定期試験を行い、それを40%の評価とする。各実習でネットワーク上にレポートを提出し、それを60%の評価とする。		3. 静止画: 講義と実習 ラスターグラフィック、ベクターグラフィック、ファイル形式
	テキスト 立田ルミ他『情報メディア入門』実教出版		4. 画像ソフトとファイル形式: 講義 ドロー系ソフト、ペイント系ソフト、解像度、画像圧縮について
	ト参考 立田ルミ他『コンピュータとネットワークによる情報活用』朝倉書店		5. 静止画の作成: 実習 静止画像を作成。ファイル形式と記憶容量の確認。
	文献 各種ソフトの参考文献については、授業時に紹介する。		6. スキャナー取り込みと画像処理: 実習 スキャナーのタイプ、解像度、カラーとグレースケールの解説
			7. デジカメ取り込みと画像処理: 講義と実習 デジカメによる画像取り込み、画像の合成、効果の処理
			8. ワープロによる画像処理: 実習 ワープロで静止画を扱う。ファイル形式と記憶容量の確認。
			9. アニメーション作成(1): 講義と実習 静止画像とアニメーション、GIF アニメーション等の実習
			10. アニメーションの作成(2): 実習 バナー作成、写真の効果、トランジション
			11. プレゼンテーションツールでマルチメディアを扱う: 実習 プレゼンテーションソフトとマルチメディアの取り扱い
			12. マルチメディア作品作成: 実習 静止画、アニメーション等のマルチメディア作品を作成する。

01科目名	マルチメディア論 b	担当者	森園子
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	講義の目標 現在、インターネット上でどのようなマルチメディアが利用され、マルチメディア対応のプログラムを作成するためには、どのような手順が必要かを理解することを目標とする。そのために、いくつかのソフトウェアを利用して画像処理・静止画・動画・音声処理に関する実習を行う。また、アメリカなどの大学にアクセスし、マルチメディアがネットワークでどのように利用されているかも紹介する。	授 業 計 画	1. インターネットとマルチメディア: 講義 インターネットの概説とマルチメディア作品の紹介と解説。
	講義概要 後期はインターネット上でマルチメディアシステムがどのようなものかを解説し、いくつかのソフトウェアを用いて実習を行う。はじめに、図形・画像作成ソフトウェアを利用し、三次元空間や画像変換などの機能を学ぶ。さらに音声とアニメーション作成ソフトウェアや、ワイヤフレームモデルやサーフェスモデルなどのモデルレンダリングなどを実習する。また、3D やビデオ画面作成のために必要なハードウェアとソフトウェアについて学び、これらのファイルと圧縮方法についても実習すると共に、受講生が独自の作品を制作しインターネット上に発表する。		2. 音声取り込みと処理: 実習 オーディオファイル作成、ワープロで音声出力
	評価方法 定期試験を行い、それを40%の評価とする。各実習でネットワーク上にレポートを提出し、それを60%の評価とする。		3. 音楽作成と編集: 講義と実習 音楽作成ソフトウェアの解説、音階、音声ファイルの種類。
	テキスト 立田ルミ他『情報メディア入門』実教出版		4. オーサリングソフトウェア(1): 講義 プレゼンテーション向きソフトウェア、プログラムの紹介。
	ト参考 立田ルミ他『コンピュータとネットワークによる情報活用』朝倉書店		5. オーサリングソフトウェア(2): 実習 オーサリングソフトウェアを使って、作品を作成する。
	文献 各種ソフトの参考文献については、授業時に紹介する。		6. ネットワーク: 講義と実習 ネットワークにあるマルチメディアのコースを探す。
			7. 3D の概要: 講義 3D ソフトの解説。Java、JavaScript を用いたWebの紹介。
			8. 3D ソフトウェアの利用: 実習 3D ソフトウェアを用いて、3D 作品の作成を行う。
			9. 動画取り込みと編集: 講義と実習 ビデオボード、デジタルビデオカメラの紹介と解説。
			10. 動画処理: 講義と実習 動画編集、音声貼り付け、エフェクト、テロップ作成
			11. 作品作成: 実習 静止画、音声、3D、アニメーション、動画を統合させ、ネットワークに載せる。
			12. 作品発表: 実習 受講生の作成したマルチメディア作品を発表し、ディスカッションを行う。

98科目名	プログラミング論	担当者	高柳敏子
-------	----------	-----	------

01科目名	プログラミング論 a	担当者	高柳敏子
-------	------------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>はじめに、コンピュータの歴史を、ハードウェアおよびソフトウェアの両面から概観する。</p> <p>続いて、シミュラタを利用して、仮想のコンピュータとその上で動くアセンブラ言語(COMET II および CASL II)のプログラミングおよび実習を通じて、ノイマン型コンピュータの動作や制御の仕組み、およびコンピュータ内部における情報の表現、さらに基本的なプログラムの仕組み等コンピュータの原理を学ぶ。</p> <p>ノイマン型コンピュータは 1945 年に von Neumann によって提案され、実現されたプログラム内蔵方式の電子計算機であるが、現在大型機からパソコンに至るまで身の周りで稼動しているもののほとんどがノイマン型であり、見かけの進化に対してコンピュータの内部構造は 50 年前とほとんどかわらない。</p> <p>基本原理は相変わらずプログラム内蔵方式、二進法、逐次制御であり、その基本およびプログラミングの原理を理解するには上述の COMET II および CASL II のような素朴で原始的はコンピュータと言語が、むしろ向いていると思われる。</p>	授業計画	1 ガイダンス、コンピュータの歴史(1) ハードウェア、ノイマン型および世代論と記憶素子
	2 コンピュータの歴史(2) ソフトウェア、プログラミング言語、オペレーティングシステム		
	3 ノイマン型コンピュータの構成と COMET II 各装置、語・ビット構成、アドレスリング、命令語、各種レジスタ		
評価方法	定期試験、2 回ほどのレポートおよび出席を加味して評価する。		4 情報の表現(1) 整数と 2 の補数表記、2 進法、16 進法
テキスト参考文献	特になし 随時必要な資料を提示する。		5 CASL II プログラミング(1) CASL II の命令(アセンブラ、マクロ、機械)、プログラム形式
			6 CASL II プログラミング(2) ロード・ストア命令、加減算命令、定数定義と領域の確保
			7 CASL II シミュラタとその実行 実習(1)プログラムの入力、編集、アセンブル、実行、記憶
			8 CASL II プログラミング(3) 乗除算処理、シフト演算、比較演算、分岐処理
			9 CASL II プログラミング(4) 繰り返し処理
			10 CASL II プログラミング(5) 実習(2)繰り返し処理他
			11 情報の表現(2) 文字の内部表現とその扱い
			12 CASL II プログラミング(6) 実習(3)文字列処理他、総合問題

01科目名	プログラミング論 b	担当者	高柳敏子
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>ここでは、上記「プログラミング論 a」の既習すなわちノイマン型のコンピュータの基礎を充分理解していることが前提になる。</p> <p>その上で主にコンパイル言語 C++ をプログラミング言語として使用し、プログラミングの基礎から、問題解決のためのアルゴリズムの実現へと、講義内容意を加速的に広げていくことにより、プログラミングによりどのようなことが可能か、どのような手法が実際に使われているのか等が理解される。</p> <p>Windows マシンのアプリケーションを使用している限り、中でのような手法が使われているか等をほとんど意識することもなく便利さのみに頼って利用するが、改めてプログラムの内部にも思いを寄せてみることでよい。</p>	授業計画	1 アセンブラとコンパイル 実習(1)例題プログラムの翻訳、関係編集、実行
	2 C++ 言語とは 基本事項、文、ブロック、コメント		
	3 C++ プログラミング(1) 情報の表現(1)実数		
評価方法	定期試験、2 回ほどのレポートおよび出席を加味して評価する。		4 C++ プログラミング(2) 判断・分岐、関係式、関係演算子、論理演算子
テキスト参考文献	特になし 随時必要な資料を提示する。		5 C++ プログラミング(3) 繰り返し処理、配列と文字列データ
			6 C++ プログラミング(4) 実習(2)練習問題
			7 C++ プログラミング(5) 関数、メインプログラムとサブプログラム
			8 C++ プログラミング(6) 実習(3)練習問題
			9 プログラミングの応用(1) 基本的な整列
			10 プログラミングの応用(2) 量の多いデータの整列
			11 プログラミングの応用(3) ファイル処理
			12 プログラミングの応用(4) 実習(4)総合問題

98科目名	プログラミング論	担当者	立田ルミ
-------	----------	-----	------

01科目名	プログラミング論 a	担当者	立田ルミ
-------	------------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	Visual Basic をプログラミング言語として採りあげ、ワープロや表計算ソフト等、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのために、Windows の機能を活用してイベントドリブン型の言語である Visual Basic で実際にプログラミングを行うことにより、プログラミングとはどういうことかを体得してもらうことを目的とする。ここでは基本的な命令から始め、それらを組み合わせて情報処理をどのようにプログラミングすればよいかを、例を挙げて解説し、それらの1つ1つの命令に対して講義と演習を行う。演習の課題として、1週間に1度の課題提出をネットワーク上で行ってもらう。最後に自分で簡単なテーマを決めて、ソフトウェアの製作を行う。授業の中で、先輩たちの作成したプログラムを紹介する。	授業計画	1 授業のガイダンスとコンピュータ概説:講義 ハードウェアの概略とコンピュータの構成
	2 Visual Basic の概略:講義と実習 イベント、フォーム、プロジェクト、プロパティ		
	3 簡単なプログラム作成 (1):講義と実習 アプリケーション開発手順、文字の入出力		
評価方法	出席 20%、レポート 40%、試験 40%		4 簡単なプログラム作成 (2):講義と実習 四則演算
テキスト参考文献	立田ルミ『教育システム情報と Visual Basic』朝倉書店		5 簡単なプログラム作成 (3):講義と実習 キャッシュレジスター
			6 簡単なプログラム作成 (4):講義と実習 利息計算
			7 選択のあるプログラム作成 (1):講義と実習 アプリケーションの設計、コントロールの扱い方
			8 選択のあるプログラム作成 (2):実習 多くの選択のあるプログラムの処理
			9 選択のあるプログラム作成 (3):実習 オプションボタン、チェックボタンの利用
			10 選択のあるプログラム作成 (4):実習 リストボックス、ドラッグアンドドロップの利用
			11 繰り返しのあるプログラム作成:講義と実習 If と Go To、For Next を用いた繰り返し
			12 総合問題作成:実習 いろいろなコントロールを用いて問題を作成する

01科目名	プログラミング論 b	担当者	立田ルミ
-------	------------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	プログラミング論 a で学んだ基礎的なプログラム作成方法を用いて、より複雑なプログラムを作成できることを目的とする。ここでは、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのために、Windows の機能を活用して Visual Basic で実際にプログラミングを行う。また、画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。また、ファイルや Windows の他のアプリケーションとの連携についても理解し、さらにネットワーク対応のプログラムを作成するにはどのようなことが必要かを理解することを目的とする。最後に自分でテーマを決めてソフトウェアの製作を行い、最終のレポートとする。	授業計画	1 図形の処理 (1):講義と実習 直線を描く、曲線を描く
	2 図形の処理 (2):講義と実習 円を描く、色を塗る		
	3 図形の処理 (3):講義と実習 Windows の画像処理、タイマーの利用		
評価方法	出席 20%、レポート 40%、試験 40%		4 図形の処理 (4):講義と実習 ドラッグアンドドロップの利用
テキスト	立田ルミ『教育システム情報と Visual Basic』朝倉書店		5 音声・動画の処理:講義と実習 音声を録音する、音声を再生する
			6 配列とコントロール配列:講義と実習 一次元配列、コントロール配列の利用
			7 プルダウンメニュー:実習 コンボボックス、プルダウンメニューのり用
			8 ファイルの利用 (1):講義と実習 テキストファイルの読み込み
			9 ファイルの利用 (1):講義と実習 画像ファイルの読み込み
			10 ファイルの利用 (1):講義と実習 シーケンスファイルの作成
			11 ファイルの利用 (1):講義と実習 シーケンスファイルの読み込みと利用
			12 インターネットの利用:講義と実習 Visual Basic とホームページとのリンク

98科目名	プログラミング論	担当者	森園子
-------	----------	-----	-----

01科目名	プログラミング論a	担当者	森園子
-------	-----------	-----	-----

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	講義の目的: 現在、ワープロや表計算ソフト等、様々なソフトウェアが開発されている。本稿座では、それらがどのように開発されているかを理解し、実際のプログラミングについて理解する。使用言語は、Visual Basic である。プログラミングの過程で、画像や音声などのマルチメディアファイルの取り扱い、Windows の他のアプリケーションとの連携、さらに、ネットワーク対応のプログラムを作成等についても理解する。 講義概要: コンピュータが、現在どのような使われ方をしているかを概説し、最新のソフトウェアに関してコンピュータとネットワークを用いて紹介する。さらに基本的な情報処理の手順について概説し、それらをどのようにプログラミングすればよいかを、イベントドリブン型の言語の1つであるVisual Basic を用いて解説し、演習を行う。さらにインターネットやマルチメディアについてもデモンストレーションを行うとともに、それらのプログラミングについても、自分でテーマを決めて製作する。	授 業 計 画	1. 授業のガイダンスとコンピュータの概説: 講義 ハードウェアの概略と獨協大学におけるコンピュータの構成
	2. ソフトウェアの歴史と概略: 講義 ソフトウェアの分類、OS、ネットワークの概略		
評価方法	前期:リポート:60% ネットワーク上に提出 定期試験:40%		3. プログラム開発手順: 講義 PCと通信の結合、マルチメディアとしてのコンピュータ
	4. Visual Basic の概略: 講義と実習 イベント、フォーム、プロジェクト、プロパティ等の概略		
テキスト	立田ルミ"教育システム情報とVisual Basic"朝倉書店 立田ルミ"情報メディア入門"実教出版 参考文献 Visual Basicに関する参考文献は授業時に提示する。		5. 簡単なプログラム作成(1): 講義と実習 アプリケーション開発手順、文字の入出力
			6. 簡単なプログラム作成(2): 講義と実習 四則演算、変数のまとめ
			7. 選択のあるプログラム作成(1): 講義と実習 アプリケーションの設計、コントロールの扱い方
			8. 選択のあるプログラム作成(2): 実習 分岐するプログラムの処理、選択ステートメントのまとめ
			9. 選択のあるプログラム作成(3): 実習 オプションボタンの利用、チェックボタンの利用
			10. 選択のあるプログラム作成(4): 実習 リストボックスの利用、ドラッグアンドドロップの利用
			11. 繰り返しのあるプログラム作成: 講義と実習 If とGo To を用いた繰り返し、For Next を用いた繰り返し
			12. 総合問題作成: 実習 いろいろなコントロールを用いて問題を作成する。

01科目名	プログラミング論b	担当者	森園子
-------	-----------	-----	-----

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	講義の目標: 現在ワープロや表計算ソフト等、様々なソフトウェアが開発されている。それらがどのように開発されているかを理解し、実際のプログラミングを理解する事を目標としている。使用プログラミング言語はVisual Basicである。このプログラミングの過程で、画像や音声などのマルチメディアファイルとの関連内容、Windows の他のアプリケーションとの連携、ネットワーク対応のプログラム作成についても理解する。 講義概要: コンピュータが現在どのような使われ方をしているかを概説し、最新のソフトウェアに関してコンピュータとネットワークを用いて紹介する。さらに基本的な情報処理の手順について概説し、それらのプログラミングについて、イベントドリブン型の言語の1つであるVisual Basic を用いて解説し、演習を行う。さらにインターネットやマルチメディアについてもデモンストレーションを行い、それらのプログラミングについて講義と演習を行う。最後に自分でテーマを決めてソフトウェアの製作を行う。	授 業 計 画	1. 図形の処理(1): 講義と実習 点を打つ、直線を引く
	2. 図形の処理(2): 講義と実習 円を描く、色を塗る		
評価方法	後期:リポート:60% ネットワーク上に提出 定期試験:40%		3. 図形の処理(3): 講義と実習 Windows の画像処理ソフトを使う、タイマーの利用
	4. 図形の処理(4): 講義と実習 ドラッグアンドドロップ		
テキスト	立田ルミ"教育システム情報とVisual Basic"朝倉書店 立田ルミ"情報メディア入門"実教出版 文献 Visual Basic に関する参考文献は授業中に提示する。		5. 音声・動画の処理: 講義と実習 音声の録音と再生、動画再生のデモンストレーション
			6. 配列とコントロール配列: 講義と実習 一次元配列、コントロール配列、二次元配列
			7. プルダウンメニュー: 実習 コンボボックス、プルダウンメニューの利用
			8. ファイルの利用(1): 講義と実習 コントロールの利用、シーケンスファイルの利用
			9. ファイルの利用(2): 講義と実習 ランダムファイルの利用
			10. ファイルの利用(2): 講義と実習 アクセスファイルの利用:
			11. インターネットの利用: 講義と自習 Visual Basic とホームページとのリンク、ホームページ作成
			12. まとめ: 講義と実習 課題の説明と作成

98科目名	政治学総論	担当者	杉田孝夫
-------	-------	-----	------

01科目名	政治学総論（通年）	担当者	杉田孝夫
-------	-----------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>現代社会の政治構造と政治を理解する上で必要な基本概念といくつかの観点を学び、現代の政治的諸問題を批判的に理解する教養を養うことを年間の目標とする。</p> <p>講義は下記のテキストに即しておこなう。</p>	授業計画	1 政治社会のなりたち（1）迷える小羊たち
			2 政治社会のなりたち（2）幸福な群れをなて
			3 政治社会のなりたち（3）番犬になった狼
			4 政治社会のなりたち（4）番犬のいない羊群
			5 政治社会のなりたち（5）番犬は狼だった
			6 政治社会の制度化（1）伝統と自然
			7 政治社会の制度化（2）実定法と自然法
			8 政治社会の制度化（3）自然権と社会契約
			9 政治社会の制度化（4）国民主権と議会主義
			10 政治社会の制度化（5）主権国家と国民主権
			11 近代の政治社会と議会制（1）議会制
			12 近代の政治社会と議会制（2）多数決原理
			評価方法
テキスト参考文献	テキスト 有賀・阿部・齋藤『政治—個人と統合—』東京大学出版会、1800円		

01科目名		担当者	杉田孝夫
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>現代社会の政治構造と政治を理解する上で必要な基本概念といくつかの観点を学び、現代の政治的諸問題を批判的に理解する教養を養うことを年間の目標とする</p>	授業計画	1 近代の政治社会と議会制（3）代表制
			2 近代の政治社会と議会制（4）政治指導
			3 近代の政治社会と議会制（5）権力分立
			4 近代の政治社会と議会制（6）政治責任
			5 変容する政治社会（1）利害の多元化と統合
			6 変容する政治社会（2）選挙による統合
			7 変容する政治社会（3）利害の対立と政党
			8 変容する政治社会（4）行政権の拡大
			9 変容する政治社会（5）国家機能の転換
			10 現代政治の課題（1）現代社会と個人
			11 現代政治の課題（2）組織化と政治
			12 現代政治の課題（3）現代の国際政治社会
			評価方法
テキスト参考文献	テキスト 有賀・阿部・齋藤『政治—個人と統合—』東京大学出版会、1800円		

98科目名	民法	担当者	椿久美子
-------	----	-----	------

01科目名	民法(通年)	担当者	椿久美子
-------	--------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	民法は、物の売買・金銭貸借・不動産の賃貸借・損害賠償などを規律する財産法と夫婦・親子の法的問題(離婚・相続・遺言など)を規律する家族法とに分かれる。このように民法は私達市民の生活に密着した法律であるが、条文が1044条もあり、その他に借地借家法・利息制限法などの特別法を含むので、勉強する範囲は広い。そこで、本講義は、財産法を主たる対象に、家族法を重要な問題に限定して、民法の基礎知識の習得を目指す。 授業は、まず、民法の分野で関心をもたれやすい「不法行為による損害賠償」から始める。理解しやすくするために、できるだけ具体的な紛争事例を挙げて説明する。たとえば、コンビニの床が濡れていて転んでケガをしたケース、医療事故のケースなど不法行為に関するトラブルを学ぶ。	授業計画	1 民法の全体像とその社会的な役割
			2 不法行為による損害賠償——制度趣旨、成立要件
			3 不法行為による損害賠償——不法行為責任の内容
			4 不法行為に関する判例、不法行為による損害賠償請求権の時効、共同不法行為
			5 使用者責任と土地工作物責任
			6 契約・法律行為とは何か、契約自由の原則とその制限
			7 契約の成立と契約の無効・取消
			8 虚偽表示、錯誤、詐欺・強迫
			9 契約締結の際に要求される能力(行為能力)
			10 売買契約の成立、売主および買主の義務、売主の担保責任
			11 賃貸借——存続期間、貸主と借主の権利・義務、借地借家法
			12 不動産賃貸借権の対抗力・妨害排除力、賃借権の譲渡と転貸
評価方法	前期試験(30点)、後期試験(50点)、出席状況・質疑応答への態度(20点)		
テキスト参考文献	椿寿夫『民法25講』有斐閣 六法全書		

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	前期と同じ	授業計画	1 売買契約以外の契約——消費貸借契約、請負契約など
			2 契約の代理、表見代理と無権代理
			3 債務の決済、債務不履行
			4 保証と連帯債務
			5 抵当・根抵当
			6 譲渡担保
			7 所有権と占有権
			8 物権変動および債権移転
			9 時効
			10 親族法
			11 相続法
			12 まとめ
評価方法	上記と同じ		
テキスト参考文献	上記と同じ		



98：商法	担当者：柴崎 暁
-------	----------

01：商法（通年）	担当者：柴崎 暁
03：	担当者：柴崎 暁
<p>&lt;講義目的および講義概要&gt; かつて、会社法とは、干渉主義、厳格主義を基調とし、「会社は國民經濟の發達の有用なる武器、人類の利己心の發明にかかる精巧なる社會的技術の一つであり、従つて私法の範圍に於ける根本的なる制度の一つとして法に依りて認められたものであるが、此の制度の腐敗、濫用は此の制度の有用性に反比例して國民經濟上恐るべきものがあり、…法は個人間の取引に對する如く自由主義を以て臨むことを得ず、専門的に發達せる法律技術を以て強行的に目的を達せんと圖るのである」（田中耕太郎・会社法概論（1934年、岩波書店）3頁）とされてきた。</p> <p>ところが、このような前提は、今や過去のものとなった。「会社法の任意法規化」「社団自治の大幅な承認」といった、反=干渉主義が現在の会社法制改革の主流的方向である。その背景に在るのが会社法の「制度間競争」といわれるものである。（下段に続く）</p> <p>&lt;評価方法&gt; 六法およびテキストの持込みを可とする。事例問題を中心とした論述式または択一式試験による評価（2回実施）。</p> <p>&lt;テキスト・参考文献&gt;（テキスト）宮島司・会社法概説〔第3版〕（2002年、弘文堂）。（参考文献）江頭憲治郎・株式会社有限会社法（第二版、2002年、有斐閣）</p>	<p>春学期授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 企業形態の選択、会社の種類</li> <li>2 法人学説、法人の権利能力</li> <li>3 人的会社とくに合名会社</li> <li>4 設立手続・設立登記</li> <li>5 設立中の法律関係・発起人の権限</li> <li>6 仮装の株式払込、違法な設立・会社の不成立、設立に関する責任</li> <li>7 新株の発行、授權株式制度、新株引受権の付与</li> <li>8 新株発行の瑕疵、取締役会決議によらない「新株発行」</li> <li>9 第三者への有利発行、不公正発行の差止</li> <li>10 新株予約権、社債</li> <li>11 定款の変更・資本の減少、解散・清算</li> <li>12 株式交換・株式移転、合併・簡易合併、營業譲渡、分割、組織変更</li> </ol>

:	
---	--

01：商法（通年）	担当者：柴崎 暁
03：	担当者：柴崎 暁
<p>（上段から）米国諸州の簡易で柔軟な構造の会社法に準じた日本会社法を改正を渴望する經濟界の需要が最も重視され、濫用への恐怖は今や影も見えない。それは、従来の会社法には許されなかったような制度が次々採用されていることに表現されている。平成13年・平成14年改正における自己株式取得の原則許容、ストック・オプションの制限撤廃、無議決権普通株式の導入など、いずれもが従来の株式平等原則、資本充実原則、利益相反関係の厳格な規制といった觀念との整合性に関する問題を提起するものばかりであり、依然として田中博士のいう「濫用」の可能性がそれ自体として解消されたわけでもなければ許容されるようになったわけでもない。指定テキストは、現在刊行されている現行法の解説書の中で最も私法学的理論的整合性に配慮した名著として知られる。質問は、shibazaki@mbj.nifty.com まで。</p> <p>&lt;評価方法&gt; 六法およびテキストの持込みを可とする。事例問題を中心とした論述式または択一式試験による評価（2回実施）。</p> <p>&lt;テキスト・参考文献&gt;（テキスト）宮島司・会社法概説〔第3版〕（2002年、弘文堂）。（参考文献）江頭憲治郎・株式会社有限会社法（第二版、2002年、有斐閣）</p>	<p>秋学期授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 計算書類と監査日程、利益配当規制</li> <li>2 株式の本質・資本と株式、株主の権利</li> <li>3 株式の単位と大きさ、種類株式</li> <li>4 株券と株主名簿、株式の譲渡承認</li> <li>5 自己株式の取得規制</li> <li>6 株式の譲渡と会社に対する権利行使、株式の質入</li> <li>7 株式の評価、消却・併合・分割</li> <li>8 株主総会、決議訴訟</li> <li>9 取締役会（監視義務、利益相反関係）</li> <li>10 取締役会（責任）</li> <li>11 代表取締役、監査役および監査役会</li> <li>12 委員会等設置会社</li> </ol>

98 科目名	総合講座(1)	担当者	経済学部
--------	---------	-----	------

01 科目名	総合講座(1) a・b	担当者	経済学部
--------	-------------	-----	------

03 科目名		担当者	
--------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>「地球の未来に挑戦する世界と日本」の総合タイトルの下で、学外から著名な分野の方々を招いて、講義をしてもらう。学内に居ながらにして、激しく流動するビジネス世界の現状、学際的な先端の動向などを詳しく知ることができる。これらの知識は、単なる学問的な知識に止まらず、学生諸君がやがて迎える卒業後の社会活動における貴重なノウハウをも会得させてくれるであろう。</p> <p>講義概要 総合タイトルの性質上、社会・政治・文化などあらゆるテーマが採り上げられる。それぞれの分野の研究者、専門家、実務家が長年にわたり蓄えてきた専門知識と最新情報のエッセンスを毎週聴くことができることは、得難いチャンスと言えよう。</p>	授業計画	1 各担当講師による
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	出席・授業態度・試験（遅刻は認めない）		
テキスト参考文献	それぞれの講師が講義レジュメを準備して配布したり、参考文献を指示することがある。		
注意	学外講師をお招きするので、必ず時間厳守で出席すること。また講義中の私語は絶対に慎むよう切に要望する。		

98科目名		担当者	
01科目名	特殊講義A「経済学入門」a	担当者	経済学部
03科目名	特殊講義a「経済学入門」	担当者	経済学部

講義目的および講義概要	(目的) 経済学部教員がそれぞれ1・2週間担当し、今日の経済問題や経済学研究の現状、学習体験、学習方法のアドバイス等を行い、経済学部（経済学科）における学習の方向を定め、1年生にとっては演習選択の一助となることを目的とする。 (履修制限1・2年)	授業計画	1. ガイダンス
	(概要) 第1回目の授業で春学期の計画と注意事項を配布する。		2
			3
評価方法	定期試験による（追試験は実施しない）		4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
		テキスト参考文献	

01科目名	特殊講義A「経済学入門」b	担当者	経済学部
03科目名	特殊講義b「経済学入門」	担当者	経済学部

講義目的および講義概要	(目的) 経済学部教員がそれぞれ1・2週間担当し、今日の経済問題や経済学研究の現状、学習体験、学習方法のアドバイス等を行い、経済学部（経済学科）における学習の方向を定め、1年生にとっては演習選択の一助となることを目的とする。 (履修制限1・2年)	授業計画	1. ガイダンス
	(概要) 第1回目の授業で秋学期の計画と注意事項を配布する。		2
			3
評価方法	定期試験による（追試験は実施しない）		4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
		テキスト参考文献	

98科目名	特殊講義B（秋期完結）（証券市場とグローバル証券ビジネス）	担当者	経済学部
-------	-------------------------------	-----	------

01科目名	特殊講義B（秋期完結）（証券市場とグローバル証券ビジネス）	担当者	経済学部
-------	-------------------------------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>(目的) グローバル化が進化するなかで資本市場および証券ビジネスは大きく変化してきている。実務の現場にいる講師による解説により、変化の潮流を理解することを目的とする。</p> <p>(概要) 証券市場の役割、証券（株式・債券）の発行市場および流通市場、証券業者の業務等について概説し、グローバル化時代における証券ビジネスの変容について解説する。</p>	授業計画	1. ガイダンス
			2. 経済情報の捉え方
			3. 経済成長と金融資本市場について
			4. 証券投資のリスク・リターンについて
			5. 株式市場の役割と投資の基礎知識について
			6. 債券市場の役割と投資の基礎知識について
			7. 投資信託の役割とその仕組みについて
			8. ポートフォリオ・マネジメントについて
			9. 市場のグローバル化と証券投資について
			10. 資産運用とライフプランニング
評価方法	期末試験による。		11. 資本市場における投資家心理について
テキスト 参考 文献			12. 個人投資家と証券ビジネスについて

98科目名	経営戦略論	担当者	富田忠義
-------	-------	-----	------

01科目名	経営戦略論 a	担当者	富田忠義
-------	---------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>受講者が現代企業の行動を戦略的な観点から理解できるようにしたいというのが、本講義の狙いである。そこで、現代的な経営戦略理論を理解するための基礎概念、経営戦略の種類と類型、経営戦略を策定するための技法などについて概説する。経営戦略論の入門編である。</p> <p>ここでは企業の戦略策定について、理論と技法の両面から学ぼうとしている。まず、経営戦略とは如何なるものか明確にして、戦略策定上の重要変数として、経営目標、経営環境、経営資源を取り上げて考察し、多様な経営戦略を類型化して、全体を把握する。次に、経営戦略の一般的な策定法について学ぶ。こうした準備の後で、拡大化戦略、多角化戦略など個々の戦略策定法について考察する。</p>	授業計画	1 年間講義計画の概要
			2 (経営戦略の基礎) 経営環境と経営戦略
			3 環境に含まれる機会と脅威
			4 (経営戦略の構造) 戦略策定の関連変数
			5 経営目標、経営環境、経営資源
			6 効果的な経営戦略の要件
			7 (経営戦略の類型) 類型化の方法
			8 全社戦略
			9 事業戦略、競争戦略
			10 (経営戦略の策定過程) 問題解決思考
評価方法	期末試験の結果と、授業出席状況による		11 戦略策定過程の一般化
テキスト参考文献	河野重榮『マネジメント要論』八千代出版		12 前期講義のまとめ

01科目名	経営戦略論 b	担当者	富田忠義
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>受講者が現代企業の行動を戦略的な観点から理解できるようにしたいというのが、本講義の狙いである。そこで、現代的な経営戦略理論を理解するための基礎概念、経営戦略の種類と類型、経営戦略を策定するための技法などについて概説する。経営戦略論の入門編である。</p> <p>ここでは企業の戦略策定について、理論と技法の両面から学ぼうとしている。まず、経営戦略とは如何なるものか明確にして、戦略策定上の重要変数として、経営目標、経営環境、経営資源を取り上げて考察し、多様な経営戦略を類型化して、全体を把握する。次に、経営戦略の一般的な策定法について学ぶ。こうした準備の後で、拡大化戦略、多角化戦略など個々の戦略策定法について考察する。</p>	授業計画	1 後期講義計画の概要
			2 (成長戦略の策定) 事業拡大化戦略
			3 事業多角化戦略
			4 (製品ライフサイクル戦略) 製品寿命
			5 成熟期に移行する業界の経営戦略
			6 (リストラ戦略) リストラの必要性
			7 リストラ戦略の策定
			8 (事業ポートフォリオ・マネジメント)
			9 多産業型企業の事業選択戦略
			10 (ポーターの競争戦略論) 競争戦略の基本型
評価方法	期末試験の結果と、授業出席状況による		11 競争優位の構築、価値連鎖
テキスト	河野重榮『マネジメント要論』八千代出版		12 後期講義のまとめ

98科目名	経営管理論	担当者	黒川文子
-------	-------	-----	------

01科目名	経営管理論 a	担当者	黒川文子
-------	---------	-----	------

03科目名	経営管理論 a	担当者	黒川文子
-------	---------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>経営管理論ほど、時代の変化とともに進展した領域はない。古くは、単なる工場内の管理から、今日では、経営管理論は地球環境問題を含めて議論されている。アメリカでは経営学といえば経営管理論と同一視されているほど、経営学の中心領域であるので、基本的な事項を十分時間をかけて講義する。</p> <p>経営管理論 a では、まず今日の企業制度を理解してから、経営管理論の歴史的展開を考察していく。</p>	年間授業計画	1 今日の企業制度
			2 現代企業のコーポレート・ガバナンス
			3 現代社会の変化と企業経営
			4 企業組織のマネジメント機能について
			5 現代における経営者（CEO）の機能と責任
			6 テイラーの科学的管理法
			7 ファヨールの管理論
			8 管理過程学派
			9 人間関係論とホーソン実験
			10 従来の管理機能論の枠組み
評価方法	期末試験と出席によって、総合的に評価する。		11 クーンツ理論
テキスト参考文献	佐久間信夫・坪井順一編著『現代の経営管理論』学文社、2002年。		12 管理機能論の新展開
			13

01科目名	経営管理論 b	担当者	黒川文子
03科目名	経営管理論 b	担当者	黒川文子

講義目的および講義概要	<p>経営管理論 b では、働く人の人間的側面に焦点を当てて、いかに動機づけをすべきかについて理解を深めていく。次に、目標達成に向けて、組織のメンバーに影響を及ぼすリーダーの多様なリーダーシップについても見ていく。</p> <p>最後に、変化の激しい企業環境の中で、どのような経営組織が環境に適合するかを考えた上で、経営者の役割を再確認していく。</p>	年間授業計画	1 動機づけの諸理論
			2 マグレガーの X 理論と Y 理論
			3 マズローの欲求段階論
			4 動機づけ—衛生理論
			5 期待理論
			6 リーダーシップ論の多様な発展
			7 オハイオ州立大学・リーダーシップ・プログラム
			8 マネジリアル・グリッド論
			9 企業文化と経営
			10 経営組織の編成原理
評価方法	期末試験と出席によって、総合的に評価する。		11 経営組織の活性化
テキスト参考文献	佐久間信夫・坪井順一編著『現代の経営管理論』学文社、2002年。		12 経営組織の革新
			13

98科目名	経営組織論	担当者	高松和幸
-------	-------	-----	------

01科目名	経営組織論 a	担当者	高松和幸
-------	---------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>講義の目的 この講義では、伝統的組織論から近代組織論への発展を前提として、とくに近代組織論の内容について理解を深めることを目的とする。組織論においては、組織を取り巻く環境の土台のうえに、個人と組織との関わりがもっとも重要な課題であり、こうした諸問題をとりあげて論述する。</p> <p>講義概要 講義では、伝統的組織論を出発点として、人間関係論におけるモチベーション理論やコンティンジェンシー理論をとりあげ、そのうえで近代組織論として、協働システムとしての組織、意思決定システムとしての組織、生存可能システムとしての組織に重点をおいて、その周辺の諸問題をとりあげて講義する。</p>	授業計画	1 伝統的組織論①…伝統的組織論は、古典的組織論の特徴を明らかにする。
			2 伝統的組織論②…フランスのファヨールやケーンツの理論をとりあげる。
			3 近代組織論①…近代組織論の内容を検討し、もって現代における組織論の特徴を明らかにする。
評価方法	期末定期試験・平常授業の課題など		4 近代組織論②…マーチ=サイモン理論をとりあげる。
テキスト参考文献	高松和幸著『経営組織論講義（増補版）』創成社，2003.		5 経営組織モデルの発展段階…経営組織モデルの形態について検討する。
			6 組織とモチベーション理論①…モチベーション理論を取り上げて検討する。
			7 組織とモチベーション理論②…モチベーション理論の問題をとりあげる。
			8 組織とコンティンジェンシー理論①…コンティンジェンシー理論を取り上げて検討する。
			9 協働システムとしての組織①…他人との協同によって目的達成をする組織について検討する。
			10 協働システムとしての組織②…協働システムの問題をとりあげる。
			11 意思決定システムとしての組織①…意思決定のシステムとしての組織について検討する。
			12 意思決定システムとして組織②…意思決定の問題をとりあげる。

01科目名	経営組織論 b	担当者	高松和幸
-------	---------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>講義の目的 この講義では、伝統的組織論から近代組織論への発展を前提として、とくに近代組織論の内容について理解を深めることを目的とする。組織論においては、組織を取り巻く環境の土台のうえに、個人と組織との関わりがもっとも重要な課題であり、こうした諸問題をとりあげて論述する。</p> <p>講義概要 講義では、伝統的組織論を出発点として、人間関係論におけるモチベーション理論やコンティンジェンシー理論をとりあげ、そのうえで近代組織論として、協働システムとしての組織、意思決定システムとしての組織、生存可能システムとしての組織に重点をおいて、その周辺の諸問題をとりあげて講義する。</p>	授業計画	1 組織均衡の理論①…組織の均衡問題について検討し、組織の存続と成長の理論を明らかにする。
			2 組織均衡の理論②…組織均衡問題をとりあげる。
			3 ゴーイング・コンサーンとしての組織①…この概念によって表される多様性を検討する。
評価方法	期末定期試験・平常授業の課題など		4 ゴーイング・コンサーンとしての組織②…ゴーイング・コンサーンの問題をとりあげる。
テキスト参考文献	高松和幸著『経営組織論講義（増補版）』創成社，2003.		5 組織とコンフリクト…コンフリクトの発生のメカニズムから分類・解消まで取り上げる。
			6 組織とサイバネティクス①…サイバネティクスと組織との関係について検討する。
			7 組織とサイバネティクス②…組織とサイバネティクスの問題をとりあげる。
			8 生存可能システムとしての組織①…生存可能システムとして組織に関する諸問題を扱う。
			9 生存可能システムとしての組織②…生存可能システムをとりあげる。
			10 組織のカタストロフィー・モデル…組織サイバネティクスとの関連において取り上げる。
			11 組織と必要多様性の法則…「多様性」の概念と「必要多様性」の原理と法則を解明する。
			12 組織における自律性の概念…「自律性」の概念をとりあげて検討する。

9 8 科目名	経営財務論	担当者	細田哲
---------	-------	-----	-----

0 1 科目名	経営財務論 a	担当者	細田哲
---------	---------	-----	-----

0 3 科目名		担当者	
---------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p><b>講義の目標</b></p> <p>我が国において「間接金融」主導型の金融システムは崩壊しつつあり、各国資本市場は、それぞれ高度化、多様化、国際化を遂げつつある。したがって、経営者（財務担当者）は、資本市場により関心を払って財務的意志決定を行なわねばならない状況となっている。そこで、「資本市場」志向の財務的意志決定のあり方について説明し、同時に、日本企業が採用してきた財務政策の特色と問題点について検討する。</p> <p><b>講義概要</b></p> <p>各週別の講義予定を見られたい。</p>	授 業 計 画	1 1 企業の目的と財務政策 a) 市場型経済における消費・貯蓄・投資の決定 b) 企業による市場を通じる価値創造	
	評価方法		前後期ともに期末試験の結果による。	2 1 企業の目的と財務政策 c) 資本市場の役割 d) 企業の財務的意思決定のフレームワーク
	テキスト参考文献		・井手正介、高橋文郎著「ビジネス・ゼミナール 経営財務入門」（日本経済新聞社）	3 2 資産の価値をどう評価するか a) 現在価値の評価 4 2 資産の価値をどう評価するか b) 債権の評価 5 3 株式の価値はどう決まる a) 配当割引モデルの考え方 b) 一定成長配当割引モデルと株価収益率 6 3 株式の価値はどう決まる c) 配当割引モデルの応用 d) 日本の株価水準と期待収益率 7 4 リスクをどう測るか a) 投資リスクの尺度 8 4 リスクをどう測るか b) ポートフォリオのリスク 9 4 リスクをどう測るか c) ベータ値と資本資産評価モデル 10 5 資本コストとは何か a) 資本コストとは b) 投資のキャッシュ・フロー 11 5 資本コストとは何か c) 資本コストの推計方法 12 5 資本コストとは何か d) 日本企業の資本コストの計算例 e) 資本コストと資金コスト

0 1 科目名	経営財務論 b	担当者	細田哲
---------	---------	-----	-----

0 3 科目名		担当者	
---------	--	-----	--

講義目的および講義概要		授 業 計 画	1 6 望ましい資本構成とは a) 完全資本市場における資本構成と企業価値	
	評価方法			2 6 望ましい資本構成とは b) 法人税や倒産可能性が企業価値に与える影響 3 c) 企業価値の最大化と株価の最大化 d) 資本構成決定の現実的な考慮点 e) 日本企業の資本構成の動向 4 7 配当政策の考え方 a) 配当政策の理論 b) 配当政策をめぐる問題点 5 7 配当政策の考え方 c) 株式配当と株式分割 d) 日米企業の配当政策 6 8 自社株取得 a) 自社株取得の本質 b) 自社株取得の利用動機 7 8 自社株取得 c) 自社株取得と株価評価 d) 自社株取得をめぐるわが国の現状 8 9 リスク管理とデリバティブの利用 a) デリバティブとは何か 9 9 リスク管理とデリバティブの利 b) デリバティブを利用した金利リスク管理 c) 企業財務とリスク管理 10 10 企業の合併・買収 11 11 日本の伝統的な金融システムの特色と問題点 12 12 日本企業の財務政策の課題
	テキスト参考文献			



98科目名	経営労務論	担当者	清水絹代
-------	-------	-----	------

01科目名	人的資源管理論 a	担当者	清水絹代
-------	-----------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p><b>講義目的</b> 本講義の目的は大別して三つあります。第一の目標は、経営労務及び人的資源の管理に関する基礎理論を学び、その応用能力を身につけることです。第二の目標は、経営労務及び人的資源の管理に関する問題発見と解決策を提示する能力を獲得することにあります。最後に、組織内で効果的に他者と関わるために必要なコミュニケーション能力を獲得することも目指します。</p> <p><b>講義概要</b> 本講義では、上記目標を達成するために右記テーマ、内容に基づき、様々なレポートやディスカッション、グループ・プレゼンテーションなどが課せられます。グループ・プレゼンテーション(ビデオカメラで撮影、後にそのテープを見てレポートを書く)の発表者は全員、スーツで参加します。毎回講義終了前10分程度で、講義フィードバックを書き、高い評価を得た学生のもを無記名で縮小コピーし、次週の講義で配布します。遅刻厳禁。携帯電話、PHSの電源は切ること(マナーモードは禁止)。履修希望者は初回講義に必ず出席すること。</p>	授業計画	1 イントロダクション: 課題レポート「人事管理に関する基礎の基礎確認」
	<p>評価方法</p> <p>出欠席、参加態度、課題レポート等の提出物、プレゼンテーションなどを総合的に評価します。</p> <p>テキスト参考文献</p> <p>開講時に指示します。</p>		2 グループ・プロジェクト決定及びレポートの書き方: 課題レポート「人事管理に関する問題を考える」
			3 雇用管理: 課題レポート「インタビュー: 人事部門の業務にはどのようなものがあるか」
			4 人事制度①: 提出物「グループ・プレゼンテーション・アウトライン 1 回目」
			5 人事制度②
			6 個人と組織の学習①: 提出物「グループ・プレゼンテーション・アウトライン 2 回目」
			7 個人と組織の学習②
			8 グループ・プレゼンテーション 1: 提出物「発表原稿と参考文献リスト」
			9 グループ・プレゼンテーション 2: 提出物「発表原稿と参考文献リスト」
			10 賃金管理: 課題レポート「インタビュー: 年功賃金と年俸制」
			11 リーダーシップ
			12 総復習

01科目名	人的資源管理論 b	担当者	清水絹代
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p><b>講義目的</b> 上記同様</p> <p><b>講義概要</b> 上記同様</p>	授業計画	1 イントロダクション: 課題レポート「人事管理に関する基礎の基礎確認」
	<p>評価方法</p> <p>上記同様</p> <p>テキスト参考文献</p> <p>上記同様</p>		2 グループ・プロジェクト決定及びレポートの書き方: 課題レポート「人事管理に関する問題を考える」
			3 昇進管理①: 課題レポート「インタビュー: 昇進はどのようにして決まるのか」
			4 昇進管理②: 提出物「グループ・プレゼンテーション・アウトライン 1 回目」
			5 労働時間管理: 課題レポート「インタビュー: 労働時間の実際」
			6 対立のマネジメント: 提出物「グループ・プレゼンテーション・アウトライン 2 回目」
			7 多様性のマネジメント
			8 グループ・プレゼンテーション 1: 提出物「発表原稿と参考文献リスト」
			9 グループ・プレゼンテーション 2: 提出物「発表原稿と参考文献リスト」
			10 能力開発
			11 非正規従業員と派遣労働者
			12 総復習

98科目名	国際経営論	担当者	小林哲也
-------	-------	-----	------

01科目名	国際経営論 a	担当者	小林哲也
-------	---------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	現代経済のグローバル化の主体は、多国籍企業である。情報技術革命の時代にあつて、現代企業は、財の生産や販売のみならず、情報や金融の世界でもグローバル化を進めてきている。生産・流通・広告・金融などの各分野における技術革新と、情報通信技術の発達により、国際分業が新たな形で再編成されつつある。本講義では、こうした企業の国際化にともなう諸問題を、世界経済の構造変化の分析とあわせ、包括的に議論してゆく。	授業計画	1 はじめに 資本主義世界経済と企業活動	
	評価方		小レポートなどの平常点と定期試験による	2 現代経済における多国籍企業 グローバル化と情報化
			参考	大阪市立大学商学部編『国際ビジネス』 有斐閣
	前半では、グローバル化・情報化の中で新しい競争の時代を迎えている現代企業をとらえる企業理論の流れを解説する。		4 現代企業の理論② コーポレートガバナンスの変貌	
			5 現代企業の理論③ 生産システムの革新	
			6 現代企業の理論④ 多国籍企業と直接投資	
			7 現代企業の理論⑤ 情報技術革命と企業組織	
			8 多国籍企業と新しい国際分業 技術革新と国際分業の再編成	
			9 情報技術革命と日米企業 IT革命とデジタル・エコノミー	
			10 情報技術革命と日米企業 GEと東芝--経営戦略とスピード	
			11 情報技術革命と日米企業 ITによる新しい「ビジネス・モデル」	
			12 情報技術革命と日米企業 エンロン問題の波紋	

01科目名	国際経営論 b	担当者	小林哲也
-------	---------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および概要	国際経営論 a との通年履修が原則。 後半では、日本とアメリカの企業を中心に、多国籍企業の経営組織および経営戦略の、ケース・スタディを進める。	授業計画	1 日本企業の国際化 システムとしての日本企業	
	評価方		小レポートなどの平常点と定期試験による	2 日本企業の海外進出 戦後復興から 90年代まで
			参考	(参) 青木昌彦他『システムとしての日本企業』 NTT出版
			4 日本企業の海外進出 「世界の工場」中国	
			5 日本企業の海外進出 アメリカの日系企業	
			6 日本企業の海外進出 ヨーロッパの日系企業	
			7 日本企業の海外進出 「摩擦」の政治学	
			8 情報技術革命と世界的な産業の再編成 アジア	
			9 情報技術革命と世界的な産業の再編成 EU	
			10 情報技術革命と世界的な産業の再編成 ハイテク	
			11 情報技術革命と世界的な産業の再編成 知的所有権 日本企業の課題	

98科目名	経営史	担当者	柳 敦
-------	-----	-----	-----

01科目名	経営史 a	担当者	柳 敦
-------	-------	-----	-----

03科目名	経営史 a	担当者	柳 敦
-------	-------	-----	-----

講義目的および講義概要	<p>講義目的</p> <p>欧米を中心とし、企業経営行動の歴史の変遷をたどる。各時期、各地域における企業行動の合理性（あるいは非合理性）を歴史的制約・文化的側面をも含めて考える。</p> <p>講義概要</p> <p>前期においては、近代工業化以前の企業活動を概観し、次いで英国における産業革命と企業行動の変革を考察する。</p>	授業計画	1 経営史の課題と問題
			2 ヨーロッパ前近代における企業と経営（1）
			3 ヨーロッパ前近代における企業と経営（2）
			4 ヨーロッパ前近代における企業と経営（3）
			5 重商主義とアダム・スミス
			6 資本主義とその精神
			7 英国産業革命とその特徴（1）
			8 英国産業革命とその特徴
			9 英国産業革命期の企業経営（1）
			10 英国産業革命期の企業経営（2）
評価方法	期末試験によって評価を決める。		11 工場制の導入と規律の変化
テキスト参考文献	必要に応じて紹介する		12 英国産業衰退の問題

01科目名	経営史 b	担当者	柳 敦
03科目名	経営史 b	担当者	柳 敦

講義目的および講義概要	<p>講義目的</p> <p>欧米を中心とし、企業経営行動の歴史の変遷をたどる。各時期、各地域における企業行動の合理性（あるいは非合理性）を歴史的制約・文化的側面をも含めて考える。</p> <p>講義概要</p> <p>後期には、後発工業国であるフランス、ドイツ、米国の事例を検討しながら19世紀における企業系を考察し、次いで20世紀型企業経営の問題を考える。</p>	授業計画	1 19世紀フランスにおける工業化とその特徴
			2 19世紀フランス企業経営の特徴
			3 19世紀ドイツにおける工業化とその特徴
			4 19世紀ドイツ企業経営の特徴
			5 19世紀からの小売業界における革新
			6 19世紀米国における工業化とその特徴
			7 19世紀米国企業経営の特徴
			8 ビッグビジネスの展開と独占禁止法
			9 科学的管理法の展開
			10 企業組織のあり方
評価方法	期末試験によって評価を決める。		11 フォードとGM
テキスト参考文献	必要に応じて紹介する。		12 産業エリートと教育

98科目名	日本経営史	担当者	奈倉文二
-------	-------	-----	------

01科目名	日本経営史 a	担当者	奈倉文二
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>戦前日本における大企業経営の形成発展の特徴を明らかにする。</p> <p>まず、資本主義成立発展過程に即して、大企業システム形成上の様々な事例と問題点を国家と企業及びその国際的諸関係に留意しながら明らかにする。その上で、財閥・国有企業・外資系企業についてやや立ち入った検討を加える。さらに1930年代の官民関係の変容、新興コンツェルンの蓄積様式（財閥との比較）、外資系企業の展開と規制、軍需産業の展開などについても述べる予定。なお、「授業計画」中の項目・順序は場合により変更することがあり得る。</p> <p>【受講者への要望】</p> <p>学生諸君の講義に対する参画意欲を引き出すため質疑応答方式を取り入れるので積極的に応じてもらいたい。本講義受講者は、講義内容を理解する上で「日本経済史 a」をも受講することが望ましい。</p>	授業計画	1 はじめに
			2 幕末維新期の政商・外商の活動と規制
			3 会社制度の導入発展（銀行・紡績・鉄道）
			4 官業とその払い下げ、「政商から財閥へ」
			5 国有国営企業と軍事関連企業
			6 外資系企業の進出（技術移転と経営関与）
			7 日本企業の中国進出（満鉄と在華紡）
			8 財閥コンツェルンと持株会社
			9 日本製鉄の設立と官民関係
			10 新興コンツェルンと財閥の蓄積様式
			11 外資系企業の展開と規制（石油・自動車）
			12 軍需産業の展開（三菱重工と中島飛行機）
評価方法	筆記試験またはレポート。質疑応答への積極的参画状況をも評価する。		
テキスト参考文献	宇田川・中村編『マテリアル日本経営史』（有斐閣）、その他適宜指示する。		

01科目名	日本経営史 b	担当者	奈倉文二
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>戦後（第二次大戦後）大企業システムの形成発展について、具体的事例をあげつつ、戦後改革と高度成長との関連に留意しながら明らかにする。</p> <p>具体的には、財閥解体の経営史的意義、株式持合・社長会・系列融資などの特徴を有する企業集団の形成、日本型「経営者支配」と「日本的経営」、重化学工業化と大企業（鉄鋼・家電・自動車）の蓄積様式、企業集団とコーポレート・ガバナンスなどについて述べ、現代の大企業再編問題についても言及する（持株会社方式を利用した様々な提携方式、4大メガバンクと企業集団の変容など）。</p> <p>なお、「授業計画」中の項目及び順序は場合により変更することがあり得る。</p> <p>「日本経営史 a」同様、質疑応答方式を極力取り入れるので積極的に応じてもらいたい。また、講義内容を理解する上で「日本経済史 b」をも受講することが望ましい。</p>	授業計画	1 はじめに
			2 財閥解体・集中排除法・独占禁止法
			3 傾斜生産方式と石炭・鉄鋼業の再建
			4 企業集団形成（株式持合・社長会・系列融資）
			5 日本型「経営者支配」と「日本的経営」
			6 鉄鋼寡占資本問の競争と協調（新日鉄）
			7 耐久消費財大企業の発展Ⅰ（家電）
			8 耐久消費財大企業の発展Ⅱ（自動車）
			9 六大企業集団と「独立系」巨大企業
			10 企業集団とコーポレート・ガバナンス
			11 持株会社解禁と「経営統合」
			12 展望：4大メガバンクと企業集団の変容
評価方法	筆記試験またはレポート。質疑応答への積極的参画状況をも評価する。		
テキスト参考文献	宇田川・中村編『マテリアル日本経営史』（有斐閣）、その他適宜指示する。		

98科目名	マーケティング論	担当者	大久保貞義
-------	----------	-----	-------

01科目名	マーケティング論 a	担当者	大久保貞義
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>◎…マーケティング活動は、自由主義経済における企業活動の基本を示すものである。企業はマーケティング活動に失敗すると倒産に追い込まれるし、成功すれば繁栄する企業となることができる。</p> <p>◎…マーケティングの基本原理は“人間の欲求を充足するための交換過程”を研究する学問であると言うことが出来よう。しかし人間の欲求は多種多様であり、その欲求充足の方法は日進月歩である。</p> <p>◎…したがって、この複雑な欲求充足のプロセスに対する学問的アプローチは、心理学、社会学、文化人類学等の隣接科学の学問成果が応用されている。</p> <p>◎…最近のマーケティングの研究は、このような行動科学的な手法で研究されている。</p> <p>◎…社会構造は刻々と変化している。変換機能を果す市場の構造も変化しているし、人間の欲求もまた時代と共に変化している。企業は、この変化を見逃さず対処しなければならない。企業のマーケティング戦略は進歩の連続であると言って良い。</p>	授業計画	1 繁栄する企業と衰退する企業 (マーケティングの成功と失敗から)
	◎レポートとテストによって評価する。 ◎3回以上欠席があればテストを受けられない場合もある。		2 マーケティングとは何か? (その定義と研究分野について)
	◎授業の時に指示する。		3 社会の発展と人間欲求の変化 (豊かさ与人間の価値観)
評価方法			4 高齢化社会の出現と人口減少社会 (縮小する経済社会)
テキスト参考文献			5 消費者行動の分析 (文化的・社会的な特性)
			6 新製品の採用プロセス (認知から採用までの5段階)
			7 マーケット・セグメンテーション (デモグラフィック要因とジオグラフィック要因)
			8 マーケティングと国家体制 (官僚主義と国家の衰退)
			9 自由競争の原理と官僚主義 クロネコヤマトとGEのマーケティング戦略
			10 企業の栄枯・盛衰 (企業の寿命と人間の寿命)
			11 資本主義の発展と業界の栄枯・盛衰
			12 グローバル化した社会のマーケティング (メガ・マーケティングの発展)

01科目名	マーケティング論 b	担当者	大久保貞義
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>◎…伝統的なマーケティングでは商品を対象としてきた。最近では、製造業よりもサービス業が高い位置を占めるようになると、商品のマーケティングよりサービスのマーケティングが重視され始めた。</p> <p>◎…サービス・マーケティングではコンサルティング・セールス・マーケットや、カスタマー・サテスファクション・マーケティング等が登場してきた。いかに人間がサービスを展開してクライアントの満足を獲得するかということが重視され始めた。</p> <p>◎…そして、企業活動が利益中心の企業展開ばかりでなく、社会貢献活動を重視され始めると、ソーシャル・マーケティングを重視され始めた。</p> <p>◎…そのソーシャル・マーケティングの技術は非営利組織のマーケティングとして、大学軍隊、地方公共団体等の団体に使い始めた。こうしてマーケティング技術は自由競争社会の各団体の戦略形成に応用され始めたのである。</p>	授業計画	1 企業の人材育成 企業トップの能力養成
	◎レポートとテストによって評価する。 ◎3回以上欠席があればテストを受けられない場合もある。		2 セールスマンシップの養成 (セールスマンは人格を売る)
	◎授業の時に指示する		3 駄目なセールスマンと成功するセールスマン
評価方法			4 セールス成功の一瞬 クロージングへのプロセス
テキスト参考文献			5 ストック・マーケットの発展 歴史的発展とバブルの崩壊
			6 百万長者になる方法 (株価の変動予測と利益獲得の方法)
			7 マーケティング戦略と計画の作成 セールスフォースとセールスプロモーション
			8 新製品開発のマーケティング戦略
			9 高齢化社会のマーケティング (生まれた時の社会と死ぬ時の社会の対比)
			10 利益追求主義から社会貢献型の企業へ
			11 非営利組織のマーケティング マーケティングの国家政策への応用
			12 マーケティングの新しい応用 民主主義の理念とマーケティング

98科目名	広告論	担当者	梶山皓
01科目名	広告論 a	担当者	梶山皓
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>&lt;講義の目的&gt; 現代社会における広告の役割を明らかにします。また企業の広告を、マーケティングとコミュニケーションの視点から解説します。</p> <p>&lt;講義の概要&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 企業や団体が広告をなぜ行うか、どのように計画し実施するかを学びます。</li> <li>2. 社会風俗や価値観、倫理・法的な面から、現代の広告現象を考えます。</li> <li>3. マスコミ、メディア、広告業界の仕組みや動向を取り上げます。</li> <li>4. マーケティング活動やコミュニケーション過程の原理を明らかにします。</li> <li>5. CMを通じて、日米のビジネス観やコミュニケーションの違いを探ります。</li> </ol> <p>&lt;履修の方法&gt; <u>抽選科目ですので、教務課の掲示に従って登録してください。</u></p>	授業計画	1 現代広告の課題
	2 広告の定義		
評価方法	前・後期に試験を行い、平均点で評価します。		3 広告の機能
			4 広告の種類
テキスト	梶山皓『広告入門<新版>』日経文庫、2002年11月。		5 広告人と広告界
			6 広告主の業務
			7 広告会社の役割
			8 広告会社とビジネス
			9 放送メディア
			10 プリントメディア
			11 インターネット
			12 SPメディア

01科目名	広告論 b	担当者	梶山皓
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>&lt;講義の目的&gt; 現代社会における広告の役割を明らかにします。また企業の広告を、マーケティングとコミュニケーションの視点から解説します。</p> <p>&lt;講義の概要&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 企業や団体が広告をなぜ行うか、どのように計画し実施するかを学びます。</li> <li>2. 社会風俗や価値観、倫理・法的な面から、現代の広告現象を考えます。</li> <li>3. マスコミ、メディア、広告業界の仕組みや動向を取り上げます。</li> <li>4. マーケティング活動やコミュニケーション過程の原理を明らかにします。</li> <li>5. CMを通じて、日米のビジネス観やコミュニケーションの違いを探ります。</li> </ol> <p>&lt;履修の方法&gt; <u>抽選科目ですので、教務課の掲示に従って登録してください。</u></p>	授業計画	1 マーケティングと広告①
	2 マーケティングと広告②		
評価方法	前・後期に試験を行い、平均点で評価します。		3 コミュニケーションと広告①
			4 コミュニケーションと広告②
テキスト	梶山皓『広告入門<新版>』日経文庫、2002年11月。		5 消費者市場とビジネス市場
			6 広告計画と広告目標
			7 広告予算
			8 クリエイティブ戦略
			9 メディア戦略
			10 広告調査と効果測定
			11 広告の自主規制
			12 広告の法規制

98科目名	行動科学論	担当者	大久保貞義
-------	-------	-----	-------

01科目名	行動科学論 a	担当者	大久保貞義
-------	---------	-----	-------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	◎行動科学は心理学、社会学、文化人類学等の隣接科学の学問的成果を応用し、社会問題を分析し研究する学問である。	授業計画	1 学問の発展段階=学問の美しさ、発展の法則性は何か。隣接科学の用語の説明。
	○…まず始めに、心理学、社会学、文化人類学の基礎を学ぶ。各学問のコンセプトを理解する。その上で、各学問の成果をどのように総合化するかを学ぶ。		2 「人間」「組織」「社会」に対する心理学、社会学、文化人類学に対するアプローチの方法。
	○…人間の行動は、どのような意識の元で意志を決定し行動するかを、人間の進化、価値観、文化等の面から分析する。		3 経済発展に伴う人間の行動パターンの変化
○…人間の行動は、宗教・文化によって大きく制約される。その規制内容をグローバルな世界の中で検証する。	4 人間の価値観を規制する宗教 (仏教、キリスト教、イスラム教、神道の比較分析)		
○…グローバルな世界では、お互いに意見の交換が必要になる。そのコミュニケーションの効果と機能を分析する。	5 西洋のビジネス、東洋のビジネス (ユダヤ教の知恵、儒教の教え)		
◎ レポートと試験で評価する。追試は行わない。	6 日本人企業経営者の思惟方法と行動		
◎ 3回以上欠席すれば試験を受けられない場合もある。	7 コミュニケーションの理論：マス・コミュニケーションとパーソナル・コミュニケーション		
◎…授業の時に指示する。	8 コミュニケーションの2段の流れ (オピニオン・リーダーの役割の重要性)		
	9 メッセージの伝達方法：(一元的伝達と二次元的伝達)		
	10 社会構造と機能分析 (農業社会～初期工業化社会～大変化社会～脱工業化社会)		
	11 資本主義発展とともに変化する人間行動		
	12 生き甲斐の変化と人間行動		

01科目名	行動科学論 b	担当者	大久保貞義
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	○…人間行動は知識によって影響される。知識は人間の創造性によって造り出される。人間の創造性のメカニズムを解明し、創造力豊かな人間になるにはどうすれば良いか、その方法を紹介する。	授業計画	1 創造性とは何か=既知の要素の組み合わせ、その本質は反逆である。
	○…そして近代的な知識は力を持ってきた。知のマーケットが形成され、大学のあり方にまで影響を与えるようになった。		2 ブレーンストーミングの方法論。チェック・ポイントとその開発と応用。
	○…人間の造った知識が社会を発展させ、国家の繁栄は知識に左右されるようになった。ビジネス経営の方法も発展し、ナレッジマネジメントが開発され、これによって不断の企業の内部のイノベーションを起こすメカニズムが形成されるようになった。		3 未来予測の重要性。古くからあった星占い。
○…知の形成は、人間の行動を左右する大きなファクターである。知とビジネス行動との関連を分析する。	4 予測の面白さは不確定要素の多い分野にあり、予測を形成する努力によって変動してくる。		
◎ レポートと試験で評価する。追試は行わない。	5 予測の勝負が企業の栄枯盛衰を決定する。いかに予測するかが企業の勝負になる。		
◎ 3回以上欠席すれば試験を受けられない場合もある。	6 知の世界へ突入する大学教育 高等教育の社会的役割と国家の繁栄。		
◎…授業の時に指示する	7 知のマーケットの形成：知識社会における大学の役割とベンチャー企業		
	8 人間の知がもたらす社会の発展 (農業社会～工業化社会～脱工業化社会の変化の要因)		
	9 ナレッジ・マネジメントの発想法：(哲学の流れが古代哲学から近代哲学へ：二大潮流)		
	10 企業の知恵の生かし方とイノベーションへの活用法		
	11 行動科学とビジネスマネジメント		
	12 ビジネス・戦略形成の要点		

98科目名	保険論	担当者	岡村国和
01科目名	保険論 a	担当者	岡村国和
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>本講義の目的は、幅広い現実の保険現象を理解し、現在進行中の保険事業を分析する能力を取得することにあります。</p> <p>春学期の目標は保険理論を理解することであり、主として保険の技術や原則を講義します。保険の本質的機能を十分理解すれば、近接他業との相互関係や環境変化・市場再編の方向が理解でき、また保険における契約者保護の重要性を知ることができるようになるでしょう。例えば、多くの大手生保会社が保険業法に基づいて設立された相互会社（非営利中間法人）であることは、意外と知られていないのではないかと思います。</p> <p>複雑多様な保険現象や保険企業の行動原理や代替リスク移転（ART）などを解りやすく解説するにははしますが、基本的には保険論は毎回の積み上げが必要な科目の1つだと思います。</p>	授業計画	1 講義の範囲、講義の進め方、保険学の学問的位置づけについて。
			2 現代保険の特徴や問題点などについて。
			3 リスクの基礎理論について。
評価方法	定期試験によって評価しますが、少テストなどを行うこともあります。		4 期待効用理論に基づく保険モデルについて。
テキスト参考文献	主としてプリントを配布して講義します。		5 保険の構造（1）：保険の理論的構造の概観。
			6 保険の構造（2）：主として損害保険の主要概念の整理。
			7 保険の構造（3）：「危険負担の一般原則」及び「損害填補の一般原則」とその例外について。
			8 保険の構造（4）：因果関係論、保険契約者の各種義務について。
			9 保険各論（1）：生命保険の仕組みや機能について。
			10 保険各論（2）：損害保険の中心的地位にある自動車保険と火災保険の仕組みについて。
			11 保険各論（3）：社会保険・社会保障を中心として。
			12 春学期のまとめ

01科目名	保険論 b	担当者	岡村国和
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>秋学期は保険会社の経営についての講義を主とします。具体的には保険業の収益構造および保険市場の構造的変化を取り扱います。</p> <p>収益面では、バブル期までの生保業の中心的な収益の源泉が、保険販売収益ではなく金融収益であったことを知っているでしょうか。金融を巡る環境変化が経済全体の流れを悪くし、デフレスパイラルが発生しています。このような金融・経済の環境変化に対応できない会社は自然淘汰（ダーウィニズム）されるのですが、自然淘汰とは弱肉強食を意味するのではなく、「自然環境の変化に順応できない種は滅びる」と言うことを意味しており、現代の経営学に通じるものです。さて、保険業はどのような生き残りを演じるのでしょうか？</p>	授業計画	1 秋学期の講義目的、内容などについて。
			2 保険市場論（1）：「産業組織論」の枠組みによる保険市場の分析について。
			3 保険市場論（2）：市場集中度、商品の差別化、規模の経済性、範囲の経済性などについて。
評価方法	定期試験によって評価しますが、少テストなどを行うこともあります。		4 保険経営（1）：保険経営の特殊性、価値循環の転倒性、保険商品の特殊性について。
テキスト参考文献	春学期同様に、主としてプリントを配布して講義します。		5 保険経営（2）：保険料率の算定・決定とアンダーライティングについて。
			6 保険経営（3）：「積立型保険」の機能及び特徴について。
			7 保険の限界とその拡張（1）：保険技術的限界。
			8 保険の限界とその拡張（2）：レモン市場および代替リスク移転（ART）について。
			9 保険政策論：保険の成長・安定・公正政策について。
			10 保険業の規制（1）：保険業の規制と規制緩和
			11 保険業の規制（2）：保険業の消費者保護
			12 秋学期のまとめ



98科目名	貿易論	担当者	米山昌幸
-------	-----	-----	------

01科目名	貿易論 a	担当者	米山昌幸
-------	-------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>国際貿易や貿易政策の基礎理論を修得して、現実の国際経済のテーマを考察し、分析するための理論的根拠を得ることが、この講義の目標である。国際貿易のメカニズムやさまざまなテーマを考察するうえでの理論の有用性を理解してもらいたい。</p> <p>ミクロ経済学の基礎的なところから貿易論の分野へつなげるように、できるだけいねいに説明していくので、理論を学んで厳密な議論ができるようになってほしい。この講義では、大学生にとって理論的な思考方法を身につけることの大切さを説いていきたい。</p> <p>貿易論は、財・サービスの国際取引や資本・労働・経営資源の国際移動を分析対象とする学問分野である。春学期は、一般均衡モデルを用いて伝統的な国際貿易の基礎理論を中心に講義する。貿易論でもっとも重要な概念である比較優位を説明し、貿易パターン、貿易利益、比較優位を決める要因などを説明する。</p>	授業計画	週	内容
			1	第1章 リカードの比較生産費説 1.1 モデルの設定(2国2財1要素モデル) 1.2 生産フロンティア(生産可能性曲線)の導出
			2	1.3 閉鎖経済の均衡相対価格の決定
			3	1.4 絶対優位と比較優
			4	1.5 生産点の決定と貿易パターン
			5	補論 最適消費点の決定
			6	—無差別曲線分析—
			7	1.6 社会的無差別曲線と貿易利益
			8	第2章 ヘクシャー=オリーン理論—固定投入係数のケース— 2.1 モデルの設定(2国2財2要素モデル) 2.2 生産フロンティアの導出 2.3 要素賦存量と生産構造
			9	2.4 要素賦存量と貿易構造
			10	2.5 財の相対価格と要素価格(所得分配)
			11	第3章 国際貿易の基礎理論 3.1 一般的な生産フロンティアと生産点・消費点の決定 3.2 閉鎖経済下と開放経済下の一般均衡
12	3.3 比較優位と貿易パターン 3.4 オフファー曲線と交易条件の決定			
評価方法	定期試験で成績評価を行うが、練習問題の提出も考慮する。			
テキスト参考文献	第1回目の授業で説明する。			

01科目名	貿易論 b	担当者	米山昌幸
-------	-------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>国際貿易や貿易政策の基礎理論を修得して、現実の国際経済のテーマを考察し、分析するための理論的根拠を得ることが、この講義の目標である。国際貿易のメカニズムやさまざまなテーマを考察するうえでの理論の有用性を理解してもらいたい。</p> <p>ミクロ経済学の基礎的なところから貿易論の分野へつなげるように、できるだけいねいに説明していくので、理論を学んで厳密な議論ができるようになってほしい。この講義では、大学生にとって理論的な思考方法を身につけることの大切さを説いていきたい。</p> <p>秋学期は、部分均衡モデルを用いて貿易政策の基礎理論を説明したのち、個別テーマを問題接近的に講義する。幼稚産業保護論や地域経済統合、コメの輸入自由化、環境と貿易、緊急輸入制限措置(セーフガード)やアンチ・ダンピング措置など個別テーマを理論的に考察する。</p>	授業計画	週	内容
			1	第4章 貿易政策 4.1 貿易政策の目的
			2	4.2 貿易政策の手段
			3	補論 市場メカニズムと経済厚生分析—需要・供給曲線分析—
			4	
			5	4.3 部分均衡分析による貿易利益
			6	4.4 貿易政策の効果—部分均衡分析・小国のケース—
			7	
			8	第5章 コメの輸入自由化
			9	第6章 幼稚産業保護論
			10	第7章 経済統合
			11	第8章 環境資源問題と貿易政策
12	第9章 自由貿易と保護貿易—緊急輸入制限措置(セーフガード)やアンチ・ダンピング措置—			
評価方法	定期試験で成績評価を行うが、練習問題の提出も考慮する。			
テキスト参考文献	第1回目の授業で説明する。			

98科目名	証券市場論	担当者	高橋元
-------	-------	-----	-----

01科目名	証券市場論 a	担当者	高橋元
-------	---------	-----	-----

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	我が国経済は、所謂バブルの発生と崩壊を経て、現在も長くその後遺症に悩んでいる。そうした中で、証券や証券市場は、バブルの発生から崩壊後の今日に至るまで、経済社会に大きな影響を与えてきた。一方、国際化や金融構造改革の進展に伴い、金融資本市場の変化は著しく、その機能充実が一段と求められる方向にある。とりわけ、間接金融から直接金融へのシフトが加速化する流れの中で、証券市場の国民経済的な意義は一段と高まりつつある。本講義では、証券と証券市場を巡る制度、歴史、理論などを体系的に学ぶと共に、今日的な状況に関わる実践的な解説を適宜実施することにより、その国民経済的な意義を明らかにすることを目的とする。 前期は、証券の定義や証券市場のメカニズムなど、基礎的な領域の知識涵養に努める。後期は、そうした基礎知識の上に、より専門的且つ高度な知識の習得と理解を深める。	授業計画	1 講義の概要、評価方法などについて説明
			2 戦後の日本経済の発展と証券市場
			3 金融ビッグバンと証券市場
			4 株式会社制度と IT 革命
			5 証券概念と資産流動化の進展
			6 証券市場の沿革 (1)戦前の証券市場
			7 証券市場の沿革 (2)戦後の証券市場
			8 債券発行市場
			9 債券流通市場
			10 株式発行市場
			11 株式流通市場
			12 金融派生商品市場
評価方法	出席状況などの平常点や、課題レポート・期末試験成績などを総合的に勘案し、評価する。		
テキスト参考文献	『入門現代の証券市場第2版』佐藤昇・木村由紀雄・高橋元・相澤幸悦著、東洋経済(2003年春刊)		

01科目名	証券市場論 b	担当者	高橋元
-------	---------	-----	-----

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要		授業計画	1 投資信託の仕組み
			2 証券評価の基礎理論 (1)投資と投機
			3 証券評価の基礎理論 (2)基本的な投資尺度
			4 証券評価の基礎理論 (3)評価モデルの考え方
			5 株価指数の種類と特徴
			6 ポートフォリオ理論 (1)リスクとリターン
			7 ポートフォリオ理論 (2)分散投資の効果
			8 投資家を巡る諸問題
			9 証券会社と証券業務
			10 証券取引システム
			11 証券税制と証券規制
			12 総括——証券市場の現状と課題
評価方法			
テキスト参考文献			

98科目名	ベンチャービジ初論(2年生)	担当者	上坂卓朗
01科目名	ベンチャービジ初論a(2年生)	担当者	上坂卓朗
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	ベンチャー企業も一つの企業であるという基本認識に立って、企業の役割や機能をトータルに把握できるようにする。 その理解の上に、ベンチャー企業特有の問題や政策支援の仕組みなどを理解していく。 この講義を受講してすぐ起業できるわけではない。しかし、将来起業したり、独立する際に知っておくべき基礎的な知識習得をめざす。 受講希望者が300人を超えたときには抽選とする。また、2年次に本科目を受講したものは3.4年次には履修できないので注意すること。 外部講演会(1)は3・4年生と合同で行います。	授業計画	1 会社とはなにか
			2 会社の誕生(1)
			3 会社の誕生(2)
			4 会社の設立
			5 会社の成長と組織
			6 会社の資金調達
			7 ベンチャー企業支援政策
			8 ベンチャー企業と特許
			9 資本市場の基本的な仕組み
			10 ベンチャー企業と上場市場の活用
評価方法	定期試験を行う。追試、レポートはありませんので注意してください。		11 外部講師講演(1)
テキスト 参考 文献	松田修一『ベンチャー企業』日経文庫2001年		12 まとめと課題

01科目名	ベンチャービジ初論b(2年生)	担当者	上坂卓朗
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	ベンチャービジ初論a(2年生)と同様 外部講演会(2)は3・4年生の時間割の時間に合同で行います。	授業計画	1 ベンチャー企業と資金繰り
			2 ベンチャーキャピタルの役割(1)
			3 ベンチャーキャピタルの役割(2)
			4 ベンチャー企業評価
			5 起業家にとっての資本政策
			6 ベンチャー企業とビジネスリスク
			7 リビングデスとプライベートエクイティ
			8 産業動向とベンチャー企業
			9 ビジネスエンジェルの役割
			10 経営再起とベンチャー企業
評価方法	ベンチャービジ初論a(2年生)と同様		11 外部講師講演(2)
テキスト 参考 文献	ベンチャービジ初論a(2年生)と同様		12 まとめと課題

98科目名	ベンチャービジ初論(3・4年生)	担当者	上坂卓朗
01科目名	ベンチャービジ初論a(3・4年生)	担当者	上坂卓朗
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	ベンチャー企業も一つの企業であるという基本認識に立って、企業の役割や機能をトータルに把握できるようにする。 その理解の上に、ベンチャー企業特有の問題や政策支援の仕組みなどを理解していく。 この講義を受講してすぐ起業できるわけではない。しかし、将来起業したり、独立する際に知っておくべき基礎的な知識習得をめざす。 受講希望者が300人を超えたときには抽選とする。また、2年次に本科目を既に受講したものは履修できないので注意すること。 外部講演会(1)は2年生の時間割の時間に合同で行います	授業計画	1 会社とはなにか
			2 会社の誕生(1)
			3 会社の誕生(2)
			4 会社の設立
			5 会社の成長と組織
			6 会社の資金調達
			7 ベンチャー企業支援政策
			8 ベンチャー企業と特許
			9 資本市場の仕組み
			10 ベンチャー企業と上場市場の活用
評価方法	定期試験を行う。追試、レポートはありませんので注意してください。		11 外部講師講演(1)
テキスト参考文献	松田修一『ベンチャー企業』日経文庫2001年		12 まとめと課題

01科目名	ベンチャービジ初論b(3・4年生)	担当者	上坂卓朗
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	ベンチャービジ初論a(3・4年生)と同様 外部講演会(2)は2年生と合同で行います	授業計画	1 ベンチャー企業と資金繰り
			2 ベンチャーキャピタルの役割(1)
			3 ベンチャーキャピタルの役割(2)
			4 ベンチャー企業評価
			5 起業家にとっての資本政策
			6 ベンチャー企業とビジネスリスク
			7 リビングデスとプライベートエクイティ
			8 産業動向とベンチャー企業
			9 ビジネスエンジェルの役割
			10 経営再起とベンチャー企業
評価方法	ベンチャービジ初論a(3・4年生)と同様		11 外部講師講演(2)
テキスト参考文献	ベンチャービジ初論a(3・4年生)と同様		12 まとめと課題

98科目名	協同組合論	担当者	高松和幸
-------	-------	-----	------

01科目名	非営利組織マネジメント論 a	担当者	高松和幸
-------	----------------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>NPO（非営利組織）は、現在、それを支えるフィランソロピーやボランティアと共に注目されている。それは民間の非営利活動がさまざまな分野で囑望されているからである。</p> <p>この講義の目的は、NPO活動に対して、マネジメントの視点から取り上げることで、健全な活動ができることを学ぶことにある。</p>	授業計画	1 NPOとは何か：意味・ボランティア組織・フィランソロピー・NGO・市民セクター
			2 NPOの成立：第2次世界大戦後のボランティア活動・NPOの萌芽
			3 NPOの発展：ボランティア革命
			4 NPOの規模：構造・分類・公益法人制度
			5 NPOの形態：NPO法人制度・その他市民活動団体
			6 NPOの成立基盤：NPOの制度化・活動資金
			7 NPOの経営環境：NPOと外部環境・NPOサポートセンター・NPOと政府との関係
			8 NPOの経営管理：NPO法人の管理機構・意思決定
			9 NPOの管理手法：NPOの経営戦略・業績管理・業績管理手法・情報開示
			10 NPOの会計制度：NPOの会計書類・会計基準
			11 NPOの予算管理：NPOの予算制度・収支計算書
			12 まとめ
評価方法	出席・レポート・試験		
テキスト参考文献	高松和幸著『NPOマネジメント』五紘舎、2002年。		

01科目名	非営利組織マネジメント論 b	担当者	高松和幸
-------	----------------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>NPO（非営利組織）は、現在、それを支えるフィランソロピーやボランティアと共に注目されている。それは民間の非営利活動がさまざまな分野で囑望されているからである。</p> <p>この講義の目的は、NPO活動に対して、マネジメントの視点から取り上げることで、健全な活動ができることを学ぶことにある。</p>	授業計画	1 NPOの業績評価：NPOの経営分析・
			2 NPOの業績評価方法：NPOの業績管理手法・財務情報と非財務情報
			3 NPOの国際比較：世界のNPO
			4 アメリカのNPO
			5 イギリスのNPO
			6 ドイツのNPO
			7 フランスのNPO
			8 中国のNPO
			9 その他の国のNPO：ハンガリー・トルコなど
			10 NPOのIT化：NPOの変化・組織の価値など
			11 NPOの今後
			12 まとめ
評価方法	出席・レポート・試験		
テキスト参考文献	高松和幸著『NPOマネジメント』五紘舎、2002年。		

98科目名	会計学原理	担当者	内倉滋
-------	-------	-----	-----

01科目名	会計学原理 a	担当者	内倉滋
-------	---------	-----	-----

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>本講義は、“制度としての会計”の解明を目的とする。その目的のため、我が国における企業会計に関する慣習的な諸ルールを直接の分析対象に選び、その規定している内容と、それを支えている理論的な背景の紹介をしていきたい。</p> <p>授業計画は右に掲げるとおりであるが、おおむね「会計学原理 a」では、複式簿記の復習の後、会計学の領域のうちで従来から議論されてきた伝統的な部分の概要を紹介していく予定である。</p> <p>なお、複式簿記の基本的知識を前提に議論を出発させるため、「簿記原理 a・b」を修得していること、または同等の知識のあることを履修の条件とする。</p>	授業計画	1 テキスト第1章：会計と会計理論
			2 テキスト第2章：企業会計と関係法規
			3 テキスト第3章：企業会計原則
			4 テキスト第4章：貸借対照表
			5 テキスト第5章：損益計算書
			6 テキスト第6章：流動資産
			7 テキスト第7章：有価証券
			8 テキスト第8章：固定資産
			9 テキスト第9章：繰延資産
			10 テキスト第10章：負債
			11 テキスト第11章：引当金
			12 テキスト第12章：資本
評価方法	平常点を半分近くのウェイトで評価し、それに期末試験結果を加える。最終評価の際には、相対評価を基本とし絶対評価を加味する。		
テキスト参考文献	平井克彦・石津寿恵、『損益計算と情報開示』（白桃書房）		

01科目名	会計学原理 b	担当者	内倉滋
-------	---------	-----	-----

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>「会計学原理 a」の、伝統的な会計学領域に関する知識を前提として「会計学原理 b」では、「連結財務諸表」「税効果会計」「外貨換算」「キャッシュ・フロー計算書」といった、比較的新しい問題（ないし、最近においてその制度的中身が大幅に改変された領域）を講義の対象とした。</p>	授業計画	1 テキスト第13章：収益の認識方法
			2 テキスト第14章：費用の認識方法
			3 テキスト第15章：連結会計
			4 テキスト第16章：税務会計
			5 テキスト第17章：税効果会計
			6 テキスト第18章：時価会計
			7 テキスト第19章：外貨換算会計
			8 テキスト第20章：デリバティブ会計
			9 テキスト第21章：リース会
			10 テキスト第22章：キャッシュ・フロー会計
			11 テキスト第23章：環境会計
			12 テキスト第24章：NPO会計
評価方法	「会計学原理 a」と同様		
テキスト参考文献	平井克彦・石津寿恵、『損益計算と情報開示』（白桃書房）		

98 科目名	財務会計論	担当者	中村泰将
--------	-------	-----	------

01 科目名	財務会計論 a	担当者	中村泰将
03 科目名		担当者	
講義目的および講義概要	<p>本講座は、1,2年生で簿記を勉強し、いよいよ会計理論を学ぼうとするための講座です。京セラの稲盛会長は『実学—経営と会計』の著書の中で「会計がわからなくて経営ができるか」と述べています。会計の専門知識は経営者にとっては当然ながら、投資家、コンサルタント、企業のスタッフにとっても重要な意思決定の手段になります。財務会計の課題は、次の3つです。</p> <p>1. どのような人々に情報を提供するか。それは企業外部の利害関係者であり、株主や債権者、国、地方公共団体、従業員、さらに一般の消費者もその対象になります。</p> <p>2. どのような種類の情報を提供するか。これは基本的には、ストック(企業の経済的資源)、フロー(企業の利益)およびキャッシュフローであり、この3つの情報を提供することが財務会計の目的です。</p> <p>3. これらの情報を作り出す基準あるいはルールが会計基準です。この会計基準はグローバルな基準としては「国際会計基準」があります。これらを総合的に学びます。</p> <p>授業方法：毎回プリントを配ります。授業で学ぶ会計理論が企業の実務界でどのように実際に行われているか、理論と実務の相互関係を新聞などのトピックスを取り上げ講義します。</p>	授業計画	1 会計(学)はどのような学問領域か
			2 (1)企業会計の理論的構造を理解する (2)企業会計の計量的構造を理解する
			3 (1)日本の企業会計制度の仕組みを理解する (2)米国の財務会計制度を理解する
			4 (1)わが国の「企業会計原則」を学ぶ (2)わが国の「企業会計基準」第1号～を学ぶ
5 「企業会計原則」の一般原則を理解する			
6 同上			
7 資産会計(I) (1)資産の意義・概念 (2)資産の分類 (3)資産の評価			
8 資産会計(II) (1)流動資産の意義・分類・評価			
9 資産会計(III) (1)当座資産の概念・分類・評価 (2)有価証券の概念・分類・評価			
10~12 資産会計(IV) (1)固定資産の概念・分類・評価・償却 (2)繰延資産の概念・種類・償却 (3)暖簾の計算と償却			
評価方法	レポート提出20%、定期試験80%		春学期では、会計の基礎概念から資産会計までを勉強します。特に、本書は資産会計(いわゆる貸借対照表の借方側)を損益計算の前に学ぶ方法論を取っているのが特徴となっています。
テキスト参考文献	新井清光著・加古直士(補訂)『現代会計学』(第6版)中央経済社 参考文献：『会計法規集』中央経済社		

01 科目名	財務会計論 b	担当者	中村泰将
--------	---------	-----	------

03 科目名		担当者	
講義目的および講義概要	<p>講義目的は、春学期と基本的には同じです。春学期の単位取得を落しても、秋学期は履修できます。春学期の授業方法とも基本的には同じです。</p>	授業計画	1 負債会計(I) (1)負債の概念・分類・評価
			2 負債会計(II) (1)引当金の意義 (2)引当金の設定目的 (3)引当金の設定要件
			3 資本金会計(I) (1)資本金の意義と範囲 (2)資本の経済的分類と法律的分類
			4 資本金会計(II) (1)払込資本の概念と範囲 (2)増資と減資の会計処理
			5 資本金会計(III) (1)評価替資本の会計 (2)受贈資本の会計
			6 資本金会計(IV) (1)稼得資本の会計 (2)配当可能利益の範囲と計算
			7 損益会計(I) (1)損益会計の意義と範囲 (2)損益計算の区分計算
			8 損益会計(II) (1)損益計算の緒原則 (2)費用収益対応の原則 (3)費用配分の原則 (4)発生主義の原則
			9 損益会計(III) (1)収益の認識基準 (2)実現主義と発生主義
			10 財務諸表の種類とその意義
			11 連結財務諸表(I) (1)連結貸借対照表の意義と作成基準
			12 連結財務諸表(II) (1)連結損益計算書の意義と作成基準
			評価方法
テキスト参考文献	春学期のテキストと同じ		

98科目名	管理会計論	担当者	香取徹
-------	-------	-----	-----

01科目名	管理会計論 a	担当者	香取徹
-------	---------	-----	-----

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>コスト低減や利益拡大のための改善活動や管理活動をすすめるためにキャッシュフローにもとづく会計情報の計数による分析を行います。</p> <p>管理会計論 a では、キャッシュフローによる経済的な意思決定の考え方、意思決定のタイプと判断基準など短期の問題についてケース・スタディで演習していきます。</p> <p>履修前に簿記原理を受講しているか、日商3級程度の簿記知識が必要です。また、授業中にパソコンを使用しますので、ノート型パソコンを持っている人は、ぜひ持参してください。</p>	授業計画	1 管理会計とは、最近のトピックスから
			2 意思決定とキャッシュフロー 木村さんの場合[2-1]
			3 テニスクラブの選び方[2-1-1][2-1-3]
			4 関連原価・無関連原価 ギャラリー綺羅[2-2]
			5 貢献利益とは、小金井工業の場合[2-5][2-6]
			6 赤字製品と黒字製品、神奈川工業の場合[2-1-14]
			7 減価償却費はキャッシュフロー YG 工業
			8 Constraints の話、市場制約と生産能力制約 北村製作所と蕎麦屋
			9 KAIZEN(改善)の効果[2-9][2-2-8]
			10 意思決定の問題タイプ[3-1]
評価方法	定期試験 95 点、課題 5 点、合計 100 点		11 意思決定の問題タイプ独立案[3-2][3-3][3-1-4]
テキスト 参考 文献	伊藤・香取他著『キャッシュフロー管理会計』 中央経済社		12 意思決定の問題タイプ排反案[3-4][3-2-1]

01科目名	管理会計論 b	担当者	香取徹
-------	---------	-----	-----

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>コスト低減や利益拡大のための改善活動や管理活動をすすめるためにキャッシュフローにもとづく会計情報の計数による分析を行います。</p> <p>管理会計論 b では、フリー・キャッシュフローと企業価値、投資計画の評価基準など長期の問題について検討します。Excel を使ってキャッシュフロー計算書やシミュレーション・モデルを作成して、分析します。</p> <p>履修前に簿記原理を受講しているか、日商3級程度の簿記知識が必要です。また、授業中にパソコンを使用しますので、ノート型パソコンを持っている人は、ぜひ持参してください。</p>	授業計画	1 管理会計の最近のトピックス
			2 フリー・キャッシュフローと資金の時間価値
			3 現在価値と年価
			4 FCF と企業価値
			5 連結キャッシュフロー計算書
			6 キャッシュフロー計算書の作成
			7 営業キャッシュフロー ①運転資本 ②減価償却
			8 ③支払利息 ④法人税 ⑤財務諸表から FCF
			9 投資の経済性 FCF の最大化
			10 投資案の評価基準
評価方法	定期試験 95 点、課題 5 点、合計 100 点		11 投資の業績評価
テキスト 参考 文献	伊藤・香取他著『キャッシュフロー管理会計』 中央経済社		12 キャッシュフロー経営と経済性のまとめ



98科目名	社会会計論	担当者	湯田雅夫
01科目名	社会会計論 a	担当者	湯田雅夫
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p><b>講義の目的</b> 大企業、公営企業で普及している環境経営、環境会計を社会会計の視点から講義します。</p> <p><b>講義概要</b> 環境経営、環境会計は、21世紀の企業経営において必要不可欠のものです。環境経営と環境会計の内容をできるだけわかりやすく、講義していきます。 皆さんも、新聞や雑誌で取り上げている環境問題に関する記事をできるだけ読むように心がけてください。</p>	授業計画	1 オリエンテーション 社会会計、環境経営、環境会計の学び方、研究対象
			2 環境経営、環境会計の研究方法及び関連領域
			3 人類の歴史と環境問題
			4 地球環境問題ならびに国際的取り組み
			5 国連の環境への取り組み①
			6 国連の環境への取り組み②
			7 循環型経済社会構築と諸課題
			8 持続可能性と企業活動の三つの領域
			9 環境会計の体系 三つのアプローチ
			10 環境「会計」アプローチの事例
評価方法	レポートと出席状況から総合的に評価します。		11 環境「会計」アプローチに対する批判的考察
テキスト参考文献	湯田雅夫『ドイツ環境会計』2001年版 参考文献はその都度指示します。		12 春学期のまとめ

01科目名	社会会計論 b	担当者	湯田雅夫
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p><b>講義の目的および講義概要</b> 春学期に引き続き、環境経営、環境会計の具体的内容を講義します。 物量計算としての環境負荷計算と貨幣計算としての環境原価計算、そしてその組み合わせから環境効率を明らかにすることができます。地球の環境容量との関連で、この環境効率を高めることは、大変重要です。 皆さんひとりひとは、この講義で得た知識と技術を、是非社会で実践してください。</p>	授業計画	1 秋学期オリエンテーション
			2 環境負荷計算 ー物量計算ー
			3 環境原価計算 ー貨幣計算ー
			4 環境原価と環境負荷を統合する環境経営
			5 国際標準 ISO と EMAS の内容と課題
			6 環境監査 ー内部監査と外部監査ー 環境審査員の役割
			7 環境効率 ー環境効率革命に向けてー
			8 環境効率 ー企業の事例ー
			9 環境報告書の基本構造ならびに入手方法
			10 環境報告書の評価方法
評価方法	期末試験と出席状況から総合的に評価します。		11 秋学期のまとめ
テキスト参考文献	湯田雅夫『ドイツ環境会計』2001年版 参考文献はその都度指示します。		12 授業のまとめと講評

98科目名	原価計算論	担当者	齋藤正章
01科目名	原価計算論 a	担当者	齋藤正章
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	原価計算には、大きく分けて、財務会計目的と管理会計目的という2つの目的があります。財務会計目的のための原価計算を「制度原価計算」といいますが、これは財務諸表作成のために必要な原価数値を計算する手続き全般を指します。他方、管理会計目的の原価計算は、経営管理のための原価計算で、企業の生産システム、製造技術、情報技術などの進歩や市場環境の変化に伴い、従来のシステムからの変革を迫られています。本講義は、この2つの視点から企業における原価計算の役割や手続きについて理解を深めることを目標としています。	授業計画	1 原価計算総説－原価計算論とはどういう学問か会計学の周辺領域との関係について解説。
			2 原価とは何か－原価計算における原価の本質、諸概念について解説。
			3 原価計算の基礎手続き－原価計算の基本的な流れに関する解説。
評価方法	出席(2割)と定期試験の結果(8割)で評価		4 原価の費目別計算(1)－材料費の計算について解説。
テキスト	『入門 原価計算』(清水孝・長谷川恵一著)中央経済社、2,800円(税別)		5 原価の費目別計算(2)－労務費の計算について解説。
			6 原価の費目別計算(3)－経費の計算についての解説と費目別計算のまとめ。
			7 原価の部門別計算(1)－原価部門、部門費の分類、部門共通費の配賦について解説。
			8 原価の部門別計算(2)－補助部門費の配賦について解説。
			9 原価の部門別計算(3)－製造部門費の配賦についての解説。部門別計算のまとめ
			10 個別原価計算(1)－個別原価計算の意義、手続きについて解説。
			11 個別原価計算(2)－原価計算表の作成、原価計算表と製造勘定の関係について解説。
			12 個別原価計算(3)－仕損費の計算と処理、作業層の処理について解説。これまでのまとめ。

01科目名	原価計算論 b	担当者	齋藤正章
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	原価計算には、大きく分けて、財務会計目的と管理会計目的という2つの目的があります。財務会計目的のための原価計算を「制度原価計算」といいますが、これは財務諸表作成のために必要な原価数値を計算する手続き全般を指します。他方、管理会計目的の原価計算は、経営管理のための原価計算で、企業の生産システム、製造技術、情報技術などの進歩や市場環境の変化に伴い、従来のシステムからの変革を迫られています。本講義は、この2つの視点から企業における原価計算の役割や手続きについて理解を深めることを目標としています。	授業計画	1 総合原価計算(1)－総合原価計算の意義、手続きについて個別原価計算と対比しながら解説。
			2 総合原価計算(2)－仕損、減損の処理について解説。
			3 総合原価計算(3)－工程別総合原価計算、加工費工程別総合原価計算に関する解説。
評価方法	出席(2割)と定期試験の結果(8割)で評価		4 総合原価計算(4)－組別総合原価計算、等級別総合原価計算に関する解説。
テキスト	『入門 原価計算』(清水孝・長谷川恵一著)中央経済社、2,800円(税別)		5 総合原価計算(5)－連産品の処理と副産物の処理について解説。総合原価計算のまとめ。
			6 標準原価計算(1)－標準原価計算の意義と手続きに関する解説。
			7 標準原価計算(2)－標準原価計算の記帳方法について解説。
			8 直接原価計算(1)－直接原価計算の意義を全部原価計算のそれと対比しながら解説。
			9 直接原価計算(2)－損益分岐点と損益分岐点分析に関する解説。
			10 特殊原価調査(1)－特殊原価調査の意義と特殊原価概念について解説。
			11 特殊原価調査(2)－意思決定問題と特殊原価調査のまとめ。
			12 原価計算の新展開－これまで学んだ原価計算技法を振り返り、近年どのような原価計算技法が開発されてきたかについて解説する。

98科目名	会計監査論	担当者	米田正巳
-------	-------	-----	------

01科目名	会計監査論 a	担当者	米田正巳
-------	---------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	(講義目的) 企業財務情報の開示制度は、株主等の保護を目的として、適正な会計基準の設定、会計監査の実施等が適切に運営されることにより成り立っている。このように、会計監査は、企業財務情報の開示制度を支えるために重要な役割を担っている。 本講義では、理論の説明とともに、企業の実際の財務諸表等を利用して現実の会計監査の事例を用いて、我が国及び米国の監査基準及び監査手続きを理解することを目標とする。	授業計画	1 監査の概要—監査の種類、情報開示制度と会計監査、CPA 監査
	(講義概要) 会計監査の講義はテキストを中心に実施するが、会計監査の理論は監査実務と関連しているため、出来るだけ実際の監査実務例により説明し、我が国監査の現状の理解を深めることにする。 また、会計監査は米国の監査が最新であり、我が国及び米国での監査の主要な相違も説明することとする。		2 法定監査(1)—証券取引法監査制度
	試験またはレポート提出により総合的に評価する。		3 法定監査(2)—商法監査制度
テキスト参考文献	テキスト及び参考文献は、前期開講時に指定する。		4 職業監査の規範—監査基準
			5 監査の実施に関わる基礎概念—監査要点、監査証拠
			6 監査の実施に関わる基礎概念—監査手続、監査計画、監査調書
			7 監査の実施における監査リスクと重要性—リスクアプローチ
			8 内部統制の検討(1)—内部統制の構成要素等
			9 内部統制の検討(2)—内部監査との関係等
			10 試査の概念—サンプリングの基礎概念
			11 取引サイクルの監査と決算監査
			12 監査意見と監査報告書—適正、限定、不適正、意見差控

01科目名	会計監査論 b	担当者	米田正巳
-------	---------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	(講義目的) 監査は会計と一体として考えるべきであり、会計があるところに監査がある。後期は前期に引き続いて、会計監査の実務的問題を説明し、理解を深めることにする。 監査は企業会計だけでなく、非営利法人においても実施されている。その内容、監査の観点について説明する。特に公会計・監査として、地方自治体の監査の内容、監査の観点について、我が国の現況と英国の自治体監査を理解することを目標とする。	授業計画	1 監査の歴史—我が国の CPA 監査の現状等
	(講義概要) 講義はテキストを中心に実施するが、後期の授業は監査実務と関連しているため、出来るだけ実際の監査実務例により説明し、我が国監査の現状の理解を深めることにする。 また、パブリック監査は英国の監査が最新であり、我が国及び英国での監査の主要な相違も説明することとする。		2 中間監査—中間監査基準、中間監査実施基準、中間監査報告基準、中間監査の課題
	試験またはレポート提出により総合的に評価する。		3 連結財務諸表の監査—セグメント情報の監査
テキスト参考文献	テキスト及び参考文献は、後期開講時に指定する。		4 決算監査の実務—実査、確認、立会
			5 監査人の責任—不正・誤謬に対する責任、経営業務に対する責任、経営者による確認書
			6 監査意見と監査報告書—ゴーイングコンサーン等
			7 非営利法人の監査—公益法人、独立行政法人、学校法人、労働組合等の監査
			8 地方自治体の監査—監査委員監査、外部監査等
			9 パブリック監査の観点—監査の観点の内容、その変遷
			10 英国の自治体監査—監査委員会、VFM 監査(3E 監査)、ベストバリュウ監査
			11 我が国の地方自治体の監査—包括外部監査
			12 総括

98科目名	税務会計論	担当者	山田浩一
-------	-------	-----	------

01科目名	税務会計論 a	担当者	山田浩一
-------	---------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>本講義では、会計理論と税務理論の双方が有機的に影響しあっている会計実践の状況を、経済行為そのものの意味を理解してもらうところから掘り起こし、制度の輪郭を浮かび上がらせていくことにより、受講者諸君に会計と税務それぞれの持つ理論的背景やそれらの相違点からくる取扱いの違い等の理解を深めてもらいたいと思っている。</p> <p>とかく実務的な性格が強くなりすぎるくらいのある科目ではあるが、ノウハウ的な取り上げ方は避けて、様々な制度に共通する普遍的理解の形成に結びつくことができれば、望外のことと考えるものである。</p> <p>なお、受講者には簿記論をはじめとして、会計学原理、財務会計論、財政学等の関連科目の履修を要望する。</p>	授業計画	1 税務会計論の対象と方法	
	評価方法		2回の定期試験の他、授業中に小テストを実施して理解を確認していきたい。	2 租税制度
			テスト参考文獻	税務会計要論 中田信正(同文館)、法人税法と課税所得の計算 若杉明(中央経済社)
			4 法人税課税所得の計算構造	
			5 公正会計処理基準	
			6 売上収益と金銭債権	
			7 有価証券と受取配当	
			8 売上原価と棚卸資産	
			9 有形固定資産・減価償却	
			10 圧縮記帳	
			11 無形固定資産・借地権	
			12 繰延資産	

01科目名	税務会計論 b	担当者	山田浩一
-------	---------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	前期に同じ	授業計画	1 引当金	
	評価方法		前期に同じ	2 準備金・自己資本
			テスト参考文獻	前期に同じ
			4 交際費・寄付金	
			5 租税公課	
			6 リース取引	
			7 消費税と経理方法	
			8 税効果会計	
			9 申告・納税の概要	
			10 企業集団課税	
			11 企業組織再編税制	
			12 国際課税	

98科目名	経営分析論	担当者	百瀬房徳
01科目名	経営分析論 a	担当者	百瀬房徳
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	経営分析は財務諸表分析として発展してきた。そして、このためには統一した財務諸表の作成方法を促進させてきた。財務諸表の分析の始まりは金融機関が貸付金の返済能力を診断したところにある。その後、証券市場では収益性の分析を発展させてきた。現在では、特定の実体（たとえば企業）の評価または診断、当該実体の属する産業の動向、国民経済の動向を分析するまでに発展してきている。歴史的発展過程をふまえるかたちで、経済環境と分析技法の二面より考察し、全体像の理解を深めることにする。	授業計画	1 経営分析の現代における意義
			2 米国の経済環境における手形市場の形成過程
			3 手形市場、特に手形の割引に際しての銀行からみた信用分析の形成過程
			4 信用分析の側面からみた財務諸表、特に貸借対照表を中心に
			5 信用分析における2対1の原則から体系的な分析への過程
			6 信用分析のケース・スタディ：ウォール、プリス、
			7 信用分析のケース・スタディ：ギルマン、ウォール、シュマルツ
			8 収益性の分析およびその他の分析への発展
			9 経営分析の意義とその限界
			10 経営分析の主体とその目的
			11 経営分析の種類
			12 経営分析の体系
評価方法	テスト		
テキスト参考文献	前林和寿『経営分析の基礎』森山書店		

01科目名	経営分析論 b	担当者	百瀬房徳
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	代表的企業の有価証券報告書総覧に記載されている財務諸表を資料として、体系的な分析をする。特に、安全性、収益性、生産性について、解説しながら分析数値を算出する。そして、この分析数値が何を意味するかを考察する。この分析をテーマごとにレポートを完成させ、提出してもらう。	授業計画	1 安全性の分析 (1)・・・比率分析 (レポート提出)
			2 安全性の分析 (2)・・・資金移動表の解説
			3 安全性の分析 (3)・・・資金移動表の作成 (レポート提出)
			4 収益性の分析 (1)・・・各種資本利益率
			5 収益性の分析 (2)・・・売上高利益率と資本回転率 (レポート提出)
			6 収益性の分析 (3)・・・利益増減の原因分析 (レポート提出)
			7 生産性の分析 (1)・・・付加価値の意義
			8 生産性の分析 (2)・・・付加価値の計算と数値の意味
			9 生産性の分析 (3)・・・付加価値表の作成 (レポート提出)
			10 損益分岐点分析 (1)・・・損益分岐点の意義
			11 損益分岐点分析 (2)・・・損益分岐点の計算と数値の意味
			12 損益分岐点分析 (3)・・・損益分岐点の計算 (レポート提出)
評価方法	レポートを中心に評価するが、レポートが理解されているかテストする。		
テキスト参考文献	前林和寿『経営分析の基礎』森山書店		

98科目名	上級簿記	担当者	香取徹
-------	------	-----	-----

01科目名	上級簿記(工業) a	担当者	香取徹
-------	------------	-----	-----

03科目名	上級簿記(工業) a	担当者	香取徹
-------	------------	-----	-----

講義目的および講義概要	この上級簿記論は、日商簿記検定2級の試験範囲のうち工業簿記を1年間かけて完全に制覇することを目的としています。日商簿記検定の2級の試験は、商業簿記と工業簿記の2種類の簿記の検定試験です。工業簿記は製造業で行われる簿記のことで、原価計算や管理会計論の基礎として重要な技術であるので、是非習得してほしいと思います。 簿記は難しいものではありませんが、技術ですから、身につけるためには、練習が必要です。そのため、毎回の講義では、一つずつ項目を説明し例題の解説をしてから、講義に合わせてプリントを配布して練習します。講義中に練習しながら質問を受けていきますし、プリントでも意見や質問を書いて下さい。また、ワークブックも自宅での練習に利用してください。	授業計画	1 Chapter1 インTRODクシヨン Chapter2 原価計算のアウトライン
			2 Chapter3 工業簿記の構造(1)
			3 Chapter4 材料費会計 I 材料費の分類と会計処理
			4 II 材料費の計算方法
			5 III 予定価格による材料費の会計処理 IV 材料副費の予定計算
			6 Chapter5 労務費会計 I 労務費の分類 II 支払賃金の会計処理
			7 III 消費賃金の会計処理 IV 予定賃率による賃金の会計処理
			8 Chapter6 経費会計(変更の場合あり)
			9 工業簿記の構造(2)
			10 Chapter7 個別原価計算の基礎 I 個別原価計算の考え方
評価方法	試験 95点、プリント・とおるゼミ 5点 合計 100満点。		11 II 製造間接費の実際配賦
テキスト参考文献	TAC 出版『とおるテキスト日商簿記2級工業簿記』『とおるゼミ日商簿記2級工業簿記』		12 III 製造間接費の予定配賦

01科目名	上級簿記(工業) b	担当者	香取徹
-------	------------	-----	-----

03科目名	上級簿記(工業) b	担当者	香取徹
-------	------------	-----	-----

講義目的および講義概要	この上級簿記論は、日商簿記検定2級の試験範囲のうち工業簿記を1年間かけて完全に制覇することを目的としています。日商簿記検定の2級の試験は、商業簿記と工業簿記の2種類の簿記の検定試験です。工業簿記は製造業で行われる簿記のことで、原価計算や管理会計論の基礎として重要な技術であるので、是非習得してほしいと思います。 簿記は難しいものではありませんが、技術ですから、身につけるためには、練習が必要です。そのため、毎回の講義では、一つずつ項目を説明し例題の解説をしてから、講義に合わせてプリントを配布して練習します。講義中に練習しながら質問を受けていきますし、プリントでも意見や質問を書いて下さい。また、ワークブックも自宅での練習に利用してください。上級簿記(工業)aを履修した人また、その程度の知識のある人を対象。	授業計画	1 工業簿記の構造と復習
			2 Chapter8 個別原価計算の応用 I 製造間接費の部門別計算 II 製品への配賦と帳簿記入
			3 III 製造間接費の部門別予定配賦 IV 仕損の会計処理 V 作業屑の会計処理
			4 Chapter9 総合原価計算の基礎 I 総合原価計算の方法 II 原価配分の方法
			5 III 等級別総合原価計算 IV 組別総合原価計算
			6 Chapter10 総合原価計算の応用 I 工程別総合原価計算 II 仕損減損の処理
			7 III 追加材料の処理 IV 副産物の処理
			8 Chapter11 営業費会計と本社工場会計
			9 Chapter12 標準原価計算 I 標準原価計算のポイント II 標準原価計算の流れ
			10 III 標準原価差異の分析
評価方法	試験 95点、プリント・とおるゼミ 5点 合計 100満点。		11 Chapter13 直接原価計算 I CVP 関係の分析 II 直接原価計算
テキスト参考文献	TAC 出版『とおるテキスト日商簿記2級工業簿記』『とおるゼミ日商簿記2級工業簿記』		12 III 固定費調整 IV 原価予測の方法

98科目名	上級簿記	担当者	細田哲
-------	------	-----	-----

01科目名	上級簿記(商業) a	担当者	細田哲
-------	------------	-----	-----

03科目名	上級簿記(商業) a	担当者	細田哲
-------	------------	-----	-----

講義目的および講義概要	講義の目標 「簿記原理」履修者あるいは「日商簿記検定」3級以上の合格者が、複式簿記に関するさらに高度の知識・技術を習得すること。また、近年続々と公表されている新会計基準の内容について理解を深めることを目標とする。	授 業 計 画	1. 1、銀行勘定調整表の作成
	講義概要 前期講義の内容 主たる講義テーマを列挙すると、次の通りである。 ○銀行勘定調整表の作成 ○手形取引の記帳 ○特殊商品売買取引に関する記帳 ○株式会社会計		2. 2、手形取引の記帳 (1) a) 手形裏書譲渡・割引に関する偶発債務についての記帳
	評価方法 前後期ともに期末試験の結果による。		3. 手形取引の記帳 (2)a) 手形裏書譲渡・割引に関する偶発債務についての記帳 b) 荷為替手形
	テキスト参考文献 ・新井清光、渡辺裕互 (共著)「検定簿記講義 2級 商業簿記」(中央経済社)		4. 3、特殊商品売買取引 (1) a) 未着品売買、b) 委託販売、c) 受託販売
			5. 特殊商品売買取引 (2) a) 未着品売買、b) 委託販売、c) 受託販売
			6. 特殊商品売買取引 (3) d) 割賦販売
			7. 特殊商品売買取引 (4) d) 割賦販売
			8. 4、株式会社会計 (1) a) 株式会社の資本金、b) 法定基準金
			9. 株式会社会計 (2) c) 利益処分と損失処理
			10. 株式会社会計 (3) d) 社債の発行、利払、償還
			11. 株式会社会計 (4) e) 繰越資産、f) 引当金、g) 法人税等
			12. 株式会社会計 (5) e) 繰越資産、f) 引当金、g) 法人税等

01科目名	上級簿記(商業) b	担当者	細田哲
-------	------------	-----	-----

03科目名	上級簿記(商業) b	担当者	細田哲
-------	------------	-----	-----

講義目的および講義概要	後期講義の内容 主たる講義テーマを列挙すると、次の通りである。 ○本支店会計 ○帳簿組織 ○連結会計 ○リース会計 ○金融商品の会計 ○退職給付会計	授 業 計 画	1 5、本支店会計 (1) a) 本店集中会計制度と支店独立会計制度 b) 支店分散会計制度と本店集中計算制度
			2 本支店会計 (2) c) 未達事項の整理 d) 内部利益の控除と合併財務諸表
			3 本支店会計 (3) c) 未達事項の整理 d) 内部利益の控除と合併財務諸表
			4 6、帳簿組織 (1) a) 普通仕訳帳と特殊仕訳帳
			5 帳簿組織 (2) b) 伝票式会計
			6 7、連結会計 (1) a) 連結財務諸表の目的、連結の範囲、連結 決算日等
			7 連結会計 (2) b) 連結貸借対照表の作成
			8 連結会計 (3) c) 連結損益計算書の作成
			9 8、リース会計 (1)
			10 リース会計 (2)
			11 9、金融商品の会計
			12 10、退職給付会計
評価方法			
テキスト参考文献	・田中建二「時価会計入門」(中央経済社) ・小宮山賢「金融商品・年金会計入門」(税務経理協会)		

9 8 科目名		担当者	
---------	--	-----	--

0 1 科目名	国際会計論 a	担当者	五十嵐則夫
---------	---------	-----	-------

0 3 科目名		担当者	
---------	--	-----	--

講義目的および講義概要	1. 講義目的 現在、わが国及び世界の企業は多国にわたり事業活動を行い、まさに多国籍企業としてグローバルな経営活動を展開している。ここ数年、国際会計基準 (IAS)への注目がさらに急速に高まっている。国際会計基準委員会は、2000年までに基本的な会計基準のセットを完成させ、IOSCO(証券監督者国際機構)は2000年5月にIASを承認した。 海外においては、経済統合の推進への一環として会計ルールの統一化を図ろうとしている。EU(欧州連合)諸国が、IASの導入に特に熱心であり、2005年よりEU諸国内の公開企業は、原則としてIASに準拠した連結財務諸表の作成が必要となる。アメリカのFASB(財務会計基準審議会)も、IASCとの共同研究を行うなど、会計基準の国際的調和に積極的に関与する姿勢を見せている。日本では近年導入された会計基準は、国際会計基準や米国会計基準などの国際的会計基準をもとに作成されている。	授業計画	1. 国際会計基準の概要—国際会計基準委員会の組織、国際会計基準の設定手続など
	2. 講義の概要 上記の目的を踏まえて、国際会計の主要なテーマごとにIASの説明とともにアメリカ会計基準及び日本会計基準の相違についても説明する。 本講座は、国際会計論 a と国際会計論 b で構成される「国際会計論」の前期の内容(「国際会計論 a」)を講義するものである。		2. 財務諸表の体系—財務諸表の種類、日本、米国、IASの財務諸表の内容の相違
	3. 評価方法 授業の出席率と試験で成績評価する		3. 連結財務諸表—意義、連結範囲、国際会計基準、日本とアメリカの会計原則との比較、個別財務諸表における子会社投資の会計など
テキスト参考文献	開講時に指定する		4. 関連会社投資に対する会計一定義および範囲、投資の会計処理方法、持分法の具体的な適用方法など
			5. ジョイント・ベンチャーに対する持分の財務報告—意義、共同支配の事業、JV共同支配企業とJVとの取引の会計処理など
			6. 有形固定資産—認識および測定、評価減、資産の減損認識・測定後に回収可能価格が回復した場合
			7. 減損会計—意義、資産減損の徴候、減損の認識・測定、洗い替法と切放し法など
			8. リース会計一定義と分類、キャピタルリースとオペレーショングリース、借手側の会計処理、貸手側の会計処理、セール・アンド・リースバック取引
			9. 外貨換算—決算時の換算処理、為替差額(決済差損益、換算差損益)の認識、在外業務活動体の財務諸表の換算、開示
			10. ストックオプションの会計—費用の認識、測定基準日、失効の取扱い、測定の取扱い、費用認識の時期
			11. その他

0 1 科目名	国際会計論 b	担当者	五十嵐則夫
---------	---------	-----	-------

0 3 科目名		担当者	
---------	--	-----	--

講義目的および講義概要	1. 講義目的 現在、わが国及び世界の企業は多国にわたり事業活動を行い、まさに多国籍企業としてグローバルな経営活動を展開している。ここ数年、国際会計基準 (IAS)への注目がさらに急速に高まっている。国際会計基準委員会は、2000年までに基本的な会計基準のセットを完成させ、IOSCO(証券監督者国際機構)は2000年5月にIASを承認した。 海外においては、経済統合の推進への一環として会計ルールの統一化を図ろうとしている。EU(欧州連合)諸国が、IASの導入に特に熱心であり、2005年よりEU諸国内の公開企業は、原則としてIASに準拠した連結財務諸表の作成が必要となる。アメリカのFASB(財務会計基準審議会)も、IASCとの共同研究を行うなど、会計基準の国際的調和に積極的に関与する姿勢を見せている。日本では近年導入された会計基準は、国際会計基準や米国会計基準などの国際的会計基準をもとに作成されている。	授業計画	1. 金融商品一定義、認識および測定、認識の中止、金融資産と金融負債の測定、有価証券、債権の評価(貸倒引当金)、デリバティブ、ヘッジ会計、日本基準との比較
	2. 講義の概要 上記の目的を踏まえて、国際会計の主要なテーマごとにIASの説明とともにアメリカ会計基準及び日本会計基準の相違についても説明する。 本講座は、国際会計論 a と国際会計論 b で構成される「国際会計論」の前期の内容(「国際会計論 b」)を講義するものである。		2. 年金会計—給付アプローチ、年金債務の種類(PBO、ABO、VBO)、回廊方式、厚生年金基金代行部分返上の米国基準の会計処理、掛金建の会計など
	3. 評価方法 授業の出席率と試験で成績評価する		3. 法人所得税—税効果会計の意義、資産負債法、繰延税金資産の実現可能性、国際会計基準・日本基準・アメリカ基準の比較
テキスト参考文献	開講時に指定する		4. 企業結合—「取得」と「持分の結合」、取得の会計処理(パーチェス法)、持分の結合の会計処理(持分プーリング法)
			5. 収益一定義と適用範囲、収益の測定と認識、米国SECにおける収益認識基準の考え方
			6. 工事契約—工事契約の結合と分割、工事契約収益・費用の認識
			7. 研究開発費一定義、構成要素、認識、開発費の償却、減損
			8. 借入費用—会計処理、資産化の要件、資産化すべき借入費用の額、資産化の期間
			9. 1株当たり利益—意義、IASと日本基準・アメリカ基準
			10. セグメント情報—マネージメントアプローチ、開示セグメントの決定(重要性基準)
			11. 財務諸表の表示の国際比較
			12. その他



98科目名	経営数学	担当者	本田勝
01科目名	経営数学 a	担当者	本田勝
03科目名	経営数学 a	担当者	本田勝

講義目的および講義概要	<p>この講義は「経営数学」という名前になってはいるが、経済学や経営学とその周辺の学問を学ぶにあたって必要な数学の基本的な部分を習得することを目的とする。</p> <p>回帰分析の手法や目的関数の最適化などを行うには微分や行列の概念が必要であるし、産業構造の把握に欠かせない産業連関分析にも行列論の概念が使われる。また広い意味の情報科学の中では、データ構造やアルゴリズムを考える上ではいわゆる離散数学の考え方も必要である。</p> <p>講義にあたってはテキストを中心に、ときにはプリントを配布し、できるだけ平易に解説することにする。また理解を深めるためには、受講者自身の演習を取り入れたり、コンピュータによる考え方の提示なども取り入れていきたい。</p>	授業計画	1 イントロダクション 講義を始めるにあたって
			2 集合とは何か 集合の演算
			3 命題と命題算
			4 証明の方法
			5 ベクトルとベクトルの演算 (ベクトルの定義、ベクトル空間)
			6 行列の定義 (基本演算、単位行列)
			7 行列の基本変形 (逆行列、行列の階数)
			8 連立1次方程式 (ガウスの消去法)
			9 行列式の定義とその性質
			10 行列と1次変換
			11 固有値と固有ベクトル
			12 まとめと演習
評価方法	演習、レポート、出席調査および定期試験による総合評価		
テキスト参考文献	石田望ほか『経済・経営のための基礎数学』 新版 実教出版		

01科目名	経営数学 b	担当者	本田勝
03科目名	経営数学 b	担当者	本田勝

講義目的および講義概要	経営数学 a と同じ	授業計画	1 行列の応用 (線形計画法)
			2 行列の応用 (シンプレックス法)
			3 行列の応用 (産業連関表)
			4 行列の応用 (産業連関の分析)
			5 関数の極限 (数列の極限、関数の連続性)
			6 導関数と微分 (微分の意味、高階導関数)
			7 微分の計算 (微分法、媒介変数の微分)
			8 多変数関数とその微分 (偏微分、全微分)
			9 微分の応用 (極大極小、ラグランジュ未定係数法)
			10 差分と差分方程式
			11 微分方程式とその応用 (成長曲線、均衡価格安定性)
			12 まとめと演習
評価方法	演習、レポート、出席調査および定期試験による総合評価		
テキスト参考文献	経営数学 a と同じ		

9 8 科目名	情報検索論	担当者	福田求
---------	-------	-----	-----

0 1 科目名	情報検索論 a	担当者	福田求
---------	---------	-----	-----

0 3 科目名		担当者	
---------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>【注意】「事前に」受講者の抽選を行う。詳細は時間割表を参照し、不明な点があれば教務課経済学部窓口で確認すること。</p> <p>【講義目標】必要な情報を効果的に選択・入手する行為としての情報検索について理解を深める。特に、コンピュータ技術に基づく情報検索システムの知識を、解説および実習を通して体得する。</p> <p>【講義概要】本講義ではまず、情報検索に関する基礎的な概念について解説し、情報検索を取り巻くシステムの仕組みを概観する。</p>	授業計画	1 オリエンテーション
			2 情報検索の定義
			3 情報検索の種類、歴史
			4 データベースの定義、意義、構成要素、種類、歴史
			5 索引語、シソーラス
			6 前半部分のまとめ。質問受付。
			7 情報検索関連作業のプロセス
			8 検索式(1)：論理演算子
			9 検索式(2)：トランケーション
			10 検索式(3)：位置演算子、フィールド演算子
評価方法	定期試験。これに平常点(実習への参加態度等)を加味する。		11 検索結果の評価
テキスト参考文献	適宜指示する。		12 前期授業全体のまとめ。試験。質問受付。

0 1 科目名	情報検索論 b	担当者	福田求
---------	---------	-----	-----

0 3 科目名		担当者	
---------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>【注意】「事前に」受講者の抽選を行う。詳細は時間割表を参照し、不明な点があれば教務課経済学部窓口で確認すること。</p> <p>【講義目標】必要な情報を効果的に選択・入手する行為としての情報検索について理解を深める。特に、コンピュータ技術に基づく情報検索システムの知識を、解説および実習を通して体得する。</p> <p>【講義概要】情報検索論 a での知識を踏まえた上で、実際の情報検索技術に慣れ、習熟するために、CD-ROM データベースや WWW の検索エンジン、商用オンラインデータベースを用いた情報検索の実習を行う。実習では可能なかぎり、受講者が今後の調査/研究活動で利用できるような情報源を紹介する。</p>	授業計画	1 オリエンテーション
			2 CD-ROM 検索(1)
			3 CD-ROM 検索(2)
			4 WWW の検索エンジン(1)：インターネット／WWW の基礎
			5 WWW の検索エンジン(2)：種類
			6 前半部分のまとめ。質問受付。
			7 WWW の検索エンジン(3)：ロボット
			8 WWW の検索エンジン(4)：インデックス
			9 WWW の検索エンジン(5)：検索結果の表示
			10 商用オンラインデータベースの検索(1)
評価方法	定期試験。これに平常点(実習への参加態度等)を加味する。		11 商用オンラインデータベースの検索(2)
テキスト参考文献	適宜指示する。		12 後期授業全体のまとめ。試験。質問受付。

98科目名	情報システム論	担当者	今福啓
-------	---------	-----	-----

01科目名	情報システム論 a	担当者	今福啓
-------	-----------	-----	-----

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	個人が天気予報を見てその日の行動を決定したり、企業が製品の売り上げをもとに生産管理を行うように、情報は行動決定において、たいへん重要な役割を持っています。このような情報を効率よく的確に収集し、処理して発信することで、個人や企業が現代社会における活動を支援するためのシステムを、情報システムといいます。必要となる情報を、より適した形で利用するには、業務についての知識だけでなく、情報システムにおいて使用されているコンピュータやネットワーク、業務システムの分析法やモデル化手法や設計手法といった、幅広い知識が必要となります。情報システム論 a においては、情報システムについての全体像を把握し、情報システムに関連する個々の基礎技術についての理解を深めることを目的とします。	授業計画	1 授業のガイダンス	
	評価方法		課題、期末試験の結果を総合して判断します。	2 情報システムの基礎—全体像を見る
			テキスト参考文献	特に指定しません。
4 情報システムの構成要素 1—コンピュータハードウェア				
5 情報システムの構成要素 2—コンピュータソフトウェア				
6 情報システムの構成要素 3—コンピュータネットワーク				
7 情報システムにおける情報処理方式				
8 情報システム設計の基礎手法—業務のモデル化とモデル化手法				
9 構造化手法とオブジェクト指向手法				
10 オブジェクト指向アプローチの基礎				
11 オブジェクト指向による分析・設計方法				
12 授業のまとめ				

01科目名	情報システム論.b	担当者	今福啓
-------	-----------	-----	-----

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	情報システム論 b では、情報システムを構築する際に必要となる知識を身につけることを目的とします。具体的には、情報システムの要求分析、設計、実現にいたるプロセスのそれぞれについて、学習していきます。また、実際にどのような場面で、どういった形で情報システムを利用すれば、より業務の効率を向上させられるのかについても理解することを目指します。これらを理解することで、情報システムの構築と、利用形態の双方についての知識を互いに組み合わせて、より良い情報システムを構築できるようになることを目標とします。	授業計画	1 情報システム構築のアプローチ 1—ライフサイクル	
	評価方法		課題、期末試験の結果を総合して判断します。	2 情報システム構築のアプローチ 2—ウォーターフォール型モデルとプロトタイプモデル
			テキスト参考文献	特に指定しません。
4 情報システムの設計 1—情報システムの全体像の構想				
5 情報システムの設計 2—情報システムの仕様決定				
6 情報システムの開発管理				
7 情報システムの評価 1—導入に必要な費用の見積もり				
8 情報システムの評価 2—導入による効果の見積もり				
9 情報システムの保守・管理				
10 情報システムの利用 1—グループウェア				
11 情報システムの利用 2—意思決定支援				
12 授業のまとめ				

98科目名		担当者	
-------	--	-----	--

01科目名	情報社会論 a	担当者	柴崎信三
-------	---------	-----	------

03科目名	情報社会論 a	担当者	柴崎信三
-------	---------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>IT（情報技術）による変革の波が社会のさまざまな領域に広がっている。国家や企業活動のあり方から個人の暮らしに至るまで、隅々にわたる変化の規模と現代社会に及ぼす影響を総合的に考えてゆきたい。</p> <p>前期の授業ではまず情報社会の歴史をたどるなかで、情報と経済のかかわりを具体的に検証する。さらに現在進行しているコンピューターネットワークをコアにした情報技術革命が経済社会をどう変えているかを学んでゆく。ITがリードしたいわゆるニューエコノミーは、コストの構造とネットワーク効果という面から伝統的な産業社会の成長のメカニズムを超えるものと期待が高まったが、米国のエンロンやワールドコムの変質のようにそのバブル型の構造の限界もみえる。電子商取引、B2B、知的財産権の再定義などの動きをとらえて、情報が動かす新たな社会のメカニズムを考えたい。</p>	授業計画	1 はじめに	
	評価方法		定時の試験の成績に、平常の授業の出席状況とレポートの実績を勘案して判定する。	2 情報社会の前史
			テキスト参考文献	吉川元忠『情報エコノミー』（文春新書）を前期の参考文献とする。
				4 ネットとIT社会
			5 ニューエコノミー論	
			6 ITとアジア金融危機	
			7 複製技術と知的財産権	
			8 近代化モデルの破綻	
			9 デジタルデバイド（情報格差）	
			10 エンロン破綻の意味	
			11 エンロンと米国一極化	
			12 まとめ	

01科目名	情報社会論 b	担当者	柴崎信三
-------	---------	-----	------

03科目名	情報社会論 b	担当者	柴崎信三
-------	---------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>IT社会は実際の仕事や暮らしをどう変えていくのか。また、個人と社会を巡ってそこに起こる新たな問題は何なのか。後期の授業ではこうした問題意識の下で、情報社会がかかえる功罪両面の現実を探る。</p> <p>政治、行政、ビジネス、雇用、消費、教育、メディアなど生活のあらゆる分野にIT化の影響は広がっている。従来あった中間のプロセスが個人と個人、個人と組織や市場を直接結んだネットワークによって省略され、その結果コストや手続きが大幅に軽減されるメリットが生じる反面、個人情報流出やネット犯罪などのリスクが増大する。プロセスの短縮で雇用機会が奪われる人々もある。著作物のコピーが自由自在に行われ、ネットを通じて違法な商取引が野放しになるなど、社会はネット社会にふさわしいしくみを必要としている。その現実をそれぞれの分野にみてこれからの秩序を探りたい。</p>	授業計画	1 はじめに	
	評価方法		定時試験の成績に、平常の授業の出席状況とレポートの実績を勘案して評価する。	2 消費とIT
			テキスト参考文献	西垣通『IT革命』（岩波新書）を後期の参考文献とする。
				4 ビジネスとIT
			5 行政とIT	
			6 政治とIT	
			7 教育とIT	
			8 エンターテインメントとIT	
			9 犯罪とIT	
			10 個人情報とIT	
			11 自由とセキュリティ	
			12 まとめ	

98科目名		担当者	
01科目名	情報通信ネットワークa	担当者	安井直彦
03科目名		担当者	
講義目的および講義概要	<p>情報通信ネットワークは、端末、ノード、リンクの3要素で構成される。本講義では実習を交え、体験をとおしてこれらの3要素の技術の概要、及びそれらを相互に接続したネットワークの概要について学習する。具体的には、端末としてはパソコンを、ノードとしてはハブ、ルータを、リンクとしてはイーサネット、公衆回線を取り上げ、それぞれの技術的内容を講義すると共に、それら相互を実際に接続し、LAN、あるいはダイアルアップネットワークを構築することによって、インターネットワーク構築方法を体験する。それにより、情報通信ネットワークについて概要を理解することを目的とする。</p>	授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション、パソコン本体、メモリー</li> <li>2 上記講義に関する実習（パソコンの分解）</li> <li>3 パソコン周辺、インタフェース</li> <li>4 上記講義に関する実習（パソコンの組立）</li> <li>5 パソコン間通信 LAN (Ethernet)</li> <li>6 上記講義に関する実習（パソコン間通信の実現）</li> <li>7 ルーター ルータ構成、機能、プロトコル</li> <li>8 上記講義に関する実習（LAN間通信の実現）</li> <li>9 インターネットへの接続 電話網、CATV（公衆網）</li> <li>10 上記講義に関する実習（ダイアルアップ接続の実現）</li> <li>11 ネットワークセキュリティ ファイアウォール、フィルタリング</li> <li>12 上記講義に関する実習（パケットフィルタリング実習）</li> </ol>
評価方法	出席点をベースに、期末レポートの内容により評価する。		
テキスト参考文献	<p>テキスト：指定せず（講義はパワーポイント主体） 参考文献：相沢、水野訳 (Andrew S.Tanenbaum)「コンピュータネットワーク第3版」 プレンティスホール出版、平成9年</p>		
01科目名	情報通信ネットワークb	担当者	三宅真
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>携帯電話とインターネットに代表される情報通信ネットワークは、私たちにとって極めて身近な存在となり、社会の重要なインフラストラクチャとして定着しているだけでなく、今後のマルチメディア社会において更に発展が展望されている。</p> <p>この講義は、21世紀の社会に生きる受講生諸君が、デジタル無線通信ネットワークの発展と活用とについて自らの正しい見識を持てるようになることを目標とする。最初に、実際のデジタル無線通信ネットワークのシステム構成と発展動向を講義する。次に、無線通信を使って情報が伝達される仕組みと技術についての基本的なことから、事例に則して分かり易く、例題演習を交えながら解説する。</p> <p>デジタル無線通信ネットワークに興味のある多くの学生諸君の受講を期待する。</p>	授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション ・受講者の確認・決定、講義の目標と全体概要</li> <li>2. デジタル無線通信概論 (1) ・無線通信の特徴、歴史と発展動向</li> <li>3. デジタル無線通信概論 (2) ・無線通信の電波、国際標準化</li> <li>4. 移動通信ネットワーク (1) ・移動通信システムの実例と発展動向</li> <li>5. 移動通信ネットワーク (2) ・移動通信システムのネットワーク構成技術</li> <li>6. 衛星通信ネットワーク (1) ・衛星通信システムの実例と発展動向</li> <li>7. 衛星通信ネットワーク (2) ・衛星通信システムのネットワーク構成技術</li> <li>8. 情報伝送の仕組みと技術 (1) ・アナログ情報のデジタル化と伝送</li> <li>9. 情報伝送の仕組みと技術 (2) ・情報量とエントロピー</li> <li>10. 無線伝送の仕組みと技術 (1) ・通信路符号化技術</li> <li>11. 無線伝送の仕組みと技術 (2) ・無線アクセス技術</li> <li>12. まとめ</li> </ol>
評価方法	出席とレポートによって評価する。		
テキスト参考文献	<p>山本、加藤「TDMA通信」電子情報通信学会 奥村、他「移動通信の基礎」電子情報通信学会</p>		

98科目名		担当者	
-------	--	-----	--

01科目名	コンピュータネットワーク(春季完結)	担当者	富澤義一
-------	--------------------	-----	------

03科目名	コンピュータネットワーク(春季完結)	担当者	富澤義一
-------	--------------------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>講義の目的：情報通信ネットワークシステムとして、コンピュータ同士を接続してネットワークシステムを構築する。このシステムの役割、データ通信要素の技術、システム構築、運用、保守、及び安全対策に関する基礎的な知識や技術を学習する。さらに実際に活用する能力を育成する。</p> <p>講義概要：この学習を通して、ネットワークシステムの全体像について、情報通信システムの信頼性や稼働性などを理解する。また、通信回線や関連する機器のハードウェアについて、基本的な事項を学習する。</p> <p>受講にあたってお願い</p> <p>(1) 2進数、16進数の取り扱いに、よく慣れておく。</p> <p>(2) 継続性を要求される授業であるので、十分に健康に留意して、欠席しない。</p>	授業計画	1 ガイダンス ネットワークの基礎（その1）
			2 ネットワークの基礎（その2） エラー検出符号、ハミング符号
			3 ネットワークの基礎（その3） データ通信の基本構成、伝送媒体、伝送方式、
			4 ネットワークの基礎（その4） 伝送技術、伝送制御、アーキテクチャ
			5 ネットワークの基礎（その5） TCP/IPによる情報伝達
			6 ネットワークの基礎（その6） TCP/IPの機能
			7 ネットワークの基礎（その7） IPの機能と詳細
			8 ネットワークの構築（その1） ネットワークシステムの開発手順、要求分析
			9 ネットワークの構築（その2） ネットワーク機器の選択、施工、評価
			10 ネットワークの運用と保守（その1） 運転管理、障害管理、性能管理、安全管理
評価方法	期末テストで評価する。出席回数は賞賛の対象とし、評価の対象にはしない。		11 ネットワークの運用と保守（その1） 予防保守、事後保守、定期保守
テキスト参考文献	テキストは使用しない。必要な講義資料は授業のときに配布する。		12 ネットワークの安全対策 地震、洪水などによるシステムの破壊、損傷、システムや建物への不法侵入、人為的過失対策

98科目名		担当者	
01科目名	コンピュータ-キクチャ(春期完結)	担当者	今福啓
03科目名	コンピュータ-キクチャ(春期完結)	担当者	今福啓

講義目的および講義概要	この講義では、現在のコンピュータのハードウェアの基本構造と、その動作原理を理解することを目的としています。これらを理解し、コンピュータに何が出来て何が出来ないのかについて把握することで、コンピュータを利用する上での手助けとなる知識が得られることを目指しています。	授業計画	1 授業のガイダンス	
			2 コンピュータの構成—ハードウェアとソフトウェア	
			3 コンピュータの基本構造—5つの装置 (入力装置、出力装置、演算装置、制御装置、記憶装置)	
	4 コンピュータの基本動作			
	5 データの表現 (整数)			
	6 データの表現 (実数、文字)			
	7 コンピュータにおける演算			
	8 演算装置と制御装置の動作			
	9 演算装置と制御装置の構造—高速な演算のための構造について			
	10 コンピュータの命令語とプログラム			
評価方法	課題、期末試験の結果を総合して判断します。			11 記憶装置—主記憶装置、補助記憶装置、外部記憶装置
テキスト参考文献	特に指定しません。			12 授業のまとめ

01科目名	コンピュータ-キクチャ(秋期完結)	担当者	今福啓
03科目名	コンピュータ-キクチャ(秋期完結)	担当者	今福啓

講義目的および講義概要	(半期完結科目のため、講義目的はすべて春学期と同じ)	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

9 8 科目名		担当者	
---------	--	-----	--

0 1 科目名	情報と職業 a	担当者	富田幸弘
---------	---------	-----	------

0 3 科目名	情報と職業 a	担当者	富田幸弘
---------	---------	-----	------

講義目的・講義概要	<p>情報化社会の急激な進展と、その社会の中で働くことについて学習する。情報を獲得・利用する職業についての関わり方を学習し、情報に関わる職業人としての勤労観・倫理観などについても考える。社会で利用されている代表的な情報システムを理解し、高度情報化が社会におよぼす影響を認識し、それに対応できる関わり方も学習する。前半は、情報化社会での各種情報の開示と、個人情報の保護や危機管理について学習し、後半は、情報産業で関心の高い業界・業種・職種と変動する生活・ビジネスについて学習する。最後に、数人のグループを編成し、「情報と職業」について各種のテーマを設定し、研究成果を発表し、討論する。</p> <p>高等学校の「情報科」教員の免許取得に必要な法定科目であるので、その心構えを持っている学生の受講を要望する。必ず、第一回目の講義に出席して、自分が履修可能であるかどうかを判断すること。</p>	授業計画	1 講義の目標・概要・評価などについて
	<p>以下情報を考慮し総合評価する。 1) 研究発表の内容、2) 期末試験の結果、3) 数回提出するレポートの内容、4) 出席状況</p>		2 情報とは何か、情報化社会の情報システム、情報化社会の信頼性 3 高度情報化を可能にする基盤技術、実現させる開発技術・生産技術、社会にもたらす新利便 4 インターネット・パソコン通信・衛星放送、災害と情報、政治と戦争 5 情報開示の実態、情報開示の責任、危機管理、リスク管理 6 情報の収集・発信に伴う問題点、教育情報の開示、個人情報の保護・個人の責任 7 情報新時代の社会と就職・職業、情報産業の職種 8 情報化社会の企業・団体、インターネット・携帯電話で変わる生活・ビジネス、技術革新 9 各種のホームページ、情報社会の現象を収集、収集した情報の分析 10 情報獲得を職業とする人々、情報の収集・発信にかかわる職業人の勤労観・倫理観 11 情報化社会でのシステムが社会に及ぼす影響、教育現場での情報教育・教育方法の新規試み 12 望ましい情報化社会と職業人としてのあり方「情報と職業」のまとめ

0 1 科目名	情報と職業 b	担当者	小林哲也
---------	---------	-----	------

0 3 科目名	情報と職業 b	担当者	小林哲也
---------	---------	-----	------

講義目的・講義概要	<p>現在、コンピュータとネットワークを融合させた新しい情報技術の波が、世界をおおっている。この情報技術革命ともいわれる事態は、経済の仕組みや企業経営に大きな影響を与えるだけでなく、私たちの生活・職業・教育などのあり方にも大きな変化を迫ってきている。本講義では、1990年代以降の情報技術革命の推移とそのインパクトを、情報社会の発達や企業のビジネスモデルの変化という視点を中心に解説していく。</p> <p>ネットワークの仕組みやインターネットの特性などの技術的側面から、情報教育に携わる上でさけて通れない情報社会の問題点や情報倫理のあり方についても、実際のケースを紹介しながら解説していく。</p>	授業計画	1 序論：情報と職業 ---情報技術革命のインパクト
	<p>小レポートの提出、授業中のプレゼンテーション、学期末レポートによる</p>		2 IT革命とグローバル化 3 IT革命と企業経営の変化 4 日本的経営とIT革命 5 IT革命後のビジネス環境 知的所有権ビジネスの発展 6 実践編 新しいIT空間を体験しよう 7 20世紀の工業化・21世紀の工業化 市場化と自動化 8 国境を越えるIT空間： 人材開発・モノ作り・流通・マーケティングの国際化情報化 9 プレゼンテーション演習 ① デジタルディバイド 10 プレゼンテーション演習 ② 情報倫理 11 プレゼンテーション演習 ③ 知的財産権 12 プレゼンテーション演習 ④ 総評
評価方法			
参考	<p>近藤勲編著 『情報と職業』 丸善 池田信夫『インターネット資本主義革命』NTT出版</p>		



98科目名		担当者	
-------	--	-----	--

01科目名	アルゴリズム論 a	担当者	木村昌史
-------	-----------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>アルゴリズムとは狭い意味では、コンピュータを用いて問題解決をするためのプログラミングの前段階である処理手順を意味する。それは人間の思考による処理のプロセスとは必ずしも同一ではなく、コンピュータ独特のものも多い。ここではコンピュータ科学の基礎として、すでに確立されている典型的、定型的なアルゴリズムについて学ぶことを目的とする。</p> <p>前期にはそもそも問題解決とは何かという考え方から始め、結果が予想できる問題について、アルゴリズムの視覚化、図示化を行いながらその基本構造を理解する。基本アルゴリズムは複雑な問題を解決する上で要素的な手法であり、多くの分野に適用がきく手法でもある。講義とパソコン実習を取り入れながら進める。プログラミングの知識は前提にはしないが、Excelを用いた基本的な処理（関数やグラフの利用）ができることが望ましい。</p>	授業計画	1 アルゴリズムとは何か コンピュータによる問題解決の方法	
	評価方法		実習レポートおよび出席状況から総合的に評価する。ペーパー試験は実施しない予定。	2 条件判断・分岐・繰り返し Excelの関数の例
			テキスト参考文献	特に指定しない。 授業時に資料・データを配布する。
			4 データ構造とアルゴリズム データの表現方法	
			5 整列のアルゴリズム ソートの各種の手法	
			6 整列と計算量 アルゴリズムの効率の評価	
			7 探索のアルゴリズム 線形探索法、二分探索法	
			8 ハッシュ法 効率的な探索法	
			9 木構造・索引付け 二分木、B木	
			10 文字列の探索 KMP法、BM法	
			11 グラフの表現 グラフによる最短経路	
			12 前期のまとめ 実習のまとめ、補足	

01科目名	アルゴリズム論 b	担当者	木村昌史
-------	-----------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>前期には定型的な狭い意味でのアルゴリズムについて学んだが、後期には非定型なより広い意味でのアルゴリズムについて学ぶことを目的とする。</p> <p>問題解決の方法が確立していない問題に対しては、コンピュータによる処理を適用する以前に、問題に対する深い分析や洞察が必要となる。方法が確立されていない例としては、たとえばゲームの必勝法とか確率的な現象の予測のようなものがあり、アプローチする方法としては、発見法的方法や数値的なシミュレーションがある。ただ、こうした方法はあくまで「近似的」な手段であり、真の解決とは異なることを理解する。それでも実用的な価値は十分である場合も少なくない。ここでは経済学部であることも鑑みて、経済・経営に関連する話題も例題としてとり入れながら進める。前期と同様に講義とパソコン実習を取り入れながら進める。Excelの応用も兼ねてVBAを活用した実習も行う。</p>	授業計画	1 高次方程式の近似解法 解の公式とは役に立つのか？	
	評価方法		実習レポートおよび出席状況から総合的に評価する。ペーパー試験は実施しない予定。	2 ゲームの理論 ゲームに勝つための最善手とは？
			テキスト参考文献	特に指定しない。 授業時に資料・データを配布する。
			4 動的計画法 品物をナップザックに詰め込む方法は？	
			5 ランダムパッキング 駐車場に停められる車の台数は？	
			6 巡回商人問題 最も効率の良い訪問の最短ルートは？	
			7 株価の変動（1） 株価の変動はでたらめか？	
			8 株価の変動（2） 株価の変動は予測できないのか？	
			9 産業連関分析 産業の構造はどのようにつらがるのか？	
			10 ロジスティック曲線とカオス 小さな差異が予測不能の結果を導く？	
			11 フラクタル 自己相似的な構造とは？	
			12 後期のまとめ 実習のまとめ、補足	

98科目名	オペレーション・リサーチ	担当者	正道寺勉
-------	--------------	-----	------

01科目名	オペレーション・リサーチ a	担当者	正道寺勉
-------	----------------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>オペレーションズ・リサーチ(Operations Research: 一般には、OR と呼ばれる)は、軍事目的を達成させるために研究され始めたが、現在では限られた制約条件のもとで効率よく目的を達成するための手段として、広く利用されている。OR の範疇に入る手法はたくさんあるが、現実の問題を解くにあたっては、その問題をいかにしてモデル化するかが大変重要である (OR 手法の出番は、モデル化の後である)。</p> <p>本講義では、OR の基本となる考え方 (モデル化の重要性を含む) とその応用について分かりやすく講義する。特に、経済学部 of 学生に興味のある話題を提供する積りである。</p> <p>受講者への要望: 本講義を受講するにあたり、統計学、経営数学、コンピュータの知識を持っていることが望ましい。</p>	授業計画	1. OR とは? OR の歴史、OR の発展、OR の定義
			2. OR の考え方とモデル化の概念 モデル化の例、OR 手法の紹介
			3. ランチェスターの法則 第二次世界大戦とランチェスター
			4. マルコフ過程 (1) マルコフ過程の概要
評価方法	試験を重視するが、出席とレポートも考慮して評価を行う。		5. マルコフ過程 (2) マルコフ連鎖、推移確率、例題、演習
テキスト参考文献	テキスト/小田中敏男、正道寺勉:「初等オペレーションズ・リサーチ」、槇書店 (1993)		6. AHP【ゲーム感覚意思決定法】(1) AHP の概要 (曖昧な状況下での意思決定)
			7. AHP【ゲーム感覚意思決定法】(2) AHP の整合性、応用例
			8. AHP【ゲーム感覚意思決定法】(3) 演習
			9. アルゴリズム (1) アルゴリズムの重要性、再帰式と逐次近似
			10. アルゴリズム (2) フィボナッチ数列と黄金分割の関係
			11. ゲームの理論 (1) ゲームの理論の概要、利得行列の戦略
			12. ゲームの理論 (2) 混合戦略の考え方、演習
			参考文献については、開講時に随時紹介する。

01科目名	オペレーション・リサーチ b	担当者	正道寺勉
-------	----------------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>前期の講義「オペレーションズ・リサーチ a」に引き続き、有用な手法について講義する。また、講義の中で効率よく目的を達成するために必要な「最適化の考え方」や最新の OR の研究動向についても触れる。</p> <p>右の授業計画欄に示したトピックス以外にも OR の手法はあるが、時間の許す限り紹介する積りである。</p> <p>受講者への要望: 本講義を受講するにあたり、統計学、経営数学、コンピュータの知識を持っていることが望ましい。また、「オペレーションズ・リサーチ a」を履修していることが望ましい。</p>	授業計画	1. 線形計画法 (1) 線形計画法(LP)の概要、図による解法
			2. 線形計画法 (2) 主問題と双対問題の関係、LP の一般形
			3. 線形計画法 (3) 線形計画問題の一般形、シンプレックス法
			4. 線形計画法 (4) シンプレックス法の演習
評価方法	試験を重視するが、出席とレポートも考慮して評価を行う。		5. 線形計画法 (5) 線形計画問題と輸送問題、輸送問題の解法
テキスト参考文献	テキスト/小田中敏男、正道寺勉:「初等オペレーションズ・リサーチ」、槇書店 (1993)		6. 動的計画法 (1) 動的計画法(DP)の概要
			7. 動的計画法 (2) 最適性の原理、多段意思決定、演習
			8. 最短経路問題 (1) 最短経路問題の概要、グラフによる表現
			9. 最短経路問題 (2) 最適性の原理、作図による解法、演習
			10. PERT、CPM (1) PERT、CPM の概要、アローダイアグラム
			11. PERT、CPM (2) クリティカルパスの求め方
			12. 在庫管理 在庫管理の背景、在庫理論
			参考文献については、開講時に随時紹介する。

98科目名	システム・エンジニアリング	担当者	天笠美知夫
01科目名	システム・エンジニアリング a	担当者	天笠美知夫
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>経営・経済システムや社会システムなどの大規模・複雑で、かつ、あいまい性をもつシステムの本質を把握し、設計・開発するにあたり主要な学問であるシステム・エンジニアリングの役割と具体的な方法論、ならびに情報システムとその効果的な活用法について理解と意識を高めることを目的とする。</p> <p>本講義は概ね次に示す2つの部分から構成される。</p> <p>①システム・エンジニアリングの基本概念 ②システム・エンジニアリングの方法論</p> <p>尚、理論を実証する意味で、適宜、情報システムを活用しながら事例演習を行い、その報告書を作成させる。本講義を受講するための前提となる必修科目はない。</p>	授業計画	1 オリエンテーション：受講者の確認・決定 年間予定、授業方法等の注意事項についての説明
	<p>事例演習およびそのレポートと、出席ならびに期末試験の結果を考慮して総合的に評価する。</p>		2 システム・エンジニアリングの基本概念(1)：発達とその背景、システムの定義と特徴 システム思考
	<p>天笠美知夫『経営システム工学』テキスト資料予定 寺野寿郎『システム工学入門』共立出版 1985 参考文献</p>		3 基本概念(2)：システム環境、サブシステム、システムの巨視的特性、自然システムと人工システム
評価方法			4 システム・エンジニアリングの方法論(1)Ill-defined and well-defined problems 問題の設定、目標の設定、システム合成、システム分析、システムの評価と選定
テキスト参考文献			5 方法論(2)：システム開発の手順と組織
			6 方法論(3)；問題の発見とシステムの構造化、
			7 構造モデルとグラフ理論(1)
			8 構造モデルとグラフ理論(2)
			9 構造モデルと KJ 法
			10 構造モデル事例演習(1)
			11 構造モデル事例演習(2)
			12 構造モデル事例演習(3)

01科目名	システム・エンジニアリング b	担当者	天笠美知夫
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>経営・経済システムや社会システムなどの大規模・複雑で、かつ、あいまい性をもつシステムの本質を把握し、設計・開発するにあたり主要な学問であるシステム・エンジニアリングの役割と具体的な方法論、ならびに情報システムとその効果的な活用法について理解と意識を高めることを目的とする。 本講義は概ね次に示す2つの部分から構成される。</p> <p>①統計的な手法によるシステム認識 ②システムの価値評価、意思決定と予測</p> <p>尚、理論を実証する意味で、適宜、情報システムを活用しながら事例演習を行い、その報告書を作成させる。本講義を受講するためにはシステム・エンジニアリング a を履修しておくことが望ましい。</p>	授業計画	1 統計的手法によるシステム認識基礎
	<p>事例演習およびそのレポートと出席、ならびに期末試験の結果を考慮して総合的に評価する。</p>		2 統計的手法によるシステム認識(1) 主成分分析法
	<p>天笠美知夫『経営システム工学』テキスト資料予定 寺野寿郎『システム工学入門』共立出版 1985 参考文献</p>		3 統計的手法によるシステム認識(2) Questionnaire の作成、アンケート調査
評価方法			4 アンケート調査、データの整理、パソコン入力
テキスト参考文献			5 統計ソフトウェアを活用したシステム構造分析 (SPSS の活用)
			6 システムの評価と意思決定(1) 価値と評価
			7 システムの評価と意思決定(2) 効用理論
			8 価値工学によるシステム評価(1)
			9 価値工学によるシステム評価(2)
			10 予測：デルファイ法とファジィデルファイ法
			11 デルファイ法とファジィデルファイ法演習
			12 スケジューリング：PERT,CPM

98科目名	管理工学(春期)	担当者	鈴木淳
-------	----------	-----	-----

01科目名	経営システム工学 a	担当者	鈴木淳
-------	------------	-----	-----

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>経営を取り巻く外部環境が激しく変化するなかで、経営システム工学・管理工学は今大きく変貌しつつある。時代の潮流を的確につかみ、何が大切かを明確に認識し、問題解決能力・意思決定能力を高めることが、今ほど要求されている時代はない。本講義では、経営システム工学を初めて学ぶ人を対象に、その体系の理解と実社会で役立つ考え方と技法の修得をはかることを目的としている。</p> <p>前期は、外部環境変化と経営システムの課題、経営システム工学の役割と概念などの基本的かつ具体的な内容、経営システム工学の典型的な問題解決技法を学ぶ。</p> <p>表計算、プレゼンテーション、最適化、シミュレーションなど、パソコンによるデモンストレーションを取り入れた講義を行う予定である。また、講義の終わりには最新の経営トピックスも紹介する。</p>	1 外部環境変化と経営システム工学
		2 外部環境変化：サプライチェーンマネジメント(SCM)、環境経営
		3 経営システム工学の概念 1：企業活動の諸側面と管理のサイクル、種々の管理
		4 経営システム工学の概念 2：企業活動の諸側面、経営活動の立体構造
		5 経営システム工学の概念 3：意思決定とは、意思決定の種類、外部環境変化と意思決定
		6 経営システム工学の概念 4：科学・技術・工学、システムと経営システム、経営システム工学とは
		7 問題解決技法 1：諸概念、モデルの概念、最適化とシミュレーション
		8 問題解決技法 2：品質管理の問題解決技法、QC7つ道具
		9 問題解決技法 3：在庫管理の考え方と技法、管理システム、POSシステム、シミュレーション
		10 問題解決技法 4：線形計画法(LP)；LPの問題構造、問題の定式化
		11 問題解決技法 5：線形計画法；単体法の原理、単体表による解法
		12 問題解決技法 6：線形計画法；グラフによる解法、エクセル・ソフトによる解法、双対問題
評価方法	前期末に実施する試験を中心に、出席状況、レポートなどを加味して評価する。	
テキスト参考文献	テキスト 日下泰夫：『経営工学概論』中央経済社（資料を配布する）	

01科目名	経営システム工学 b	担当者	日下泰夫
-------	------------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>講義目的は前期に同じ。</p> <p>後期は経済性工学（EE）と階層分析法（AHP）の技法を取りあげ、いくつかの演習も行う。次にこれらの諸技法の理解を前提に、問題解決法を構造的に理解し、経営システム工学の役割を考察する。最後に、情報化時代と経営システム工学、21世紀に向けた経営システム工学についての見解を述べる。</p> <p>表計算、プレゼンテーション、最適化、シミュレーションなど、パソコンによるデモンストレーションを取り入れた講義を行う予定である。また、講義の終わりには最新の経営トピックスも紹介する。</p>	1 問題解決技法 5：動的計画法（DP）；DPとは、多段階決定問題、最適性の原理、定式化と解法
		2 問題解決技法 6：動的計画法；C言語によるプログラミング、適用例
		3 問題解決技法 7：経済性工学（EE）；経済的な意思決定、投資分析の基礎手法
		4 問題解決技法 8：経済性工学；エクセルを利用した設備投資の経済的意思決定
		5 問題解決技法 9：階層分析法（AHP）；階層分析法とは、理論的根拠、一対比較法、適用例
		6 問題解決技法 10：階層分析法（AHP）；自動車の購入行動の分析、VBAによる分析
		7 問題解決法と経営システム工学 1：問題解決法の重要性、外部環境変化とパラダイム、従来の問題解決法
		8 問題解決法と経営システム工学 2：問題解決の構造的な分析、問題解決法と経営システム工学の役割
		9 情報化・創造化時代と経営システム工学 1：意思決定と情報創造、ネットワーク経営
		10 情報化・創造化時代と経営システム工学 2：EC SCM、技術経営（テクノロジー・マネジメント）
		11 21世紀の経営システム工学：経営システム工学における問題解決法の教育
		12 経営システム工学を学ぶ人へのメッセージ
評価方法	後期末に実施する試験を中心に、出席状況、レポートなどを加味して評価する。	
テキスト参考文献	テキスト 日下泰夫：『経営工学概論』中央経済社（資料を配布する）	

98科目名		担当者	
01科目名	著作権法（通年）	担当者	長塚貞琴
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要	著作権法は、本やCD、写真やコンピュータソフトなどの「中身」を、他人による模倣から保護する法律である。この法は最近、理論的にも実務的にも注目を集めており、巷では著作権法不要論も含む様々な議論が交わされるようになってきた。この講義は、実定法に関する基礎知識を身につけ、著作権法をめぐる議論において、自分なりの考えを持てるようになることを目的とする。 下記の教科書とレジュメを用い、裁判例に関する画像やウェブサイトなど、視覚情報も重視しつつ講義を進める。講義には、著作権法の載っている、最新の六法を携帯すること。 担当者のサイトはこちら↓。着任後、講義のサイト03年度版を作ってここからリンクする。 <a href="http://homepage3.nifty.com/ngtk/">http://homepage3.nifty.com/ngtk/</a>	授業計画	1 ガイダンス
			2 著作物1 著作物の定義
			3 著作物2 著作物の定義（続き）
			4 著作物3 言語著作物等
			5 著作物4 美術著作物等
			6 著作物5 映画著作物等
			7 著作物6 プログラム著作物等
			8 著作者と著作権者1 原則
			9 著作者と著作権者2 職務著作
			10 著作者の権利1 総論・公表権
評価方法	定期試験による。レポートか小テストを課すこともある。出席は参考程度に考慮する。		11 著作者の権利2 氏名表示権・同一性保持権
テキスト参考文献	教科書：三山裕三『著作権法詳説【全訂新版】』（東京布井出版、2000年）。参考書：『著作権判例百選〔第3版〕』（有斐閣・別冊ジュリスト156、2001年）		12 著作者の権利3 複製権等

01科目名		担当者	長塚貞琴
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要		授業計画	1 著作者の権利4 上演・演奏権等
			2 著作者の権利5 公衆送信権等
			3 著作者の権利6 二次的著作物の利用権等
			4 著作権の制限1 私的複製等
			5 著作権の制限2 引用等
			6 著作権の制限3 教育目的の制限等
			7 著作権の制限4 その他の制限
			8 著作権の変動 譲渡・利用許諾等
			9 著作者隣接権 実演家等の権利
			10 著作権の侵害1 民事上の責任等
評価方法			11 著作権の侵害2 侵害とみなされる行為等
テキスト参考文献			12 権利の集中処理機構 JASRAC等

98科目名		担当者	
01科目名		担当者	
03科目名	インターナショナルコミュニケーションⅠa	担当者	各担当教員

講義目的および講義概要	<p>担当者が複数ですので、各担当者によるクラス別ガイダンスにしてください。 この授業は、経済学部の1、2年生のために設けられたものであり、International Communication(IC)とは、Test of English for International Communication (TOEIC)の用語から取ったものです。文字通り国際的に通用する日常的な実用英語を学ぶ科目であり、日常のコミュニケーションが英語でもって話せる(Speaking)、書ける(Writing)、読める(Reading)、聞ける(Listening)という4つの内容が自然にできるようにすることを主眼としています。講師陣は、すべて外国人教師であり、受講者はネイティブの先生から直に英語を聞き、英語で話す訓練をすることができます。</p>	授業計画	1 各担当者による
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
			評価方法
テキスト参考文献	各担当者による		

01科目名		担当者	
03科目名	インターナショナルコミュニケーションⅠb	担当者	各担当教員

講義目的および講義概要	<p>担当者が複数ですので、各担当者によるクラス別ガイダンスにしてください。 この授業は、経済学部の1、2年生のために設けられたものであり、International Communication(IC)とは、Test of English for International Communication (TOEIC)の用語から取ったものです。文字通り国際的に通用する日常的な実用英語を学ぶ科目であり、日常のコミュニケーションが英語でもって話せる(Speaking)、書ける(Writing)、読める(Reading)、聞ける(Listening)という4つの内容が自然にできるようにすることを主眼としています。講師陣は、すべて外国人教師であり、受講者はネイティブの先生から直に英語を聞き、英語で話す訓練をすることができます。</p>	授業計画	1 各担当者による
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
			評価方法
テキスト参考文献			

98科目名		担当者	
01科目名		担当者	
03科目名	基礎演習（春期）	担当者	秋本弘章

講義目的および講義概要	<p>大学生生活を有意義に過ごすためのガイダンス。</p> <p>1、大学とはどういうところか</p> <p>2、大学で学ぶということはどういうことか</p> <p>3、本学経済学部で何を学ぶか</p> <p>以上3点について考えていくと同時に、大学で学ぶための基礎的なスキルを身につけることを目的とする。</p> <p>演習という科目の性格上、講義計画はあくまで予定である。受講生諸君と話し合いをしながら進めていくことにする。</p>	授業計画	1. オリエンテーション
			2. 大学の施設—大学に（ ）は必要か？
			3. 講義と演習—効果的な学習方法は
			4. 経済学部で何を学ぶ
			5. 調査・研究の方法（1）課題の発見—観察
			6. 調査・研究の方法（2）課題の発見—新聞
			7. 調査・研究の方法（3）資料の収集
			8. 調査・研究の方法（4）資料の分析
			9. レポートの作成（1）
			10. レポートの作成（2）
			11. レポートの発表とプレゼンテーション
			12. まとめ
評価方法	出席、レポート、授業の貢献度を総合的に判断する		
テキスト参考文献	とくになし。授業中に示す。		

01科目名		担当者	
03科目名		担当者	

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト参考文献			

98科目名		担当者	
01科目名		担当者	
03科目名	基礎演習（春期）	担当者	阿部正浩

講義目的および講義概要	<p><b>講義目的</b>          どうすればわかりやすい「報告書」が書けるのでしょうか。この演習では、レポートや論文あるいは文章を書くための方法を学びます。テキストの著者は30年近く「プロの」経営コンサルタントに「書く技術」と「考える技術」を指導しています。彼女の「技」を、一緒にぬすみましょう。</p> <p><b>講義概要</b>          テキストをベースにしながら、「書く技術」と「考える技術」を習得します。そのために、毎回の講義でOJT（On the job training）をする必要があります。受講者はOJTを通して「技」を盗むこととなります。具体的には毎回テキストに書かれている内容にそってレジユメを作ってもらふこととなります。詳細については第一回目の授業で説明します。</p>	授業計画	1 はじめに (授業のすすめ方とOJTの方法について)
			2 第1章 (教員がレジユメを作成、報告します)
			3 第2章 (受講生がレジユメを作成、報告します)
	4 第3章 (受講生がレジユメを作成、報告します)		
	5 第4章 (受講生がレジユメを作成、報告します)		
	6 予備日		
	7 第5章 (受講生がレジユメを作成、報告します)		
	8 第6章 (受講生がレジユメを作成、報告します)		
	9 第7章 (受講生がレジユメを作成、報告します)		
	10 第8章 (受講生がレジユメを作成、報告します)		
	11 第9章 (受講生がレジユメを作成、報告します)		
	12 予備日		
評価方法	毎回提出するレジユメの内容と授業中の発言、およびレポートによる。		
テキスト参考文献	「新版・考える技術・書く技術」バーバラ・ミント著（ダイヤモンド社）		

01科目名		担当者	
03科目名	基礎演習（秋期）	担当者	阿部正浩

講義目的および講義概要	<p><b>講義目的</b>          どうすればわかりやすい「報告書」が書けるのでしょうか。この演習では、レポートや論文あるいは文章を書くための方法を学びます。テキストの著者は30年近く「プロの」経営コンサルタントに「書く技術」と「考える技術」を指導しています。彼女の「技」を、一緒にぬすみましょう。</p> <p><b>講義概要</b>          テキストをベースにしながら、「書く技術」と「考える技術」を習得します。そのために、毎回の講義でOJT（On the job training）をする必要があります。受講者はOJTを通して「技」を盗むこととなります。具体的には毎回テキストに書かれている内容にそってレジユメを作ってもらふこととなります。詳細については第一回目の授業で説明します。</p>	授業計画	1 はじめに (授業のすすめ方とOJTの方法について)
			2 第1章 (教員がレジユメを作成、報告します)
			3 第2章 (受講生がレジユメを作成、報告します)
	4 第3章 (受講生がレジユメを作成、報告します)		
	5 第4章 (受講生がレジユメを作成、報告します)		
	6 予備日		
	7 第5章 (受講生がレジユメを作成、報告します)		
	8 第6章 (受講生がレジユメを作成、報告します)		
	9 第7章 (受講生がレジユメを作成、報告します)		
	10 第8章 (受講生がレジユメを作成、報告します)		
	11 第9章 (受講生がレジユメを作成、報告します)		
	12 予備日		
評価方法	毎回提出するレジユメの内容と授業中の発言、およびレポートによる。		
テキスト参考文献	新版・考える技術・書く技術」バーバラ・ミント著（ダイヤモンド社）		



9 8 科目名		担当者	
0 1 科目名		担当者	
0 3 科目名	基礎演習（春期）	担当者	犬井正

講義目的および講義概要	<p>講義目的</p> <p>大学での学際的、専門的知識を修得できるようになるためにはどのような取り組みが効果的であるのかを理解し、それを発見することにある。将来、各専門領域やコースに分かれて、それぞれの専門科目の講義を受ける際に必要となる基礎的・基本的方法を習得する。</p> <p>講義概要</p> <p>本講義は問題意識をもちながら文献を購読する方法、学習や研究テーマの見つけ方、次にそれをレポートにまとめる時の手順、また議論の展開の仕方、さらに効果的なプレゼンテーションの技法等について実習をまじえながらすすめていく。問題意識の発見から効果的な相手への伝え方の技術を磨くため討論を何回か行い、適当なトピックスに関する小レポートを作成したり、他の受講者の前で実際にプレゼンテーションを行ったりする方法を採用する。</p>	授業計画	1 オリエンテーション - 大学への適応	
	評価方法		講義への出席状況と小レポートの提出、発表・討論などの貢献度を総合的に判定する。	2 大学でなにをどのように学ぶか (1) - 講義への対応と心構え
			テキスト参考文献	テキストは特になし。必要に応じて資料を配付する。参考文献は適宜、提示する。
			4 経済学部でなにをどのように学ぶか (2) - 人文科学・自然科学・野外科学との協働	
			5 調査・研究の方法 (1) 図書館の利用 - 文献収集方法	
			6 調査・研究の方法 (2) 文献解題と学習・研究テーマの発見	
			7 調査・研究の方法 (3) コンピュータの利用 - 文献検索・資料収集	
			8 調査・研究の方法 (4) コンピュータの利用 - 資料分析	
			9 レポートの作成 (1)	
			10 レポートの作成 (2)	
			11 レポートの発表 プレゼンテーションの方法	
			12 まとめ	

0 1 科目名		担当者	
0 3 科目名		担当者	

講義目的および講義概要		授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

98科目名		担当者	
-------	--	-----	--

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	基礎演習（春期）	担当者	大久保貞義
-------	----------	-----	-------

講義目的および講義概要	◎…現代は個性を確率することを求められている時代である。魅力ある個性を形成するためには、知識や知性を吸収しなければならない。若々しく新鮮な感覚で、知の世界を各自が形成することを目標とするのが大久保ゼミである。	授業計画	1 ゼミの目標と学習方法について講義する
	○…豊かな発想は、知的訓練がないと継続して新しい考え方や新鮮なアイデアは生まれてこない。		2 努力しないで頭が良くなる方法論について
	○…つまらない話しは半分聞いたフリをしてあとの半分で別なことを考えている。誰かが考えることは考えない。他人と違った方法で考える。		3 五感を使って学び、六感を養う
◎…ゼミは家族的雰囲気の中で行われる。夏休みの7月に合宿を行うが、必ず参加しなければならない。	4 5月病対策について考える (忙しくない時に発病する病気の対策)		
評価方法	○…レポートとテストによって評価する。 ○…3回以上欠席すればテストを受けられない場合もある。		5 魅力的な人間になる方法： 学問は遊び、遊んで成功する方法を習得する
テキスト 参考 文献	○…授業の時に指示する。ゼミは多くの本を読むことになる。		6 大量の知識と知性の現代的活用法
			7 スピード・リーディング、ブレン・スト ーミング、ディベートの現実社会への適応
			8 二次元的思考と一次的思考
			9 人生の快楽を追求する方法（創造性の喜び）
			10 脳細胞活性化のためのトレーニング
			11 未来が読めない男と現在がわからない女の脳細胞
			12 生まれた時の社会と死ぬ時の社会の変化 (人間の魅力、快楽、幸福の変容課程の研究)

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要		授業計画	1	
			2	
			3	
			4	
			5	
			6	
			7	
			8	
			9	
			10	
	評価方法			11
	テキスト 参考 文献			12

98科目名		担当者	
-------	--	-----	--

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	基礎演習（春期）	担当者	岡村国和
-------	----------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>この講義の目的は、1年生が大学での専門的知識を修得できるようになるためにはどのような勉強方法が効果的であるかを理解し、それを身につけることにあります。経済学部の学生として何を学び、それをどのように現実社会で生かしていくかについてのビジョンを持ち、さらに将来、各専門コースに分かれてそれぞれの専門科目の講義を受ける際に、いま学んでいる講義がこれから専攻する他の専門科目にどのように関連しているのかを明確にイメージできるようにすることが重要だと思います。</p> <p>第2学年次の専門演習（ゼミナール）への架け橋として、経済学・経営学の基礎的な話が解るように工夫した講義を行います。また問題意識を培いながらテーマを発見し、次にそれをレポートにまとめる時の手順、また議論の展開の仕方、さらに効果的なプレゼンテーション技術等について講義します。</p>	授業計画	1 開講にあたって、基本的な授業の進め方やテーマの選び方などについての説明。	
	評価方法		講義参加者の平常点により行ないますので、特に期末試験などは予定していません。	2 テーマ選定作業とその際に注意すべき事項の検討や参考文献などの探し方。
			テキスト参考文献	適宜指示します。当面は資料をプリントして配布します。
				4 具体的なトピックスやテーマなどを探し出してどのように考えれば良いのか皆で検討します。
			5 各自それぞれのテーマを選びます。	
			6 各自のテーマについての発表と全員での検討。	
			7 各自のテーマについての発表と全員での検討。	
			8 各自のテーマについての発表と全員での検討。	
			9 各自のテーマについての発表と全員での検討。	
			10 各自のテーマについての発表と全員での検討。	
			11 各自のテーマについての発表と全員での検討。	
			12 まとめ	

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	基礎演習（秋期）	担当者	岡村国和
-------	----------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>この演習では、大学での講義を受ける際に必要な準備や組立て方などを解説します。また、日頃あまり考えることが少ない時事問題などについても考えます。</p> <p>春学期と同様に、第2学年次の専門演習（ゼミナール）への架け橋として、経済学・経営学の基礎的な話が解るように工夫した講義を行います。また問題意識を培いながらテーマを発見し、次にそれをレポートにまとめる時の手順、また議論の展開の仕方、さらに効果的なプレゼンテーション技術等について講義します。</p> <p>なお、この科目は自分で考える習慣をつけることが大切な科目なので、日頃から新聞やニュースにこまめに目を通して頂きたいと思います。</p>	授業計画	1 開講にあたって、基本的な授業の進め方やテーマの選び方などについての説明。	
	評価方法		講義参加者の平常点により行ないますので、特に期末試験などは予定していません。	2 テーマ選定作業とその際に注意すべき事項の検討や参考文献などの探し方。
			テキスト参考文献	適宜指示します。当面は資料をプリントして配布します。
				4 具体的なトピックスやテーマなどを探し出してどのように考えれば良いのか皆で検討します。
			5 各自それぞれのテーマを選びます。	
			6 各自のテーマについての発表と全員での検討。	
			7 各自のテーマについての発表と全員での検討。	
			8 各自のテーマについての発表と全員での検討。	
			9 各自のテーマについての発表と全員での検討。	
			10 各自のテーマについての発表と全員での検討。	
			11 各自のテーマについての発表と全員での検討。	
			12 まとめ	

98科目名		担当者	
-------	--	-----	--

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	基礎演習（春期）	担当者	梶山皓
-------	----------	-----	-----

講義目的および講義概要	<p>&lt;授業の内容&gt; 社会科学、とくにマーケティング・広告の研究に携わる学生の情報の集め方、本の読み方、分析の仕方、論文や報告書の書き方、発表の仕方、パソコンやその他の情報機器の使い方などを学びます。</p> <p>&lt;授業の形式&gt; 授業は教員の講義ではなく、学生の発表と質疑の形式で進めます。期末にレポートがあります。</p>	授業計画	1 レポートとは何か
			2 作成の基本ステップ
			3 テーマの選び方
			4 情報とマスコミ
			5 本の読み方
			6 調査とアイデア
			7 構成の作り方
			8 話の組み立て方
			9 文章の書き方
			10 発表の仕方
評価方法	出席とレポートで評価します。		11 情報機器の使い方
テキスト	『レポートの書き方』（梶山ゼミサイト参照）		12 快適な学習環境

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	基礎演習（秋期）	担当者	梶山皓
-------	----------	-----	-----

講義目的および講義概要	<p>&lt;授業の内容&gt; 社会科学、とくにマーケティング・広告の研究に携わる学生の情報の集め方、本の読み方、分析の仕方、論文や報告書の書き方、発表の仕方、パソコンやその他の情報機器の使い方などを学びます。</p> <p>&lt;授業の形式&gt; 授業は教員の講義ではなく、学生の発表と質疑の形式で進めます。期末にレポートがあります。</p>	授業計画	1 レポートとは何か
			2 作成の基本ステップ
			3 テーマの選び方
			4 情報とマスコミ
			5 本の読み方
			6 調査とアイデア
			7 構成の作り方
			8 話の組み立て方
			9 文章の書き方
			10 発表の仕方
評価方法	出席とレポートで評価します。		11 情報機器の使い方
テキスト	『レポートの書き方』（梶山ゼミサイト参照）		12 快適な学習環境

98科目名		担当者	
01科目名		担当者	
03科目名	基礎演習（春期）	担当者	上坂卓朗

講義目的および講義概要	この講義は経済学部の学生が、現実の経済や企業について実証的に勉強を進める上で最初に必要になる経済統計と企業の財務情報に関する知識を身につけることを意図している。 合わせて、資料を作成し、プレゼンテーションを行い、ディスカッションする練習を行い、2年生から始まる演習Ⅰの準備を行う。 授業計画やパソコン演習の日程は講義の進捗に合わせて変更がありうる。 まじめで、真摯な学習態度をこころがけてください。	授業計画	1 はじめに、学習の進め方
			2 経済記事の読み方（1）
			3 経済記事の読み方（2）
			4 経済統計の見方（1）
			5 経済統計の見方（2）
			6 経済統計の見方（3）
			7 エクセルによる経済統計の加工実習
			8 企業の見方（1）
			9 企業の見方（2）
			10 企業の見方（3）
			11 エクセルによる企業分析実習（1）
			12 エクセルによる企業分析実習（2）
			評価方法
テキスト参考文献	開講時に指示する		

01科目名		担当者	
03科目名	基礎演習（秋期）	担当者	上坂卓朗

講義目的および講義概要	基礎演習春期と同様	授業計画	1 はじめに、学習の進め方
			2 経済記事の読み方（1）
			3 経済記事の読み方（2）
			4 経済統計の見方（1）
			5 経済統計の見方（2）
			6 経済統計の見方（3）
			7 エクセルによる経済統計の加工実習
			8 企業の見方（1）
			9 企業の見方（2）
			10 企業の見方（3）
			11 エクセルによる企業分析実習（1）
			12 エクセルによる企業分析実習（2）
			評価方法
テキスト参考文献	基礎演習春期と同様		

98科目名		担当者	
-------	--	-----	--

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	基礎演習（春期）	担当者	黒木亮
-------	----------	-----	-----

講義目的および講義概要	講義の目標 本演習の目的は、経済学者の生涯や理論の形成過程、さらに経済・経営史を知ることによって、経済学への理解を深めることである。	授業計画	1	
	講義の概要 経済思想史などの入門書を読み、面白いと感じた点やその理由、重要そうに思われる論点などを参加者全員で議論する。基本的に1回1章ずつ担当者と司会を決め、二人を中心に議論を進める。		2	
			3	
	受講者への要望 報告者はしっかりレジュメを作り、参加者はしっかり予習をして臨んでください。なお、1冊目には、根井雅弘『ケインズを学ぶ』（講談社、1996）を予定していますが、それ以降については、参加者の希望に応じて決めるつもりです。		4	
			5	
			6	
			7	
			8	
			9	
	評価方法		出席状態、担当箇所の内容、議論への参加姿勢や発言内容。	10
	参考文献		安部悦生『経営史』日本経済新聞社、2002。	11
				12

01科目名		担当者	
03科目名	基礎演習（秋期）	担当者	黒木亮

講義目的および講義概要	春期と同じ	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

98科目名		担当者	
-------	--	-----	--

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	基礎演習（春期）	担当者	黒川文子
-------	----------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>今後、経営学を勉強する上で、また2年次以降の演習に参加するための最低限必要とされるスキルを身に付けていきます。</p> <p>ノートの取り方、レジュメの書き方、レポートの作成方法、プレゼンテーション、資料収集、ディスカッション等のスキルを高めていきます。また、工場見学やフィールドワークを通して、実際に自分自身の目で企業経営を把握します。</p>	年間授業計画	1 資料収集方法
			2 ノートの取り方、レジュメの書き方、レポートの作成方法
			3 配布資料を通してのディスカッション (1)
			4 配布資料を通してのディスカッション (2)
			5 工場見学
			6 フィールドワーク
			7 フィールドワークの成果の発表 (1)
			8 フィールドワークの成果の発表 (2)
			9 配布資料を通してのディスカッション (3)
			10 配布資料を通してのディスカッション (4)
			11 配布資料を通してのディスカッション (5)
			12 配布資料を通してのディスカッション (6)
			13
評価方法	出席と授業態度によって、総合的に評価する。		
テキスト参考文献	未定		

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	基礎演習（秋期）	担当者	黒川文子
-------	----------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>今後、経営学を勉強する上で、また2年次以降の演習に参加するための最低限必要とされるスキルを身に付けていきます。</p> <p>ノートの取り方、レジュメの書き方、レポートの作成方法、プレゼンテーション、資料収集、ディスカッション等のスキルを高めていきます。また、工場見学やフィールドワークを通して、実際に自分自身の目で企業経営を把握します。</p>	年間授業計画	1 資料収集方法
			2 ノートの取り方、レジュメの書き方、レポートの作成方法
			3 配布資料を通してのディスカッション (1)
			4 配布資料を通してのディスカッション (2)
			5 工場見学
			6 フィールドワーク
			7 フィールドワークの成果の発表 (1)
			8 フィールドワークの成果の発表 (2)
			9 配布資料を通してのディスカッション (3)
			10 配布資料を通してのディスカッション (4)
			11 配布資料を通してのディスカッション (5)
			12 配布資料を通してのディスカッション (6)
			13
評価方法	出席と授業態度によって、総合的に評価する。		
テキスト参考文献	未定		

98科目名		担当者	
-------	--	-----	--

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	基礎演習（春期）	担当者	小林哲也
-------	----------	-----	------

講義目的および講義概要	経済学部に入学者のための、経済学・経営学を含んだ、広い意味での社会科学入門をめざす  開する内容となるが、学習の中心は、参加者自身によるテキスト講読・資料収集とディスカッションである。「年間授業計画」は、あくまで参考程度に、この演習の守備範囲を示したものに過ぎない。	授業計画	1	情報技術革命と日米企業
			2	大企業体制の成立とその変遷
			3	経営者革命
			4	技術革新と寡占的競争
			5	情報化とネットワーク
			6	--経済・経営情報探索術-- 図書館とデータベースを使いこなす
			7	技術革新と新しい国際分業
			8	経済論戦を眺める 「理論」の役割
			9	経済論戦を眺める 「失われた10年」とは何か
			10	プレゼンテーション演習
			11	プレゼンテーション演習
			12	プレゼンテーション演習
評価方法	出席・議論への参加 期末レポートの提出			
テキスト	奥村宏『エンロンの衝撃』 NTT 出版			

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	基礎演習（秋期）	担当者	小林哲也
-------	----------	-----	------

講義目的および講義概要		授業計画	1				
			2				
			3				
			4				
			5				
			6				
			7				
			11				
			12				
			評価方法				
			参考				



98科目名		担当者	
01科目名		担当者	
03科目名	基礎演習（春期）	担当者	斉藤美彦

講義目的および講義概要	<p>(目標)</p> <p>①経済学部においては演習が学習の中心に位置するが、その演習におけるルール・マナー等を踏み外すことのないような常識を身につけること。</p> <p>②演習の中心は学生であり、自ら学び議論に参加する態度が必要であるという認識がもてるようになること。</p> <p>(概要)</p> <p>前半は、演習におけるレジュメの作成法、議論の仕方、大学における学習法、新聞の読み方等について学び、後半はそれを踏まえて比較的簡単な金融関係のテキストをもとにレポーターによる報告および議論の形式で行う。</p>	授業計画	1. 演習におけるマナー
			2. 「日本経済新聞」を読んでもみる
			3. レジュメの作成法
			4. 金融関係のテキストの輪読
			5. 金融関係のテキストの輪読
			6. 金融関係のテキストの輪読
			7. 金融関係のテキストの輪読
			8. 金融関係のテキストの輪読
			9. 金融関係のテキストの輪読
			10. 金融関係のテキストの輪読
			11. 金融関係のテキストの輪読
			12. 総括
評価方法	出席、演習における発表・発言および期末レポートを総合的に評価する。		
テキスト参考文献	テキストは参加者と相談のうえ決定する。参考文献は演習中に指示する。		

01科目名		担当者	
03科目名	基礎演習（秋期）	担当者	斉藤美彦

講義目的および講義概要	<p>(目標)</p> <p>①経済学部においては演習が学習の中心に位置するが、その演習におけるルール・マナー等を踏み外すことのないような常識を身につけること。</p> <p>②演習の中心は学生であり、自ら学び議論に参加する態度が必要であるという認識がもてるようになること。</p> <p>(概要)</p> <p>前半は、演習におけるレジュメの作成法、議論の仕方、大学における学習法、新聞の読み方等について学び、後半はそれを踏まえて比較的簡単な金融関係のテキストをもとにレポーターによる報告および議論の形式で行う。</p>	授業計画	1. 演習におけるマナー
			2. 「日本経済新聞」を読んでもみる
			3. レジュメの作成法
			4. 金融関係のテキストの輪読
			5. 金融関係のテキストの輪読
			6. 金融関係のテキストの輪読
			7. 金融関係のテキストの輪読
			8. 金融関係のテキストの輪読
			9. 金融関係のテキストの輪読
			10. 金融関係のテキストの輪読
			11. 金融関係のテキストの輪読
			12. 総括
評価方法	出席、演習における発表・発言および期末レポートを総合的に評価する。		
テキスト参考文献	テキストは参加者と相談のうえ決定する。参考文献は演習中に指示する。		

98科目名		担当者	
-------	--	-----	--

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	基礎演習（春期）	担当者	塩田尚樹
-------	----------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>現実の経済データから有効な情報を引き出すためには、『統計学』の知識が不可欠です。また、学年が進んで「計量経済学」や「経済統計学」などを履修する際にも、基礎知識として必要です。</p> <p>この基礎演習では、数学が苦手な人でも理解できるように工夫された『統計学』のテキストを輪読します。テキストの評判などについては、例えば、Amazon.co.jpの検索結果を参照してください。</p> <p>事前に担当者を決めておいて、毎回数人ずつ順番に報告してもらい、その質疑応答を中心にすすめていきます。担当者は必ず、発表用のレジュメを作成し、クラス全体に配布するようにして下さい。</p> <p>授業方針の確認など重要な連絡をするため、第一回目の授業は必ず出席してください。</p>	年間授業計画	1 授業方針の確認など
			2 統計学はどのような学問か
			3 標本分布の特性値
			4 確率と確率分布(1)
			5 確率と確率分布(2)
			6 一様分布と正規分布(1)
			7 一様分布と正規分布(2)
			8 標本平均の分布と母平均の推定
			9 t分布と母平均の推定
			10 $\chi^2$ 分布と母標準偏差の推定
			11 仮説検定(1)
			12 仮説検定(2)
評価方法	担当部分の報告 50点、報告以外での参加度 50点。欠席一回 10点、遅刻一回 5点減点。		
テキスト参考文献	鳥居 泰彦 (1994) 『はじめての統計学』 日本経済新聞社。		

01科目名		担当者	
03科目名	基礎演習（秋期）	担当者	塩田尚樹

講義目的および講義概要	<p>現実の経済データから有効な情報を引き出すためには、『統計学』の知識が不可欠です。また、学年が進んで「計量経済学」や「経済統計学」などを履修する際にも、基礎知識として必要です。</p> <p>この基礎演習では、数学が苦手な人でも理解できるように工夫された『統計学』のテキストを輪読します。テキストの評判などについては、例えば、Amazon.co.jpの検索結果を参照してください。</p> <p>事前に担当者を決めておいて、毎回数人ずつ順番に報告してもらい、その質疑応答を中心にすすめていきます。担当者は必ず、発表用のレジュメを作成し、クラス全体に配布するようにして下さい。</p> <p>授業方針の確認など重要な連絡をするため、第一回目の授業は必ず出席してください。</p>	年間授業計画	1 授業方針の確認など
			2 統計学はどのような学問か
			3 標本分布の特性値
			4 確率と確率分布(1)
			5 確率と確率分布(2)
			6 一様分布と正規分布(1)
			7 一様分布と正規分布(2)
			8 標本平均の分布と母平均の推定
			9 t分布と母平均の推定
			10 $\chi^2$ 分布と母標準偏差の推定
			11 仮説検定(1)
			12 仮説検定(2)
評価方法	担当部分の報告 50点、報告以外での参加度 50点。欠席一回 10点、遅刻一回 5点減点。		
テキスト参考文献	鳥居 泰彦 (1994) 『はじめての統計学』 日本経済新聞社。		

98科目名		担当者	
01科目名		担当者	
03科目名	基礎演習（春期）	担当者	高松和幸

講義目的および講義概要	<p align="center"><b>春期授業計画</b></p> <p><b>講義目的:</b>社会的存在としての企業の活動(フィランソロピーなど)と個人としての社会的活動(ボランティアなど)について理解を深めると同時に、将来の「希望」や「夢」を実現する方法を人間が持つ可能性や社会という接点を絶えず持ちながら学習する。</p> <p><b>講義概要:</b>企業活動のIT化、多様化に伴い、その活動が社会にもたらす影響はその善悪を問わず多大なものになってきている。したがって、現代企業がビジネス活動を遂行するにあたり、その前提として、自らが社会的存在であるとの認識が不可欠である。本年度は、企業活動が社会にどのような影響をもたらしているかという視点を、とりわけフィランソロピーやNPO(非営利組織)との連携を通して学習する。</p>	授業計画	1 ガイダンス	
	評価方法		出席・授業態度・レポート(自発性も評価する)など	2 フィランソロピー
			テキスト参考文献	開講時に指示する。
			4 NGO	
			5 市民セクター(第三セクター)	
			6 ボランティア(精神)	
			7 楽観主義と悲観主義	
			8 世界のNPO(国際比較)	
			9 ITとNPOなど	
			10 営利企業と非営利企業	
			11 NPOの将来	
			12 その他	

01科目名		担当者	
03科目名	基礎演習（秋期）	担当者	高松和幸

講義目的および講義概要	<p align="center"><b>秋期授業計画</b> 春期に同じ</p>	授業計画	1
			2
			3
評価方法			4
			5
テキスト参考文献			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

98科目名		担当者	
-------	--	-----	--

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	基礎演習（春期）	担当者	立田ルミ
-------	----------	-----	------

講義目的および講義概要	これから大学で学ぶに当たって必要な基礎的な知識や調査方法やコンピュータ技能を身につけ、グループで調査できることを目標とする。基礎演習では、コンピュータに関する特定のテーマについて書物や雑誌、新聞記事、インターネットを用いて調査を行い、調査結果をまとめてワープロで清書する。また、データを収集し、表計算ソフトを用いてグラフを作成する。それらの結果を統合してプレゼンテーションソフトを用いて一人一人発表し、基礎演習の受講生からの評価についてメールなどを用いて交換することにより、調査方法、調査内容、調査結果の文書化、プレゼンテーションの方法の基礎を身につける。	授業計画	1 基礎演習の概要 大学での学習方法、ガイダンス
			2 情報の集め方 書籍の探し方、インターネット
			3 情報の整理とワープロの利用方法 ワープロの機能
			4 ワープロによる発表 調査内容の発表
			5 統計データの集め方 インターネット、検索エンジン
			6 データの整理と表計算ソフトの利用 表計算ソフトの機能
			7 表計算ソフトによる発表 調査内容の発表
			8 データの表示方法 効果的な表示
			9 プレゼンテーションツールの利用（1） PowerPoint の利用法
			10 プレゼンテーションツールの利用（2） PowerPoint 応用
評価方法	授業内での発表 40%、レポート 60%		11 プレゼンテーションツールによる調査内容発表
テキスト参考文献	立田ルミ他「情報メディア入門」実教出版		12 ディスカッション 個人発表の自己評価と他者評価

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	基礎演習（秋期）	担当者	立田ルミ
-------	----------	-----	------

講義目的および講義概要	これから大学で学ぶに当たって必要な基礎的な知識や調査方法やコンピュータ技能を身につけ、グループで調査できることを目標とする。基礎演習では、コンピュータに関する特定のテーマについて書物や雑誌、新聞記事、インターネットを用いて調査を行い、調査結果をまとめてワープロで清書する。また、データを収集し、表計算ソフトを用いてグラフを作成する。それらの結果を統合してプレゼンテーションソフトを用いて一人一人発表し、基礎演習の受講生からの評価についてメールなどを用いて交換することにより、調査方法、調査内容、調査結果の文書化、プレゼンテーションの方法の基礎を身につける。	授業計画	1 基礎演習の概要 大学での学習方法、ガイダンス
			2 情報の集め方 書籍の探し方、インターネット
			3 情報の整理とワープロの利用方法 ワープロの機能
			4 情報の整理とワープロの利用方法 ワープロの機能
			5 統計データの集め方 インターネット、検索エンジン
			6 データの整理と表計算ソフトの利用 表計算ソフトの機能
			7 表計算ソフトによる発表 調査内容の発表
			8 データの表示方法 効果的な表示
			9 プレゼンテーションツールの利用（1） PowerPoint の利用
			10 プレゼンテーションツールの利用（2） PowerPoint 応用
評価方法	授業内での発表 40%、レポート 60%		11 プレゼンテーションツールによる調査内容発表
テキスト	立田ルミ他「情報メディア入門」実教出版		12 ディスカッション 個人発表の自己評価と他者評価

98科目名		担当者	
-------	--	-----	--

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	基礎演習（春期）	担当者	全載旭
-------	----------	-----	-----

講義目的および講義概要	この授業は新聞の経済記事を読みこなし、それを自分なりに論理的に考える力を養うことを目的としている。 そのために経済学の基礎的な知識を正確に学び、現実に行っている経済問題に応用している。 1. 日本経済、アジア経済を理解するための基礎的な経済用語を学ぶ。 2. 与えられた課題に対して報告レジュメを作成し、発表の練習をする。 (自分の意思を的確に表現し、相手に伝えることは、今後みなさんがいかなる仕事をするにしても絶対に必要なことです。また、基礎的な知識を習得するのは少し根気がいりますが、ごく基本的な知識でさまざまな事柄がすっきり理解できる楽しさをぜひ味わってほしいと思っています。)	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	授業の平常の参加状況（出欠）を重視し、レジュメ作成・報告への取り組み姿勢などを勘案して評価する。		
テキスト 参考 文献	必要に応じて配布する。		

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	基礎演習（秋期）	担当者	全載旭
-------	----------	-----	-----

講義目的および講義概要	すべての項目について春期と同様	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法			
テキスト 参考 文献			

98科目名		担当者	
-------	--	-----	--

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	基礎演習（春期）	担当者	中野隆史
-------	----------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>大学で何を学ぶか、どのようにして充実した大学生活を送るかを考えていく。そのための基盤として、健康管理に気をつけることと、良い生活習慣を身につけることが必要である。学習・研究の方法論として、テーマの見つけ方、資料・情報の検索の仕方、資料・情報の整理・分析の仕方、結果の発表の仕方を学ぶ。これらを各自が自主的に調べ、レポートし、討論する。また、テキストの輪読を行う。担当の個所についてレジュメを作り、報告し、討論する。これらを通して学問の方法を身につけることを目標とする。</p>	授業計画	1 オリエンテーション
			2 研究・学習テーマの見つけ方
			3 図書館の使い方
			4 文献の探し方
			5 インターネットによる情報の検索
			6 パソコンによる資料の整理・分析
			7 自分の考えをまとめ結論を導く
			8 レポートの書き方
			9 論文の書き方
			10 口頭発表の仕方
評価方法	出席、プレゼンテーション、討論での発言、レポートで評価する。		11 討論の仕方
テキスト等参考文献	授業の際に指示する		12 まとめ

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	基礎演習（秋期）	担当者	中野隆史
-------	----------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>大学で何を学ぶか、どのようにして充実した大学生活を送るかを考えていく。そのための基盤として、健康管理に気をつけることと、良い生活習慣を身につけることが必要である。学習・研究の方法論として、テーマの見つけ方、資料・情報の検索の仕方、資料・情報の整理・分析の仕方、結果の発表の仕方を学ぶ。これらを各自が自主的に調べ、レポートし、討論する。また、テキストの輪読を行う。担当の個所についてレジュメを作り、報告し、討論する。これらを通して学問の方法を身につけることを目標とする。</p>	授業計画	1 オリエンテーション
			2 研究・学習テーマの見つけ方
			3 図書館の使い方
			4 文献の探し方
			5 インターネットによる情報の検索
			6 パソコンによる資料の整理・分析
			7 自分の考えをまとめ結論を導く
			8 レポートの書き方
			9 論文の書き方
			10 口頭発表の仕方
評価方法	出席、プレゼンテーション、討論での発言、レポートで評価する。		11 討論の仕方
テキスト等参考文献	授業の際に指示する		12 まとめ

98科目名		担当者	
-------	--	-----	--

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	基礎演習（春期）	担当者	奈倉文二
-------	----------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>アメリカによるイラク攻撃近しという緊迫した国際情勢のもと（2003年2月初め）、アメリカ兵器産業や「軍産複合体」の実態をさぐり、考えるのが本演習の目的。できれば日本の兵器関連産業についても調べ、考えてゆきたい。</p> <p>参考文献（新聞等も含む）の下調べ、演習時間中の報告、質疑応答への参画を通じて、勉学意欲を高めることに努め、自主的積極的に勉学する素地を培う。</p> <p>教師自身もこの分野は必ずしも専門分野ではないので、なおさら学生諸君自身が自分で調べ、考えることが重要。</p> <p>「授業計画」の2～8は下記文献の目次を示したものの。ほかに近刊の適当な書物があれば適宜とり上げる。</p>	授業計画	1 はじめに	
	評価方法		出席、講義時の報告、討議への参画状況、期末レポート。	2 「不思議な国アメリカ」
			広瀬隆『アメリカの巨大軍需産業』集英社新書、ほか、適宜指示する。	3 「ペンタゴン受注軍需産業のランキング」
テキスト参考文献			4 「軍閥のホワイトハウス・コネクション」	
			5 「日本の防衛産業を育てた太平洋戦略」	
			6 「20世紀の戦争百年史」	
			7 [CIAとFBIと謀略組織の成り立ち]	
			8 「NASAと宇宙衛星産業」	
			9 関連トピックⅠ	
			10 関連トピックⅡ	
			11 関連トピックⅢ	
			12 おわりに	

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	基礎演習（秋期）	担当者	奈倉文二
-------	----------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>今のところ（2003年2月初め）、春期同様、以下を予定。</p> <p>アメリカ兵器産業や「軍産複合体」の実態をさぐり、考えるのが本演習の目的。できれば日本の兵器関連産業についても調べ、考えてゆきたい。</p> <p>参考文献（新聞等も含む）の下調べ、演習時間中の報告、質疑応答への参画を通じて、勉学意欲を高めることに努め、自主的積極的に勉学する素地を培う。</p> <p>教師自身もこの分野は必ずしも専門分野ではないので、なおさら学生諸君自身が自分で調べ、考えることが重要。</p> <p>「授業計画」の2～8は下記文献の目次を示したものの。</p> <p>9月までにより適当な書物が刊行された場合、テキストの変更（したがって、授業計画の変更）があり得るので、受講生は掲示等に十分注意されたい。</p>	授業計画	1 はじめに	
	評価方法		出席、講義時の報告、討議への参画状況、期末レポート。	2 「不思議な国アメリカ」
			広瀬隆『アメリカの巨大軍需産業』集英社新書、ほか、適宜指示する。	3 「ペンタゴン受注軍需産業のランキング」
テキスト参考文献			4 「軍閥のホワイトハウス・コネクション」	
			5 「日本の防衛産業を育てた太平洋戦略」	
			6 「20世紀の戦争百年史」	
			7 [CIAとFBIと謀略組織の成り立ち]	
			8 「NASAと宇宙衛星産業」	
			9 関連トピックⅠ	
			10 関連トピックⅡ	
			11 関連トピックⅢ	
			12 おわりに	

		担当者	
03 科目名	基礎演習(春期)	担当者	中村泰将
講義目的および講義概要	<p>この「基礎ゼミ」では、専門教育は行わない。諸君が高等学校での受験勉強から開放されて大学で自分がどのように自主的に学ぶかの「学ぶ方法」を学びます。具体的には、以下の5つに集約されます。</p> <p>①大学においてどのように学ぶかの「学ぶ姿勢」(attitude)を学びます。</p> <p>②現代社会のさまざまな問題についての「切り口」(access)の方法を学びます。</p> <p>③自分の言いたいことをどのように表現・発表(プレゼンテーション)するかを学びます。</p> <p>④どのような新聞・雑誌・著書をどのように読んだらよいか(読み方)を学びます。</p> <p>⑤レポートの「書き方」を学びます。</p> <p>以上のような基本的な学習方法を学ぶことによって、自分で考え、自分で判断し、自分で自信をもって4年間のキャンパス生活を有意義に過ごすかの方法論を学びます。</p> <p>授業内容：</p> <p>(1)毎週、新聞を読んで、自分の興味のもったトピックスを選んでレポートを提出する。</p> <p>(2)ある著書を選んで、それを割り当てられた箇所を2,3分程度の発表を行います。</p> <p>(3)Referenceの検索・収集方法を学びます。</p> <p>Problems → Brain Storming → Facts → Reference → Opinion</p>	授業計画	1 自己紹介(名簿の作成)
			2 図書館の利用の仕方を図書の特任家から学ぶ。
			3 新聞のトピックスを選び、レポートの作成とそれについて自分の意見を述べる。
			4 同上
			5 同上
			6 工場見学を企画する。他のゼミと合同で行う。
			7 証券取引所の見学を行う。
			8 どんな本を読んだらよいかを論議する。
			9 同上
			10 レポートの書き方と参考文献の参照の仕方を学ぶ。これを学ぶには、一定の約束事がありますので、適当な参考書を選んで紹介したいと思います。経済学部1年生では、どんなビジネス・経済の専門書を読んだらよいかを紹介します。
			11 ゼミの選び方、コースの選び方、授業科目の履修の仕方、などを学びます。
			12 将来進路について、ゼミ生同士で討論する。
評価方法	定期試験は行いません。出席を重視し、与えられた課題を自分の実力の範囲でやり遂げる意欲が重要である。3回以上の欠席は不可。		
テキスト参考文献	授業のはじめに提示します。		



98科目名		担当者	
-------	--	-----	--

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	基礎演習（春期）	担当者	波形昭一
-------	----------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>【講義目的】 基礎演習の目標は、経済学部に入學した若い諸君に、まずは経済を学ぶことの面白さ、楽しさを知ってもらうことにある。</p> <p>【講義概要】 下記のテキストを教材にして、経済の基本的な仕組みを会得し、以後、どのような専門領域を勉強したらよいのかを、それぞれに感じ取ってもらえるような、あまり型にはまらないトーク形式の授業にしたい。なお、次の経済辞典を用意すること。大学で4年間使える、いわば初期の設備投資。金森久雄ほか編『経済辞典（第4版）』有斐閣</p>	授業計画	1 ガイダンス
			2 貨幣と信用
			3 株の話
			4 税金の話
			5 アメリカ経済
			6 円・ドル・ユーロ
			7 アジア経済の裏表
			8 投資と消費
			9 起業とビジネス
			10 労働と失業
評価方法	通常の教室での積極性および期末の修得試験を総合して評価する。		11 競争か共存か
テキスト参考文献	佐藤雅彦・竹中平蔵『経済ってそういうことだったのか会議』日本経済新聞社		12 まとめ

01科目名		担当者	
03科目名	基礎演習（秋期）	担当者	波形昭一

講義目的および講義概要	春期と同じ	授業計画	1 以下、春期と同じ
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
評価方法	春期と同じ		11
テキスト参考文献	春期と同じ		12

98科目名		担当者	
-------	--	-----	--

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	基礎演習（春期）	担当者	浜本光紹
-------	----------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>大学での学習に必要な基本的能力および方法について習得することを目標とする。</p> <p>入学したばかりの1年生は、講義の形式、試験、レポート課題などの大学での授業・評価方法に直面すると、高校までの学習の仕方では対応が難しいと感じられたり、とまどったりすることが多いと想像される。この基礎演習では、こうした点を考慮して、初年度から大学の講義および試験に充分対応できるよう、学習を進めるうえで必要な能力や方法を身につけるとともに、2年次より始まる専門科目の演習も視野に入れて、報告・発表・議論の仕方を、比較的取り組みやすい題材を用いて実践を通じて習得していく。</p> <p>知的好奇心の旺盛な学生の参加を望む。</p>	授業計画	1 報告・議論の仕方
			2 レポートの書き方
			3 コンピューターを用いた情報収集
			4 輪読を通じた文献の読み方
			5 関心のある題材についてのレポート作成
			注：以上の5つのテーマはそれぞれ2～4回の講義回数にわたって取り組む。
評価方法	出席などの平常点、およびレポートによって評価する。		
テキスト参考文献	講義のなかで指示、あるいはコピーの配布を行なう。		

01科目名		担当者	
03科目名	基礎演習（秋期）	担当者	浜本光紹

講義目的および講義概要	<p>大学での学習に必要な基本的能力および方法について習得することを目標とする。</p> <p>入学したばかりの1年生は、講義の形式、試験、レポート課題などの大学での授業・評価方法に直面すると、高校までの学習の仕方では対応が難しいと感じられたり、とまどったりすることが多いと想像される。この基礎演習では、こうした点を考慮して、初年度から大学の講義および試験に充分対応できるよう、学習を進めるうえで必要な能力や方法を身につけるとともに、2年次より始まる専門科目の演習も視野に入れて、報告・発表・議論の仕方を、比較的取り組みやすい題材を用いて実践を通じて習得していく。</p> <p>知的好奇心の旺盛な学生の参加を望む。</p>	授業計画	1 報告・議論の仕方
			2 レポートの書き方
			3 コンピューターを用いた情報収集
			4 輪読を通じた文献の読み方
			5 関心のある題材についてのレポート作成
			注：以上の5つのテーマはそれぞれ2～4回の講義回数にわたって取り組む。
評価方法	出席などの平常点、およびレポートによって評価する。		
テキスト参考文献	講義のなかで指示、あるいはコピーの配布を行なう。		

98科目名		担当者	
-------	--	-----	--

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	基礎演習（春期）	担当者	藤山英樹
-------	----------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>演習の目的</p> <p>(1) 大学での勉強の意味を理解する。</p> <p>(2) 大学での勉強において便利なツールを紹介する。</p> <p>(3) 経済学の学び方を学ぶ。</p> <p>演習の進め方</p> <p>講義の前半45分は教員による、様々なツールや勉強方法の紹介をする。後半45分は、毎回、ある課題に関して参加者による報告および参加者全員でのディスカッションをする。</p> <p>課題に関しては、実際にパソコンで文章や表を作成し、レジュメを作成する。</p> <p>(おまけ)</p> <p>いつから、勉強することはエライことになったのであろうか。学問は本質としてパンクであり、決してほめられたものではない。身の程を知らない厚顔無恥な欲望にも、身の程を知るための社会にも、束縛されぬよう、学問はあるのだと思います。来て見ませんか？</p>	授業計画	1 大学とは：高校との違い。	
	評価方法		出席および授業への積極性。	2 レジュメの書き方：箇条書きではなく論理展開を。
			テキスト参考文献	適宜、講義中に紹介し、プリント等を配布する。
			4 勉強のためのツール：Microsoft Word は便利（でも、マニアにはTeX.）。	
			5 勉強のためのツール：Microsoft Excel は便利。	
			6 発表のためのツール：パソコンを用いたプレゼンテーション（特に論文発表の場合）。	
			7 資料を集めよう：図書館とインターネットの利用。	
			8 経済学の学び方：概論（理論なき現実と、現実なき理論を避けるために）。	
			9 経済学の学び方：わかることとはどのようなことか。	
			10 経済学の学び方：論理になれよう。	
			11 経済学の学び方：古典を読んでみよう。（賢しらに理論を振り回さぬよう、現実に振り回されぬよう。）	
			12 経済学の学び方：歴史の重要性。（どこからきてどこへゆくのか。）	

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	基礎演習（秋期）	担当者	藤山英樹
-------	----------	-----	------

講義目的および講義概要	全ての項目において春期と同様である。	授業計画	1
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

98科目名		担当者	
-------	--	-----	--

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	基礎演習（春期）	担当者	本田浩邦
-------	----------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>テーマ「グローバリゼーションと経済格差」</p> <p>地球的な貧困や経済格差の問題に関心のある人は参加してください。</p> <p>OECDやUNICEFなどの報告を中心に、世界経済の格差の問題を考えたいと思います。参加者は、興味のある国や地域を対象に、その経済状況を調べて報告してください。それをもとに、みんなでディスカッションします。</p> <p>レポートはインターネットなどで簡単に調べるだけでなく、できるだけたくさんの文献を集め、資料をよく読んで作成してください。</p> <p>毎回、基礎的な学習のための文献を紹介します。</p>	授業計画	1 内容の検討	
	評価方法		出席と報告、ディスカッションへの参加状況	2 文献紹介 報告とディスカッション
				3 同上、以下同じ
テキスト参考文献	特に指定しません。		4	
			5	
			6	
			7	
			8	
			9	
			10	
			11	
			12	

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	基礎演習（秋期）	担当者	本田浩邦
-------	----------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>テーマ「グローバリゼーションと経済格差」</p> <p>地球的な貧困や経済格差の問題に関心のある人は参加してください。</p> <p>OECDやUNICEFなどの報告を中心に、世界経済の格差の問題を考えたいと思います。参加者は、興味のある国や地域を対象に、その経済状況を調べて報告してください。それをもとに、みんなでディスカッションします。</p> <p>レポートはインターネットなどで簡単に調べるだけでなく、できるだけたくさんの文献を集め、資料をよく読んで作成してください。</p> <p>毎回、基礎的な学習のための文献を紹介します。</p>	授業計画	1 内容の検討	
	評価方法		出席と報告、ディスカッションへの参加状況	2 文献紹介 報告とディスカッション
				3 同上、以下同じ
テキスト参考文献	特に指定しません。		4	
			5	
			6	
			7	
			8	
			9	
			10	
			11	
			12	

98科目名		担当者	
-------	--	-----	--

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	基礎演習（春期）	担当者	益山光央
-------	----------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>経済学を始めとしてさまざまな学問分野で必要となる基礎的な事柄、あるいは大学生として知っておくべき「常識」を扱います。具体的には経済学の入門書を持ちいて、レポート、発表などについて訓練します。受講生には各自関心のあるテーマでの発表を義務づけます。</p> <p>参考文献、資料はそのつど指示します毎回出席調査します。</p>	授業計画	1 演習入門
			2 獨協大学の学習環境 図書館・外国語・情報
			3 レポート作成について
			4 発表と議論
			5 発表と議論
			6 発表と議論
			7 発表と議論
			8 発表と議論
			9 発表と議論
			10 発表と議論
			11 発表と議論
			12 発表と議論
評価方法	出席 15%、発表・レポート 50%、コメント・意見 35%		
テキスト 参考 文献			

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	基礎演習（秋期）	担当者	益山光央
-------	----------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>経済学を始めとしてさまざまな学問分野で必要となる基礎的な事柄、あるいは大学生として知っておくべき「常識」を扱います。具体的には経済学の入門書を持ちいて、レポート、発表などについて訓練します。受講生には各自関心のあるテーマでの発表を義務づけます。</p> <p>参考文献、資料はそのつど指示します毎回出席調査します。</p>	授業計画	1 演習入門
			2 レポート作成について
			3 発表と議論
			4 発表と議論
			5 発表と議論
			6 発表と議論
			7 発表と議論
			8 発表と議論
			9 発表と議論
			10 発表と議論
			11 発表と議論
			12 発表と議論
			評価方法
テキスト 参考 文献			

98科目名		担当者	
-------	--	-----	--

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	基礎演習（春期）	担当者	松井敬
-------	----------	-----	-----

講義目的および講義概要	<p>経済学部に入學したもの、何を勉強したらいいのか、どう勉強したらいいのかといったことがはっきりしていない学生は多いと思います。</p> <p>大体、「何故われわれは学ばねばならないのか」、とか「大学とは何か」といったことをまともに考えたことはあるでしょうか。基礎演習とはこういったことを考えることから始まる場だと考えています。</p> <p>演習では右の授業計画にあるようなことをテーマとしますが、要は次の2点です。</p> <p>1. 参加と協調で、全員が、個別の、あるいはあらかじめ決められたテーマについて調べ、考え、そのことについての自分の意見を述べること。</p> <p>2. 「学ぶ」ためには色々な技法が必要になります。個別分野の情報収集のほかに、論文、報告書を書くこと、いかに要領よく説明するかということ。</p> <p>右にあげたことは盛りだくさんで、すべてを十分にこなせるか分かりません。しかし、このように進めてゆく過程の中から社会人として必要となる様々な知識や技法を獲得していけるようにしたいと考えています。</p>	授業計画	<p>「演習」という性質上、授業計画を逐次的に記すことは出来ませんが、下記のようなことを考えています。興味を持続させるために、授業時間を2つに分け、前半と後半で異なる内容のこと（たとえば、前半は資料読み、後半は個別の報告）を進めることなども考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学について考え、討論すること。</li> <li>・新聞、雑誌、などの記事、論文、その他の書物を読んで要約（まとめ）、感想、討論を行うこと。テーマは広く設定したいと思います。</li> <li>・学生の興味にそったテーマを個別に設定し、そのことについて調べ、解説（報告）し、まとめること。</li> <li>・個別に想定されたテーマについて、それをどのように総合的にまとめてゆくかを（章立てなどを含むその過程を）考えること。</li> <li>・必要な「情報」をどのように集めるかの技法。</li> <li>・コミュニケーションやプレゼンテーションの技法。</li> <li>・データのあり方とその扱い方について。</li> <li>・コンピュータやインターネットに関連した技法を。</li> <li>・報告書の作成に関係した技法。</li> </ul> <p>参加している学生みんなで、経済、経営（あるいはスポーツといった話題など何でも）に関連した問題を整理し、討論しながら新たな知見を得る道を探っていくような（そして、それが結果的に知的な創造につながっていくような）演習にしたいと考えています。</p>
	評価方法		レポート、演習への貢献度（参加）。
	テキスト参考文献		資料を準備する。

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	基礎演習（秋期）	担当者	松井敬
-------	----------	-----	-----

講義目的および講義概要	基礎演習（春季）に同じ。	授業計画	基礎演習（春季）に同じ。
評価方法			
テキスト参考文献			

98科目名		担当者	
-------	--	-----	--

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	基礎演習 (春期)	担当者	御園生真
-------	-----------	-----	------

講義目的および講義概要	<p>大学での学習・研究の基礎となる、図書館の利用方法、インターネットによる情報検索、本の読み方、レポートの作成方法について説明し、実際に習得することを目標とする。</p> <p>できるだけコンピュータ、ビデオなどを利用して授業を進めたい。</p> <p>(注意) 履修者は必ず第1回の授業に出席すること。 授業のマナーを守ること。</p>	授業計画	1	序論とガイダンス
			2	図書館の利用方法
			3	(続)
			4	専門書や新聞記事の読み方
			5	(続)
			6	インターネットによる情報の検索法
			7	(続)
			8	レポートの作成方法
			9	(続)
			10	(続)
			11	(続)
			12	まとめ
評価方法	出席とレポート(数回実施)。3回以上欠席した場合は単位が認定されない。			
テキスト参考文献	プリントを利用する。			

01科目名		担当者	
03科目名	基礎演習 (秋期)	担当者	御園生真

講義目的および講義概要	<p>大学での学習・研究の基礎となる、図書館の利用方法、インターネットによる情報検索、本の読み方、レポートの作成方法について説明し、実際に習得することを目標とする。</p> <p>できるだけコンピュータ、ビデオなどを利用して授業を進めたい。</p> <p>(注意) 履修者は必ず第1回の授業に出席すること。 授業のマナーを守ること。</p>	授業計画	1	序論とガイダンス
			2	図書館の利用方法
			3	(続)
			4	専門書や新聞記事の読み方
			5	(続)
			6	インターネットによる情報の検索法
			7	(続)
			8	レポートの作成方法
			9	(続)
			10	(続)
			11	(続)
			12	まとめ
評価方法	出席とレポート(数回実施)。3回以上欠席した場合は単位が認定されない。			
テキスト参考文献	プリントを利用する。			

98科目名		担当者	
-------	--	-----	--

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	基礎演習（春期）	担当者	森 健
-------	----------	-----	-----

講義目的および講義概要	<p>(目的)</p> <p>もし諸君が、大学の講義の種類は多く、講義で紹介される知識や主張（メッセージ）は多様であると思っているとしたら必ずしも正しくない。実は、大学で講義されるものの内容は質的に限られている。大学の講義で扱う知識や主張は学問的な検証に耐えられる方法の下で生まれたものに限られている。新聞や通常の雑誌記事とはこの点で異なり、それぞれ別の面白さがある。この演習の目的は、経済学（部）で何を学ぶのか、経済学的なものの考え方とはどのようなものか、テキストや学術論文はどのような約束でつくられているか、図書館やインターネットでどのような情報が収集できるか、ディベートの効用は何かといったことを学ぶ。</p> <p>(概要)</p> <p>日本を含むアジア諸国、米国等の経済・社会問題について書かれた文献を材料にして、その文献の主張がどのような手順で考察された分析の上になされているかを検討し、経済学的な考え方、論考の進め方の特徴を学ぶ。また、図書館において、経済学の勉強に役立つ文献や、インターネット・サイトを実際に確認する。更に、ディベートを行い、ディベートの効用について考える。最後に、レポートや論文の書き方について学ぶ。</p>	授業計画	1 ゼミの目的の確認。経済学部で何を学ぶか
			2 ディベートの予備知識とテーマ選び
			3 ディベート・テーマの決定とチーム編成。経済学的なものの考え方の勉強：事例研究（1）
			4 経済学的なものの考え方の勉強：事例研究（2）
			5 ディベートの準備：ディベートのやり方
			6 ディベートの準備：図書館の利用法。経済学の勉強に役立つサイト。
			7 ディベート
			8 ディベートの反省
			9 学術論文の構成分析（2）
			10 学術論文の構成分析（2）
			11 レポート、ゼミ論の書き方（1）
			12 レポート、ゼミ論の書き方（2）

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	基礎演習（秋期）	担当者	森 健
-------	----------	-----	-----

講義目的および講義概要	<p>(目的)</p> <p>もし諸君が、大学の講義の種類は多く、講義で紹介される知識や主張（メッセージ）は多様であると思っているとしたら必ずしも正しくない。実は、大学で講義されるものの内容は質的に限られている。大学の講義で扱う知識や主張は学問的な検証に耐えられる方法の下で生まれたものに限られている。新聞や通常の雑誌記事とはこの点で異なり、それぞれ別の面白さがある。この演習の目的は、経済学（部）で何を学ぶのか、経済学的なものの考え方とはどのようなものか、テキストや学術論文はどのような約束でつくられているか、図書館やインターネットでどのような情報が収集できるか、ディベートの効用は何かといったことを学ぶ。</p> <p>(概要)</p> <p>日本を含むアジア諸国、米国等の経済・社会問題について書かれた文献を材料にして、その文献の主張がどのような手順で考察された分析の上になされているかを検討し、経済学的な考え方、論考の進め方の特徴を学ぶ。また、図書館において、経済学の勉強に役立つ文献や、インターネット・サイトを実際に確認する。更に、ディベートを行い、ディベートの効用について考える。最後に、レポートや論文の書き方について学ぶ。</p>	授業計画	1 ゼミの目的の確認。経済学部で何を学ぶか
			2 ディベートの予備知識とテーマ選び
			3 ディベート・テーマの決定とチーム編成。経済学的なものの考え方の勉強：事例研究（1）
			4 経済学的なものの考え方の勉強：事例研究（2）
			5 ディベートの準備：ディベートのやり方
			6 ディベートの準備：図書館の利用法。経済学の勉強に役立つサイト。
			7 ディベート
			8 ディベートの反省
			9 学術論文と他の記事との違い。学術論文の構成分析（1）
			10 学術論文の構成分析（2）
			11 レポート、ゼミ論の書き方（1）
			12 レポート、ゼミ論の書き方（2）



98科目名		担当者	
-------	--	-----	--

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	基礎演習（春期）	担当者	山越徳
-------	----------	-----	-----

講義目的および講義概要	<p>経済学の理論がどのような前提や考え方によって成り立っているのか、またその理論が現実の経済を、またその変化をどの程度捉え、説明しているのか、何が捉えられていないのかを通して、経済学や経済を身近に感ずるとともに、現在の経済における諸問題を共に考え、理解を進めていくことにする。</p> <p>そのため、講義の最初の頃は、種々の資料やデータを使って、経済学の考え方や理論、経済の大きさや構造について説明していくが途中からは受講生の関心や興味のある問題、疑問に思っていることや理解が不明確な事柄について採り上げて共に議論し学習する方法もとる。なおその対象は限定しない。積極的な取組みを望みたい。</p>	授業計画	1 経済学とは：家計、企業、産業、地域社会、国の経営、経済学・経済学の対象など、なおこの時学生の関心事を提出してもらう
			2 経済と理論：現実の経済、理論図式、統計データ、実証分析についてとそれらの関係を事例を挙げて考える。
			3 経済統計データ：統計データとは、分類、時系列とクロスセクション
			4 統計データの見方、読み方 統計の意味するもの
			5 統計学、経済学の文献 基本的文献、古典などについて
			6 以後受講生から出された、テーマや課題、質問等により、議論し考察をすすめていく。
			7 議論しただいでは、その関連について調べてきてもらうよう要請し、その報告で議論していくこともありうる
			8
			9
			10
			11
			12

01科目名		担当者	
03科目名	基礎演習（秋期）	担当者	山越徳

講義目的および講義概要	同上	授業計画	1 同上
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12

98科目名		担当者	
-------	--	-----	--

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	基礎演習（春期）	担当者	山本美樹子
-------	----------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>日本経済は今どのような状態にあるのかー経済学部に入学者に最も興味を持ってほしい事柄である。今の日本経済の状態がわかる記事を毎回取り上げ、参加者に疑問を持ったところ、わからないところを毎回発表してもらい、全員で話し合い、意見の交換をしながら、日本経済についての認識を深めてもらいたい。</p> <p>小泉内閣が存続していれば、小泉内閣のメールマガジンをダウンロードして、その中の経済にかかわることについて話し合いをする。メールの配信、ダウンロード等を行うことによりインターネット環境に慣れてもらうことも目的のひとつにする。</p>	授業計画	1	オリエンテーションと大学でのメール配信の仕方
			2	各自最新のマガジンを受信し、その中の経済的な事柄に自分の考えをまとめて、講義のときに発表
			3	同上
			4	↓
			5	
			6	
			7	
			8	
			9	
			10	
評価方法	期末のレポート		11	各自興味を持った事柄からレポートの課題を決め、レポートの概略を発表
テキスト参考文献	講義時に指示		12	同上

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	基礎演習（秋期）	担当者	山本美樹子
-------	----------	-----	-------

講義目的および講義概要	<p>日本経済は今どのような状態にあるのかー経済学部に入学者に最も興味を持ってほしい事柄である。今の日本経済の状態がわかる記事を毎回取り上げ、参加者に疑問を持ったところ、わからないところを毎回発表してもらい、全員で話し合い、意見の交換をしながら、日本経済についての認識を深めてもらいたい。</p> <p>小泉内閣が存続していれば、小泉内閣のメールマガジンをダウンロードして、その中の経済にかかわることについて話し合いをする。メールの配信、ダウンロード等を行うことによりインターネット環境に慣れてもらうことも目的のひとつにする。</p>	授業計画	1	オリエンテーションと大学でのメール配信の仕方
			2	各自最新のマガジンを受信し、その中の経済的な事柄に自分の考えをまとめて、講義のときに発表
			3	同上
			4	↓
			5	
			6	
			7	
			8	
			9	
			10	
評価方法	期末のレポート		11	各自興味を持った事柄からレポートの課題を決め、レポートの概略を発表
テキスト参考文献	講義時に指示		12	同上

98科目名		担当者	
-------	--	-----	--

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	基礎演習（春期）	担当者	湯田雅夫
-------	----------	-----	------

講義目的および講義概要	<b>講義の目標および講義概要</b> 企業の環境経営について学習します。 ① まずはじめに、皆さんひとりひとりの日常生活を振り返ってみましょう。 ② 皆さんの日常活動を精査すると、それらは、エネルギー、水、紙・食料などに分類でき、物量で測定することが可能です。 ③ この物量について、「リデュース」、「リユース」、「リサイクル」を実行すれば、お金を掛けない地球環境にやさしい生活が実現します。 ④ 企業も上記の活動をより専門的な視点から環境保全活動に取り組んでいます。 ⑤ 大企業や公営企業で実践されている『環境経営』について、学習しましょう。	授業計画	1 オリエンテーション 本演習の進め方
			2 個別研究テーマの選択
			3 資料の入手方法 インターネットの活用他
			4 入手資料の確認、不足資料の確認
			5 レポート作成方法①
			6 レポート作成方法②
			7 レポート作成方法③
			8 レポート中間報告会①
			9 レポート中間報告会②
			10 質問、修正
評価方法	レポートと出席状況から総合的に評価します。		11 レポート提出日
テキスト参考文献	その都度指示します。		12 レポートの講評

01科目名		担当者	
03科目名	基礎演習（秋期）	担当者	湯田雅夫

講義目的および講義概要	<b>講義の目標および講義概要</b> 企業の環境経営について学習します。 ① まずはじめに、皆さんひとりひとりの日常生活を振り返ってみましょう。 ② 皆さんの日常活動を精査すると、それらは、エネルギー、水、紙・食料などに分類でき、物量で測定することが可能です。 ③ この物量について、「リデュース」、「リユース」、「リサイクル」を実行すれば、お金を掛けない地球環境にやさしい生活が実現します。 ④ 企業も上記の活動をより専門的な視点から環境保全活動に取り組んでいます。 ⑤ 大企業や公営企業で実践されている『環境経営』について、学習しましょう。	授業計画	1 オリエンテーション 本演習の進め方
			2 個別研究テーマの選択
			3 資料の入手方法 インターネットの活用他
			4 入手資料の確認、不足資料の確認
			5 レポート作成方法①
			6 レポート作成方法②
			7 レポート作成方法③
			8 レポート中間報告会①
			9 レポート中間報告会②
			10 質問、修正
評価方法	レポートと出席状況から総合的に評価します。		11 レポート提出日
テキスト参考文献	その都度指示します。		12 レポートの講評

98科目名		担当者	
-------	--	-----	--

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	基礎演習（春期）	担当者	米山昌幸
-------	----------	-----	------

講義目的および講義概要	<b>講義の目的</b> 大学でこれから専門分野の研究を始めるための準備として、自発的な学習姿勢を身に付けて、報告用レジュメやレポートの作成といった知的生産の方法を学びます。	授業計画	週	内容
	<b>講義概要</b> まず、大学での学習の心得や方法について説明した後で、パソコンを実際に使いながら知的生産のためのパソコン・ツールの使い方のコツ、報告用レジュメの作成方法などを学びます。その後で、受講生によるテキストの分担報告を通して、レジュメの作成方法や報告の仕方を学んでいきます。また、これからの研究テーマの探し方、レポートや論文の作成方法などについても学びます。 <u>経済学の入門書をテキストにして、ミクロ経済学の範囲を輪読しますので、「経済学 a」の勉強にも役立つはずです。</u>		1	イントロダクション 大学で勉強の心得、授業の形式とレポート・評価基準の説明、テキストの紹介
			2 3	パソコンを使った知的生産の方法(1)―報告用レジュメの作成―
			4 5 6 7 8 9 10	テキストの輪読を通じた報告用レジュメの作成とテキストの読み方の学習
評価方法	毎回の出席状況や報告回数、レポートによって成績評価を行う。		11 12	パソコンを使った知的生産の方法(2)―レポート・論文の作成―
テキスト参考文献	伊藤元重『入門 経済学(第2版)』日本評論社、2001年(予定)。			

01科目名		担当者	
03科目名	基礎演習（秋期）	担当者	米山昌幸

講義目的および講義概要	<b>講義の目的</b> 大学でこれから専門分野の研究を始めるための準備として、自発的な学習姿勢を身に付けて、報告用レジュメやレポートの作成といった知的生産の方法を学びます。	授業計画	週	内容
	<b>講義概要</b> まず、大学での学習の心得や方法について説明した後で、パソコンを実際に使いながら知的生産のためのパソコン・ツールの使い方のコツ、報告用レジュメの作成方法などを学びます。その後で、受講生によるテキストの分担報告を通して、レジュメの作成方法や報告の仕方を学んでいきます。また、これからの研究テーマの探し方、レポートや論文の作成方法などについても学びます。 <u>経済学の入門書をテキストにして、マクロ経済学の範囲を輪読しますので、「経済学 b」の勉強にも役立つはずです。</u>		1	イントロダクション 大学で勉強の心得、授業の形式とレポート・評価基準の説明、テキストの紹介
			2 3	パソコンを使った知的生産の方法(1)―報告用レジュメの作成―
			4 5 6 7 8 9 10	テキストの輪読を通じた報告用レジュメの作成とテキストの読み方の学習
評価方法	毎回の出席状況や報告回数、レポートによって成績評価を行う。		11 12	パソコンを使った知的生産の方法(2)―レポート・論文の作成―
テキスト参考文献	伊藤元重『入門 経済学(第2版)』日本評論社、2001年(予定)。			

98科目名		担当者	
-------	--	-----	--

01科目名		担当者	
-------	--	-----	--

03科目名	特殊講義 a「経営学科で何を学べるか」	担当者	経営学科
-------	---------------------	-----	------

講義目的および講義概要	この講義の目的は、経営学科の新生生に対して、前期授業2単位として、4年間の学習の目的を組み立てる支援を目指します。具体的には、①経営学科の4つのコースと講義の関連性、②経営学科は何を特徴としているか、③新生生が大学生活をどのように過ごしたらよいかについてのアドバイスを通して、戸惑いや不安の解消など、単なる講義の枠を越えて、人生経験も織り交ぜて、知的な生活と学習(学問)とは何かを学びます。副次的には、2年生から始まるゼミの選択眼を養うことも目的とします。	授業計画	1 ガイダンス：カリキュラムとの関連に注目して、科目全体の概要紹介と目標を示す。	
			2 ビジネス・コース： 各教授の授業内容と学問のあり方	
			3 ビジネス・コース： パネルディスカッション	
	4 情報コース： 獨協と情報 =情報で何が学べるか=			
	5 情報コース： パネルディスカッション			
	6 マネジメントコース： グローバル化時代の企業経営について			
	7 マネジメントコース： パネルディスカッション			
	8 会計コース： 会計コースのトピックの中から設定			
	9 会計コース： パネルディスカッション			
	10 アンケート実施など			
評価方法	授業時に説明する			11 「アンケートを受けて」： パネルディスカッション
テキスト参考文獻	レジュメを配布			12 予備日

01科目名		担当者	
03科目名	特殊講義 b「レポートの書き方」	担当者	経営学科

講義目的および講義概要	この講義では、大別して2つのことを扱います。一つは、大学で卒業論文やレポートを作成する際に必要となる基礎的能力獲得に関わることです。もう一つは、大学における人間関係をより効果的なものとするために必要な、コミュニケーション能力を得ることに関わるものです。講師によるレクチャーのみならず、様々なグループ・ワークも行ないます。レポート作成に関しては、具体的には次の3つの目標があります。まず、文章作成のプロセスを学ぶことを第一の目標とします。第二は、様々なソースから情報を収集し、分析、分類、保存、蓄積する効率的な方法を習得することにあります。そして、第三の目標は、表紙や参考文献リストの作成方法、脚注のつけ方等、本論の周辺要素の知識を得、実際に活用できるようになることです。コミュニケーションに関しては、他者との関わりをより良いものとすることを目指します。	授業計画	1. イントロダクション：履修の際のルール及びマナー説明。レポートの構成説明。		
			2. 正しい日本語表現1：獨協大生のレポートにありがちな問題表現の紹介と正しい文章の書き方		
			3. 対人コミュニケーション<その1>自身のコミュニケーション行動を振り返る		
			4. 正しい日本語表現2：意見と事実の違いを説明します。		
			5. レポート作成のプロセス：レポートを作成する際の具体的なプロセスを説明します。		
			6. 対人コミュニケーション<その2>自己と他者：自己概念		
			7. 文章のアウトライン：アウトラインの作成方法を学びます。序論、本論、結論の形式		
			8. 分類を学ぶ：手元にある情報を分析し、分類する際に必要なことを学びます。		
			9. 対人コミュニケーション<その3>適切な言語表現		
			10. 引用と盗用及び参考文献リストの作成方法		
	評価方法		学ぶ意欲を持って主体的に講義に参加して下さい。遅刻は厳禁です。		11. リサーチの方法：獨協大学図書館の効果的な利用方法を説明します。
	テキスト参考文獻		レジュメを配布		12. 対人コミュニケーション<その4>効果的な聴き方の訓練

98科目名	特殊講義B「経済と法」・「企業と法」	担当者	住田裕子
-------	--------------------	-----	------

01科目名	特殊講義B「経済と法」	担当者	住田裕子
-------	-------------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>「法律」とは…何か難しいもの、縁遠いもの、というのがこれまでの日本人の平均的な国民意識だったと思われます。しかし、価値観が多様となり、国際化も急速に進んでいる今、法律とは何か、その法律を適用するとどうなるか、などが、現代社会に生きる者の基礎知識となりつつあるのです。</p> <p>そこで、「法律」について、広く、深く、学ぶ場を創ります。対象は、多岐にわたります。そして、深く…単に知識を覚えるのではなく、具体的設例に基づき、自らの問題として捉え、実際の場で応用ができるように、リーガル・マインドを培いましょう。</p> <p>キーワードは、多面的な思考力です。</p>	授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 法律のいろいろ、責任のいろいろ＝民法、刑法、行政、会社内のさまざまな責任、そして、裁判とは？</li> <li>2. 民法と刑法の基本原則</li> <li>3. 所有権と抵当権</li> <li>4. 契約と法＝契約自由の原則と債務不履行など</li> <li>4. 民法の特別法、その1 不動産の貸し借り＝借地借家法など</li> <li>5. 民法の特別法、その2 金銭の貸し借り＝利息制限法など</li> <li>5. 民法の特別法、その3 労働関係＝労働基準法など</li> <li>6. 民法の特別法、その4 詐欺・強迫と消費者契約法など</li> <li>7. 人の能力（子ども、高齢者との契約など）</li> <li>8. 会社法その1 ベンチャービジネス・起業とは</li> <li>9. 会社法その2 コーポレートガバナンスとは</li> <li>10. 会社法その3 コンプライアンスとは</li> <li>11. 不良債権問題と法</li> <li>12. 破産法など倒産法制</li> </ol>
評価方法	講義の内容によって、アンケートを取ります。その提出状況や出席状況を考慮し、定期試験によって評価します。		
テキスト参考文献	講義時にその都度、指示します。		

01科目名	特殊講義B「企業と法」	担当者	住田裕子
-------	-------------	-----	------

03科目名		担当者	
-------	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p>「法律」とは何か…「経済と法」の特殊講義を経て、さらに、広く、深く、学びましょう。</p> <p>対象は、企業社会における法。実社会において、具体的に法律の適用が問題となった場面における対処法を考えます。事故やトラブルが起きたとき、どのような対処をするか、そして、このようなトラブルを避けるためには、事前に何を予測し、その備えをどうしておくべきか、などについても、考えます。</p> <p>ここでも、具体的設例に基づき、自らの問題として捉え、実際の場で応用ができるように、リーガル・マインド（法律の精神）を培いましょう。</p> <p>このキーワードも、多面的な思考力、です。特に、相手方はどう考えるか、それに対してどう対処するか、です。</p>	授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 営業マンとして…顧客へのセールストークとして正当な場合とは？</li> <li>2. 訪問販売会社の営業マンとして…クーリング・オフとは？</li> <li>3. 通信販売会社の従業員として…返品可能な場合とは？</li> <li>4. 人事担当者として…不当労働行為・労働基準法違反とは？</li> <li>5. 開発担当者として…許される模倣と違法行為とは？</li> <li>6. 貸金業者の従業員として…違法な取立てとは？</li> <li>7. 不動産会社の従業員として…トラブルのときの損害賠償は？</li> <li>8. 転職のとき…競業避止義務とは？</li> <li>9. 労働者の権利…解雇・会社都合と自己都合の違いとは？</li> <li>10. 性差別…セクハラとは？</li> <li>11. 会社に違法行為を強要されたとき？</li> <li>12. 会社の財産と公私混同の罪とは？</li> </ol>
評価方法	講義の内容によって、アンケートを取ります。その提出状況や出席状況を考慮し、定期試験によって評価します。		
テキスト参考文献	講義時にその都度、指示します。		

# 体 育

体育Ⅰシラバス

体育Ⅱシラバス

獨協大学

# 目次

科目名	担当者	ページ
アウトドアレクリエーション(合宿付)	和田 智	1
インラインスキートレーニング(合宿付)	松原 裕	2
トレーニング(合宿付)	田代 力也	3
トレーニング(合宿付)	青柳 多恵子	4
インラインスケート	和田 智	5
インラインホッケー	松原 裕	6
硬式テニス	松原 裕	7
ゴルフ	山中 邦夫	8
ゴルフ	吉田 卓司	9
サッカー	田代 力也	10
サッカー	田中 茂宏	11
サッカー	檜山 康	12
サッカー	松本 光弘	13
スポーツエクササイズ	梶野 克之	14
ソフトボール	池垣 功一	15
ソフトボール	太田 朝博	16
ソフトボール	田代 力也	17
ソフトボール	萩野 元祐	18
卓球	奥野 忠枝	19
卓球	本田 稔祐	20
バスケットボール	勝瀬 武	21
バトミントン	太田 朝博	22
バトミントン	梶野 克之	23
バレーボール	小川 又八郎	24
フットサル	松原 裕	25
フットサル	田代 力也	26
フリスビー	和田 智	27
ボールルームダンス	青柳 多恵子	28



科目名	アウトドアレクリエーション (合宿付)	担当者	和田 智
-----	---------------------	-----	------

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>[講義の目標]レクリエーション活動のうち、主に自然環境と関連するいくつかの種目を体験し、安全と管理、自然と環境、自由時間の意味、価値について考え、現在と将来の自由時間をデザインします。実技だけでなく講義も含み、健康について、環境についても学習します。また、グループワーク活動を重視し、クラスの中での良好な人間関係育成を図りたいと思います。</p> <p>集中授業では、それぞれ独自の目標を達成するよう多様な活動を行います。</p> <p>[講義概要] 前期におこなう学内の授業では、グループゲーム、アウトドアクッキング、マップ&amp;コンパス、ペタンク、フリスビー、インラインスケート、ウォークラリー等、多くの種目を紹介し、体験します。種目については学生の要望に応じて選択しようと思います。各種目は内容と難易度などにより、各種目にあてる時間数は異なります。</p> <p>集中授業は、新潟県佐渡島で行う海浜型野外活動、または千葉県館山市で行うウインドサーフィンの2つの合宿のうち、どちらかに参加してもらいます。内容の詳細については、体育のホームページをご覧ください。日程・参加費は別に案内します。</p>	授業計画	1 授業の内容と計画についての説明
			2 仲間づくりの時間： グループゲーム
			3.仲間づくりの時間： グループゲーム アウトドアクッキングの計画
			4.仲間づくりの時間：アウトドアクッキング
			5.講義： レジャーについて
			6.実技： アウトドアレクリエーション種目
			7.実技： アウトドアレクリエーション種目
			8.講義： レクリエーションと自然環境について
			9. 実技： アウトドアレクリエーション種目
			10. 実技： アウトドアレクリエーション種目
			11. 実技： アウトドアレクリエーション種目
			12 合宿についてのオリエンテーション
評価方法	出席と受講態度、レポート。		
テキスト参考文献	[テキスト] 必要に応じて印刷物を配布します。		

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>[アウトドア海浜] 佐渡島赤泊の自然資源を生かしたレクリエーション活動の体験と地域の歴史、文化を学ぶ機会を提供します。皆さんは日常から離れた場所で、美しい自然、ゆったりとした時間の流れと温かい人の心に触れることができるでしょう。これらの体験をすることがこの授業の目的です。</p> <p>[講義概要] カヤック、釣り、スキューバダイビング、蛍狩り、農作業、地域見学、イカのひもの作り、食事作り(自分たちがとった魚や貝を使う)、奉仕活動などを予定しています。</p> <p>[夏季集中授業] 実施時期:平成15年7月28日(月) ～8月1日(金) 4泊5日 実施場所:新潟県佐渡郡赤泊村庭場 参加費:¥35,000(交通費別) 現地集合・現地解散</p>	<p>[ウインドサーフィン] 浮力を持ったボードにセールを取り付け、舵の代わりにセールのさまざまな方向に動かし、風を利用して操作する水上の乗り物です。</p> <p>この授業では弱風域においてウインドサーフィンを操作できるようにすることを目標とします。また、安全にマリンスポーツを楽しむことができるよう、風、潮流、生物、人間関係についての学習してもらいます。</p> <p>[講義概要] 初心者を対象とした内容で進めます。用具の使い方、組み立て方、海の安全知識、基本技術などから始め、弱い風の中ではセーリングできる程度のレベルまで多くの人が達しています。また、合宿生活となりますので、係分担、食事づくりなどへの積極的参加を通じて意義ある人間関係をはぐくむことができます。毎年、この合宿生活も学生たちは楽しんでます。</p> <p>[夏季集中授業] 実施時期:平成15年9月8日(月)～ ～12日(金) 4泊5日 実施場所:千葉県館山市塩見 参加費:¥30,000(交通費別) 現地集合・現地解散</p>	
	評価方法		出席と受講態度、レポート。
	テキスト参考文献		必要に応じて印刷物を配布します。

科目名	インラインスキートレーニング（合宿付）	担当者	松原 裕
-----	---------------------	-----	------

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>注意：秋学期からの授業ですが春学期の第1週にオリエンテーション及びトレーニンググループの登録を実施します。他の授業を春学期に受講予定で授業時間に参加できない場合には授業担当者まで申し出て下さい。</p> <p>注意：成績提出の関係で4年生は受講が制限されますので授業担当者を確認して下さい。</p>	授業計画	1 オリエンテーション トレーニンググループ登録
			2
			3
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
評価方法			
テキスト 参考 文献			

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p><b>[講義の目標]</b> 運動を通じて、第1番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第2番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第3番目には、生涯に渡る健康観の構築、第4番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。</p> <p><b>[講義概要]</b> インラインスケートとスノースポーツを教材とする。滑走するスポーツ、用具を利用するスポーツの感覚を経験する。基本的な滑走方法とバランス感覚を身に付け、スポーツを楽しむ能力を磨く。</p> <p><b>[集中講義としてスノースポーツを行う。]</b> スキー・フリースキー・スノーボードの3種類を体験する。秋田県田沢湖スキー場で2月下旬に4泊5日を実施予定。詳細はオリエンテーションで紹介。</p>	授業計画	1 トレーニンググループで体力測定
			2 インラインスケート靴合わせ 基本滑走・ストップ
			3 基本滑走 フォア滑走・バック滑走・ターン
4 基本滑走 フォアクロス・バッククロス			
5 スラローム滑走			
6 スラローム滑走 制限滑走・パイロン			
7 スラローム滑走 制限滑走・可倒式ポール			
8 ストックワーク			
9 ストックワーク			
10 ジャンプに挑戦			
11 スノースポーツ紹介（教室）			
12 スノースポーツ授業オリエンテーション			
評価方法			
テキスト 参考 文献			

科目名	トレーニング (合宿付)	担当者	田代力也
-----	--------------	-----	------

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p><b>[講義の目標]</b>          自己の体力運動能力の特性を知ることによって、バランスのとれたトレーニング効果を得る。学内から合宿へ展開するアウトドアレクリエーションの持つ親睦性を認識する。</p> <p><b>[講義概要]</b>          スポーツ種目より数例の代表的ストレッチングプログラムを実習し合わせて循環器系・筋力系トレーニングを行う。アウトドアレクリエーション種目を実習し夏期合宿へつなげる。</p> <p><b>[受講者への要望]</b>          特に遅刻は自他ともに大きなマイナス行為となるので注意すること。</p>	授業計画	1 ガイダンス
	2 体力測定		
	3 "		
	4 "		
	5 一般トレーニング・ストレッチング		
	6 "		
	7 "		
	8 "		
	9 アウトドアレクリエーション		
	10 "		
	11 "		
	12 "		
評価方法	出席状況、参加態度と体力、運動能力の向上度を総合的に評価する。		
テキスト参考文献			

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p><b>[講義の目標]</b>          自己の体力運動能力の特性を知ることによって、バランスのとれたトレーニング効果を得る。学内から合宿へ展開するアウトドアレクリエーションの持つ親睦性を認識する。</p> <p><b>[夏期集中講義]</b>          夏期休暇中(期間後日発表) 3泊4日 長野県菅平高原にて実施する。</p> <p><b>[内容]</b>          軽登山・クロスカントリー          オリエンテーリング          アウトドアレクリエーション等</p> <p><b>[受講者への要望]</b>          特に遅刻は自他ともに大きなマイナス行為となるので注意すること。</p>	授業計画	1 要項を別途配布する。
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
評価方法	出席状況、参加態度と体力、運動能力の向上度を総合的に評価する。		
テキスト参考文献			

科目名	トレーニング (合宿付)	担当者	青柳 多恵子
-----	--------------	-----	--------

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p><b>[講義の目標]</b>          高齢・少子化と社会的構造の大きな変化といった背景のなかで個人の生活様式や将来計画が大きく変化し、そのあり方や考え方と共に実践のありようが問われている。健康・余暇について、現代では産業として年々拡大し、情報産業でも大変大きなテーマとして取り上げられている。そのような状況にもかかわらず知識・経験の不足が指摘されている。</p> <p><b>[講義概要]</b>          自然と人間の関係と健康との意味を研鑽し、自然環境と人間行動の及ぼす影響を理解する。その上で自然体験に必要な知識と技能を身につけ、基礎的な体力を養成し、自然体系を乱さない知識と配慮を研究し危険防止の観点から、事前実施計画の作成と楽しい企画・運営を「山」を対象として行う。</p>	授業計画	1 オリエンテーション ガイダンス 調査・班形成
	2 基礎体力測定 ストレッチと個人の運動量		
	3 生活と将来余暇目的について 健康についての自己認識		
4 ゲームによる体力維持 室内での実施			
5 自然 (山) の楽しみ方 山野草・バードウォッチング			
6 自然 (山) の楽しみ方 釣・山登り・キャンプ			
7 自然観察のルールと環境保全 地域観察 (草加市)			
8 家庭と遊び リーダーとしての必要知識			
9 地域・組織の遊び 班ごとの調理実習 (野外)			
10 志賀高原について 地形・自然観察・夏の山として			
11 自然環境の楽しみ方 写真・絵・収集・山歩き・星観察			
12 事前実施計画の検討 ノート・役割分担・携帯品 (団体・個人)			
評価方法	出席と課せられたレポート提出		
テキスト 参考 文献			

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p><b>[夏季集中講義]</b>          実施期間：夏期休暇中 4泊5日 (後日発表)          長野県志賀高原にて実施する。</p>	授業計画	1 要項を別途配布する。
			2
			3
			4
			5
			6
			7
			8
			9
			10
			11
			12
評価方法	出席と課せられたレポート提出		
テキスト 参考 文献			

科目名	インラインスケート	担当者	和田 智
-----	-----------	-----	------

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p><b>【講義の目標】</b>  インラインスケートについての知識、技術の習得。これによって、各個人の自由時間をインラインスケートを用いて豊かにすることを目標にしたいと思います。初めは慣れない道具で不自由に戸惑うかもしれませんが、これを使った時に体が自由に動く感覚を経験することで、自分の新たな可能性に気づくことでしょう。</p> <p>インラインスケートは、舗装された平面があればどこでも楽しめます。自転車と同じような感覚で楽しめれば良いと思います。そのためには安全とモラルが大切になるでしょう。</p> <p><b>【講義概要】</b>  インラインスケートについての知識、技術の習得を毎回の授業の中で行います。内容は、安全知識、危険回避、基本テクニック、応用テクニック、メンテナンスについてです。学生の進歩状況・天候によって、授業計画は変えていきます。</p>	授業計画	1 オリエンテーション インラインスケートとは	
	評価方法		出席と受講態度、技術の向上度、実技テスト	2 用具合わせ 立ち方・歩き方・とまり方
				3 滑ることに慣れよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション
テキスト参考文献	【テキスト】 必要に応じて印刷物を配布します。		4 滑ることに慣れよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション	
			5 からだを動かしてみよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション	
			6 からだを動かしてみよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション	
			7 自由からだを動かしてみよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション	
			8 自由からだを動かしてみよう： フォアストローク（前方滑走）とバリエーション	
			9 後ろ向きになれよう： バックストローク（後方滑走）とバリエーション	
			10 後ろ向きになれよう： バックストローク（後方滑走）とバリエーション	
			11 実技テスト	
			12 実技テスト	

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p><b>【講義の目標】</b>  インラインスケートについての知識、技術の習得。これによって、各個人の自由時間をインラインスケートを用いて豊かにすることを目標にしたいと思います。初めは慣れない道具で不自由に戸惑うかもしれませんが、これを使った時に体が自由に動く感覚を経験することで、自分の新たな可能性に気づくことでしょう。</p> <p>インラインスケートは、舗装された平面があればどこでも楽しめます。自転車と同じような感覚で、日常の遊びの中に取り入れて欲しいと思います。</p> <p><b>【講義概要】</b>  インラインスケートについての知識、技術の習得を毎回の授業の中で行います。内容は、安全知識、危険回避、基本テクニック、応用テクニック、メンテナンスについてです。学生の進歩状況・天候によって、授業計画は変えていきます。</p>	授業計画	1 久しぶりにインラインスケート	
	評価方法		出席と受講態度、技術の向上度、実技テスト	2 自由な動き作り：ジャンプ
				3 自由な動き作り：いくつかの種類のターン
テキスト参考文献	【テキスト】 必要に応じて印刷物を配布します。		4 自由な動き作り：いくつかの種類のターン	
			5 自由な動き作り：いくつかの種類のターン	
			6 自由な動き作り：フォアクロス	
			7 自由な動き作り：フォアクロス	
			8 自由な動き作り：バッククロス	
			9 自由な動き作り：バッククロス	
			10 実技テストの説明と練習	
			11 インラインホッケー・実技テスト	
			12 インラインホッケー・実技テスト まとめ	

科目名	インラインホッケー	担当者	松原 裕
-----	-----------	-----	------

科目名		担当者	
-----	--	-----	--

科目名		担当者	
-----	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p><b>【講義の目標】</b> 運動を通じて、第1番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第2番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第3番目には、生涯に渡る健康観の構築、第4番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。</p> <p><b>【講義概要】</b> インラインスケートを教材とする。滑走するスポーツの一つとして、用具を利用することで通常では味わえない感覚を経験する。基本的な滑走方法とバランス感覚を身に付け、インラインホッケーに挑戦する。インラインホッケーの試合のルールを十分に理解し、プレイヤーとして、審判として、コーディネーターとして、と関係する役割全てを交代で行う。</p>	授業計画	1 オリエンテーション 個人票の作成 授業実施上の諸注意
	2 受講の確認と個人票の写真添付 トレーニングルームの講習と登録		
	3 用具合わせ 基本滑走		
			4 基本滑走 フォアスケータリング バックスケータリング
			5 基本滑走 ターン ストップ
			6 スティックを持って滑走 スティックコントロール バックコントロール
			7 スティックを持って滑走 ドリブル パス
			8 攻防（1対1、2対2）
			9 攻防（3対3、4対4）
			10 攻防（5対5、6対6）
評価方法	毎時間の出席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。		11 インラインホッケーゲーム
テキスト参考文献	必要に応じて紹介する。		12 インラインホッケーゲーム
			13 インラインホッケーゲーム

科目名		担当者	
-----	--	-----	--

科目名		担当者	
-----	--	-----	--

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1 トレーニングルームでの体力測定
			2 基本スケータリング
			3 スティックを持つての基本スケータリング
			4 班分けと班別練習
			5 リーグ戦①
			6 リーグ戦②
			7 リーグ戦③
			8 リーグ戦④
			9 リーグ戦⑤
			10 リーグ戦⑥
評価方法	同		11 リーグ戦⑦
テキスト参考文献	同		12 リーグ戦⑧

科目名	硬式テニス	担当者	松原 裕
-----	-------	-----	------

科目名		担当者	
-----	--	-----	--

科目名		担当者	
-----	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p><b>[講義の目標]</b> 運動を通じて、第1番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第2番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第3番目には、生涯に渡る健康観の構築、第4番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。</p> <p><b>[講義概要]</b> 硬式テニスを教材とする。硬式テニスには、シングルスとダブルスの2つの代表的な試合形式があるが、この授業ではダブルスの試合をすることを中心とする。 ダブルスの試合のルールを十分に理解し、プレーヤーとして、審判として、コーディネーターとして、と関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから応用的なことまでをビルドアップしていく。</p>	授業計画	1 オリエンテーション 個人票の作成 授業実施上の諸注意
			2 受講決定の確認と個人票の写真提出、トレーニングルームの講習と登録 授業実施場所の確認
			3 基本トレーニング ラケットコントロール
			4 基本トレーニング ラケットコントロール
			5 基本戦術 個人戦術・チーム戦術
			6 基本戦術 個人戦術・チーム戦術
			7 試合に必要な準備 競技場の設営 審判の仕方 試合の進め方
			8 ミックスダブルスによる試合
			9 ミックスダブルスによる試合
			10 男子ダブルス・女子ダブルス
			11 男子ダブルス・女子ダブルス
			12 男子ダブルス・女子ダブルス
評価方法	毎時間の出席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。		
テキスト参考文献	必要に応じて紹介する。		

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1 トレーニングルームでの体力測定
			2 基本トレーニング ラケットコントロール サービス レシーブ
			3 基本戦術 プレーの組み合わせ ゲームプラン
			4 4班に班分け 班別に練習 オーダー決定
			5 団体戦 リーグ戦（一巡目）
			6 団体戦 リーグ戦（一巡目）
			7 団体戦 リーグ戦（一巡目）
			8 団体戦 リーグ戦（二順目）
			9 団体戦 リーグ戦（二順目）
			10 団体戦 リーグ戦（二順目）
評価方法	同		11 トリプル 3対3のゲーム
テキスト参考文献	同		12 男子ダブルス・女子ダブルス

科目名	ゴルフ	担当者	山中邦夫
-----	-----	-----	------

科目名		担当者	
-----	--	-----	--

科目名		担当者	
-----	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p><b>[講義の目標]</b> ゴルフの基礎技術を実習し、あわせて基礎戦術およびルール、マナーについても理解することによって、本コースでのプレーが楽しめるレベル獲得をめざす。</p> <p><b>[講義概要]</b> ゴルフの理論と実際の技能とのギャップを最小化できるよう、毎時の内容を工夫しながら展開する。まず、全体の動きづくりをめざし、リズムカルなスイング、さらには力強いスイングができるよう、グループ練習、VTRを用いた分析等を用いた授業となる。</p> <p><b>[受講者への要望]</b> 欠席をしないこと。初心者または初級者の受講を望む。靴はスニーカーまたはゴルフシューズを持参のこと。</p>	授業計画	1 オリエンテーション
			2 ゴルフ競技の概要 (VTR と講義)
			3 スイング、グリップ、スタンスについて (学内グラウンドで実習)
			4 スイング、グリップ、スタンスについて (学内グラウンドで実習)
			5 スイング (各種のクラブを用いて) の基本練習 ターゲットバードゴルフも行なう。
			6 スイング (各種のクラブを用いて) の基本練習 ターゲットバードゴルフも行なう。
			7 スイング (各種のクラブを用いて) の基本練習 ターゲットバードゴルフも行なう。
			8 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(主に 9 番アイアン)
			9 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。( " )
			10 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。( " )
評価方法	授業の出席状況、技能と理論のテストを総合して評価する。		11 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(主に 7 番アイアン)
テキスト参考文献	[テキスト] 特になし		12 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。( " )

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(主に 5 番アイアン)
			2 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。( " )
			3 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習(ドライバー、スプーン)。
			4 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いて個人指導と各種クラブでの打撃練習。( " )
			5 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いて個人指導と各種クラブでの打撃練習。( " )
			6 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習(9、7、5 番アイアン)。
			7 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いて個人指導と各種クラブでの打撃練習。( " )
			8 (学外の練習場で) VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。( " )
			9 実技テスト：ショートアイアン ロングアイアンまたはドライバー
			10 実技テスト：ショートアイアン ロングアイアンまたはドライバー
評価方法	授業の出席状況、技能と理論のテストを総合して評価する。		11 実技テスト：ショートアイアン ロングアイアンまたはドライバー
テキスト参考文献	[テキスト] 特になし		12 実技テスト：ショートアイアン ロングアイアンまたはドライバー



科目名	ゴルフ	担当者	吉田卓司
-----	-----	-----	------

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p><b>[講義の目標]</b> ゴルフは、老若男女を問わず容易にできる楽しいスポーツである。基本的な正しい知識や技術が上達の近道であると考えている。ゴルフプレーを通して、社会性やルールを遵守する態度を学び、正しい余暇活動の利用について習得する。</p> <p><b>[講義概要]</b> ゴルフ競技をするにあたり、ゴルフの歴史、ゴルフ用具や服装、エチケットについて講義する。次に、基本的技術をビデオにより学習する。クラブの握り方、グリップとスタンスの方法を習得すると同時に正しいアドレス、正しいスイングの方法を反復練習により、フォームを作る。第7週までは、学内でプラスチック・ボールを使用して、打球する。第8週からゴルフ練習場にて、実習する。</p> <p><b>[受講者への要望]</b> 運動のできる服装で出席すること。手袋を必ず購入すること（汗でグリップがすべり、クラブが飛んでしまう危険性があるため）</p>	授業計画	1 オリエンテーション
			2 ゴルフの歴史と正しいマナーについて
			3 基本的技術のビデオ学習
			4 ショートアイアン（8、9、PW、SW）のスイング（グリップ、スタンス、アドレス、スイングの方法を習得する）
			5 学内でプラスチック・ボールを使用して実習
			6 各人の個別指導（正しいグリップ、スタンスの中、正しいアドレスの入り方、スイングの方法）
			7 各人の個別指導（正しいグリップ、スタンスの中、正しいアドレスの入り方、スイングの方法）
			8 ゴルフ練習場にて実習（ショートアイアン、ミドルアイアンの基本的なスイングと打球）
			9（反復練習）
			10（個別指導：グリップ、スタンス、アドレス、スイングのフォームなどのチェック）
			11（個別指導：グリップ、スタンス、アドレス、スイングのフォームなどのチェック）
			12（個別指導：グリップ、スタンス、アドレス、スイングのフォームなどのチェック）
評価方法	出席を重視し、普段の履修態度や運動服装等も評価の対象とする。		
テキスト参考文献			

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p><b>[講義の目標]</b> ゴルフは、老若男女を問わず容易にできる楽しいスポーツである。基本的な正しい知識や技術が上達の近道であると考えている。ゴルフプレーを通して、社会性やルールを遵守する態度を学び、正しい余暇活動の利用について習得する。</p> <p><b>[講義概要]</b> クラブの握りかた、グリップとスタンスの方法を習得すると同時に正しいアドレス、正しいスイングの方法を反復練習により、フォームを作る。はじめから、ゴルフ練習場にて、実習する。雨天にかかわらず実習可能なので、直接集合すること。ショートアイアン、ミドルアイアン、ロングアイアンの打法と1番・3番ウッドの打法を習得する。個人個人のスイングをチェック指導の予定である。</p> <p><b>[受講者への要望]</b> 運動のできる服装で出席すること。手袋を必ず購入すること（汗でグリップがすべり、クラブが飛んでしまう危険性があるため）</p>	授業計画	1 ゴルフ練習場にて実習
			2 アイアンショット（3、5、7、9、PW、SW）（個別指導とフォームのチェック）
			3 1番ウッド（ドライバー） 3番ウッド（スプーン）の打法と練習
			4 ロングアイアン（3、4）ショット練習
			5 ロングアイアン（3、4）ショット練習
			6 個人個人のスイングをチェック指導
			7 個人個人のスイングをチェック指導
			8 個人個人のスイングをチェック指導
			9 個人個人のスイングをチェック指導
			10 テスト（アイアン、及びウッド）及び実習
			11 テスト（アイアン、及びウッド）及び実習
			12 テスト（アイアン、及びウッド）及び実習
評価方法	出席を重視し、普段の履修態度や運動服装等も評価の対象とする。テストは、アイアンとウッドについて実施する。		
テキスト参考文献			

科目名	サッカー	担当者	田代力也
-----	------	-----	------

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p><b>[講義の目標]</b> サッカーの基礎、応用練習、ゲームを通して体力、運動能力の向上をめざす。チームゲームの中で協調性をたかめる。</p> <p><b>[講義概要]</b> 年間授業計画の週毎の内容については、個別に取上げて行うものと、できる限り毎週、ゲーム形式を取入れることによって練習効果をたかめるものとの両面で展開する。ビデオ使用は、予備日（雨天等）を含めて適時、週に繰入れる。</p> <p><b>[受講者への要望]</b> ゲームを中心に進めるので、特に遅刻は自他ともに大きなマイナス行為となる。この点注意が必要。</p>	授業計画	1 オリエンテーション
			2 ビデオ教材を使用しての導入部
			3 "
			4 キックの基礎
			5 "
			6 キックの応用
			7 "
			8 コンビネーションプレイ
			9 "
			10 "
			11 ゲーム
			12 "
			13 予備
評価方法	出席状況、参加態度と技術、体力、運動能力の上昇度等を総合的に評価する。		
テキスト参考文献			

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1 ビデオ教材を使用してゲーム分析
			2 "
			3 週毎の課題の中でゲーム
			4 "
			5 "
			6 "
			7 "
			8 "
			9 "
			10 "
			11 "
			12 "
			13
評価方法	同		
テキスト参考文献			

科目名	サッカー	担当者	田中茂宏
-----	------	-----	------

科目名		担当者	
-----	--	-----	--

科目名		担当者	
-----	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p><b>[講義の目標]</b>          学生各自が運動種目に必要なウォーミング・アップ、クーリング・ダウンを行えるようになり、主体性を発揮、身につけることを目的とする。ゲームを通して、進め方、ルールを学ぶ。レポート提出を実施することで、目的、問題意識を持たせる。</p> <p><b>[講義概要]</b>          ゲームの中でプレーヤーが思い描くプレイを表現できるよう個人や、グループの戦術を学習する。ゲームでは主・副審をつけてリーグ戦を行う。出欠点呼は毎回実施する。雨天でも行いますが、グラウンドが使用不可能な時には3棟1階の体育掲示板で指示する。</p> <p><b>[受講者への要望]</b>          遅刻、着替えを忘れた者は授業の参加を認めない。見学者も更衣の後に出席すること。出欠状況は各自が覚えておく。自主性、積極性のある意識の高い者を希望する。</p>	授業計画	1 授業登録の確認と授業内容の説明。 個人資料の作成。
	2 準備体操と実施上の注意。用具の準備と片付けの指示。 ゲームを行う。		
	3 個人の戦術、2対1の攻守。		
	4 個人の戦術、2対1の攻守。		
評価方法	出欠状況、授業態度を中心として、技能の向上、ゲームの結果、レポート等を加味して評価。レポートは2回提出。		5 個人の戦術、4対4の攻守。
			6 個人の戦術、4対4の攻守。 レポート提出。
テキスト参考文献			7 個人の戦術、4対4の攻守。
			8 個人の戦術、4対4の攻守。
			9 主審・副審をつけてリーグ戦を行い記録をとる。
			10 主審・副審をつけてリーグ戦を行い記録をとる。
			11 主審・副審をつけてリーグ戦を行い記録をとる。
			12 レポート提出。リーグ戦を行い記録をとる。

科目名		担当者	
-----	--	-----	--

科目名		担当者	
-----	--	-----	--

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1 体を慣らせるための練習ゲームをする。
			2 2対1の攻守。
			3 2対1の攻守。
			4 3対2の攻守。
評価方法	同		5 3対2の攻守。
			6 4対4の攻守。 レポート提出。
テキスト参考文献			7 4対4の攻守。
			8 主審・副審をつけてリーグ戦を行い記録をとる。
			9 主審・副審をつけてリーグ戦を行い記録をとる。
			10 主審・副審をつけてリーグ戦を行い記録をとる。
			11 主審・副審をつけてリーグ戦を行い記録をとる。
			12 レポート提出。

科目名	サッカー	担当者	檜山 康
-----	------	-----	------

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>[講義の目標] スポーツには、歴史的、系統的に発展してきた種目独自の運動文化が存在する。運動文化としてのルール、戦術、それらをとりまく社会環境というものは、人間が長い歴史の中で試行錯誤を重ねながら作り上げてきた。この授業では、サッカーを学びながら、独自の運動文化に触れ、サッカー本来の楽しさに触れることを目標としたい。</p> <p>[講義概要] ゲームを中心にやっていくが、その準備段階において技術、戦術を発展させられるようなハンドリングゲームや予備ゲームをとりいれていく。つまり技術、戦術を個別に取り出して練習するのではなく、常にゲームを意識して、ゲーム形式の中で実際に体を動かして学習してもらいたいと考えている。また参加者の意見を積極的に出してもらい、有効なゲームの進め方について考える場にしたいと思っている。[受講者への要望] 1. 遅刻はしないようにする。特にチームで行動するので他人に迷惑がかかる。2. 服装はスポーツのできるものを身につけること。3. アクセサリー、ピアスは外すこと。</p>	授業計画	1 オリエンテーション。
			2 ボールに慣れること。試しのゲーム。
			3 3対3もしくは4対4のゲーム。パスとサポート。
			4 4対4もしくは5対5のゲーム。パスとサポート。
			5 5対5もしくは6対6のゲーム。3人目の動き。
			6 7対7もしくは8対8のハーフコートゲーム。3人目の動き。攻撃のリズム。
			7 8対8もしくは9対9のハーフコートゲーム。プレッシャーのかけ方。
			8 10対10もしくは11対11の4分の3コートでのゲーム。プレッシャーのかけ方。
			9 10対10もしくは11対11の4分の3コートでのゲーム。プレッシャーのかけ方と全体の動き。
			10 フルコートでのゲーム。リーグ戦。
			11 フルコートでのゲーム。リーグ戦。
			12 フルコートでのゲーム。リーグ戦。
			評価方法
テキスト参考文献			

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1 ポストプレーについて①。
			2 ポストプレーについて②。
			3 ポストプレーからの展開について①。
			4 ポストプレーからの展開について②
			5 ポストプレーを使って攻撃のリズムを作ることについて。
			6 攻撃のリズムを作りながら、展開を変えていくことについて。
			7 攻撃の幅について。
			8 ポジションとシステムについて。
			9 チームごとの課題練習。リーグ戦①。
			10 リーグ戦②
			11 リーグ戦③
			12 リーグ戦④
			評価方法
テキスト参考文献			

科目名	サッカー	担当者	松本光弘
-----	------	-----	------

科目名		担当者	
-----	--	-----	--

科目名		担当者	
-----	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p><b>[講義の目標]</b> サッカーの技術、戦術を中心に学習し、ゲームを通して活動量を確保し体力の向上を目標とする。内容的にはより高度なレベルを追求したく、サッカーが特に得意又は好きという学生の参加を希望する。又、自主的にチームを作り活動ができるよう主体的な学習ができるようになることも目標とする。</p> <p><b>[講義概要]</b> サッカーの技術及び戦術を各時間学習し、そのまとめとして毎時間ゲームを行う。雨天時には体育館でミニサッカーを行うか、教室にてVTRを利用した講義を行う。</p> <p><b>[受講者への要望]</b> ゴム底のスパイクシューズ、ストッキング、ショートパンツの用意を希望する。</p>	授業計画	1 オリエンテーション
			2 体力測定、技能測定、簡単なゲーム
			3 技術練習とハーフゲーム
			4 "
			5 "
			6 ルールの解説（雨天時に割り当てる）
			7 個人戦術とハーフゲーム又はフルゲーム
			8 "
			9 "
			10 グループ戦術とハーフゲーム又はフルゲーム
評価方法	出席状況を重視し、平常の授業態度及び技能の進捗度を含め総合的に評価する。		11 "
テキスト参考文献	「サッカースキル（技術と戦術）」松本光弘著 「サッカーのテクニック」スピンドラー著		12 サッカーの歴史（雨天時に割り当てる）

科目名		担当者	
-----	--	-----	--

科目名		担当者	
-----	--	-----	--

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1 グループ戦術とハーフゲーム又はフルゲーム
			2 "
			3 "
			4 特殊戦術とフルゲーム
			5 "
			6 グループ戦術、チーム戦術とフルゲーム
			7 "
			8 "
			9 "
			10 "
			11 "
			12 フルゲーム、評価

評価方法	同
------	---

テキスト参考文献	同
----------	---

科目名	スポーツエクササイズ	担当者	梶野克之
-----	------------	-----	------

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p><b>[講義の目標]</b> 心身ともに健康な生涯を送るためには、積極的な身体運動が必要な時代を向えている。日常生活の中に能動的な活動を取り入れる態度を養い、真に健康な生活を視野に入れた考え方を確立したい。健康であるための諸条件である運動・食事・環境なども考え、適正な運動量を設定して実行できるようにする。</p> <p><b>[講義概要]</b> 自己の体力の現状を認識し、その段階的な向上を目標に、生涯を通しての健康を意識してトレーニング・プログラムを作成する。スポーツ実践やトレーニング目標を設定して、体力の向上をはかり、定期的に行う。体力測定の意義を理解し、その経過の変化の意味を考え、全体的な体力について考える。</p>	授業計画	1 オリエンテーション
			2 トレーニングルームの使い方 体力測定・体力診断について
			3 トレーニングの理論と実践 筋力について(1)
			4 トレーニングの理論と実践 筋力について(2)
評価方法	出席回数、授業への参加態度、トレーニングの達成度等によって決定する。		5 トレーニングの理論と実践 筋力について(3)
			6 トレーニングの理論と実践 最大酸素摂取量について(1)
テキスト参考文献	[参考文献]『トレーニングの科学的基礎』 宮下充正 ブックハウスHD		7 トレーニングの理論と実践 最大酸素摂取量について(2)
			8 トレーニングの理論と実践 最大酸素摂取量について(3)
			9 トレーニングの理論と実践 筋持久性について(1)
			10 トレーニングの理論と実践 筋持久性について(2)
			11 トレーニングの理論と実践 筋持久性について(3)
			12 体力測定及び評価

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1 トレーニングの理論と実践 食事について(1)
			2 トレーニングの理論と実践 食事について(2)
			3 トレーニングの理論と実践 食事について(3)
			4 体力測定及び評価
			5 トレーニングの理論と実践 心拍数について(1)
			6 トレーニングの理論と実践 心拍数について(2)
			7 トレーニングの理論と実践 心拍数について(3)
			8 トレーニングの理論と実践 歩行について(1)
			9 トレーニングの理論と実践 歩行について(2)
			10 トレーニングの理論と実践 ジョギングについて(1)
			11 トレーニングの理論と実践 ジョギングについて(2)
			12 体力測定及び評価
評価方法	同		
テキスト参考文献	同		

科目名	ソフトボール	担当者	池 垣 功 一
-----	--------	-----	---------

科目名		担当者	
-----	--	-----	--

科目名		担当者	
-----	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p><b>[講義の目標]</b> 正しいソフトボールの理解と、技術を体得するとともに、チームプレーを通して人間性を養う機会とし、さらに、生涯体育の一環として、楽しく実践していく態度を身につける。</p> <p><b>[講義概要]</b> 前半は個人技術中心の練習内容とし、後半からチームを編成して、チームごとの練習ならびに試合に移る。</p> <p><b>[受講者への要望]</b> 雨天時およびグラウンド・コンディションの悪い時には、教室内でのビデオによる学習または空いている体育施設での実施に切り替えることがある。</p>	授業計画	1 年間スケジュールおよび履修上の諸注意 ソフトボールの特質、ルール等について説明	
	評価方法		評価は、出席点に技能点（態度・努力・服装等）を加味して行なう	2 キャッチボール（ソフトボールに適したボールの握り方、フォーム）ピッチング（スリングショット投法）
				3 ピッチング（スリングショット投法の復習およびウィンドミル投法） トスバッティング
テキスト参考文献			4 ピッチング（各種投法の復習） ハーフバッティング	
			5 守備練習（基本的なゴロと飛球の捕り方） フリーバッティング	
			6 守備練習（各ポジションの守備方法） シートノック	
			7 ベースランニングとスライディングの練習 バント練習（内野手の連携プレー）	
			8 シートノックによる守備練習（ダブルプレーの練習） ゲーム形式のバッティング練習	
			9 審判の方法についての説明 チームの編成(1)（ポジション・打順を決める）練習試合	
			10 チーム練習（試合前の、シートノック） 試合 A～B、C～D	
			11 チーム練習（トスバッティング） 試合 A～C、B～D	
			12 チーム練習（バント） 試合 A～D、B～C	

科目名		担当者	
-----	--	-----	--

科目名		担当者	
-----	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p><b>[講義の目標]</b> 正しいソフトボールの理解と、技術を体得するとともに、チームプレーを通して人間性を養う機会とし、さらに、生涯体育の一環として、楽しく実践していく態度を身につける。</p> <p><b>[講義概要]</b> 試合を主とした展開となるが、適宜、チームごとにテーマを決めたチーム練習を加える。</p> <p><b>[受講者への要望]</b> 雨天時およびグラウンド・コンディションの悪い時には、教室内でのビデオによる学習または空いている体育施設での実施に切り替えることがある。</p>	授業計画	1 総合的練習(1) 審判方法の復習	
	評価方法		評価は、出席点に技能点（態度・努力・服装等）を加味して行なう。	2 総合的練習(2) スコアブックのつけ方についての説明
				3 チーム編成(2)（以下、各々試合3回ごとに編成をかえる） 練習試合
テキスト参考文献			4 チーム練習（毎週、チームごとにテーマを決めて実施する。以下同じ） 試合 E～F、G～H	
			5 チーム練習 試合 E～G、F～H	
			6 チーム練習 試合 E～H、F～G	
			7 チーム編成(3) チーム練習 試合 I～J、K～L	
			8 チーム練習 試合 I～K、J～L	
			9 チーム練習 試合 I～L、J～K	
			10 チーム編成(4) チーム練習 試合 M～N、O～P	
			11 チーム練習 試合 M～O、N～P	
			12 チーム練習 試合 M～O、N～P	

科目名	ソフトボール	担当者	太田朝博
-----	--------	-----	------

科目名		担当者	
-----	--	-----	--

科目名		担当者	
-----	--	-----	--

講義目的および講義概要	<p><b>[講義の目標]</b> ソフトボールは、走る、投げる、打つ等の運動の基本的要素を持ち、スピード、正確さ、力、機敏さ、注意力、判断力、勇気等を基礎としたスポーツである。その基本技術を身につけ、互いに協力し合い、安全にスポーツを楽しむながら、体力の維持、増進の一助とすることを目標に行なう。</p> <p><b>[講義概要]</b> 個人的技能と集団的技能を交互に繰り返し、正しいスローイング、バッティング、キャッチングを身につけ、チームプレーに於ける連携プレーの習得を目指し授業を展開し、ゲームを通し攻守のプレーを個々に確認していく。</p>	授業計画	1 オリエンテーション	
	評価方法		出席点、授業態度、技能の進歩などを、総合的に評価。・欠席回数4回以上の者は、評価外。	2 個人的技能 基本技能 キャッチング
				3 スローイング 1対1での正確な技能の修得 バッティング ノックとトスバッティング
テキスト参考文献			4 フリーバッティング キャッチングとスローイング、 バッティングをしっかり身につける	
			5 ピッチング	
			6 集団的技能 連携プレー 攻撃=バント及びヒットエンドラン	
			7 タッチアッププレー 守備=フォースプレー	
			8 ダブルプレー バントの処理と各野手の動き	
			9 カバーリング あらゆるプレーに対するフォーメーション	
			10 ルールの解説とスコアのつけ方 (ワンプレーに対する判定法)	
			11 簡易ゲーム 簡易なゲームを通し事前に練習したプレーの確認とルールの習得。	
			12 簡易ゲーム 簡易なゲームを通し事前に練習したプレーの確認とルールの習得。	

科目名		担当者	
-----	--	-----	--

科目名		担当者	
-----	--	-----	--

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1 個人技能 ゲーム・チーム間の力量の差が大きくなるようにチーム編成し、リーグ戦を行なう。
			2 キャッチボールトス、フリーバッティング、ピッチング・簡単なスコアをつけ個々の成績を集計する。
			3 "
			4 "
			5 "
			6 "
			7 "
			8 "
			9 "
			10 "
			11 "
			12 "
評価方法	同		
テキスト参考文献			



科目名	ソフトボール	担当者	田代力也
-----	--------	-----	------

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p><b>[講義の目標]</b> ソフトボールの基礎、応用練習、ゲームを通して体力、運動能力の向上をめざす。チームゲームの中で協調性をたかめる。</p> <p><b>[講義概要]</b> 年間授業計画の週毎の内容については個別に取上げて行うものと、できる限り毎週、ゲーム型式を取入れることによって練習効果をたかめるものとの両面で展開する。ビデオ使用は予備日（雨天等）を含めて適時、週に繰入れる。</p> <p><b>[受講者への要望]</b> ゲームを中心に進めるので、特に遅刻は自他ともに大きなマイナス行為となる。この点注意が必要。</p>	授業計画	1 オリエンテーション ビデオ教材を使用しての導入部
			2 "
			3 投球、捕球の基礎
			4 投球、捕球の応用
			5 バッティングの基礎
			6 バッティングの応用
			7 チームプレイ
			8 "
			9 ゲーム
			10 "
評価方法	出席状況、参加態度と技術、体力、運動能力の上昇度等を総合的に評価する。		11 予備
テキスト参考文献			12 "

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1 ビデオ教材を使用してのゲーム分析
			2 "
			3 週毎の課題の中でゲーム
			4 "
			5 "
			6 "
			7 "
			8 "
			9 "
			10 "
評価方法	出席状況、参加態度と技術、体力、運動能力の上昇度等を総合的に評価する。		11 予備
テキスト参考文献			12 "

科目名	ソフトボール	担当者	萩野元祐
-----	--------	-----	------

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p><b>[講義の目標]</b> 基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。</p> <p><b>[講義概要]</b> 初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。</p> <p><b>[受講者への要望]</b> 技術力はともかくとして、ソフトボールに興味があり真剣に取り組み、そして楽しんでもらいたい。</p>	授業計画	1 オリエンテーション 登録の確認と授業内容の説明。個人資料の作成など。
			2 ソフトボールの特性、基本的ルールなどの説明。個人的技能練習。ボールの握り方、送球、捕球の基本練習
			3 前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。
			4 バッティング練習（握り方、スタンス、位置、構え方、などの練習。独自ルールでのゲーム実施。
			5 前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。
			6 前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。
			7 バンド練習。（グリップ、スタンス、セフティバンド） 独自ルールでのゲーム実施。
			8 前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。
			9 守備における送球、捕球（ゴロ、フライ）練習。 独自ルールでのゲーム実施。
			10 前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。
			11 投手のボールの握り方と投球練習。 ゲーム実施。
			12 前回の復習。 ゲーム実施。
			13 前回の復習。 ゲーム実施。
評価方法	出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席時数 4 回以上の者は評価の対象としない。		
テキスト 参考 文献			

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1 復習。 4 チームによるリーグ戦（1）
			2 復習。 4 チームによるリーグ戦（2）
			3 集団技能（守備）、リレープレーを練習。 4 チームによるリーグ戦（3）
			4 前回の復習。 4 チームによるリーグ戦（4）
			5 前回の復習。 4 チームによるリーグ戦（1）
			6 前回の復習。 4 チームによるリーグ戦（2）
			7 ダブルプレイの練習。 4 チームによるリーグ戦（3）
			8 前回の復習。 4 チームによるリーグ戦（4）
			9 チームによるリーグ戦（1）
			10 チームによるリーグ戦（2）
			11 4 チームによるリーグ戦（3）
			12 4 チームによるリーグ戦（4）
評価方法	同		
テキスト 参考 文献			

科目名	卓球	担当者	奥野忠枝
-----	----	-----	------

科目名		担当者	
-----	--	-----	--

科目名		担当者	
-----	--	-----	--

講義目的および講義概要	[講義の目標] 卓球という球技をとおして、技術の向上はもとより、ゲームをたのしみながら、ルール、試合方法、審判法を学ぶ。 ダブルス競技においては、チームワークを体験することによって、協力の態度を養う。	授業計画	1 授業登録の確認 授業内容の説明と諸注意 個人資料の作成
	2 競技場と用具について（準備と片付け方） ラケットの種類、持ち方		
	3 ボールの打ち方 ラリーの連続を行う。 ミニ試合		
			4 サービス、レシーブの練習 ミニ試合
			5 バックハンド フォアハンドの練習 シングルの試合方法と試合
			6 サービスについて ボールの回転とラケットの動きを 練習 シングルス試合
			7 審判法について学ぶ
			8 ダブルス競技のルールを学ぶ ダブルスミニ試合
			9 グループでリーグ戦形式のダブルス試合
			10 上記に同じ
評価方法	評価は出席点を重視し、平素の授業態度、技能の進歩を加味し実施する。欠席は届け出ること。		11 シングルス試合
テキスト参考文献			12 まとめ シングルス試合

科目名		担当者	
-----	--	-----	--

科目名		担当者	
-----	--	-----	--

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1 復習 基本の動き シングルス試合。
			2 カットについて学ぶ シングルス試合
			3 マナーについて 悪いマナー 良いマナー
			4 ダブルスの作戦とパートナーとの動きについて
			5 グループでダブルスの試合
			6 上に同じ
			7 上に同じ
			8 上に同じ
			9 シングルのトーナメント試合
			10 シングルス ダブルスにわかれて試合
			11 総復習
			12 総復習と反省

評価方法	同
------	---

テキスト参考文献	
----------	--

科目名	卓球	担当者	本田 稔 祐
-----	----	-----	--------

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p><b>【講義の目標】</b> 敏捷性・集中力を養い、基本技術を習得して、簡単なルール、審判、ゲームの進め方などを学び、将来も卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の維持増進にも貢献できること。</p> <p><b>【講義概要】</b> 基本的練習や簡易ゲームで能力別グループ編成をして、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや、卓球についての知識も習得する。</p> <p><b>【受講者への要望】</b> 欠席、遅刻をしないこと、運動服、上靴を用意すること。少しでも上達できるよう努力すること。ラケットはできれば個人で用意するように。</p>	授業計画	1 授業内容の説明と個人資料カード作成（写真を必ず用意すること）
			2 用具の準備、片付けの仕方と基本知識、動作などについて
			3 能力別グループ編成と、構え、フットワークなどの基本練習
			4 フォアハンド・ロング、バックハンドショート・簡易ゲーム
			5 バックハンド・ロング、ショートカット簡易ゲーム
			6 サーブ・レシーブ、能力別グループ内でのシングルスゲーム
			7 カット・スマッシュ、シングルスゲーム
			8 ダブルスゲームの進め方、ダブルスゲーム
			9 ダブルスゲーム
			10 ダブルスゲーム
評価方法	出席点、平常点、技能点の3つで行う。(出席点は無欠席は特A、欠席1回A、欠席2回B、欠席3回C、欠席4回以上はFとする。平常点は遅刻、服装などで行い、技能点は進歩の度合で行う)		11 シングルス・トーナメント戦
テキスト参考文献	『指導者のための卓球』Ⅰ.Ⅱ.Ⅲ. 倉木常夫他著 不昧堂出版 他		12 シングルス・トーナメント戦

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p><b>【講義の目標】</b> 敏捷性・集中力を養うとともに、基本技術を応用して、ルール、審判、ゲームの進め方などを学び、将来も卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の維持増進にも貢献できること。</p> <p><b>【講義概要】</b> シングルスゲームで能力別グループ編成をして、シングルス、ダブルスゲームを始め、団体戦なども行い、卓球の面白さや、卓球についての知識も習得する。</p> <p><b>【受講者への要望】</b> 欠席、遅刻をしないこと、運動服、上靴を用意すること。少しでも上達できるよう努力すること。ラケットはできれば個人で用意するように。</p>	授業計画	1 チーム編成とチーム内シングルス・リーグ戦
			2 キャップ・マネージャーなどの選出とシングルス・リーグ戦。
			3 チーム対抗戦1
			4 チーム対抗戦2
			5 チーム対抗戦3
			6 チーム対抗戦4
			7 抽選によるシングルス・予選リーグ戦
			8 シングルス・予選リーグ戦
			9 決勝リーグ戦
			10 決勝リーグ戦
評価方法	同		11 ダブルス・トーナメント戦
テキスト参考文献	同		12 技能テスト

科目名	バスケットボール	担当者	勝 瀬 武
-----	----------	-----	-------

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p><b>[講義の目標]</b>          体育実技は実習であるから積極的に参加し、自ら活動する意欲をもって、体力の維持増進に努めてもらいたい。また、バスケットボールの授業を通して、社会性、協調性、公正な判断やルールを遵守する態度を学んでほしい。</p> <p><b>[講義概要]</b>          バスケットボールのルールを正確に把握し、基本技術を習得することによって、楽しくゲームが出来るようにする。また、ゲーム時には、各チームから審判、得点係等を出し、試合の進行を助け合う。          個人のレベルアップとともに試合運び等を研究し、チーム全体の技術の向上を目標に努力する。</p> <p><b>[受講者への要望]</b>          バスケットボールを行うのにふさわしい服装で出席すること。</p>	授業計画	1 オリエンテーション
			2 基本練習 (パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート)
			3 基本練習 (パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート)
			4 セットオフェンス (ハーフコートにおける 3対2)
	5 セットディフェンス (ハーフコートにおける 5対5)		
	6 オールコートにおける試合 (班分けをする)		
	7 オールコートにおける試合 (班分けをする)		
	8 リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう)		
	9 リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう)		
	10 リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう)		
	11 リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう)		
	12 リーグ戦開始 (試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう)		
評価方法	出席、受講態度を重視し、欠席回数が授業時数の1/3を超した者は不合格とする。		
テキスト参考文献			

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1 リーグ戦前の予備試合 (リーグのためにチームの再編成)
			2 リーグ戦前の予備試合 (リーグのためにチームの再編成)
			3 リーグ戦開始 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)
			4 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)
			5 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)
			6 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)
			7 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)
			8 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)
			9 リーグ戦 (試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める)
			10 リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。
			11 リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。
			12 リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。
			評価方法
テキスト参考文献			

科目名	バドミントン	担当者	太田朝博
-----	--------	-----	------

科目名		担当者	
-----	--	-----	--

科目名		担当者	
-----	--	-----	--

講義目的および講義概要	[講義の目標] バドミントンの特性である①性別・年齢を問わず技能レベルに応じて誰でも手軽に楽しめる生涯スポーツとして最適、②シャトルから生まれるスピードの緩急や特殊な飛び方の変化に対応するための身体的能力(敏捷性・瞬発力・全身持久力など)が必要、③空中でとらえる、空間感覚の重要性、④相手の動き、シャトルの飛び方に応じた作戦の工夫、判断力、そしてパートナーとの協調性、これらの特性を基本的なプレーの練習を通して、身につける。	授業計画	1 オリエンテーション、年間授業計画の説明、次回から開始する実技実施上の諸注意、連絡事項の確認。
	[講義概要] バドミントンに関する基本的なルールや技術について理解する。手の延長としてのラケットを使用した各種のストロークを身につける。シングルス・ダブルスの試合の実施を通して、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。ゲームの中で練習した技術が生かせるようにするとともに、試合中に生じた疑問を克服してよりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して進んで審判をつとめるとともに、全体的な試合の進行状況にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける。		2 バドミントンの全般的な説明。コート、ラケット、シャトル等の説明。グリップと、ストロークを学ぶ
			3 基本的技術ストローク ・オーバーヘッド・サイドアーム・アンダーハンド
			4 基本的技術○フットワーク フライトの理解 ○ ラケットワークとフライト (クリアー・ドライブ)
			5 身につけた技術を実際のゲームで使えるようにする。 ○ロングサービス、ショートサービス、ショートサービス
			6 " "
			7 " "
			8○いろいろなフォーメーション○基本的技術の復習 簡単なゲーム (シングルス) 審判法の習得
			9 前回までの復習
			10 前回までの復習
			11 前回までの復習
			12 前回までの復習

評価方法	出席点を評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席4回以上の者に対しては、評価外。
------	---

テキスト参考文献	
----------	--

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1 グループ別でのシングルのリーグ戦 毎回基本的技術の復習
			2 " "
			3 " "
			4 " "
			5 " "
			6 シングルの決勝リーグ戦
			7 " "
			8 " "
			9 ダブルスのリーグ戦
			10 " "
			11 " "
			12 " "

評価方法	同
------	---

テキスト参考文献	
----------	--

科目名	バドミントン	担当者	梶野克之
-----	--------	-----	------

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p>[講義の目標] ラケットとシャトルを使用してプレーするバドミントン競技を種目として取り上げ、バドミントンの基本的なプレーを練習を通して身につける。シングルス、ダブルスの試合方法を理解して実践できるようにし、審判法についても十分に理解を深める。</p> <p>[講義概要] バドミントンに関する基本的なルールや技術について理解する。シングルス・ダブルスの試合の実施を通して、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。ゲームの中で練習した技術が生かせるようにするとともに、よりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して、進んで審判をつとめる。</p>	授業計画	1 年間授業計画の説明と、次回から開始する実技実施上の諸注意ならびに連絡事項の確認をする。	
	評価方法		評価は、出席回数、授業への参加態度、実技の達成度等によって決定する。	2 バドミントン競技の全般的な説明を行う。ネットをはさんでクリヤーの基本を練習する。
			テキスト参考文献	[参考文献]・相沢マチ子『やさしいバドミントンレッスン』、ベースボールマガジン社
4 クリヤー・ドロップの復習をする。ネット近くにコントロールするヘアピンの練習をする。				
5 各種のストロークを復習する。アンダーハンドから打つサーブの基本を練習する。				
6 縦半分で片面シングルスのカウントを取って実施し、前後の動きを学ぶ。				
7 前回の片面シングルスを行い、審判法について理解し進んで審判を行う。				
8 ドライブの基本を学び、全面を使用した正規のシングルのゲームを実施する。				
9 スマッシュの基本を学び、スピードのあるシャトルに慣れる。シングルスゲームを実施する。				
10 各種ストロークを練習する。ダブルスの基本を理解し、試合形式のダブルスを実施する。				
11 ダブルスのルールを理解し、試合を実施すると同時に、審判法の理解を深める。				
12 いくつかのグループによるリーグ戦を実施する。試合及び審判が円滑に進行するようにする。				
13 総あたりのリーグ戦。				

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1 基本的なストロークを復習しダブルスの試合方法と、審判法を確認し、試合を実施する。	
			2 ダブルスのパートナーを決め、いくつかのグループによりリーグ戦を再開する。	
			3 ダブルスの基本的なフォーメーションを確認し、ゲームの中で生かせるようにする。	
評価方法	同		4 ゲーム結果を分析し問題点を整理する。ダブルスゲームを実施する。	
			5 ゲームの進行状態を確認し、組み合わせを変えてリーグ戦を進める。	
テキスト参考文献	同		6 ダブルスゲームを進行し、練習した課題がゲームの中で使えるように質を高める。	
			7 ダブルスゲームを進行し、ゲームのおもしろさを理解し、進んでゲーム・審判を行う。	
			8 試合の中で課題の克服に努める。パートナーと相談しながらより高いレベルのゲームを心掛ける。	
			9 ゲームの中での問題点を集中して練習する。進行状況により、パートナー・組み合わせを考える。	
			10 ゲームの中で相手プレイヤーの動きに合わせたプレーの練習をする。	
			11 ゲームを進行し、ゲーム・審判ともに全員が進んで実行するようにする。	
			12 ゲームの進行を確認し、勝敗・順位などについて整理する。この授業のまとめをする。	

科目名	バレーボール	担当者	小川 又八郎
科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p><b>[講義の目標]</b> 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、技能を高め、戦術を考えバレーボールの特性をゲームで味わえるようにする。</p> <p><b>[講義概要]</b> バレーボールのルールを理解し、個人的及び集団的技能を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。</p> <p><b>[受講者への要望]</b> 出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする、体育館用シューズを用意すること。</p>	授業計画	1 オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成。
			2 基本技と動き（アンダー オーバー）、パスゲーム1。
			3 レシーブとトス（ボールのつなぎ）、パスゲーム2。
			4 レシーブとカバーリング（守りのフォーメーション）、パスゲーム3。
			5 基本技と動き（アンダー フローターサーブ）サーブレシーブ 基本技と動き攻撃の組立、ミニゲーム1。
			6 基本技と動き（スパイク）攻撃の組立、スパイクを含んだミニゲーム2。
			7 チーム編成 サブレシーブのフォーメーション サブレシーブからの攻撃、スパイクを含んだゲーム。
			8 ゲーム、6チームによるリーグ戦。
			9 上記と同じ。
			10 上記と同じ。
			11 上記と同じ。
			12 上記と同じ。まとめテスト
評価方法	出席点を中心にして評価し授業態度、技能の進歩などを加味する。欠席時数4回以上の者は、対象外。		
テキスト参考文献	『スポーツ・人間・社会』ライナー・マートンズ ベースボール・マガジン社『人と人之間』木村敏 弘文堂		

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1 チーム編成（スターティングポジションと攻守のフォーメーション）。
			2 上記と同じ。
			3 サブレシーブからの攻撃の組立、スパイクを含んだゲーム。
			4 上記と同じ。
			5 スパイクレシーブ、スパイクを含んだゲーム。ゲーム記録、チーム（特に攻撃スパイク サーブ）
			6 上記と同じ。
			7 上記と同じ。
			8 ゲーム（リーグ戦）記録、チーム（特に守りレシーブ ブロック）。
			9 上記と同じ。
			10 ゲーム（リーグ戦）記録、攻撃の組立能力、ゲームの評価と練習課題。
			11 上記と同じ。
			12 ゲームの攻防を通して攻撃貢献度をテストする。ルールやセオリー 審判法など知的理解度をテストする。
評価方法	同		
テキスト文献	同		



科目名	フットサル	担当者	松原 裕
-----	-------	-----	------

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p><b>【講義の目標】</b> 運動を通じて、第1番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第2番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第3番目には、生涯に渡る健康観の構築、第4番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。</p> <p><b>【講義概要】</b> フットサルを教材とする。フットサルのスピーディーな攻守の切替の中で自然に瞬間的な判断と行動を繰り返し行い、身に付ける。フットサルの試合のルールを十分に理解し、プレーヤーとして、審判として、コーディネーターとして、と関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから応用的なことまでをビルドアップしていく。</p>	授業計画	1 オリエンテーション 個人票の作成 授業実施上の諸注意
			2 受講決定の確認と個人票の写真提出 トレーニングゲームの講習と登録 授業実施場所の確認
			3 ボールコントロール
			4 簡易のゲーム
			5 "
			6 競技規則、審判法の理解
			7 正規のゲーム
			8 "
			9 ポジションの理解
			10 正規のゲーム
評価方法	毎時間の出席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。		11 "
テキスト参考文献	必要に応じて紹介する。		12 "
			13 "

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1 トレーニングルームでの体力測定
			2 ボールコントロール
			3 簡易のゲーム
			4 班分け・班別練習
			5 リーグ戦①
			6 リーグ戦②
			7 リーグ戦③
			8 リーグ戦④
			9 リーグ戦⑤
			10 リーグ戦⑥
			11 リーグ戦⑦
評価方法	同		12 リーグ戦⑧
テキスト参考文献	同		

科目名	フットサル	担当者	田代力也
-----	-------	-----	------

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p><b>[講義の目標]</b> フットサルの基礎、応用練習、ゲームを通して体力、運動能力の向上をめざす。チームゲームの中で協調性をたかめる。</p> <p><b>[講義概要]</b> 年間授業計画の週毎の内容については、個別に取上げて行うものと、できる限り毎週、ゲーム形式を取入れることによって練習効果をたかめるものとの両面で展開する。ビデオ使用は、予備日を含めて適時、週に繰入れる。</p> <p><b>[受講者への要望]</b> ゲームを中心に進めるので、特に遅刻は自他ともに大きなマイナス行為となる。この点注意が必要。</p>	授業計画	1 オリエンテーション
			2 ビデオ教材を使用する導入部
			3 "
			4 キックの基礎
			5 "
			6 キックの応用
			7 "
			8 コンビネーションプレイ
			9 "
			10 "
評価方法	出席状況、参加態度と技術、体力、運動能力の上昇等を総合的に評価する。		11 ゲーム
テキスト参考文献			12 "
			13 予備

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1 ビデオ教材を使用してゲーム分析
			2 "
			3 週毎の課題の中でゲーム
			4 "
			5 "
			6 "
			7 "
			8 "
			9 "
			10 "
評価方法	同		11 予備
テキスト参考文献			12 "

科目名	フリスビー	担当者	和田 智
-----	-------	-----	------

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p><b>[講義の目標]</b> フリスビーは商標名です。一般名はフライングディスクです。このディスクを使用したスポーツの技術を習得し、アルティメット、ガッツ、ディスクゴルフなど特徴的な種目を体験する。各個人が日常で友人や恋人に教えたり、家族とじゅうぶん楽しめるだけの実力をつけることを目標とします。</p> <p><b>[講義概要]</b> フライングディスクスローイングの基本テクニックから、応用テクニックまでを習得します。またそれを利用したいくつかの種目を体験します。種目の中心は、アルティメットというアメリカンフットボールのようなルールで行うスポーツ種目です。身体接触はありませんから、安全です。あまり聞いたことがないでしょうが世界選手権大会も行われるほど海外では普及しているスポーツです。学生の進歩状況・天候によって授業計画は変えていきます。雨天の場合は別の種目を行います。</p>	授業計画	1 オリエンテーション フライングディスクとは
			2 バックハンドスローとサイドアームスロー
			3 バックハンドスローとサイドアームスロー
			4 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーション
			5 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーション
			6 ディスクゴルフ
			7 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーション
			8 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーションゲームの導入
			9 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーションゲームの導入
			10 ガッツ
評価方法	出席と受講態度、技術の向上度。		11 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーションゲームの導入
テキスト参考文献	<b>[テキスト]</b> 必要に応じて印刷物を配布します。		12 バックハンドスローとサイドアームスローから、バリエーションゲームの導入

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p><b>[講義の目標]</b> フリスビーは商標名です。一般名はフライングディスクです。このディスクを使用したスポーツの技術を習得し、アルティメット、ガッツ、ディスクゴルフなど特徴的な種目を体験する。各個人が日常で友人や恋人に教えたり、家族とじゅうぶん楽しめるだけの実力をつけることを目標とします。</p> <p><b>[講義概要]</b> フライングディスクスローイングの基本テクニックから、応用テクニックまでを習得します。またそれを利用したいくつかの種目を体験します。種目の中心は、アルティメットというアメリカンフットボールのようなルールで行うスポーツ種目です。身体接触はありませんから、安全です。あまり聞いたことがないでしょうが世界選手権大会も行われるほど海外では普及しているスポーツです。学生の進歩状況・天候によって授業計画は変えていきます。雨天の場合は別の種目を行います。</p>	授業計画	1 後期授業についてのオリエンテーションとアルティメットについての説明
			2 アルティメットのためのトレーニングとゲーム
			3 アルティメットのためのトレーニングとゲーム
			4 アルティメットのためのトレーニングとゲーム
			5 アルティメットのためのトレーニングとゲーム
			6 アルティメットのためのトレーニングとゲーム
			7 アルティメットのためのトレーニングとゲーム
			8 チーム編成とリーグ戦
			9 リーグ戦
			10 リーグ戦
評価方法	出席と受講態度、技術の向上度。		11 リーグ戦
テキスト参考文献			12 リーグ戦 まとめ

科目名	ボールルームダンス	担当者	青柳多恵子
-----	-----------	-----	-------

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	<p><b>[講義の目標]</b>          ボールルームダンス（社交ダンス）とは、音楽にのって歩く（二人で）ことなのです。日常の話す・聴く・動くといった中に音楽にのって動くこと、目の前にいる人とコミュニケーションをステップという言葉で計ることなのです。太古の時代から人間は踊りを嗜んでいたことを思い起こし、ごく自然にダンス言語を駆使した時の楽しさを知って貰うことです。</p> <p><b>[講義概要]</b>          ここでは歩く事が基本。前に・後ろに、ゆっくり・速く・音楽に添ってと何回も繰り返しステップをする。言語と同様に繰り返す事が大切。一番難しいのは、右・左・右と交互に音楽にあわせて歩く事。憶えた事が脳と筋肉運動を連結させ、自然と心理的身体的充足感をもたらすもので、ストレスの知的解消法の一つであり、生涯スポーツとしての基礎として、健康に寄与することができます。</p>	授業計画	1 オリエンテーション ガイダンス ダンスのVTR・班分け
	2 ストレッチ・ダンスウォーキング ステップI・スタンダード		
	3 ステップI・スタンダード ワルツのステップ		
評価方法	出席		4 ステップII・Sベーシック NT・RTと音楽
テキスト参考文献	プリント配布		5 ステップII・Sベーシック ホールドの意味と必要性
			6 ステップIII・Rベーシック リズムとバランス
			7 ステップIII・Rベーシック CHA・CHAステップ
			8 ステップIV・Sベーシック クイックステップ
			9 ステップIV・Sベーシック Q・リズム遊び（ジルバ）
			10 ステップV・R・S 表現する事
			11 ステップV・R・S 楽しむ事
			12 ダンスを楽しく マナー・パーティーについて

科目名		担当者	
科目名		担当者	

講義目的および講義概要	春学期に同じ	授業計画	1 ガイダンス ダンスのVTR・班分け
			2 ストレッチ・ダンスウォーキング ステップI・スタンダード
			3 ステップI・スタンダード ワルツのステップ
評価方法	出席		4 ステップII・Sベーシック NT・RTと音楽
テキスト参考文献	プリント配布		5 ステップII・Sベーシック ホールドの意味と必要性
			6 ステップIII・Rベーシック リズムとバランス
			7 ステップIII・Rベーシック ジャイブ・ステップ
			8 ステップIV・Sベーシック クイックステップ
			9 ステップIV・Sベーシック Q・リズム遊び（レンバ・マンボ）
			10 ステップV・R・S 表現する事
			11 ステップV・R・S 楽しむ事
			12 ダンスを楽しく マナー・パーティーについて